

長を輔くるに遺憾なく、全く名女房役振りを發揮してゐる。

収入役

高橋才治

氏は師範出の元教育家、川崎小學校長を最後の奉公として職を退き、爾來大字福田のために寄與するところあつたが、今の収入役として財政の鍵を握つてゐる。一頃はなか／＼の愛洒家でもあつた。

庄司町長、佐藤助役、高橋収入役の三羽鳥による強な指導、鞭撻がある、やがては長い沈滞のすべてが一掃され、役所町としての大河原町の前途は、仙南に覇を握つて、榮光へといやまし輝くことであらう。

村田町

井上東次郎

氏は現村田町長升敏之助氏の令甥にあたり、先代升建藏氏の男として、明治三十九年一月十三日今の家に生れた人である。父君は多年村田産業組合専務などを

務め、斯界の有力者として目され、崇敬されてゐた



氏はこの二代目で、父業を繼いで蘆を經營、傍ら新

聞取次業にも従事し、なか／＼の盛業振である。兵役は第一補充兵である。

現在縣會議員としての要職に座し、縣民の大なる味方を以て自任してゐる。殊に當町は半蘆半農の地である關係から、中小工業についてその對策を練り、且、物價の統制、蠶業問題等に關心を有し、これが當面の解決策へと、頻りと活躍をなしてゐる。

性來快活にして果斷に富み、事を行ふに當つて先づ可否を考慮し、諾しとなるや何等の躊躇なく斷行、彼岸に到達するまでは、決して止まざるの概を以て進める。夫人は愛國婦人會員であり、國防

婦人會の役員でもあり、また赤十字社員であり、それ／＼活動してゐる。因に氏は昭和十三年五月、縣民を代表して北支、北滿に皇軍を慰問し、以て派遣の使命を宗全に果してゐる。

船岡村

飯淵藤三郎



先考三七三氏

字帶刀の家柄である。祖父藤七郎及び實父七三郎氏は

共に村長として、多年盡瘁貢獻せる村治功勞者にして、七三郎氏は日清戰爭當時貴族院議員であつた。その他農工銀行及び晝夜銀行の重役たりし人にして、その功績は赫々として、未だに村民の腦裡を去らぬ巨木の如き存在をなしてゐた。當主藤三郎氏は明治四年七月二十四日

の誕生、名譽ある父君の令息として夙に

村治開拓に盡力、郡農會長、學務委員等の要職に就き、ひたすら貢獻し來り、現在、勞働紹介所長、軍人分會顧問、國防婦人會顧問に推され、また昭和十一年



五月より村長に當選、村政の平和發展の爲めに己れを捨て、務めて

來た人である。尙ほ産業の振興と教育の進展に深く留意し、更に氏は書畫、鉢木に興味深く、その温雅の人となりは衆の信望を一身にあつめてゐる所以である。家族はたか子夫人との間に四男二女あり夫人は國防婦人分會長をして居り、圓滿なる家庭を謳はれてゐる。

沼邊村

山家長藏

山家家は、伊達尙宗の臣として沼邊城

山に住し、近郷を統治した豪族沼邊支蕃



の後裔である。沼邊家は清和帝第六皇子貞純親王の血統をひく太田

攝津守資仲、山田管領上杉顯完の重臣であつたが、永正七年主家の滅亡と共に奥州に走り、今の地に土着したといふことが、史實に明かである。

氏は先代庄助氏の長男として、明治九年九月十五日、この榮ある名門の家に呱呱を擧げた人である。郷校卒業後、仙臺歩兵第四聯隊に入營、除隊後公共方面に進出、明治三十六年七月村役場收入役に推されたのを振り出しに助役、村長に榮進、傍ら郡會議員、村會議員、農會議員、水利組合議員、造林組合議員その他の各種名譽職を帶し、その間四十九餘年終始一貫、至誠至心、村自治の上に寄與貢獻して來た功勞は、一々枚舉に遑なく、眞

に絶大なるものである。

その助役時代、當時の村長を輔けて村内を流る、澄川、荒川の水利組合を起し數ヶ年の時日と巨費を擲つて完成する一方、姥ヶ懷造林組合によつて、隣接村田村(今は町)會と協方して植林に努め、その結果今日の巨大なる富源となり、全村民をうるほしてゐる。

昭和十三年四月、多年地方自治に貢獻せる功勞者として、自治制五十周年を記念し、縣より表彰された外に、これまで表彰數十回に及んでゐる。

夫人とみのさんは長田嚴氏の令女、村田國防婦人會長その他の指導者として活動してゐる。間に二男四女がある。

富岡村

佐山榮三郎

當佐山家の先々代勇右衛門氏は、村會議員をはじめ、その他村内の要職に就いてそれ／＼盡瘁、當時たゞへられた功績は、今の世にも燦としてきらめき、村民

一同感謝的となつてゐる。

先代沖右衛門氏は、これからといふ年を迎へたが、惜しくも早世、ために當主榮三郎氏は、若くして公共方面に進出、活躍を餘儀なくせしめられたのである。

その消防組頭に就任するや、防火に警備にと萬身の力をそそぎ、まづ從來の不備の點を補し、次で改廢すべき時は斷然改廢するなど、消防界のために盡力すること十六ヶ年、その功は厚くたゞへられ、縣消防協會より金杯三組を授けられて、大に面目を施すところがあつた。

氏はまた、郵便局長の任に在ること十六ヶ年、遞信報國に邁進し、郡制時代には郡會議員として郡政に参するなど、殆んどの名、公職を歴任、その功最も多きにある。

村會議員、學務委員、金錢債務調停委員、小作爭議調停委員に擧げられ、遂に昭和十三年二月二十七日舉村の推薦により村長に就任、現在に及んでゐるが、村治に對する氏の圓熟せる手腕は、今後果

してどう動くか、氏の人格に信頼して大に期待を強めて可なりであらう。

氏は温厚篤實、幼にして父君に死別せる不幸兒ではあるが、それだけに人生の酸いも辛いも噛みわけた苦勞人故、村民のために圖るに、一段優れた手腕を示すであらう。

川崎村

川崎村長 丹野喜平



氏は川崎村第十二代村長として、農會長を兼ね、昭和十一年十二月就任せられた氏は若くして自治に参

與し、村民の輿望を擔つて現在村長に推されるまで、實に二十九年餘に及び、助役二期、収入役二期に亘つて勤続し、常に誠意と眞實とを以て公務に盡瘁し、多大の成果を擧げた。村内の生字引として

村民の信望篤く、名村長として内外に喧傳されてゐる。

氏が名村長としてその敏腕を振ふに、參謀木村助役収入役を以てし、正に堅壘を誇つてゐる。氏の業績の重なるものは學校建築に盡瘁して、本校分校講堂の總豫算拾萬八千圓の、本村未曾有の大事業を完成させ、教育事業の完全を期し、尙道路改修に意をもちひ、村の發展は一に交通の發達に有ると思惟し、東奔西走の結果、今日の良道を得るに至り、又産業經濟に關與して、薪炭事業の發展に着目し、銳意してその進展に努力しつゝあり實に氏の今後の活躍は刮目されてゐる。實に氏は村を擧げての信望にこたへる事多大である。

當家は舊家にして、名望ある家柄であり、先代は村會議員、區長等を歴任して多大の實績を擧げた村の功勞者であつた氏はその男として、呱呱の聲を擧げ、幼時よりその天稟の素質を識はれてゐた秀才であつた。資性明敏にして、頭腦明晰

しかも俠氣あり、氏が一度出馬するや難問題も直に解決するといふ才腕と人格とを兼ねた才幹である。

家庭は至極圓滿にして、氏を中心として、敬神崇祖の念に篤く、模範的良家庭として羨望の眼を以てみられてゐる。

村田町

村田町 關善四郎



關家は苗字帯刀の名ある家柄で、曾ては三代も相續いて村の肝煎村長を勤めたほどの、土地開發の功勞

者である。代々農を守つて今日に及んでゐる。氏は五代目當主として慶應三年十二月二十四日の出生、當年七十三歳の長壽者、しかも元氣旺盛矍鑠たるものがあ

る。氏は明治三十一年町會議員に選ばれて

以來、當選また當選、連續四十年間、その要職を帯びて今日に至つてゐる町會の元老株、常に中立を標榜して頑として他に秋波を寄せず、多年にわたるその功、極めて多きに在る。その外に養蠶組合長信用組合理事、水利組合員をも兼ねてゐる。曩にはまた郡會議員、信用組合長(三期)、農會代議員、御大典記念山林拂下委員、村田町各區有財産統一委員等を歴任その功績また著大なるものがある。

大正十年十月並に昭和三年五月神職會より、大正八年同十二年一月郡長より、同九年町政統一に關する件によつて町長より、昭和十二年自治に關する件によつて知事より、自治制五十周年記念に際し昭和十三年四月十七日、内務大臣等よりそれ〴〵表彰されてゐるが、氏の功勞のいかに多大なるかは、これによつても如實に物語られてゐる。なほ本町民は四十年間も一貫して自治に盡瘁せる氏のために頌德碑を、近く町内に建設すべく、決議が運んでゐる。

船岡村

船岡村船岡 渡邊林藏



氏は明治十二年五月五日、舊家にして代々農を生業となして來た今の家に生れ、郷校卒業後、熱心父祖の

業に與ると共にまた、村内公共のことに心を碎き、事あれば即ち衆に先んじてこれに當るといふ盡瘁ぶりは、いたく村民の心を動かし、衆望を双肩に集めたのである。

新町青年契約會長、消防組消防手などを振り出しに諸職に就任、續いて消防小

頭、區長代理、養蠶同業組合第四組長、第一回國勢調査員、農會稻作増収品評會審査長、船岡第三區長、白石川沿岸水防小頭、縣消防協會大原支部評議員、第三區衛生組合長、國勢調査員、消防組第一部頭、村會議員、小作調停委員、農業調査員、移出蔬菜検査員、區會議員、二期目村會議員、恩賜郷倉評議員、船岡村蔬菜出荷組合長、村政振興委員會委員、農會副會長、消防組副組頭、同組頭その他を歴任今日に至つてゐるが、その間に於ける功勞のかずくは、一々枚舉するに遑なしである。

現在は三期目の村會議員として頻りと村政に參與、より良き村治へのために活動しつゝあるの外、學務委員、船岡銃後會扶助部長、同勤勞奉仕新町部長等に擧げられて兼務、それ／＼貢獻し、盡瘁してゐる本村の重鎮である。

川崎村本砂金

村會議員 元村長 佐藤 幸七



當佐藤家は舊仙臺藩士伊達宗基の一門
伊達宗廣の家臣で、後ち歸農した名門の家柄先代房吉氏は村會議員

組長、その他の名譽職に選ばれて多大の功を擧げた自治功勞者である。當主幸七氏はその男、明治二年十一月二十六日の出生、性活潑 なか／＼の雄辯家として知られてゐる。

氏は父祖の衣鉢をうけて夙に公共方面に進出、明治二十一年消防手拜命を振出しに村役場書記、副収入役に在ること十ヶ年、農會評議員、木炭同業組合代議員郡牛馬商組合幹事、産業組合長等に推され、次で村會議員、教育會長、昭和三年十一月村長に推薦されて一村の樞機を握るに至つた。次で同年御大典の儀式に參列の榮を荷ひ、大禮記念章を授けらるゝなど、漸く一村に重きをなし、氏また、

村意に副ふべくいよ／＼盡瘁努力するところがあつた。

村長在任中、富岡村境より本村笹谷峠間の縣道改修及び日本百景の一たる青根温泉六間道路、前川、川内村道、今宿林道、本砂金里道等を竣工せしめ、且つ龍雲寺境内に十町歩の大美田を開墾し、富岡村より本村駐在所並に刈田郡宮村より青根駐在所に警察電話を架設してこれを便し、その他青根、腸帶、小野などの各分教場、野上分校、本校等の増築、奉安庫の建設と一々數ふるに遑なしで、その功績また顯著なるものがある。

現在は村會議員たるの外出納検査員、氏子總代、愛林納稅組合長として、既に老境にあるをも省みず、それ／＼その職責の萬全を期して活動しつゝあるが、村民は氏の熱心にして眞摯なる態度を深く感激し、わが村の長老として敬意をさへ付けてゐる。氏が多年の功績は、幾度かの表彰となつてゐる。

なほ長男氏は川崎村奉仕委員、統計調

査員、一等消防手、氏子總代、後援會長農事實行組合長等を兼職、旺んに活躍して村勢發展の前驅をなしてゐる。

富岡村小澤

村會議員 勳八等功七級 植野 卯之吉



明治三十七年日露の役の火蓋切らるゝや、應召して従軍、戰鬪最もはげしかりし彼の奉天大會戰に赫々たる武勳を樹てし功に依り、勳八等に叙せられ、特に功七級金鷄勳章を授けられた光榮の士こそは、まことに我が植野卯之吉氏である。

氏は斯くの如き輝く履歷の上に、郷里に在りては村政發展の爲に極力努力し、村内あらゆる要職に携はりし功績、また數ふるに遑なき有様である。例へば國勢調査員たること二回、更に區長に就任、

宮城縣選舉肅正委員として等々、殊に消防組合に三十年以上の永年勤績の功は、村民のみな厚き信望を寄せるところにして、縣より縣知事賞の表彰をうけた程である。

現在は村會議員、柴田郡乾藪組合世話係、消防小頭の要職にありて、ひたすら當村の發展の前途に貢獻してゐるのである。

氏の如き人材を有するは、實に當村の誇りとすべく、その熱烈にして眞摯なる精神、而も穩健にして進取的なる思想とは、得がたき人物の如く、郷人の敬慕と信頼は日に深まりゆくのである。

川崎村小野

村會議員 勳八等 三島 三平

氏は若くして日露の戦役に出征各地に



奮戦をかさねてその勇名を轟かせ、その殊勳に依り勳八等に叙せられ瑞寶章を賜はつた、名譽の士である。

歸郷後は専ら村民の福利増進に邁進し、産業組合監事、衛生組合幹事、愛林納稅組合長、區長、檀徒總代、氏子總代等の要職に推され、凡ゆる方面に氏の才腕活躍し、功勞多大である。依つて村民皆敬慕をよせ、當村切つての有力者として信頼されてゐたが、遂に村民の切望斷ち難く、昭和十二年九月、村會議員に出馬、推輓されてよく職に精勵し、尙學務委員の要職を兼ね、温厚篤實にして圓滿なる人格と、不斷の努力と相俟つて衆望日増しにのり、尊敬を得てゐる。氏は先年篤農家として郡農會より表彰をうけ、又村當局より派遣されて大原原農業講習會に數年間研究に出張する等、當地方の至

實として讃仰されてゐるところである。當家は代々篤農家として知られ、實父伊物治氏は村會議員、區長その他の公職に在りて功勞を残してゐる。

川崎村野上

村會議員
川崎合同自動車
代表者

丹野丹治



和な生活を
希むことに
あることは
當然である
が、丹野丹
治氏は、産

業の發達、交通の進歩を以て當村の圓滿發展を目指し、氏の超人的努力は爲すところならざるはなく、日夜心魂を傾けて事業開拓に懸命なるものである。

現に柴田郡代表として宮城縣木炭査定委員の重職に在りて、地方薪炭業の進展のため、最有力者としてその手腕と熱意

を讃へられて居り、また川崎合同自動車商業組合代表社員として、交通運輸事業の開拓に活躍、氏自ら早朝より事務所に出勤、寢食を忘れて、常に事業の第一線に進みつゝあり、その實行はまことに尊敬に値するもので、氏の携はるあらゆる方面にその実績赫々としてあがりつゝある。

而して氏は昭和四年、村會議員に出馬以來、當選すること既に三回、現在村會議員として盡瘁してゐる外、大河原區裁判所區内小作調停委員、金錢債務調停委員等の要職に就きて、よく職務を果し、圓滿なる人格と共に村民の信望極めて厚く、當村に於ける第一人者として、敬慕の的となつてゐる。

氏の家系は詳かでないが、祖父丹三郎氏は篤農家として譽れ高き上に、村治に精勵、村會議員その他の公職につき、村治開發者として、徳望高く、現今に於いても尙その功勞を讃へられてゐる。村内の有力者として又知られてゐる。

船岡村

村會議員 飯淵和三郎



當家は福島縣相馬より移住し來れるものにして當主を以て三代目を數へる、家業は代々商業を本位とし、

實父和一郎氏は政治に興味深く、識見高き人であつたが、その早逝を惜まれてゐる。

和三郎氏は明治十八年六月三日に誕生現在五十四歳の精氣潑洩たる活動家である。資性鋭敏、伶俐にして幼少より衆に擢んで、その前途を囑目されてゐたもので仙臺東北學院卒業の俊才である。卒業後は、農村の改良發展に深く意を用ひ、豊富なる學識と高邁なる理想を以て、率先實行、村政上に多大の功勞を輝かしたのである。大正十四年産業組合創立當時

より理事、組合長の要職に推され、本年六月家事の事情に依りて辭任する迄の十四年間の氏の努力はまことに特筆に價し

その間、農業倉庫の建築及び縣道、架橋等の爲に盡力、その功績は、村民の信頼措く能はざる處である。現在村會議員として第五期目を勤めて居り、將來當村は半農、半工に向つて進むを是とし、又氏は副業の奨励を主張し、狸、鯉の飼育に熱心なる努力を爲し、來年より相當の收益をあげる見込である。氏の數々の功勞は當村發展史上に、忘れることの出來ないもので、自治五十周年記念に表彰の光榮を擔つたのである。

久満子夫人は、國防婦人會理事及び愛國婦人會の役員、又赤十字社々員として活躍してゐる。夫人との間には五男三女あり、羨むべき子福者にして、長男氏はジャパン・ツーリスト・ビュローに勤め、次男氏は陸軍大尉として共に前途を囑望されてゐる。圓滿、明朗なる家庭として近隣に好評を得てゐる。

富岡村音無

村會議員 佐藤喜四郎

當佐藤家は代々農業を以て家業となし先代喜平氏は村自治開拓に貢献し、村會議員、區長等の要職に選ばれ、村治功勞者として知られて居る。尙當家の開祖は詳かならざるも舊名家として聞え、當主喜四郎氏は先代喜平氏の長男である。

氏は温厚、篤實の人物にして早く村治に意を用ひ、當村發展は、産業の發展によるものと信じ、殊に産業方面に於ける氏の努力は偉大なるものである。推されて養蠶實行組合理事となり、養蠶の奨励と改良に力を盡し、また寺院會計係を務めたが、現在は、村會議員として村自治に功勞あり、農事實行組合長、産馬組合世話係等に選出され専心努力して居る。故にその業績赫々として、實をあげ、村民信望を篤くよせるところである。

氏の圓滿なる人格と熱烈の努力は、當村に缺くべからざる人材にして當村政史

上に輝く名を残すものであらう。

川崎村上石丸

村會議員 高橋新藏



川崎村有數の舊家と近在に聞える高橋家は代々村勢伸展に努力して效を奏し、村民より感謝されてゐる家柄である。

先代貞藏氏は十六、七ヶ年の永きに亘りて區長の要職を勤め、區民の福祉増進のために献身的努力活躍惜しまず、多大の貢献をなせる功勞者であつた。

新藏氏は貞藏氏の男である。資性温雅敦厚にして徳義に厚く、清廉高潔なる人格を有してすこぶる憐憫の情に厚い名望家である。

夙に尊父の衣鉢を襲いで自治公共の事に意を用ひ、區長として六年間勤続して

ます、區民の福祉を招来せしめ、金錢債務調停委員、統計調査員を勤めても功勞すくなからずあり、陪審員としても貢獻多大である。各方面に印せるその功勞は濃厚なる人格と相俟て村民の衆望自ら高まりて遂に昨十二年九月村會議員に推舉された。就くや村勢の伸展と村政の刷新を期して邁進、今も献身的活躍をなしてゐるが、今後の村勢の發展は氏の盡瘁に待つところ多く、その一舉一動は村民より期待を以て迎へられてゐる。兼ねて愛林納稅組合長、檀徒總代、氏子總代等の任にあり、その寄與も多大にして、特に林業の進展に燦然と輝く功勞あり、官林拂下の運動に活躍中である。私を滅し公の爲に盡すその氏の盡力は村民齊しく感謝するところにて、今や村に缺くべからざる人物の一人として敬慕的になつてゐる。

川崎村

村會議員 大久保 雄

今や村會議員の要責に在つて滅私奉公の念を以て村民の福祉増進のために日夜淬勵をなしてゐる氏は穩健にして着實なる資性を有し、また高潔清廉、思慮深くして謙讓の美德を備へる人格者である。村勢伸展上に功勞多大にして、村政の中堅として、村會に重きをなし、また村經濟の事に關與しては、村財産管理員の要職に在り、愛林納稅組合副組合長としても寄與尠からず、その聲望愈々高いものがある。會では農會議員として農業の改善發展に意を用ひて努力せし事あり、經濟更生委員としても功勞多大であつた。その外家屋調査員、國勢調査員、檀徒總代等を永らくつとめて效を奏せし事がある。當村現在の隆盛は氏の盡力に依るところ多大にして、村史に記録さるべきものあり



今や村會議員の要責に在つて滅私奉公の念を以て村民の福祉増進のために日夜淬勵をなしてゐる氏は穩健

當村に缺くべからざる人物の一人として今や村民敬慕的となりつゝある。家業は呉服雜貨商を營んでゐるが、氏の懇切丁寧なる應對と顧客本位のモットーはよく評判を高め、家運は日を追うて隆盛の途上にある。因に氏は東京市京華商業學校出身にして實業方面に才能あり稀に見る材幹と稱され、その一舉一動は期待を以て矚目されてゐる。

家庭は和樂圓滿をきはめて和やかな家として知られてゐる。令息秀雄氏は岩倉鐵道學校出身の俊敏の氣性に富みて頭腦明敏なる材幹である。現在東京市役所に勤務中なるが、勤務成績良好にして、その快活淡明なる資性はよく他と協和してその將來に多大の期待を寄せられてゐる

槻木町

農會長 渡邊 大藏

渡邊家は既に十代以上も續いた舊家といひ傳へられ、代々農を以て本業となして來た。氏は明治十六年二月三日、先代

大吉氏の男に生れ、宮城師範卒業後、初等教育界に盡瘁寄與すること、實に二十餘年間に及び、その功績著大なるものがあり、徳望極めて厚かつた。

教育界を退くや、町助役に推され、次で町長に推薦せらるゝなど、氏が徳望の反映のいかに大なるものあるかを知るべきである。

今、町農會長として、産業組合理事として將た煙草耕作組合長としてそれゝ盡力、農事の改良、金融の圓滑を圖つてゐる。

その町長時代に郷倉を建設すること八ヶ所並に共同作業場五ヶ所を建築して聖旨に應へ奉り、今また煙草の耕作を試みつつあるが、成績甚だ良好なるものがあるといふ。今後は進んで小學校の統一問題、河川の改修工事、川向ひの耕地整理問題等を解決し、以て全町の福祉増進に裨益せんものと、鋭意企圖してゐる。

夫人との間に四男三女の子福者、長男氏は横須賀海軍工廠に、二男三男の兩氏

は横須賀航空廠にと何れも勤務、その將來を矚目されてゐる。

川崎村本砂金

村會議員 小原 多藏



小原家は本砂金屈指の舊家と近在に聞える家柄である。代々家業として農を營み、篤農の家と著聞する。

先代福三郎氏は篤農家の譽高く、また村勢伸展に功を奏して人望厚かりし功勞者であつた。

當主多藏氏はその長男である。性來圓満潤達にして徳義に厚く、謙讓の美德を備へて快活である。はやくより家業たる農に精勵して家運の興隆をはかり、それと共に自治公共の事に意を用ひて養蠶實業の發展に盡力した。また負債整理

組合委員としても盡瘁、その斡旋奏效して村民等しく感謝せしところである。本砂金納稅組合長の要職も永年つとめしが又、愛林を唱導して村民の福祉増進に寄與するところは多大にして、その手腕を謳はれ、稀に見る才幹と稱された。

村會議員として活躍しても、その卓抜なる手腕は克く村治諸般の上に大なる足跡を印した。今や村政の中堅として重きをなしつつあり、その一舉一動は村政を左右するものなれば、村民みな期待し注目してゐるところである。村財産管理委員も兼任してゐるがそれを以て見ても氏の信望如何に厚きか察知出来るのである。家庭は圓滿にして和樂繁榮の家と知られてゐる。

船岡村

農會長 小林 貞

剛毅、果斷、また穩健なる資性を有する小林貞氏は、その抱負を聞くに、一村一族主義を主張し、高等小學校を別に建

てること 農業方面の指導を奨励し、品



評會を各地に催すこと
將來本村は商業に依り立ち行く外なく、又蔬

菜の栽培に努力すること等の希望を有し飽くまで當村發展の爲めに意を注いでゐる。
當家は當村有数の舊名家にして、祖先は伊達家の陪臣であつたといふ。代々農業を本位とし、明治初年は蠶種製造も爲し、實父惣五郎氏は村政功勞者にして村助役、收入役、村會議員、郡會議員、學務委員等の種々の要職に就き、村民の敬慕厚かりし人であつた。當主は五代目にして明治十九年十一月十八日誕生、當年五十三歳である。角田中學分校に修業後は直に村治に參與し、乾繭組合創業當時理事に推され蠶蠶の改良發展に努力したのである。

現在では農會長、村會議員、學務委員、

消防組副組頭、柴田郡一團植林組合會議員等の多方面の要職に推舉され、氏の剛毅なる性格は多大の功勞をあげつゝ、村民の信頼日毎に借く、當村發展の上に、小林一家の功績は赫々と輝いてゐる。且又、當時將來の發達も氏の双肩にかかつてゐるといふも敢て過言ではなく、斯くの如き人物を有するは當村の誇りとするところである。

氏は四男四女の子福者、一家春風洋々たるの景は、村内羨望の的にして、二男は横濱方面に活躍中である。

富岡村

村會議員 眞壁茂右衛門

當家は古い歴史を有する家柄で、代々農を相繼いで來た。先代秀之助氏は家業に熱心であつたと共に、村會議員、區長その他の名、公職に就任、部落のため將一村のために寄與貢獻、その功勞極めて大なるものがあつた。

氏はその長男に生れ、夙に父祖の業に

精勵邁進、家礎を一層鞏固にするところがあつた。且つ氏はなか／＼の人望家、會て養蠶實行組合長、衛生組合長に擧げられてそれ／＼に盡力し、今、二期目の村會議員、消防組副組頭、方面委員、農會總代を兼務、一身を挺して職責の達成へと拍車をかけてゐる。

因に令弟秀吉君は日支事變に出動、赫々たる武勳を樹て、功六級といふ破格の恩賞に浴した。

川崎村

村會議員 森 專之助

當家は舊家にして、代々篤農家として知られる名望家である
先代卯三郎氏は村會議員、區長等を歴任し、篤農の人として知名であつた。



氏はその男として當地に岳降し、早く

より川内愛林納稅組合長として就任し、現在に至る迄四期の長期間に亘り、一意専心その責務に邁進し、多大の實績を擧げた。また養蠶實行組合長となり、業界に貢献すること少なからず、養蠶の奨励産業の發展に盡瘁し、常に研究的態度を以て、その發達に寄與すること甚大であつた。

昭和十一年、土地貸借價格調査委員に命ぜられその責務を盡し、昭和十三年九月、遂に村民より推されて村會議員に出馬し、爾來孜々として村治に盡瘁してゐる。氏は又昨年宮城縣知事より、優良所稅組合長として表彰されたるは、實に氏が献身的努力の結果である。

氏は資性謹嚴にして、實直そのもの、如く、常に直く正しく、しかも慈心ある人格者であり、氏の家庭は明朗にして家族それ／＼その分に應じて、勞務にたづさわる勤勞の家であり、氏の終生のモットーである勤勞を實踐し、土を愛する

篤農家として信望篤き良家庭である。

氏は又、敬神の念深く、崇祖の心篤く朝夕佛前に合掌するなど、氏の公務に於て、又家業に於て常に良き結果をみてゐるのは、實に氏の私生活の清廉に依るのであらう。

富岡村 小澤 佐藤助三郎

村會議員

當家は村内切つての舊家にして實父喜



三郎氏は、夙に村政に參與し、區長總代その他の公職に就きて、村

治發展に力あり、自治功勞者として信望を得た人であつた。

當主助三郎氏は、資性温厚篤實、尙徳義に厚き人物にして、村民の信望を擔ふに足る器を有してゐる。

日夜心魂を傾けて村治の發展に盡瘁、

曩には經濟更生委員、大針養蠶實行組合

長、大針農會組合長、農會代議員等々の要職に就き、各方面に亘りて氏の在るところ、實績あがらざるはなく、當村切つての有力者として信望せられ、現在は、村會議員に在任、尙ほ柴田乾繭組合代議員、小澤養蠶組合監事、小澤區長としての重職に在り、上に立ちてよく業を率ゐる。第一人者としての面目噴々たるものである。昭和十二年、土地調査に當りては、仙臺稅務監督局長より表彰されるの光榮に浴したのである。
實に氏の功績と人格は、當村政史上に名聲を止どむるものであり、今後の發展も氏の努力に待つところ多いであらうと思惟される。

川崎村 笹谷

村會議員 鈴木 庄八

當地方に名望高く、舊家と聞える鈴木家は林業及農業を家業として營む家柄である。

先代庄次郎氏は温厚なる資性を有し、徳義に厚き人格者として村民より敬慕されし士であつた。庄八氏はその長男である。尊父の血を享けて天性清廉潔白また圓滿潤達の人格者である。幼時より頭腦明晰を以て聞え、才氣煥發にして村民よりその將來に多大の期待を寄せられた。長じて明治四十二年第二師團に入營し、朝鮮守備に派遣され、合併以前の守備に精勤し模範兵として成績抜群であつた。翌四十三年の韓国併合に際しては合併記念章を授與された。

のち歸郷するや直ちに在郷軍人分會副班長に推されて一身を挺して努力盡瘁した。在職三ヶ年にして人望翕然と集まり班長に推擡を受けた。また此の頃より林業の發展こそ當村伸展の動力なりとの見解のもとに林産發展に意を注ぎて官林拂下總代に就いた。爾來努力に努力を重ねて、その後、森林保護組合長、木炭同業組合検査員、郡木炭同業組合代議員等の要職に就き、ます／＼盡力を續けて多大

の寄與をなし功を奏した。その多大なる功勞は清廉なる人格と相俟て愈々村民の信望高まり、聲望翕然と起り、遂に村會議員に村民一致の推擡を以て當選した。その時四十九歳にして、今や村財産管理員の重任を兼ねて益々活躍中である。氏こそ非常時局下に於ける農村に最も適應する才幹とも言ふべく、氏の如き人物があつてこそ、初めて戦線將士は何の後顧の憂もなく活躍奮戦出来るものである。

また縣知事より乾滿組合委員を命ぜられし事あり、營林署笹谷官舎建築委員として努力せし事もあり、官公署の信任厚いものがある。

船岡村

學務委員 平井源四郎

當家は三百年の長年月に亘り、連綿と續く家系を有し、苗字帯刀の家柄として名望を背負つてゐる。實父源四郎氏は村會議員その他村政上の要職を勤めたる村



の元老として名高く、當主は襲名して十六代目である。元治元年十一月七日の誕生、實父の志を繼ぎ、村自

治の改良發展に献身努力し、永年村會議員として功績多く、現在は學務委員の重職に在り、氏は區劃の整理、道路の新設學校の増築等に深く意を用ひて抱負となしてゐる。氏の功勞は、温厚にして健實なる人格と共に、村民の信望厚く、また村會より木杯を受けて表彰されたことがある。氏はまた多趣味の人にして、骨董を深く愛好し、俳句をものし、人柄の床しさを一層増してゐる。

家庭は三男六女ありて平和福々たる團欒をなし、長男政治氏は信用組合理事をなし、氏の片腕として活躍、前途有爲の青年として期待され又圓滿なる家庭は羨望の的である。

川崎村小野

村會議員 植野久太郎

當家は代々農を以て家業となし、精農家として知られてゐる。先代喜十郎氏は村會議員として四期間勤績、農會長、衛生組合長の職に就き、その功績多大により大河原警察署長より表彰を受け、尙その他各方面より度々表彰された名譽の士である。村内屈指の舊家である當家は開祖を初吉氏と稱する。

當主久太郎氏は先代の長男にして、夙に村會に關與、推されて村會議員になり昭和十二年九月より現職就任中にしてその日まだ淺けれど、氏の敏腕は旺んに活躍しつつあり、以て村民の厚き信望を得てゐる。その他農會代議員、温田養蠶實行組合長、温田農事實行組合長として盡瘁、その功績は實に枚擧に遑なきものである。昭和九年には産業組合設立當時、委員に選ばれ後監事に昇選し、また青年團顧問、村財産管理委員、負債整理委員

經濟更生委員等としてその功勞赫々たるものがある。

温田河泉

氏の經營になる當温泉は、東北本線仙臺、大河原兩驛よりバスに

依る。皮膚病、胃腸病、神経痛、婦人病に特効あるを以て聞え、殊に火腸の効能はすばらしき定評あり、内務省衛生試験所より療養泉の證明を與へられてゐる。

創業は、今より約七十年前初代初吉氏の手により、昭和八年七月、浴場の復活と同時に新館増築、爾後日に隆盛となり今日では近郷の名泉として知られてゐる。浴場二室、九坪、收容人員五十餘名、客室二十二、清潔を旨とし、浴費低廉を誇り、一日入浴二十五錢、滞在費四十錢である。又池の鯉を客に無料釣に提供するなど、近在の田園風景美と共にその奉仕振りは來客の好評を得て、近來頻に旺んになり、土用丑の日の如きは近郷近在よりの來湯者多く、入浴人員五百名を越すと云はれてゐる。

富岡村菅生

學務委員 八卷孫左衛門

氏は宮城縣農學校出身の深甚なる經驗家として、村内に重きをなしてゐるが、不言實行の士として聞え高く、名利を求めず、常に底石となりて黙々と働くを是とする、まことに當世稀に見る謙讓の美德を備へたる徳望の人材である。唯村民の切なる懇望に依り、學務委員、方面委員に推されて、一意極力職務に盡瘁してゐるのである。

當家は代々村治功勞者として名聲高くまた屈指の舊家として知られてゐる。先代孫左衛門氏は、明治四十一年二月より大正六年八月まで前後實に十年間、富岡村村長として活躍、現今に至る迄の當村の開拓は殆んど先代の努力の賜として、その功績は長く村民讃仰の的となり、感謝を持つて敬慕される人物であつた。斯くの如き名譽の父を持つ當主孫左衛門氏また早くより村治に貢献し來れるも當然

にして 敬虔なる人格は讃仰の的となつてゐる。氏は未だ當年三十五歳の若さでまこと今後の活躍こそ期待され囑望されるところで、當村發展の洋々たる前途は氏の眼前に拓かれてゐる。

尙當家は代々孫左衛門を襲名し、當主は第十二代目、榮々として繼續せる家系を有してゐる。

川崎村古關

村會議員 佐々木甚吉

努力の人、熱意の人として定評高い我が佐々木甚吉氏は、夙に當村産業の開拓發展に、寢食を忘れて貢献して來た本村産業界の恩人である。且つ當家は代々村産業文化の爲めに盡力し來れる家柄にして、先代初太郎氏も林業、農業の進展にひたすら努力し、現今甚吉氏の偉大なる功勞を爲しつゝある熱意も、先代の意志を遵奉せる當主の孝心に基くものであると思惟される。

氏は第二十九聯隊出身の偉丈夫にして

性來質實剛健、倦まず撓まず一度意を決したる仕事に對しては、如何なる苦難にも決然として奮闘し來り、殊に薪炭業の爲めに敢然たる氣を吐き、終に本村薪炭業界の重鎮として敬慕を集めてゐる。その業績は當村近在に止まらず、遠くは京都、大阪また仙臺地方に至るまで廣く取引を開始し 多大の信用を得てゐる。

また氏は産業界に於ける功績のみならず、村自治に關與し、村政上の有力者としても數多の功勞を爲してゐる。因にその要職を擧げると、先には推されて經濟更生委員となりて活躍し、當村の産業發展も氏の努力に負ふところ甚だ多く、更に、古關負債整理組合長、川崎村産業組合理事として、當時疲弊せる農村經濟の復興に盡瘁したのである。昭和八年に至り遂に村會議員に推舉され、爾來今日に及び、現在は所得税調査員の要職をも兼任してゐる。斯くの如く産業上に、村政上に多大の貢獻を爲した氏の如き人物を有するは當村の誇りにして、將來への期

待を深くかけられてゐる。尙ほ氏はかつて在郷軍人會班長として活動したこともある。

大河原町

貯金銀行事務 元町長 佐藤源十郎



にも、筆者は懐かし味を持つてゐる。筆者同窓の友の令兄であるか

らでもあら が、終始温顔に微笑をたへて人に對する態度が、堪らなく好きだつたことにもよる。今は七十歳とか、すべての公職から退き、同行三十名によつて讀經會を組織し、淡々たる宗教生活に没頭至念してゐるが、明治四十年町會議員に擧げられ、大正十三年町會一致の推薦によつて町長に就任、郡農會長、學務委員、消防組頭を兼ね、しかも氏の消防

組時代は榮ある旗表旗をうけたほど、表彰を受くること十數回に及んでゐる。

氏はまた、郡内産業組合運動の産婆役として郡乾藪販賣利用組合を創設し、その組合長となり、一方小作調停委員、金錢債務調停委員として農桑救済の第一線に立つて活動した。東北地方凶作の時、氏は仙南五郡を率ゐて政府に陳情請願するところあり、この口火がやがて東北救農の因をなしたものである。今は大河南貯金銀行（資本金十萬圓）専務取締役であり、大河南自動車會社を創立、その社長でもある。

町自治及び消防組指導の功に依り、帝展審査員小室達氏の作になる銅像が、近く建設される筈である。

船岡村

産業組合長 小林立善治

農村産業の唯一の機關にして農業發展の動力たる産業組合のその組合の要職にありて、一身を挺して船岡村産業伸展

の爲に執掌しつゝある氏は明治十年十二月一日の出生である。その資性は極めて剛毅磊落、また果斷にして清廉、才能あり思慮深く、不屈不撓の氣性に富みて近來稀に見る才幹と村民より謳はれ、その一舉一動は村勢を左右するものであればみな期待を以て注目し、その献身的活躍は村民一同感謝してゐるところである。今や職員八名の先頭に立ちて、専務理事淺野氏と共に村民の幸福と村産業の伸展を期して愈々粉骨碎身の勞を執つて邁進してゐる。その努力は效を奏して當組合は縣下模範組合の一に數えらるゝに至つた。實に氏の貢獻多大にして、特に大正六年に農業倉庫建築に二萬圓を投じて遂に完成せしめた事は氏にして初めて可能の事と言ふべく、村民は悉く感謝してゐる。現在陸軍省馬糧の支給に全力を傾注して努力しつゝあり、また土地の銀行代表をなしてゐる。

因に小林家は分家してより三代を経たる家柄であるが、その祖は徳川時代に柴

田家の家臣たりし武家であつた。その名ある家に生を享けし氏は幼時より俊敏の氣性に富みて將來に多大の期待を寄せられた。明治三十七、八年の日露戰役に際しては勇躍應召して活躍奮戦、その功に依り勳七等に叙され青色桐葉章を賜つた奉天を陥落し無事平和克復後も彼地に止まり、我が國大陸政策の先導をなして十八年間居住した。其後臺灣に渡りて警察方面に多年勤務し、今より十數年前歸郷せるが、歸るや直ちに産業組合専務理事に推されて十四年間の永きに亘りて勤務し、本年六月遂に組合長に任ぜられたのである。

家には一男六女の令息令嬢あり、春風洋々として圓滿を極めてゐる。

川崎村前川

村會議員 大宮辨吉

家系は詳かでないが、代々農を以て家業となし、また村自治功勞者として聞えてゐる家柄にして、祖父は區長の一職に

あつた。



當主は篤實、温厚の士にして、夙に村政に參與、先には養蠶實行

組合役員として養蠶督勵に盡瘁し、その實を擧げしもの多く、現在は愛林納稅組合長、産馬組合役員の要職にありて、村産業上に又村政上に一期劃をなしたものである。そのみならず、昭和八年、選ばれて村會議員となつて以來六年間、現在も相續いで二期目を勤め、尙ほ將來の當村發展の上に多大の期待をかけられてゐる。

氏の温健なる人格と、熱烈の努力は村民の信望を寄せるところにして、且つまた重要視せられる所以である。家に於いても、氏は良き家庭人として家業に勵み、和氣藹々たる一家をいとなんでゐる。一家の幸や思ふべしである。

川崎村

村會議員 大和周二郎



氏は温厚篤實の人、しかも村内に於ける信望極めて厚く、斷然一村の重きをなしてゐる。曾て養蠶實行組

合長に愛林納稅組合長を兼ねて、本村住民の主業と副業との發達進歩に鋭意努力し、且つ國民三大義務の一つたる納稅獎勵のために組合長として率先活躍好成绩を招來するなど、行くとして可ならざるはなく、村長より表彰さるゝこと數度に及んでゐるのである。

昭和十二年九月村會議員（當村の村會議員選舉期は九月）の改選執行さるゝや、氏もまた推されて馬頭を遂鹿場裡にすゝめたが、日頃の信望翕然として反映し、見事に當選村政參與の一員として、現に

寄與貢獻をなしてゐる。本村自治の上に斧鉞を加ふべきもの多々あるの秋、氏の如き公明正大、無私無慾の人格者を村會に見出し得たことは、いかに心強いことであらうか。本村將來のために大に慶祝すべしである。

氏はまた、日本武道の崇拜者であり、鼓吹者でもあるだけに、常に武道精神の普及に熱中、晝夜の別なく奔命してゐる。その誠意は武徳會の深く認むるところとなり、仙臺武徳會の名に於て表彰されたことがある。

因に當家は土地の舊家として知られ、父君周治氏は、家業に精進すると共に、他面村内公共方面に與つて盡瘁大に功勞をたゝへられた。初め區長に擧げられて部落のために圖るところがあり、また村會議員に選ばれては相當の功を樹て、父子二代相繼いで村治の上に盡した功績は決して尠少なものはなく、當村の有力なる一家として、重要な位置を占めてゐる。

村田町

前町長 故大沼萬兵衛



當大沼家は、初代萬兵衛氏を襲名、二代目萬兵衛氏は村田銀行の創設者で、また初代頭取として各地方金融

融界に大なる足跡を遺し、且つ町會議員として、學務委員としても甚大なる功績を樹てゝゐたのである。當主は三代目、明治七年舊二月二十三日の出生、夙に父君の衣鉢を襲いで町内公共方面に進出、町長の要職に座するや廢すべきを廢し、改むべきを改むるなど町全體の立場を斷乎として刷新また更改を敢てし、強く明るき町たらしめるところがあつた。その他町會議員として、消防組頭として、村田銀行頭取、軌道會社の社長などゝしても、幾多の功勞をかぞ

へられ、父君にも増しての赫々たる業績を遺してゐる。中にも主なるものとしては澄川用水の完成、道路の改修、上水道の完成などで町民は氏のこれ等の功を永遠に顯彰するために氏の銅像を建設してゐる。その他消防功績證、營業及び所得稅調査に關するもの、國稅調査に關するもの等によつて表彰されてゐる。

政黨關係は民政黨員、信仰は眞言大谷派。既に老境に在るとはいへ、公共のため身を厭はず、勵精を加へつゝあつたが天、命をかさず、昭和十二年七月二十三日、溘焉として世を去つた。

家に一男二女あり、長男氏即ち四代目萬兵衛氏として、現に一家を治めてゐる。明治三十五年十一月九日の生れ、今、耕地整理評議員、村田銃後會評議員として活躍してゐる。

川崎村 青根

産業組合長 青根 丹野旅館主

丹野 七兵衛

當家は創始以來今日まで二十六代を重ねた舊家で



湯元温泉旅館 青嶺閣 丹野旅館と稱してゐる。祖父七兵衛

氏は久しく郡會議員として活躍し、村長に在任して盡瘁すること多年に亘り、村治上の功績まことに偉大、全村民惜悼のうち七十九歳の長壽を以て永逝し、その遺徳は今に至るまで追慕されて已まなぬものがある。當家は代々七兵衛を襲名して今日に至つてゐる。

當主七兵衛氏は明治二十二年四月二十八日に生れ、白石中學校を優秀なる成績を以て卒業し、明治四十二年仙臺師團に入營し、朝鮮事件に従軍して功があつた。常に模範兵に推され特に伍長勤務を命ぜられ、一箇年にして除隊せしめられた。氏は家業の温泉旅館を營む傍ら、村政に進出して貢獻少からず、村會議員に四

期間在任し、學務委員、方面委員、郡農會議員等に歴任し、今や宮城縣產馬畜産組合議員の任に在つて寄與大なるものがある。氏は昭和七年同志を糾合して産業組合を創立し、今やその組合長の重任を負うて極力奔走し着々として好績を挙げつゝある。その人格識見と抱負手腕とは常に推されて縣會議員選挙に風聞さるゝ處であるが、同志のために敢て讓歩して自ら退く例であつて、その奥床しき節義は萬人の感激するところである。氏の徳望益々高大を加へてその勢力は牢乎として抜くべからざる所以である。民政黨の有力且つ熱烈なる黨員にして氏は全く當地方の指導的存在である。豪放にして磊落、濃厚にして寛容藝多趣味の好紳士である。また三十餘町にわたつて牛馬、緬羊等の牧場を經營し、その成績は年を追うて向上してゐる。氏は地方情勢に通曉し、政情を審かにして、神謀鬼策縦横加ふるに明晰なる頭腦と、熱烈火の如き雄辯宏辭を備へ、新時代地方政治界の俊

駑を以て推されてゐる。

夫人と令嬢とは共に愛國婦人會、國防婦人會の役員として活躍して令名高く、養嗣子正夫氏は目下東北帝國大學法文科に在學中の秀才にして、その前途は大いに囑望されてゐる。一家は常に多幸圓滿に繁榮を重ねてゐる。

青根温泉
丹野旅館

東北本線大河原驛から軌道により、又白石から遠刈田行き自動車にて五軒、青根温泉は、花房山の中腹にあつて、海拔七〇〇米、西に藏王山を負ひ、西北から西南に、川音嶽、六方山、倉石山を控へ、東南は遠く展けて仙臺平野から金華山、松島の諸勝は坐しながらにして雙眸に入る。その眺望の雄大豪壯なること、本邦温泉中に於いて第一の絶稱絶讚をほし、いまにしてゐる。特に初夏の新緑と白躑躅、秋の紅葉、冬の雪景は全國に冠絶し日本百景の、一に選ばれてゐる。

天文年間奥州川崎村の農夫七平外敷人



旅館全景

が蓑を編むべき材料たるアマノキの皮を
索め
て、
山に
入り
一老
樹の
根元
より
温泉
の噴
出せ
るを
發見

し、浴槽を設けて療養に資し青根温泉と稱した。現在の大湯である。この七平を祖として丹野家は二十六代を重ねて今日に及んでゐる。附近の名號湯も七平の破見にて、新湯は享保年間に發見しその後埋没して、明治初年復興した。

湯元温泉旅館、青嶺閣、丹野旅館は、青根温泉郷第一の眺望を占有し、太平洋

の怒濤も直にその海氣を御するが如き思がある。泉質は大湯、新湯、名號の三湯とも弱鹽類泉、溫度四三度、また炭酸アルカリ性があつて内服に適する。腦病、胃腸病、婦人病等に特効がある。

富岡村宿

宿區長 岡崎卯右衛門



當家はこの部落に於ける古い家柄として、永い歴史を傳へて来たが、遺憾ながらその始祖及び家系等を明かにしてゐない。代々農を相繼いで今日に至つてゐる。

氏は先代留吉氏の長男に生れ、農業の外に養蠶業、畜産業をも営んでゐる。畜産では特に狸と兎とに重きを置き、これが増産を圖つてゐる。しかもこの種の業の於ては、氏は各地方の先覺者としてた

へられてゐる。

曾て昭和七年より農事實行組合長、農會代議員、檀徒總代、經濟更生委員として、また統計調査委員として就任、數々の功をたへられてゐる。そして現在は當區長として部落の圓滿なる發達に留意しつゝあり、その他養蠶實行組合長、衛生組合幹事などを兼り、それら東奔西走、以て村自治の上に至大な功勞を輝かしてゐる。

川崎村川内

學務委員 大松養助



明治三十六年、學務委員に選ばれて以來、引續き今日に至る三十六年間を、終始一貫、特に教育方面に盡す。特別に、東北人がもつすべ

が評するやうに、純真にして潔白なる士であるといふも、決して過言ではない。世に滅私奉公なる語があるが、自己をすて、公共に盡すを以て、能事終れりとなしてゐる氏の如きは正しくそれ、これまで努力に努力を重ねたその動績の、いかに高大なるものであるかを推知するに難くはない。

最近の例話であるが、小學校に國旗掲揚門柱設立の議起り、これを一般村民の寄附金に仰ぐかなど、容易に決せなかつたが、氏はこれを耳にするや、自ら私財を投じてこれを完成してゐるが如きは迎合主義の人ではなく、たゞまごゝろを以て盡すといふ誠心誠意の人物であることが頷ける。まことに現世稀に見る人である。

大正八年、多年にわたる學務委員のみの功績によつて、本縣々廳からあつく表彰をうけ、忽ちにして縣下に有名となつた人物である。

外にまた農事實行組合長として盡瘁し

期間在任し、學務委員、方面委員、郡農會議員等に歴任し、今や宮城縣産馬畜産組合議員の任に在つて寄與大なるものがある。氏は昭和七年同志を糾合して産業組合を創立し、今やその組合長の重任を負うて極力奔走し着々として好績を挙げつゝある。その人格識見と抱負手腕とは常に推されて縣會議員選挙に風聞さるゝ處であるが、同志のために敢て讓歩して自ら退くの例であつて、その奥床しき節義は萬人の感激するところである。氏の徳望益々高大を加へてその勢力は半平として抜くべからざる所以である。民政黨の有力且つ熱烈なる黨員にして氏は全く當地方の指導的存在である。豪放にして磊落、温厚にして寛容藝多趣味の好紳士である。また三十餘町にわたつて牛馬、緬羊等の牧場を經營し、その成績は年を追うて向上してゐる。氏は地方情勢に通曉し、政情を審かにして、神謀鬼策縦横加ふるに明晰なる頭腦と、熱烈火の如き雄辯宏辭を備へ、新時代地方政治界の俊

髦を以て推されてゐる。夫人と令嬢とは共に愛國婦人會、國防婦人會の役員として活躍して令名高く、養嗣子正夫氏は目下東北帝國大學法文科に在學中の秀才にして、その前途は大いに囑望されてゐる。一家は常に多幸圓滿に繁榮を重ねてゐる。

青根温泉

丹野旅館

東北本線大河原驛から軌道により、又白石から遠刈田行き自動車にて五軒、青根温泉は、花房山の中腹にあつて、海拔七〇〇米、西に藏王山を負ひ、西北から西南に、川音嶽、六方山、倉石山を控へ、東南は遠く展けて仙臺平野から金華山、松島の諸勝は坐しながらにして雙眸に入る。その眺望の雄大豪壯なること、本邦温泉中に於いて第一の絶稱絶讚をほしいままにしてゐる。特に初夏の新緑と白躑躅、秋の紅葉、冬の雪景は全國に冠絶し日本百景の、一に選ばれてゐる。



旅館全景

が蓑を編むべき材料たるアマノキの皮を、山に入り、老樹の根元より温泉の噴き出せるを發見し、浴槽を設けて療養に資し青根温泉と稱した。現在の大湯である。この七平を祖として丹野家は二十六代を重ねて今日に及んでゐる。附近の名湯も七平の彼見にて、新湯は享保年間に發見しその後埋没して、明治初年復興した。湯元温泉旅館、青嶺閣、丹野旅館は、青根温泉郷第一の眺望を占有し、太平洋

の怒濤も直にその海氣を御するが如き思がある。泉質は大湯、新湯、名號の三湯とも弱鹽類泉、溫度四三度、また炭酸アルカリ性があつて内服に適する。腦病、胃腸病、婦人病等に特効がある。

富岡村宿

宿區長 岡崎卯右衛門



常家はこの部落に於ける古い家柄として、永い歴史を傳へて来たが、遺憾ながらその始祖及び家系等を明かにしてゐない。代々農を相繼いで今日に至つてゐる。

氏は先代留吉氏の長男に生れ、農業の外に養蠶業、畜産業をも營んでゐる。畜産では特に狸と兎とに重きを置き、これが増産を圖つてゐる。しかもこの種の業の於ては、氏は各地方の先覺者としてた

へられてゐる。

會て昭和七年より農事實行組合長、農會代議員、檀徒總代、經濟更生委員として、また統計調査委員として就任、數々の功をたへられてゐる。そして現在はその當區長として部落の圓滿なる發達に留意しつゝあり、その他養蠶實行組合長、衛生組合幹事などを兼つて、それら東奔西走、以て村自治の上に至大な功勞を輝かしてゐる。

川崎村川内

學務委員 大松 養助



明治三十六年、學務委員に選ばれて以來、引續き今日に至る三十六年間に、終始一貫、特に教育方面に盡瘁して来た氏こそは、東北人がもつすべきの氣質の代表的人物であり、常に村人

が評するやうに、純真にして潔白なる士であるといふも、決して過言ではない。世に滅私奉公なる語があるが、自己をすて、公共に盡すを以て、能事終れりとなしてゐる氏の如きは正しくそれ、これまで努力に努力を累ねたその勤績の、いかに高大なるものであるかを推知するに難くはない。

最近の例話であるが、小學校に國旗掲揚門柱設立の議起り、これを一般村民の寄附金に仰ぐかなど、容易に決せなかつたが、氏はこれを耳にするや、自ら私財を投じてこれを完成してゐるが如きは迎合主義の人ではなく、たゞまごころを以て盡すといふ誠心誠意の人物であることが領ける。まことに現世稀に見る人である。

大正八年、多年にわたる學務委員のみの功績によつて、本縣々廳からあつく表彰をうけ、忽ちにして縣下に有名となつた人物である。外にまた農事實行組合長として盡瘁し

てゐるが、名ばかりの組合長ではなく、名實共に兼ね備はつた組合長として評判最も高く、業績頻りとあがり、郷土自治團の重鎮を以て迎へられてゐる。

富岡村 碁石

碁石 眞壁 清之助



出でては村治にひたすら相務め、入りては農に勵みて、篤農家の譽れ高く、質朴、温厚の士として村民より信頼を受けてゐる眞壁清之助氏は、現在區長の要職にあつて専ら部落の圓滿發達に力を盡し、其の功績日に高まりつゝある。

は土地賃賃價格調査員として成績優良なるに依り、仙臺稅務監督局長より表彰を受けたことである。尙ほ週れば昭和四年十二月、農業調査員の功に依り、内閣統計局長より表彰された経歴を有してゐる斯くの如く光輝ある氏の功勞も、實に氏の質實なる人柄と、己れを捨てて職務に盡す熱烈なる努力の賜にして、衆皆な氏を範として崇め、當村に缺くべからざる人物とされてゐる。

氏の祖先是詳かでないが、屈指の舊家として知られ、農を以て家業となし、代々篤農家の名望あり、實父浩平氏は、家業精勵の傍ら、區長、村會議員その他の公職にあつて、村治開拓の功多き人物であつた。

川崎 村

區會議員

沼田 庄兵衛

當家は村屈指の舊家にして、氏は青年時代より村政に參與、政治運動に興味を持ち、活躍旺んであつた。昭和四年村會



議員に當選して以來、氏の懸命なる努力は、當村の發展を促進するに力あり。更に昭和八年には區長に就任

日夜氏の念頭を離れざるは部落民の福利と村政各般の圓滿なる發展とに盡くるといふも過言ではなく、その間愛林納稅組、會長、農會代議員、産業組合理事、衛生組合長、養蠶實行組合長等を歴任、産業に、養蠶に、衛生に種々の業績を残して居り、將來とも氏の活躍は目覺しきものがあるであらうと、全村より囑望されてゐる。

又、村政各方面に亘る足跡の多きも、穩健圓滿なる氏の人格の衆に及ぼすところにして、いかに信望をさせられてゐるかが思惟され、現非時局下の農村に於ける氏の存在は、村民ひとしく渴望の的である。

川崎村 小野

小野區長

尾形 利四郎



曾て養蠶實行組合評議員として蠶業の改善進歩に献身的努力をなしたる氏は極めて穩健着實なる人格者である。自治方面に非凡なる手腕あり、その手腕は清廉高潔なる人格と相俟つて村民の信望すこぶる厚く、自治の木鐸とも稱すべき材幹である。

養蠶實行組合に關與して寄與をなしたる外農會出納調査員、産業組合監事としても村産業進展に效を奏した。當村の現在の産業は隆々たる業績をしめしてゐるがその隆盛の動因は氏の盡力に依るところ頗る多く、また土地賃賃價格調査員に任せられても一身を挺して努力をつゞけ多大の貢献をなした。

氏の盡力して寄與せるはその外に恩賜郷倉組合長、愛林納稅組組合長、檀徒總代等である。特に愛林納稅組組合長の重任は二十年の永きに亘つて勤続せるもので、檀徒總代は五期に及ぶ。

現在は専ら教育方面に意を用ひて學務委員の任にある。その永年に亘る盡力に村民はみな感謝し、驚異の眼を以て迎え衆望高まつて遂に區長の任に推舉された氏は實に農、蠶、林等の産業功勞者たるのみならず、自治の功勞者でもあり、表彰も各方面より數次に及びて、村民よりは稀に見る材幹として信望を寄せられ、今後の活躍にますます期待と囑望をよせられてゐる。

富岡村 野上

富岡區長

佐藤 喜三

温厚と篤實、然して氏は精密なる頭腦の持主にして、夙に村政に參與し、その行ふところ何處にも功績あがらざるは無く、熱と力は村民のひさしく眺望し來つ

たところにして、氏よくその要望に應へ故に衆望、双肩にあつまりて畏服するところである。

現に推されて區長となり、昭和四年以來既に十年の年月をひたすらに貢献努力し、區長たるの職務をよく果し、それに加ふるに恩賜郷倉組合長、衛生組合副會長、農事實行組合幹事、共同作業場組合長等の重職を歴任、氏の優れたる手腕と衆に抜きん出る人格の偉大さは、これらの職務に確固たる足跡を印し、村政の發展は正に氏の努力によりて、今日に至りたる如く、當村に於ける第一人者たるの貫録を示してゐる。

先般、國勢調査の實施に當り、推されて良く調査員としての使命を完うし、その責任感の強きと、誠實なる實行は氏の名聲をより高くし、その他富岡村統計調査員、赤十字社員、氏子總代等、各方面に亘りて目覺ましき活動をなし、いづれの部署よりも實力の人として認められ、氏を存する當村の前途は大いなる發達を

見るであらうと期待せられる。
氏の實父堅造氏も、村治功勞者として今尙村民の腦裡に残り、夙に村治開拓に意を用ひ、區長の要職に就き盡力、日を忘るゝの熱誠なる人物であつた。その上種々の公職に選ばれ、精勵の譽れ高く讃えられてゐる。

川崎村本砂金

東砂金區長

沼田 周助



氏は資性温厚にして篤實、しかも徳義に厚く、常に現實を認識し、前途への見透しをつけて當る實行家であり、早くより養蠶實行組合副組合長、農會組合長、愛林納稅組長を歴任、實績多大にのほり、昭和四年村會議員に推舉されて以來二期連続して出馬し、村民の期待に副はむことを念願とし、農村と

しての發展と、村治の改革を企畫し、多大の功績を遺した。その後、昭和十二年再び本砂金區長に就任し、献身的熱意を以て村治に盡瘁し、今日に至つたものである。
その間、土地賃賃價格調査員の職にあつて終始至誠を以て努力したる結果、その功に依り、仙臺稅務監督局長より表彰せられる等、各方面より感謝狀、表彰狀等多數授與せられた。

當家は名門にして、村切つての素封家であり、代々村民の信望篤き家柄である先考周治氏は、川崎村第八代目村長として活躍され、剛毅果斷にして、しかも温情に富める人格者として、村内は元より近村に至るまで名聲を馳せた名村長であつて、當村の今日有るは實に氏の功績に依るものである。

當主周助氏は、その男として生れた。温厚なる性格と、先考譲りの實行家的素質とを兼ね備えて、現在區長として信望あるは勿論、未だ村の前途に氏の寄與を

俟つこと多大である。家庭は圓滿にして和樂に溢れ、常に笑聲絶ゆることなき明朗さである。

富岡村 基石

前村會議員

眞壁 鑛平



當家は古い家柄ではあるが、家系等の不明が遺憾である。累代農を業とし、先代勇太郎氏は、夙に篤農家の名を馳せてきたほどで、しかも部落のことに、また一村内の公共のことに關心をもち、常に先んじてこれに當るといふ人だつた。従つて衆望は期せずして一身にあつたり、基石區長となり、村會議員に選ばれるゝなど、村治の表面に立つて活躍、功勞また絶大なるものがあり、今も一般に追慕感謝されてゐる。
當主鑛平氏はその男である。穩健なる

思想の持主、郷校卒業後家業に精進精勵し、若くして富岡村消防組小頭に擧げられた。氏はこれを身の光榮となし、消防界のために全精神を打ち込んで盡瘁、以て衆望に副ふところがあつた。氏のその精神は、いよゝゝ一般人の期待を強め、養蠶實行組合員、更に一躍して柴田郡繭組合代議員に推され、各地方養蠶業の伸張に資するところ、洵に至大なるものがあつた。

氏の功績は年と共に擧り、衆望またいよゝゝ多きをなし、大正八年基石區長に選ばれるゝや、公平無私の立場に在つて、まづ部落民の福利増進を圖り、次で圓滿なる發達へと苦慮盡力、その所期は着々實現化しつゝある。

昭和八年の村會議員改選に際し、推されて立候補して當選、初の村會に於て侃々諤々の論陣を張り、多年抱持の主張を具さに披露して注目を惹くなど、疾くも村會の一名物男となつた。かくして村治の上に印した足跡は巨大なるものであつ

た。今は公職を去つて野に在るとはいへ農業のため、副業としての養蠶業のために刷新と奨勵とに活躍貢献しつゝある。

川崎村 川内

軍人分會長

森 勇之助



氏は歩兵第二聯隊出身にして、大正八年四月一日軍人分會評議員に就任し、爾來勤続十五年の長期に亘り至誠その職に邁進し、大正九年選ばれて分會副會長となり、献身的熱意を以つて減私御奉公の結果、遂に累進、分會長に推されたものである。

氏は資性温厚なれども、眞の軍人的精神の持主にして、日本主義的立場に於いて、在郷の軍人として、一朝事ある時は國家の干城として御奉公する事及び有事の際に於ける軍隊の後衛として、一般民

衆の指導的立場に在るを認識し、その目的貫徹に邁進して來た。現在日支事變の最中に在り、氏の活躍はいよゝゝ果敢を極め、銃後の完全を期し、一身を挺して盡瘁してゐる。功に依り帝國在郷軍人分會長より功勞章を授與された。

氏は又その間、青年學校指導員として後輩青年の訓育に盡力し、範とするに足るべき人物として、青年間に多大の信望あり、氏もまた、將來の日本を背負ふ青年の訓育を重大視し、鋭意その實踐に努力して來た。

また川崎村道路保護組長として、交通の完全、發達に寄與すること甚大であつて、村民感謝の的となつてゐる。

當家は舊家にして、村會での名望家である。嚴父清七氏は現在區長の要職に在り、功勞者として知名である。氏は望まれて當家に入家したもので、父子揃つて公共に盡瘁してゐる。

一家は圓滿平和を極めて、模範的家庭として知られてゐる。

富岡村 菅生

元村會議員 大泉 桑三郎



氏は今、當豊岡村の元老株としてその存在を重からしめてゐるが、翻つて歩み來つた過程をたづねるなら

大正八年納稅組合長に選ばれたを振出しに、同十二年當村稅金事務取扱の要職に就任村民の期待に副ふところ大なるものがあり、信望いよゝ重きを加へるに至つた。

超えて同十五年、區長に推さるゝや、部落民の幸福と安寧とを念頭に、専念活躍してこれが具體化を多からしめた。そして氏の信頼の度はたゞ高まる一方であつたが、氏は自らこれを誇らず、私を減して公に奉ずるの念願を以て邁進、昭和四年の村會議員選舉に際し、衆に推され

て立候補、馬を陣頭にすゝめて奮戦、見んごと勝名乗りを擧げて村政に參與早くも村會一方の雄として重きを於かれた。その間また、土地貸賃價格調査委員、國勢調査員、農業調査員、氏子總代、赤十字社員として、それゝ盡瘁貢獻する多大なるものがあつた。今は名、公職を去つて、閑職の境にあるとはいへ村民は氏を惜みて銑後公共團體の顧問に推薦して、相談に參與せしめつゝある。



人を修めるに徳を以てし、自らは清貧に甘んじながら高邁なる教育の精神と、清廉潔白の人格はまこと接する人をして深く敬慕の念を寄さしめ、その徳望のひろまり行くところ四周に及んでゐる。我等が教育の父、尾崎傳吉先生は、慶應三年富岡村支倉に生れ、明治十二年前川小學校を卒へ、更に漢學を學び、その飽くことのない學究心と、性來輝く明晰の頭腦は、稀に見る秀いでたる人として、如何ばかり前途を囑望せられたであらう。望まれて小澤分教場に若くして教鞭を執り、明治十八年、母校前川小學校に轉任し、後ち本科正教員の免許を受くるに及び、訓導に任ぜられ、以來大正四年迄、實に三十有餘年の久しき年月に亘り、一意専心、青少年の教育に殉じ、まことに先生の教化を受けし者、數



令息 齊 氏
心の人、夙に村民から今後を囑望されてゐる

青年で、正しく村青年指導者として、重きをおかれてゐる。

川崎 村

元村會議員 尾崎 傳吉

して早くより村民の信用厚く、大正六年



推されて村會議員に就任以來區長消防顧問、區會議員、寺總代、用水世話人、基本積立金會計係の要職を歴任し、多大の功績をあげつゝある。特に神徒總代の如きは前後十三年間、良くその職務を果し、穩健なる思想と誠實なる人格は、職務に反映し、村民敬愛の念をよせるところである。

千の多きに上るといふ。世俗の利を忘れ一身の安泰を省みず、一生を捧げてひたすらに斯道に邁進したのである。大正四年、村會議員に選ばれ、越えて大正六年川崎村農會の評議員に推され、爾來村政全般に先生の德行及び、各種團體に、地方公益に献身されたその功績は偉大にして廣汎、郷民みなひとしく信望措く能はざるところである。先生多年の恩徳と自治功績とは、郷民舉つて讃稱、追慕して止まないところでこのために、郷民こぞりて頌徳碑を建設、永く氏の徳を偲び、その教訓を人生の範とすべく崇敬してゐる。

富岡村 碁石

元村會議員 佐藤 榮之助

先代幸吉氏は村政發展に意を用ひ、推されて村總代、組長の公職に在り、一意専心貢獻、村治功勞者として名聲高き人物であつた。

當主榮之助氏はまた圓滿なる篤農家と



川崎 村本砂金
愛林納稅組合長 遠藤 清作
勳八等

氏は光輝ある彼の日露の戦役に出征、第一軍に従軍し、武勳高かりし勇士にして、その勳功により勳八等旭日章を授與された名譽の人である。今でも氏はわが軍の華々しき戦鬪の有様を語る時は、昔日の勇士の面影、躍如として現はれ、聞くものをして恍惚たらしめるのである。

郷里に在りては、村治改良に努力し、推されて森林納稅組合長として、既に五期間の長きに亘り勤続し、また氏子總代赤十字社員等の名譽職を歴任してゐる。氏は納稅組合長として功勞多く、納稅成績優良なるを以て、村會より表彰を受け

且つ、村治功勞者として村民の衆望を集めてゐる。

當家は代々農を以て家業となし、先代清七氏は篤農家として評判高く、當主はその長男である。尙當家は當村有数の素封家として謳はれ居る。

氏は資性温厚、また篤着なる人材にして、その反面剛健の氣風を愛し、衆望を擔ふに足る器である。

家族は圓滿平和を以て聞え、長男仁氏は既に村政に關與し、推されて農事實行組合長として衆に拔きんで、其の壯々たる活躍振りは、將來を囑望せられる處甚だ多く、有力者として仰がれてゐる清作氏の令息として相應しく、仁氏はまたよく氏の志を受け、父子共に重き存在として讃えられてゐる。

富岡村 小澤

元村會議員

植野 源治

氏は資性温厚、篤實の士にして、かつて民政の華開かれんとする明治初年に人

となり我が國威を海外に輝かせる第一歩



の日清戰役に從軍出征し、その武勳は今も往時の面影を残し老いて

尙ほ剛健の氣風がその額に漂つてゐる。村に在りては後進青年の指導に懸命なる努力を爲し、青年みな氏のとなりを敬慕し深く畏敬するところである。

當時當村は未だ産業開拓も發展を見ざりしもの多く、故に氏は起つて當村の發展は先づ産業の發達にありと、率先して農業に、養蠶に意を用ひ、その努力奮闘の有様は村民をして一致協力の實を挙げしめ、次第に文化水準も上り、産業の圓滿發達に伴ふ當村の經濟更生は、まことに氏の努力の賜であり、村民の氏を敬慕し己まざるところである。

氏はかつて乾滿社合總代として、その改良に卓越せる識見と手腕を表はし、農

事督勵委員在職中、氏の偉大なる功勞は

郡會の知るところとなり、度々の表彰を受けてゐる。また村民の信望厚く、推舉されて村會議員となり、その在職年間は通算すると十二年の長きに亘つて、村自治に於ける功績も、また枚舉に遑なき有様である。

現在は水利組合顧問及び、衛生組合理事の要職にありて、本村平和發展に終生努力の覺悟を以て勤めてゐる。

尙ほ氏は先代喜平氏の長男にして、當家は代々農業、養蠶業に従事して居り、先代喜平氏は篤農家として聞え高き人であつた。

川崎 村

元 區長

追木 金之助

昭和十年當村に、恩賜郷倉設立の時、聖慮に應へ奉らんとして、村民一致協心の上、吾が追木金之助氏を設立委員に推舉し、氏の献身的努力と赤心の賜にて、恙なく設立の事を終へしも、村民の敬慕

の念の深 が思推される。まことにこの



一事にても明らかなる如く、氏は純情清廉東北の代表的人物として

讃えられて居り、當村の持つ誇るべき人物である。

氏の實父金作氏は、篤農家として知られてゐるが、これのみならず、村治開拓者としてまた村民の信望をあつめ、區長その他の公職に就き、極力盡瘁、その功勳からざるものがあつた。斯くの如き父君をもてる氏の、村政に専心意を用ひ、村民の福利増進と圓滿なる發展に日夜心魂を砕き、努力せるも父の志を繼ぎたる氏の孝心の深きによるものにして、尙、性來己の利を省みず、理想に立向ふ優れたる人間性をも兼備されてゐる。

氏は早くより檀徒總代、農會代議員、區會議員、區長等の要職に推され、凡ゆ

る方面に村民の信頼に應へ、益々その信

望強まりつゝある。現在は、衛生組合長農事實行組合長として旺んに活躍して居り、その功績の残るところ、當村發展のパロメーターである。

富岡村 宿

元村會議員

佐藤 音吉

約二十年間も區長代理として貢献し、



その外消防小頭、支倉信用組合評議員などにも選ばれて

當の功勞を擧げた當主房吉氏は、先代東吉氏の長男として、土地の舊家たる今の家に生れた人である。

家業は農であるが、この方面にかけての氏の熱心さは、ひどく村民から感謝されてゐるほどで、昭和四年から一期間村會議員に當選、思ふ存分日頃の主張を村

會にぶちまけて盡瘁し、現在は本郷協議會長(部落長)の任に在つて、懸命と努力してゐる。

資性温厚にして、篤實、聲譽に超然たる人格者、最も村に重きをなしてゐる。多年消防に盡瘁せる功績によりて縣廳並に警察署より表彰された。

川崎 村川内

愛林納稅組合長 勳八等

寛野勝之助



家として名望あり 先代文四郎氏も亦、農業改革に努力せる人物である。

その長男たる當主勝之助氏は、かつて日露の戰役に出征、第一軍に從つて各地に轉戦、赫々たる武勳をたて、その功に依り勳八等白色桐葉章を叙與された名譽

を有してゐる。

剛毅果斷なる氣風を愛でられてゐる氏は、當時の武勇談を語る折の、氏の面上には、躍々たる勇士の面影をみることが出来る。歸郷後は村政に參與、區長に就任し、良く部落民の信望をあつめ、その他衛生組合幹事、愛林納稅組合長、檀徒總代等、各種公共團體に活動せる功績尠からず、献身的努力の跡は村民ひとしく認むるところである。

村當局初め各方面より數度の表彰をうけ感謝状を贈られ、而して村政功勞者として村民の敬慕を一身に集めてゐるも宜なるかなである。

一家は圓滿平和なる模範的家庭として好評を得てゐる。

富岡村支會

元村會議員 太田子之助

當太田家は土地に知られた舊家で、先々代の時に土木事業を創め、拮据精勵、業いよ／＼進んで大となり、疾くも斯界

に覇を成すに至つた。先代榮七氏これを



繼ぎ、守成よくその基礎を鞏うし他面氏子總代、檀家總代等に就任

敬神崇祖の思想の上に印した足跡もまた偉大なるものであつた。

當主子之助氏はその長男である。土木請負業としては正に三代目、乗るか外るか、運を天に任せて時に冒險的に手を出して見たが、何れも圖に當つて業勢ますます伸張し、擴張して今では内地は勿論のこと、臺灣に跨つて飛躍的の活動をなし、縣下斯業界に「この人ある成」を以て名聲噴々たるものがある。

昭和四年より二期間村會議員として、一村の福祉増進に、平和なる發展にと盡力し、また土地貸賃價格調査員としても相當の功を樹てゐる。現在は土木委員として、氏子總代として、衛生組合副組

合長として在任、その意に副はんことを念となしてゐる。しかも春秋に富める氏今後大に成すべきところあるを、囑望、期待されてゐる。

なほ近親者に赤岡ミツエ女史がある。女史は今、遠く南米サンパウロ市に在り裁縫學院を起し、自ら院長として主宰、盛業中である。

川崎村川内

元村會議員 小原銀助



先代大覺氏

るはまた日本道德の基礎である。氏は敬神の念篤く以

て人生の目標となし、其敬虔の態度は氏の人格の然らしむるところの床しき限りである。氏の著書「神國の道德」に學究の深きところを遺憾なく發揮されて好評

を博してゐる。

村政に與りては極力努め、諸方面に亘りて堅實なる足跡を印し、明朗農村を目指して活動して來た。氏の携はつてきた要職を擧げると、大正十四年 昭和八年の二期村會議員に選ばれ、その他柴田郡乾蘭代議員として十二年、氏子總代六年 負債整理組合委員、自作農創設委員 川崎村振興委員、養蠶改良委員、土木委員、養蠶實行組合長、産業組合理事等、村内の元老として重きをなしてゐる。現在はずべての職を退き後進に道をあけ、悠々自適の日を送りながら、當村前途の發展を祈つてゐる。

富岡村基石

元村會議員 眞壁逸平

今回自治制發布五十周年に當り、自治功勞者として村當局より表彰せらるゝの光榮を擔ひ、正に一門の榮譽となつたわが眞壁逸平氏は、宮城縣立農學校養蠶科に業を修め、家業である農業に精勵して

居たが、また村政に意を用ひ、大正二年



村會議員に當選して以來、昭和十二年迄の實に勤続十九年餘の久し

きに亘り、献身村治に努めたるその功勞は、まことに枚擧に遑なき有様にして、當村の發展も氏の賜として、村民ひとしく敬慕を寄せてゐる。

尙ほ氏は村會議員としてのみならず、柴田郡乾蘭組合理事、同代議員に就任し地方養蠶業の發展に盡力し、斯業の爲め貢獻尠からず、又村内に在りては、學務委員、養蠶實行組合長、檀徒總代等の重職に選ばれ、懸命の努力を以て勤めしに依り、村政上、産業上あらゆる方面に於ける氏の功績噴々として輝いてゐる。今や氏は功成り名遂げし境地に至り、後進の爲に道を開き、要職を退き、家督を令息逸志氏に譲りて悠々自適、常に村治

發展の前途に意を注ぎながら、靜穩の日を送つてゐる。

氏の實父富吉氏は、夙に村政に與り、區長その他の要職にありて活躍せる村治功勞者であつた。代々當家は名望家として聞えてゐる家柄であり、斯くの如き家柄と温健にして寛大なる人格を有する氏は、生涯を村治に捧げた人にして、光榮ある表彰もまことにさこそと思はれ、氏の偉大なる自治の精神は、永く村民の胸深く刻み込まれ、氏の人望を近郷近在に厚からしめてゐる。

川崎村

診療所 高橋昌造

現今國民體位向上、健全なる國民の養成を以て國策の線に沿はんとするは醫業の職にあるものゝひとしく渴望するところである。當地方民に衛生知識の普及、關心を呼び起したるは、當診療所高橋昌造氏の業績であり、献身的努力の賜となければならない。昭和七年若手醫專卒

業後一關病院に勤務、理想に燃ゆる氏の若き胸には農村健康への要求であつた昭和十一年十二月、當川崎村に開業、氏の熱心な努力は村民から懇望されて村醫に就任した。當診療所の診療科目は、内科外科、婦人科にて病室設備整ひ、氏は特に、民間傳染病の撲滅に全力を盡してゐる。

昨年七月川崎村一圓に腸チブス發生、患者二十三名中死亡せるもの三名のみに止まりたるは、實に氏の手腕の優秀さと醫師精神の満溢せるものといふべく、感謝と尊敬を全村民よりよせられてゐる。

峨々々 温泉

本温泉は藏王山の中腹、海拔九〇〇メートルの谿谷にあり、二階建築數棟の浴樓が、しかも三段に折り重なつて建つてゐる。四圍に迫る山また山、脚下に流るゝ清冽なる清水、さうした景觀を満喫することが出来る。一體が保養向の温泉場



名物の樹氷

で、社會との交渉を全然絶つたやうな幽邃郷であらう、盛夏の時に、

質等の患者の浴用によく、内服用としては胃腸病、慢性咽喉及び氣管支加答兒、貧血病などに効能萬點である。

温泉主 竹内直也

當家はもと群馬縣佐波郡の土族として知られた家柄、先代の時保

一帯木となく、草となく、その悉くが紅葉する美觀は、東北地方にも類を見ない冬は有名な廣漠たる藏王スキー場で、藏王連峰を背景として、スキーマン憧れの地となつてゐる。

氏は鑛山事業を営んでゐたが、たゞ明治九年この地に來り、端なくも温泉湧出を發見するや、温泉旅館經營のことを思ひ立ち、遂に開業今日に及んでゐる。當主直也氏は實に二代目にして、夙に斯業の改善に志し、何處までも客本位をモットーとし、客室五十有餘、従業員二十名、浴槽ま、廣大、親切と明朗なる氣分とを以て接客、世評噴々、極めて隆盛を呈してゐる。

當温泉の効能は胃腸病、腦病、呼吸器病、慢性癱瘓質斯、各種神經病、痔疾、淋病、慢性生殖器病、諸種の麻痺、腺病

因に當館滞在には自炊が便、これは室料と寢具料とを出し、食事は係りの女中によつて、好むものが運ばれるといふ何式のもので、登山や一二泊の人々には旅館を以て扱ふ。山深くして人情素朴なる温泉境である。

富岡村小澤 名門家 大野 繁夫

代々士族に列せる家柄で、當地方に、檀方(武家)として尊稱されたる名門である。

實父大野市左衛門氏は富岡村第四代の村長を勤め、大正九年十月十日に就任してより、昭和四年十一月十二日迄その職にあること、十二年間の久しきに亘りし人で、其間に於ける氏の業績は絶大なるもので、枚擧に遑なく、村民の繁榮を願ひて村内に各種の組合を設立し、養蠶事業を振興せしむべく盡力せる外、農耕地の開墾を奨励するなどであつた。當村が今日の如く隆盛の道を辿りて、健實なる伸展を遂げしは、一に氏の不眠不休の努力と、俊敏なる頭腦、旺盛なる精神力の賜であることに依る。従つて村民より深く親しまれ、その功績は絶讃されてをり誠に當村不世出の傑物である。

當主繁夫氏は、此の名譽ある家に生れ

よく嚴父の教へを守り、刻苦して業を磨き、柴田農學校を優秀な成績で卒業せる後、嚴父の指導下にあつて、村政に關心を寄せ、その新知識を以て率先して範を垂れてゐる模範青年で、前途洋々たる將來こそは期して待つべきものがある。

伊 具 郡

宮城縣の最南に位し、東の一半は亙理郡、他の一半及び南は福島縣の相馬郡及び伊達郡につづき、西は刈田郡に接し、北は柴田郡に境する。

面積約二十六方里、阿武隈川が郡を貫いて流れ、兩岸に平地をつくり、農業が發達し、殊に養蠶が盛んである。人口は五萬三千をかぞへる。

官衙には耕野村診療院、角田警察署、大河原區裁判所角田出張所、同丸麥出張所などあり、中等學校以上の學校には縣立角田中學校、縣立角田高等女學校、縣立伊具農蠶學校(中新田町)、組合立伊具農蠶學校(丸麥町)がある。小學校は十六校をかぞへ、全部高等科を併置し、學級の最大は角田小學校の二十八學級、最少は金山、尾山、藤田各校の七學級である。なほ當郡下の名勝舊蹟を見るに、角田には臥牛城址、斗藏山、臺あり、九麥の

伊達植宗廟、駒場瀧、立石馬騎嶺また知られ、金山の金山城址、筆甫の戊辰役古戰場等をはじめ、大内村には旗巻古戰場琵琶石、天狗の相撲取場、枝垂欄、青葉溫泉あり、その他藤尾村の女夫石、八龍城址、伊與城址、伊達家御藏場址、櫻村の吉野城址、國造石、諏訪櫻、北郷村の千人峠、双子岩、蛇石、西根村の高藏寺、阿彌陀堂、館矢間村の愛宕山、大張村の虚空藏堂、耕野村の覺範寺址、猿飛の絶勝など著名である。

本町は角田、横倉、豊室、小田の四大字から成り、東西三里、南北一里餘面積一・八九二方里を有し、郡の中夫部、阿武隈川の西岸に位置してゐる。本町の東は隈江の大河を隔て、藤尾、枝野の兩村に對し、長城の如き阿武隈山

角 田 町

本町は角田、横倉、豊室、小田の四大字から成り、東西三里、南北一里餘面積一・八九二方里を有し、郡の中夫部、阿武隈川の西岸に位置してゐる。本町の東は隈江の大河を隔て、藤尾、枝野の兩村に對し、長城の如き阿武隈山

金 山 町

脈を越れば亙理郡に通ずる。南は館矢間村、北は櫻、北郷の二村に隣り、一帯は平野耕土をなし、謂ゆる阿武隈耕土を展開し、西は大張、西根の兩村山と脈を以て隣りしてゐる。小田斗藏山の糸丘岡來つて臥牛城址附近に及び豊室、横尾の二大部落に起伏する。上水路は南館山より來つて町の南端より町内を貫流して櫻、北郷に分流し、灌漑用水路上の便を與へてゐる。町役場、警察署、郵便局、專賣局角田煙草販賣所縣蠶業取締所角田支所、大河原區裁判所角田出張所、角田町産業組合、角田中學校、角田高等女學校その他がある。戸數は一千六百餘、人口約一萬、農業を首位に商業、工業を生計となしてゐる有名なる村社五、寺院二、角田八景に安居山の晚鐘、小田の落雁、舟橋の夕照、代が崎の夜雨、浮志の暮雪、玄海島の松園、候石山の秋月、隈江の歸帆がある。

當町名は鐵山に起因すといはる。往古小富士山麓より鐵を産出し、彼の武田信玄の諏訪法性の胃はその一といはる。又伊具の内金山大内伊手を併せて金岡の莊と呼びたるより起れりともいはれてゐる。天正十二年伊達氏此の地を略して後は、爾來三百年餘年中島伊勢宗求の胤が金岡在三邑二千石を食みて慶應に及んだ。明治に入りて數度の改革を経て明治二十二年町村制實施に當り、大内伊手と分離して村政を布き、明治三十年町政を施行した。本町の位置は郡の東南阿武隈川の南岸に位す。町内概ね山地丘陵なれども雉子尾川及び阿武隈川の流域と丘陵間に相當肥沃なる耕地を在する。廣袤八方料、人口千八百、行政區を六區に分つてゐる。田一三〇町歩、畑一一五町歩、山林三四四町歩で、農産約十四萬圓、養蠶四萬圓外、工産約一萬圓、畜産三千圓林産五千圓となつてゐる。當水産に淡水魚一千圓異色がある。例年豫算は大體二萬圓内外である。各種基本財産は、二萬二千圓に

達し、村自治文化の運営は著々顯揚されつゝある。當町には「國造」制時代の遺蹟といはれる古墳群があり、石柩なども發掘されてゐる。明治三十八年の開墾に當つて、金環、耳環、勾玉、管玉、切子玉、古劍、土器等豊富に出土され、帝室博物館に贈り研究の結果は大和朝時代のものであつた。

筆 甫 村

延元二年北畠顯家が多賀の國府より義良親王を奉じて靈山に入りし時、家臣草野勘解由をして、此地を治めしめた。後天正十年伊達政宗十六歳にして相馬義胤を攻むるや、會津、丸森を降して金山の城を屠り伊具の全土を占むるに及び奥山大學に守護せしめ領内査定を先づ此地より始む、爲めに筆甫と稱した。明治四年には角田縣に屬したが後仙臺縣の管轄となり、明治十四年丸森村と連合して戸長役場を丸森に置いたが明治二十

枝 野 村

二年四月町村制施行の時更に分離した。廣袤約五方里地勢峻峻にして嶽に圍繞され、海拔最底二百米より最高六百七十餘米の高地である。人口約二千、民有地は田約六九町歩、畑一二〇町歩、山林千六百三十町歩、戸數三百十である。往年は山間の僻村として交通頗る不便且物資の需給遲滯勝であつたが、指定寄附三萬六千圓を縣に提供して、最近縣道の竣成を見當村内林道の開鑿を着々進行し、村文化の向上顯著なるものがある。産業は米の他豆二百石内外、蕪八千貫内外、木炭五十萬貫内外を産する。村行政區劃を上區中區裏區古田區北山區鷺平區川平區の七區に分ち村長村會議員その他村役吏員を先導とする一村協力の村勢伸展への翕然たる努力は山林村木炭村として、愛林思想の徹底と共に秀麗小富士の山麓に潤色ある朗朗農村の建設がなされてゐる。本村は郡の東部にあり、面積約一方里

餘、島田、枝野の二大字より成る。地勢東西に長く、東は阿武隈山脈に連つて亘理郡坂元村に境し、西は阿武隈川を越えて館矢間村、角田町に接する。村内東部は畑地多く、中央部は平垣にして田地が拓けてゐる。村を東西に貫いて櫻井川の流あり。近年縣道を改修して交通の便利がよい。戸數四百三十、人口約三十、村民の生業は農を主とし、米、大麥、小麥、大豆その他を産し、副業として、養蠶が盛んに行はれ、又、養雞をなす者少しとしない。他に薪材、木炭等を生産する。

當村はさきに島田、枝野二邑の合併に成り、往昔は相馬領、のち伊達領に屬して、歴史的に重視されてゐる。

櫻 村

阿武隈川の沿岸に位する當村は、古往藩祖政宗公と相馬氏との戦を交へし折の史蹟あり、又遡りては南朝の忠臣、北畠顯家顯信、義良親王を奉じて伊久國造の

跡を辿りて當地に來りしといふ。其の兩度共祈願を籠められし由緒の諏訪神社、奥の院を市神と稱し、近傍の櫻は正宗公凱旋の折、奉植されしと云ふ。其の他高良王垂神社、矢崎神社等あり、佛閣には本村の總菩提寺たる自照院、觀音堂、また日辨上人法難の碑、吉野城跡等の名勝舊蹟に富んでゐる。

當地は養蠶業旺んにて、米産額を凌駕し、養蠶實行組合十二を有し、將來の漸進發展が期待される。農産物はその生産額、米に次ぎ麥、大豆の順、農業従事者は全戸數の八割を占めてゐる。

學校は高等小學校及び補習學校、青年訓練所あり、又櫻村父兄會、母姉會等ありて教育普及に熱心であり、その他團體多數ありて、村自治の圓滑なる遂行をみてゐる。

尙當村の生める先哲に劍聖と謂はれる一條左馬之介信忠、諏訪神社の建築をなせる名工佐藤善藏、又本村建設の恩人と謂はれる玉手正道翁の徳を偲び、孝子遠

藤専次郎翁を範とし、我が村の誇りとするところである。

東 根 村

東は阿武隈山脈連り、村内に支脈突出して小部落をなし、西及び北は阿武隈川を隔て、南は藤尾村に接してゐる。當村水源乏しきを以て東方山澤を溜池となし灌漑の便を計り、近來平貫部落に於て、阿武隈川より揚水機關により揚水するに至り、爲に村内の土壤概ね肥沃にして、村民の大半は農業を主とし、米、麥、大豆、蔬菜、繭等は主要産物である。中でも養蠶業旺んにして、百戸數に對して九三・八八の割に従事してゐる。

農業に次いで畜産振興し、林業、工業漁業等漸次發達の途にある。仙臺角田、亘理大河原、槻木源内原線の三縣道通過し、主要村道は五線ありて交通の便をよくしてゐる。神社佛閣は、諏訪、熊野、春日の三社及び四寺院ある。

又史上名ある人體合掌の岩穴、貝殻塚及び、古内館、南楯城、辨財天、昆紗門塔等の名勝舊蹟がある。

北 郷 村

當村は郡の北端に位し、面積約一方里花島、南岡、南江尻、北江尻、神次郎、北岡、君萱の七大字より成り、戸數五百六十、人口三千七百餘を數へる。村民は概ね農業を營み、米、麥、大豆、繭等を主産物とする。他に製炭業も發達し、その年産額二萬八千七百貫に達してゐる。交通の便よく、縣道縱横に通じ、産物の搬出が盛んである。村内の治政一致し、殊に衛生設備に至つては、他に冠たるものがある。

名所舊蹟に富み、村山深山神社、村社諏訪神社、村社岩松神社、八幡社、羽黒神社、日蓮宗妙立寺、眞言宗正福寺、日蓮宗妙照寺、眞言宗竹林寺等があり、それらの由緒極めて深く、雙子石岡、白岩館の史蹟がある。

西 根 村

本村は郡の西北隅に位し、西及び北は山地なれど、東部には平地がある。北は柴田郡大河原町に接し、西は刈田郡白川町に境する。西根とは、元伊具郡西半の汎稱であつたが、今は高倉、笠島、毛萱稻置の舊四ヶ村を合せ村名となつた。東西一里半、南北二里弱、面積二・一六方里にして、戸數五百六十餘、人口四千二百有餘をかぞへる。

竹林寺、高藏寺の二淨刹あり、共に眞言宗にして、高藏寺の阿彌陀堂は特別保護建造物に指定され、堂宇は飛彈匠の作本堂は徳一大師の作と傳へられ、阿彌陀如來(坐像)一軀は國寶である。

東北本線大河原驛及び角田軌道角田驛より各一里、バスの便がある。また村の生産は年三十萬圓に達し、うち二十三萬圓は農産物である。

館 矢 間 村

本村は伊具郡の略中央に位し、角田町の西北に隣る。古くより山間の爲め物資の需給、交通等には相當不便であつたが角田町の發展と共に大いにこれが打開を見た。殊に蠶業に於いては此の地方の中心として指導的立場に在つて蠶種、桑苗木の販賣に蠶業發展の爲め偉大なる功績を爲してゐる。現在では蠶種四萬數十圓桑苗木一萬數千圓の多額を生産し、大部を他村へ販賣してゐる。繭の産額は七萬圓内外である。本村は阿武隈川の寫曲部を以て村境界の半ばを占めてゐる爲め、川漁も相當見るべきものあり、太公望垂涎の地である。廣袤二方里人口約三千二百、田二〇五町歩、畑四六八町歩、雜地四〇三町歩で米麥の産額は米約二千二百石麥額二千石である。家畜方面では牛一四馬八二豚一三二兎六九六鶏六、一九四緬羊三四となつてゐる。財政方面は歳出入各二萬五十圓程度で各種基本金八千圓に上る。諸稅負擔額は約二萬五千圓である。

大張村

本村は角田町の西方にあたり、小田川の源をなすところで、西は刈田郡鷹澤村と境し、その高峰を虚空藏といふ。虚空藏には土蔵寺あり、寺島附近に熊着塚、矢塚の二塚がある。

昔、それは嵯峨天皇の御宇のこと、悪熊ありて一郷これがために傷くを憂ひてこれを帝闕に訴へしに、小野篁に之を退治せよと詔ありしにより、篁これを退治しその首を埋めたる場所を熊首と稱し、その射矢を埋めたる所を矢塚といふと傳説がある。

大藏、川張の二大字より成り、東西・南北各一里半、面積一・〇四方里にして戸數三百十、人口二千百三十を算し、米藪の産が多い。東北本線白石驛より二里半、交通は便利でない。

本村にある虚空藏堂は、東北三虚空藏の一として知られ名高いもので、他に天台宗候法院、眞宗順忍寺、條濟宗大藏寺

等の寺院がある。

耕野村

本村は丸森村の西方、郡の西南隅に位し、全村山地にして僅少の平地を見るのみである。阿武隈川は東境を流れ、南部は福島縣に接する。

江水の峻峽に猿飛といふところあり、昔は、安倍貞任がその水を堰きて敵を防いだとの故事あり、明治戊辰の役にも、仙臺藩に於てこれを堰止め、伊達・信夫・安達・安積の四郡を大湖水に化せしめて敵を悉く水死せしめんとの大計畫があつたといふが、幸に實現はしなかつた。また支那軍の大黄河決潰と似たやうな話である。

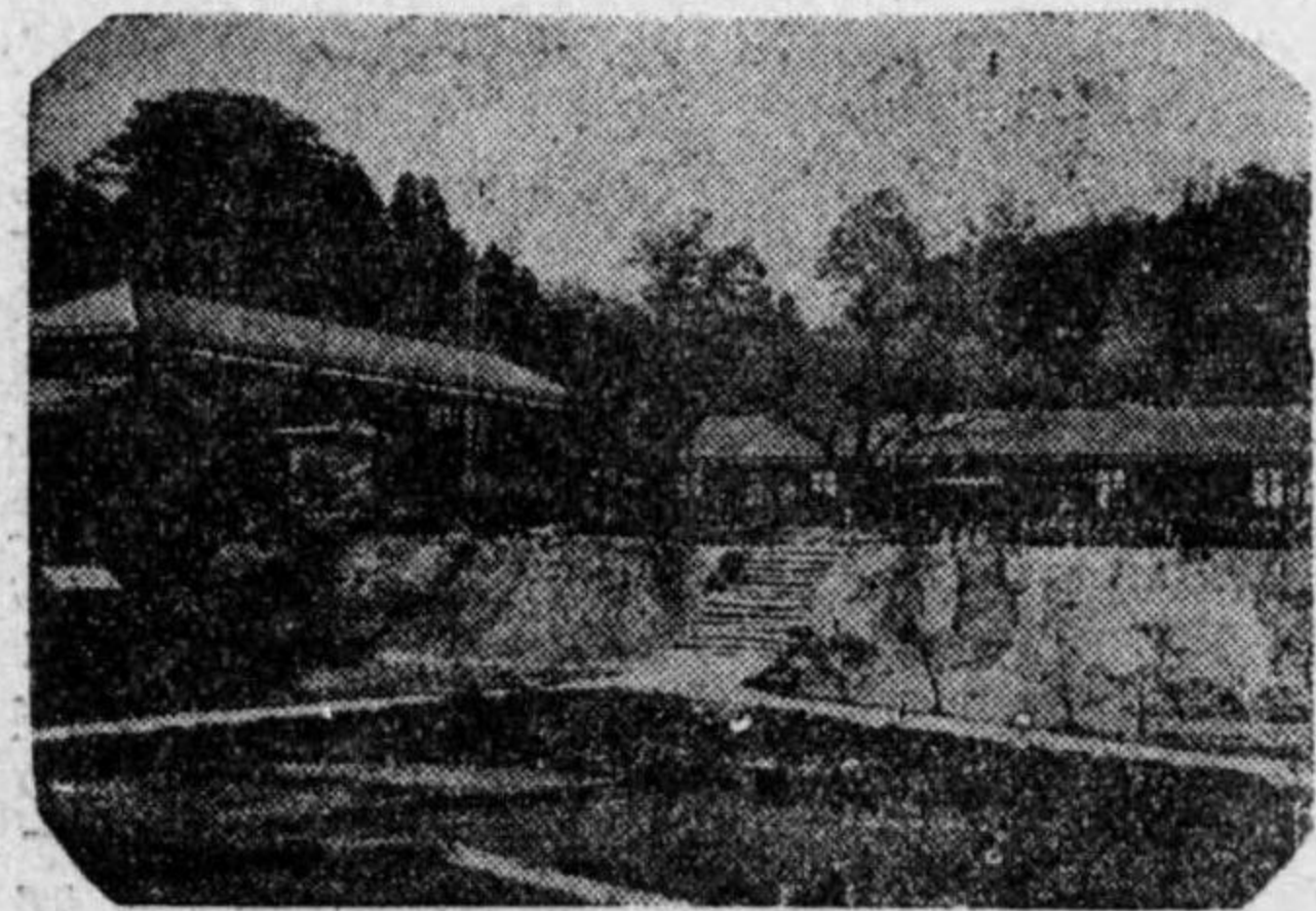
沼の上の碑、蝦夷、覺範寺址なども猿飛の絶景と共に名勝として知られ、杖を曳くものが多い。

村は面積一・二二方里にして、戸數二百六十餘、人口千八百五十をかぞへる。白石町へはバスの便がある。

西根村

西根尋常高等小學校

明治十二年十月高倉字倉敷朱戸昌記氏



校舎全景
校舎を以て開校したるを創設の當りから
住宅を借用して開校したるを創設の當りから
住宅を借用して開校したるを創設の當りから

小學校と稱したるも、二十五年一月に至りて高倉尋常小學校と改稱、四十五年の四月に西根實業補習學校を併置、大正に至りて四年五月笠島分教場を設置し、尋四迄の児童を收容、昭和六年五月毛帯尋

筆甫村平館

筆甫郵便局

本郵便局は大正十五年頃、村會の主張により、昭和二年二月一日郵便取扱所として開設、同年八月六日、郵便局を設置三等局として今日に至つたもので、その區域は當村一圓であるが、電報に限り福島縣の一部をも取扱つてゐる。

本郵便局一年間の郵便取扱所は引受三萬四千、配達九萬五千、同電信は發信四百、着信八百、航空便五、現在貯金高は一萬三千圓、各種保險年金加入一年間の取扱高は五百件八萬圓の數字を示してゐる。

局長

渡邊儀助

氏は明治十八年十二月一日、今の地に生れた人、當地に郵便局の開設を見ると同時にその局長を拜命、事務に熱心すると敏捷なるとを以て、頗る好評を博してゐる。

氏は曾つて、明治四十四年頃、村収入



役を勤め、一村の財政に善慮し、次で村會議員を二期、現在信用組合監事に任じて盡力して

西根村高倉

西根村産業組合

昭和三年、當時村長たりし大沼梅治氏は、信用購買利用組合は當村發展上必要欠くべからざるものと信じ、終に主唱率先して發起人となり、その設立を見たのである。出資總額一〇、九〇〇圓、一口金額二五圓、組合員數二九〇名、貸付總額四〇、〇〇〇圓、貯金一七、〇〇〇圓にて、農業、木炭各倉庫を有し、漸進的發展を見つゝある。

現組合長は佐藤純一氏、歴代理事長は故大沼梅治氏大槻榮藏氏である。

大張村

本村は角田町の西方にあたり、小田川の源をなすところで、西は刈田郡鷹澤村と境し、その高峰を虚空藏といふ。虚空藏には土蔵寺あり、寺島附近に熊着塚、矢塚の二塚がある。

昔、それは嵯峨天皇の御宇のこと、悪熊ありて一郷これがために傷くを憂ひてこれを帝闕に訴へしに、小野篁に之を退治せよと詔ありしにより、篁これを退治しその首を埋めたる場所を熊首と稱し、その射矢を埋めたる所を矢塚といふと傳説がある。

大藏、川張の二大字より成り、東西・南北各一里半、面積一・〇四方里にして戸數三百十、人口二千百三十を算し、米藪の産が多い。東北本線白石驛より二里半、交通は便利でない。

本村にある虚空藏堂は、東北三虚空藏の一として知られ名高いもので、他に天台宗候法院、眞宗順忍寺、條濟宗大藏寺

等の寺院がある。

耕野村

本村は丸森村の西方、郡の西南隅に位し、全村山地にして僅少の平地を見るのみである。阿武隈川は東境を流れ、南部は福島縣に接する。

江水の峻峽に猿飛といふところあり、昔は、安倍貞任がその水を堰きて敵を防いだとの故事あり、明治戊辰の役にも、仙臺藩に於てこれを堰止め、伊達・信夫・安達・安積の四郡を大湖水に化せしめて敵を悉く水死せしめんとの大計畫があつたといふが、幸に實現はしなかつた。また支那軍の大黄河決潰と似たやうな話である。

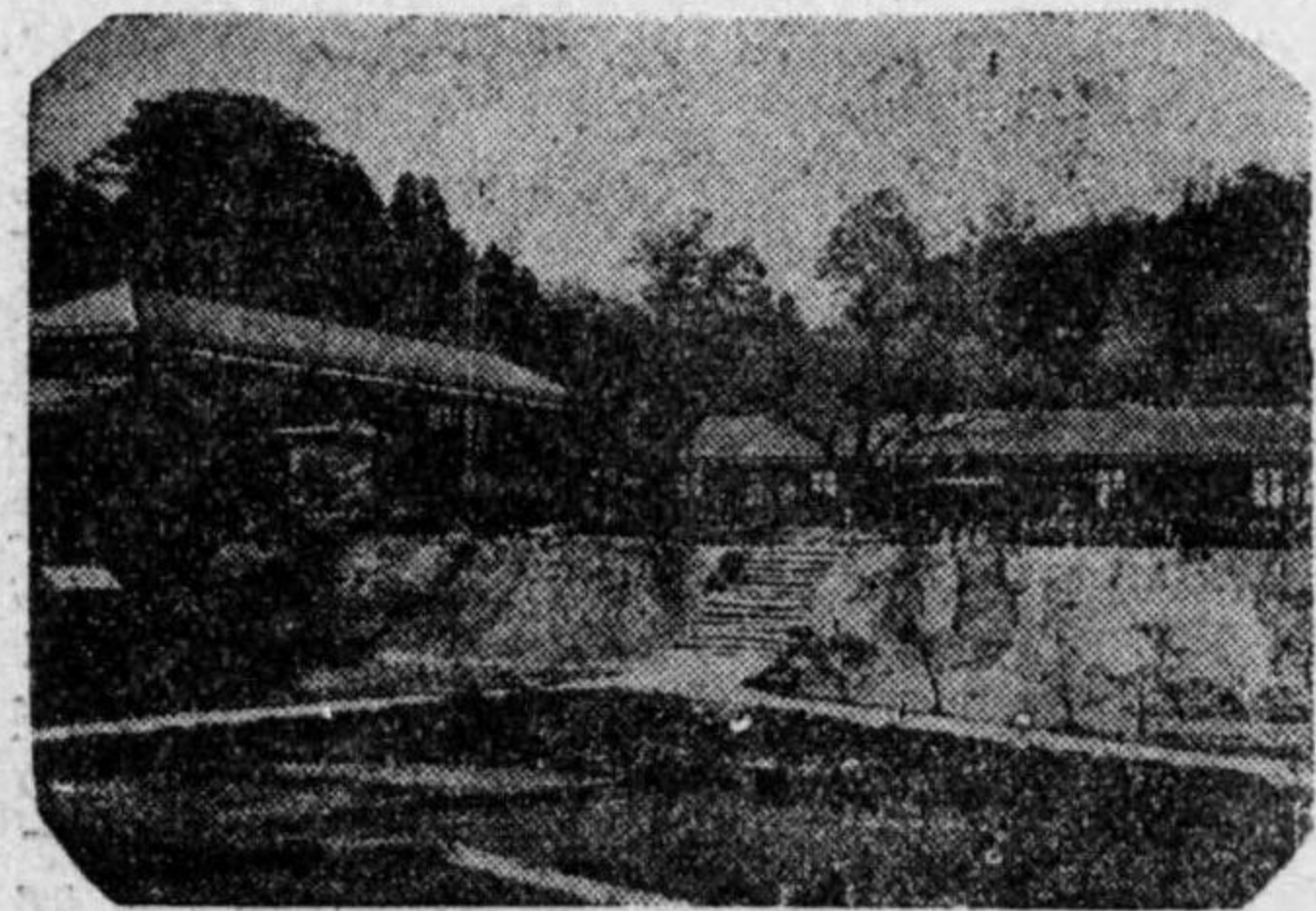
沼の上の碑、蝦夷、覺範寺址なども猿飛の絶景と共に名勝として知られ、杖を曳くものが多い。

村は面積一・二二方里にして、戸數二百六十餘、人口千八百五十をかぞへる。白石町へはバスの便がある。

西根村

西根尋常高等小學校

明治十二年十月高倉字倉敷朱戸昌記氏



校舎全景
校舎を以て開校したるを創設の當りから
住宅を借用して開校したるを創設の當りから
住宅を借用して開校したるを創設の當りから

小學校と稱したるも、二十五年一月に至りて高倉尋常小學校と改稱、四十五年の四月に西根實業補習學校を併置、大正に至りて四年五月笠島分教場を設置し、尋四迄の児童を收容、昭和六年五月毛帯尋

筆甫村平館

筆甫郵便局

本郵便局は大正十五年頃、村會の主張により、昭和二年二月一日郵便取扱所として開設、同年八月六日、郵便局を設置三等局として今日に至つたもので、その區域は當村一圓であるが、電報に限り福島縣の一部をも取扱つてゐる。

本郵便局一年間の郵便取扱所は引受三萬四千、配達九萬五千、同電信は發信四百、着信八百、航空便五、現在貯金高は一萬三千圓、各種保險年金加入一年間の取扱高は五百件八萬圓の數字を示してゐる。

局長

渡邊儀助

氏は明治十八年十二月一日、今の地に生れた人、當地に郵便局の開設を見ると同時にその局長を拜命、事務に熱心すると敏捷なるとを以て、頗る好評を博してゐる。

氏は曾つて、明治四十四年頃、村収入



役を勤め、一村の財政に善慮し、次で村會議員を二期、現在信用組合監事に任じて盡力して

西根村高倉

西根村産業組合

昭和三年、當時村長たりし大沼梅治氏は、信用購買利用組合は當村發展上必要欠くべからざるものと信じ、終に主唱率先して發起人となり、その設立を見たのである。出資總額一〇、九〇〇圓、一口金額二五圓、組合員數二九〇名、貸付總額四〇、〇〇〇圓、貯金一七、〇〇〇圓にて、農業、木炭各倉庫を有し、漸進的發展を見つゝある。

現組合長は佐藤純一氏、歴代理事長は故大沼梅治氏大槻榮藏氏である。

組合長
佐藤純一

氏は明治七年の誕生、本年六十五歳になる。嘗て村長の要職にあり、現に推されて、當組合長となり、その他方面委員、同郡北郷村耕地整理組合理事長等を歴任、高齡をも省みず、なほ孜孜として貢献盡力してゐる。穩健圓滿なる人格者である氏の、事に當りて眞摯なる態度は、衆望一身に集まる所以にして、當村有力者として敬慕の的になつてゐる。



他方面委員、同郡北郷村耕地整理組合理事長等を歴任、高齡をも省みず、なほ孜孜として貢献盡力してゐる。穩健圓滿なる人格者である氏の、事に當りて眞摯なる態度は、衆望一身に集まる所以にして、當村有力者として敬慕の的になつてゐる。

入つた三學氏は、佐藤勇太郎氏の男、明治四年三月十二日



の出生、後ち當家に懇望されて、先

代の後を嗣いだ人。蠶種業に主として活躍、製糸業の旺盛なりし頃、横濱方面にまで出馬して取引を敢行、大に隆盛を極めたものだつた。また伊具郡蠶種株式會社を起して社長となり、斯界に盡力する多大なるものがあつた。

縣會議員をはじめ郡會議員、縣蠶種同業組合長、郡蠶種業に永年盡瘁せるの功に依つて大日本蠶糸會統裁官殿下より第二種紅綬功績章を受け、また内川尾袋川揚排水事業に努力した功勞に依り、縣から表彰されてゐた。

氏は常に勤儉貯蓄の精神に強く、その淨財を以て二宮尊徳先生の銅像を鑄し、館山小學校々庭建設に寄附し、以てこの

美風の高揚を圖るところがあつた。二女子あり、長女さんに養子を迎へ、角田町に本多醫院を開業し、次女さんまた養婚氏を得て、家業たる蠶種業に従事隆榮を致してゐる。

金山町

金山町長 渡邊 德治郎



自治制五十周年記念の際、町政功勞者として表彰を受けし我が渡邊德治郎氏は日露の兩戰役に従軍出征、殊勳高かりし勇士である。その武勳に依り勳七等を賜り、歸郷後は専心町政に參與、町の生産力の増大學校の新築、増築等に意を用ひ、産業上に、教育上に氏の盡力は赫々たるものである。

當家は代々農を本位とし、實父鶴吉氏

館矢間村館山

元縣會議員 故 本多 三學
元郡會議員

當本多家は開祖より十五代の舊家、明治維新前までは代々神官として神に仕へて來た。今は亡き人(昭和十一年)の數に

は村治に盡力、村會議員、區長等の要職に推され、村政功勞者として知られてゐる。德治郎氏は六代目當主にして、金山中學校卒業、而して凱旋後は、町政各方面に活動し、大正十一年六月より推されて町長となり、同十三年一月迄、よく職務を果し、區長村助役たること十二年の永きに及び、昭和九年十月、再び町長に推され、名町長として現在に及んでゐる。氏は實に溫厚にして、清廉無私の人格者として仰がれ、深く信頼を寄せられてゐる。家庭は三男一女長男は東京丸善に勤務、前途有爲の青年として囑望されてゐる。

筆甫村

筆甫村長 目黒 勘四郎

當筆甫村々有財産は、縣下第一位を占めてゐるが、村民はそれとは反對に縣内第一の窮民とされてゐる。それは山林の合併によつて、村有となつてゐるためである。村有林四千三百十八町餘歩の内、

毎年百十八町歩伐採、二萬圓以上の収入があり、爲に道路及び林道等は村財を以て自由に改修することが出来るし、また税金等もほんの申譯的に掛けらるのみで曾て電話附設のために一萬三千圓の村産を投じてゐるほどである。

林業及び木炭改良に全力を傾注し、植林を旺盛にする關係上、木炭の産額が減少する故、この減少額を補填するため、原野の開墾に改良を加へ、十五年を二十年にすの必要があるとされてゐる。今年杉材の植林を五十年計劃の下に實行しつつあるが、なほ白炭を黒炭となし、これが増産を圖つてゐる。

氏は今、かうした本村の村長として、昭和四年七月以來、本村を双肩に擔つて今日に至つてゐるが、常に村見に即して改廢を斷行、以て村民の福祉増進へと努力して來た功勞は、甚だ大なるものがある。その他村會議員、産業組合長、農會長、消防組合長、青年團長等をも兼ね、それ／＼懸命に盡力してゐる。

貫徹よと應へる氏は、明治二十二年一月十八日、先代勇馬氏の男として、始祖は

氏は明治十八年四月二日、村會議員、區長などとして功のあつた傳吉氏の男として生れたもので、家は古く、今より十代前までの家系は明かだが、それ以上に遡ると不明で、代々農を本業となしてゐる。昭和十三年自治制五十周年記念に際し、縣より表彰されてゐる。

家には三男三女あり、夫人は國防婦人會筆甫村分會長の任に在り、會員を督勵して銃後に活躍してゐる。

小齋村

村會議員 森 健次郎



將來はと、その主張を問へば、道路の完壁、灌漑用水路の改善、小學校の設備、畜産獎勵の

貫徹よと應へる氏は、明治二十二年一月十八日、先代勇馬氏の男として、始祖は

佐藤家の家屋だった今の家に生れた。家は十代前までは判明してゐるも、それ以前は不明であるほどの舊家として傳へられてゐる。

祖父文次郎氏の代から農業をはじめ、父君は郡會議員、村會議員として永年郡政村治に貢献せる功勞者だった。當主は縣立角田中學校を経て第二高等學校に進み、將來學究兒として世に立つべく決心したが、後ち感ずるところあつて、在學二年にして退き、爾來村治に關與、今日に至つてゐるが、昭和三年七月、村會一致の推薦によつて村長に、また青年團長にも就任、大にその所信を實行の上に現はすところがあつた。現在は五期目の村會議員であり、學務委員を兼ねてゐる。その間、昭和七年揚水工事を完成し、同十一年小學校を増築したなどが著しい功績であり、曾て畜産に關する功によつて縣から表彰されてゐる。

あり、長男は今、出征活動中である。
櫻村
櫻村々々長屋代良平
當家は代々農を本業となして來た古い家柄で、先代良造氏は祖業に熱心なると共に、公共方面にも盡力、村會議員に選ばれる、こと四期に及び、その功勞また著大なるものを遺してゐる。
當主良平氏はその男である。明治十九年十月三日の出生、縣立角田中學校を卒へて大阪高等醫學專門學校に入學、大に勉學するところあつたが、都合によつて中途退學、進んで一村のことに挺身盡瘁した。昭和九年の東北凶作のことあるや氏は三井及び三菱等と握手して共同作業を行ひ、終にこれを完成せるをはじめ、納稅組合を起し、農會の進行を畫策實行するなど、本村民にとつては到れり盡せりの感銘を深からしめ、氏なくしては本村一日の安堵なしとまで信頼の度を高からしめてゐる。

今、村長として一村を背負ひ、産業組合長、農會長をも兼ねて、全く寧所なきの活動をなしつゝある。大正時代は民政黨員であつたが、現在は政黨政派に關係なく、中立を固守してゐる。
夫人は貞淑温良、内治の譽れ高き人、國防婦人會員として、またその他のために旺んに活躍してゐる。

北郷村 我妻 金平



北郷村長 我妻 金平
氏は北郷村の舊家我妻家より養子となりし人にて、當家は北郷村内代表の豪農として聞えてゐる。先代三平氏は村治開拓者として功勞を残した人物にて郡會議員、水利組合議員、村會議員等の要職に推されて専心貢獻、全生涯を村治に捧げ、殊に産業の

發達に功勞偉大であつたが、八十餘年の生涯を全村民に痛惜されつゝ逝去されたのである。

當主金平氏は、養父の志を繼いで夙に村治發展に盡瘁、赫々の功績を擧げつゝ、現在は押しも押されぬ村内の重鎮として重んぜられてゐる。氏は第二師團歩兵第四聯隊より日露戰役に出征の勇士、その武勳により勳八等に叙せられた名譽を擔つてゐる。

凱旋歸郷後は村政に盡瘁、村會議員として二期間、内川、尾袋川普通水利組合議員として四期間勤績、現在は西根北郷聯合耕地組合役員に就任、昭和十一年八月十三日より村長として活躍してゐる。氏は温厚篤實、清廉なる人格者にして、村長となりてより未だ日淺きも名村長として、徳望最も厚く、信頼を寄せられてゐる。

長男幸三氏は大河原町の柴田農林學校卒業、現在農事に精勵、前途有爲の青年である。外に二男三女の子福者、一家團

樂をなしてゐる。
尙ほ氏は明治十六年生れ本年五十六歳になる。

館矢間村 佐藤 政次郎

館矢間村長 佐藤 政次郎
氏は明治九年二月二十八日、先代善作氏の男に生れ、教育家を志して縣師範學校に入り、同三十三年同校卒業、小學校教職員を奉じて多年盡力するところがあつた。

後ち退職、推されて村役場收入役に就任、一村財政に與つて善處し、信望ますます加はり、今、村長の要職に在つて、強く明るい村人の更生を目指して銳意邁進してゐる。また村農會長を兼ねて農耕上の刷新、副業の奨励にと力を注ぎ、村民感謝の的となつてゐる。

氏は三男六女の子福者、令息政男氏は醫師、醫院を開業、隆盛を極めてゐる。現に學校醫であり、また消防組頭の任に在つて盡瘁してゐる。

大張村 大槻 徳治



大張村長 大槻 徳治
當大槻家は今、四代目、累代農を相承けて精勵して來た家柄である。先代松郎氏は頭腦明晰村政の上にはなかくの手腕家であつた村會議員として、區長として特に偉大な功績を樹てゐる。

徳治氏はその男、明治十年九月二十二日の出生、夙に才群童を抜き、その將來を囑目されてゐた。多年村治に盡瘁せる業績は、期せずして一村の民望を集め、あらゆる方面に氏の進出を促してゐる。現に村長の樞機を握つて全村に隅なく眼をくばり、以て一村の發達伸張に力を致しつゝあるの外、また村會議員、消防組頭、金錢債務調停委員、産業組合理事等

にも就任、それ／＼努力をかきね、全く寝食を忘れての奔走、年々村治績を高大ならしめてゐる。

氏が今後、實行を期しつゝあるものは、醫療所の建設、開墾事業、農道並に林道の完備、竹細工の奨励で、その第一着手として、緬羊飼育に力を注ぎ、その數目下六十頭であるが、向ふ三ヶ年間は四百頭になすべく意氣込んでゐる。なほ本村は目下經濟更生村として指定されてゐる資性溫和、政黨は無色、中立を守つて公平無私、たゞ一意村治に馳せてゐる。

夫人は國防婦人大張村分會長として、銃後の護りに心を砕いてゐる。長男氏は出征の海軍三等兵曹であるが、豫て新聞紙上にもその戦死を報道された「爆弾兵曹」は、實に氏のこと、日本男兒の面目を躍如たらしめたといふべく、東北男子／＼にあり突である。

耕野村

耕野村長 八島 考一

昭和十二年もいよく押し迫つた十二月二十八日、全國中繼を以て「我が村に於て行つてゐる全村教育の實際」を放送したことは、世人の耳底に未だに残つてゐることであらうが、その放送者こそは實に本村々長の氏であつた。

氏は明治二十九年三月二十二日、源平時代の落武者が歸農して、代々農を本業となして來た當八島家十九代目の當主として生れ、郷校卒業後、出京して神田大成中學校に學び、業卒へるや歸郷して家業に就き、他面村政方面に關與、常に衆に先んじて盡瘁しつゝあつたが、衆望は翕然として氏にあつたり、昭和四年十二月村會一致の推薦によつて村長の要職に就任、現に在任中であるの外、村會議員農會長、産業組合長等をも兼務、それぞれ努力、大に拍車をかけてゐる。

郡下に比なき雄大な役場を建築したる如き、教化方面の更新、財政の立直し、産業方面に於ける緬羊の奨励、椎茸の栽培、牛の飼養などと、あらゆる方面にわたつての按配と實行とは着々と效を奏して、名村長としての氏の令名は滔々縣下に謳はれてゐる。名村長を持つ耕野村よ

生氣潑刺、伸びゆく先の底知れぬものがあり、村民鼓舞撃攘の村たる、また遠いことではあるまい。

人格高潔、些の非點を打たれたことなく、村民の崇敬いや高く、昭和十一年道路保護組合から表彰されてゐる。なほ夫人は國防婦人會耕野村分會長として活動してゐる。

因に父君忠吉氏は大正十一年十二月より同十五年十二月まで村長に在任、その他村會議員等を永年にわたつて勤むるなど、村自治上に遺した功績は、決して尠ないものではなかつた。

枝野村郡山

村會議員 横山 安治

横山家は既に十代以上もの舊家としていひ傳へられてゐるが、その祖並に家系等を明かにしてゐないのが惜しい。農家

として古い歴史を有し、副業に養蠶を、

今でも行つてゐる



代安治氏の男、本年三十四

歳、當村の中堅として旺んに活躍しつゝあつたが、日支事變の勃發と共に應召、目下北支に出征、第一線に日本男子の眞の面目を發揮しつゝある。

氏は縣立角田中學校を卒へて東京西ヶ原蠶糸學校に進み、同校卒業後は熱心家業に當つてゐた。家は村一番の大地主、豪莊なる邸宅の構へは、常に人の目を惹いてゐる。

村會議員、軍人分會長、家屋調査委員、小作調停委員等に就任し、曾て郡會より表彰されてゐた夫人は弓子さん、貞淑にして溫良な人、國防婦人會幹事として銃後の備へに活動してゐる。母堂する子刀自健在、三男三女に、令妹さんがある。

櫻村

村會議員 向井 英磨



爾後當村に居を定めて今日に及んでゐる。元

祖先是四百年前、石川侯に従ひて當地に來り、

は士族藩中に於て槍の御指南番などを務めた家柄にて、先代兵庫氏は、明治二十八年より同四十四年迄四期間村助役を勤め、村政功勞者であつた。當主は明治二十三年五月二日生れ、四十九歳の壯氣満々たる紳士である。角田中學を卒へ、大正九年より村會に盡瘁、農村振興を叫び、率先して方針を樹て耕作に着手す。將來角田町と合併するの必要を思ひ種々奔走してゐるが、傍ら耕作に従事し現在取米六俵のものを七俵にすることを目標として努力してゐる。

現在村會議員及び水利組合議員の要職に在り、その將來を嚆望されてゐる。

氏は正に働き盛りの年輩にして、明朗快話なる資性と共に村民親愛の念を以て常村發展の將來を背負ふ人物と目されてゐるまた當然であらう。

家族は四男三女の笑堂々溢るる圓滿振りを示してゐる。

東根村平貫

村會議員 後藤 金造



張整理を主張し、

氏は現役場を學校附近に集め、町制を作ることに及ぶ互理に通ずる道路の擴張整理を主張し、その遂行に盡力してゐる。殊に村政、産業、教育の向上に意を用ひ、嘗つて昭和七年には村役場を移轉し、小學校統一の事に當り完成を見たのである。村會議員

區長、産業組合長、學校建築委員等に活躍、現に村會議員として四期目にあり、社寺總代をも勤めてゐる。これらの要職にありて氏の功勞絶大、依つて縣及び村當局より、大正十三年九月生産米検査員として、昭和二年消防組織者として、又大正十三年には飼牛畜産組合取締役として、その他耕地整理組員、國勢調査員等として數度の表彰を受けてゐる。

當主は五代目にして明治十八年一月二十七日出生、本年五十四歳になる。濃厚篤實なる氏の人格は數多の功勞と相俟つて、村民深く信頼をよせ、當村代表的人物と仰がれてゐる。

ひさよ夫人は國防婦人會東根分會理事として活動、立川航空隊に入隊中の長男久一君、千葉鐵道隊入隊の次男久作君、三男久君は滿洲守備隊に入つて居る。皆前途有望な令息にして、尙その他三男二女の子福者である。氏の家庭は、和樂を極め春風洋々たるもので、附近の羨望を集めてゐる。

北郷村

村會議員 産業組合長 渡邊 松吉



四十一年の永きに涉り、己れを捨て、自治と産業の發展に盡瘁され村内元勳の第一人者である

氏は小金澤溜池乾拓二十町歩の開墾、各道路改修等の業績多く、縣當局より數度の功勞を表彰されてゐる。現在産業組合長、農會長、消防組頭、村會議員等の要職を歴任、尙ほ、西根北郷聯合耕地整理組合長として昭和九年より内川、尾袋川普通水利組合議員として大正二年以來現在に至る二十六年間勤続、今尙ほ六十九歳の高齡なれど壯者を凌ぐ健康體を有し、孜孜として村治の進歩發展のために努力されてゐる。

その剛毅にして磊落、犠牲的精神に富

み、一度之と決したる事は萬難を排して邁進、あくまでやり遂げて來た氏こそまことに當村政上の輝く功勞者にして、今日見たる當村の開拓は、氏の全生涯を挺しての努力の賜である。

當家は同村渡邊家よりの分家にして、當主を以て二代目とし、農を家業としてゐる。先代善治氏は又、若冠二十五歳の時より村治に參與、産業に、教育に、村政に終身盡力され八十歳にて逝去されたが、今以て村民の胸底深く氏への感謝が漲つてゐる。その長男たる當主の志も、父君の意志をうけ數ふるに違なき功勞を重ね、そののみならず氏は又五男二女の教育に力を盡し、故に健全にして前途有望なる子息女の現在あるを思惟される。氏は郷土愛と子孫のため長男甲子氏をして家業を繼がすを信條となし、二男甲實氏は西根小學校訓導、三男甲亮氏は宮城縣警察に勤務、四男太郎氏は陸軍大尉、五男五郎氏は東北大學工科在學中、外二女は何れも女教師として奉職中である。

斯くの如く子弟に恵まれ、その將來は如何許り光芒を放つてあらう。村政の恩人として、家庭の父として、氏は全村敬慕の的である。

西根村

村會議員 庄司 繁治



先代哲次郎氏

代目の當主として先代哲次郎氏の男に生れた家は代

代農を主業とし、祖父鐵五郎氏は村會議員、組頭區長(三十年間)等を歴任、父君氏は區長及び村の振興委員などを勤め、當主は村會議員、産業實行組合委員に選ばれ、曾てはまた西根北郷耕地整理組合評議員として盡力するなど、父祖三代相繼いで村自治の上に功績を樹てたは、今の世に稀に見るところで、その功や眞に

偉大なるものがある。政黨色なく、中立を標榜し、目下中區山の内の道路擴張に鋭意、心身を傾けてゐる。家に四男四女がある。

館矢間村

村會議員 郵便局長 正七位勳七等 佐藤 儀造



當家は館矢間村の舊家、代々農を本業とし、殊に篤農家を以て知られてゐる。氏は

年六月二十日の出生、明治四十四年二月以來郵便局長を拜命、大正六年以降五期目の村會議員を、また昭和八年十二月より産業組合長を何れも現任、その功績また顯著なるものがある。その間、館矢間村教化委員を囑託され且つ小原瀨組教化會長に擧げられてそれ

く貢献盡力してゐる。資性剛健質實にして理財に長じ、加ふるに公共のため率先努力する人である。夫人は國防婦人會館矢間分會長を現任、銃後の護りの充實に力を致してゐる。間に三女さんあり、長女さんは目下仙臺市に在り、高等女學校に通つてゐる。

櫻村

村會議員 加藤 安治



我が加藤安治氏は、明治大正昭和に至る七十有餘年

の生涯を以て村政發展に捧げて來た氏の歴史は、村寶とするにふさわしく、現に村會議員、學務委員等の要職を歴任して噴々たるものである。明治二十四年より三十七年間、村會議員及び區長として貢

献、當村政發展史上に忘れることの出来ない存在にして、全村民深く氏を尊敬し畏服してゐる。實父源左衛門氏は當村開發の元老、令兄加藤義平氏は郡會議員及び村會議員を務めてゐる。尙ほ當家は眞崎家より分家せるものにして、代々農業を以て家業としてゐる。

氏の多大の功勞は縣當局より數度の表彰をうけ、枚擧に遑なき程であるが、その主なるものを擧げると、大正十年江尻關門工事に就いて、又内川尾袋川通水組合議員として、昭和十二年土地賃賃價格調査委員として、昭和十三年自治制五十年記念に光榮の表彰に浴したのである。家族は長男俊男氏既に亡く、その夫人よしの氏は國防婦人會員、愛國婦人會、赤十字社員にして、銃後の護りを固めてゐる。

金山町

農會長 長 榎並 半平
前町長

性溫厚篤實、一生を町の教育方面に盡

し、昭和十三年四月二十九日、古稀の祝



に際し、小學校卒業生より記念品並に祝辭を贈らるゝ

など、他町村には全く見られざる美しき師弟情誼を發揮した主人公たる氏は、明治二年九月二十一日の出生、同二十四年三月縣師範校を卒業、大正八年まで小學校訓導として、校長として大なる功績を教育界に印し、教育界を退いてからは町助役、町長、産業組合監事に歴任、現在は農會長に金山町教育會長を兼ねて、引續き盡瘁功を累ねつゝある。氏はまた、小學校六十周年記念として圖書館を建設し、將來校舎の改築すべきを主張してゐる。一男あり、目下東京に在住、東中野小學校訓導として奉職してゐる。家は舊家であるが、その開祖を明かに

北郷村

前村長 故猪狩 勘十郎

猪狩家の始祖は、石川侯と共に角田の地に移住したもので、同家の家臣であるが、明治維新後平民となり、農を以て家を立て、來たものである。

氏は明治三年九月の生れ、法政大學の前身たる和佛法律學校を卒業し、官途の志をすて、歸郷、爾來家業に精を出し、傍ら村内のことに心を馳せて、盡瘁するところがあつた。しかも氏の眞劍味を帯びた態度は、翕然として信望を寄せられ事あれば直ちに氏の出馬を要請するといふ風であつた。

大正九年村長に懇請され、昭和七年まで在任、その間農會長、北郷村教育會長

館矢間村

前村長 半澤 善作



當米澤家は五代目である。氏は元治元年二月九日先代善作氏の男に出生し家業の蠶種製造業に専心邁進するところあり、業、大に擧り一層家礎を鞏うした。

曾て村長に推され、郡會議員に選ばれて盡瘁し、郡蠶種同業組合長を十年以上も勤続。この間また、鈴木沼の問題に對しては、自ら私財を投じて大に盡力し、美事に解決するなど、村政の上に絶大な功績を遺してゐる。大日本蠶種會統裁宮殿下より表彰されてゐる。四男八女の子福者で、長男研氏は今、死齡の父君に代つて、家事の内外に努力してゐる。

耕野村

元村長 故布施 俊苗

當家先代俊龍師は僧侶、本村住職として社會事業等に携はり、徳行の香り高き智僧の名を馳せた人である。

氏はその男、嘉永四月の生れ、自ら農耕の業を創め、當家の本業となし、熱心精勵すると共に、他面公共方面に進出、民衆の信望いやが上にも加はり、明治三十六年村長に推薦され、同四十年まで在任、その間に於ける貢獻著大、その他郡會議員、村會議員などにも選ばれ、多年に互つて盡力、今は故人(大正九年)となつてゐるが、その餘光は燦として輝き、一村の讚稱と敬慕とを以て迎へられてゐる。

氏に三女あり、長女みほのさんは家を繼いで父業を續け、次女さんは布施勝治氏を迎へたが、氏は昭和十二年四月より耕野村郵便取扱所を開設し、更に村會議員の現職に在り、村政に參與してゐる。

北郷西根聯合耕地整理組合長、宮城縣耕地協會評議員、伊具郡町村長會幹事等に推されてそれ〴〵盡瘁、相當の功勞を認められてゐた。なほ業績としては村に電燈をつける外、學校の増築二回、内川尾袋川の改修工事を完成し、また北郷西根の地五百町歩の開墾事業を遂行するなど續々として功を擧げてゐる。

氏は民政黨の巨頭元商工大臣藤澤幾之輔氏とは親戚の間柄にあるところから一般の眼は民政系と目してゐたが、その實は確乎たる中立支持者だつた。既に老境に在つたとはいへ、矍鑠公共に參じつゝあつたを、天、無情、昭和八年一月、黄泉への客として旅立たしてしまつた。まことに惜しい人物ではある。

男四人がある。長男尙吾氏は三井家文書課長として職を奉じ、次男大介氏は横濱市役所に、四男元夫氏は宮城縣廳耕地整理課に勤務、何れも負けぬ劣らぬの秀才肌、村民等しくその將來を卜するまた宜なりである。

なほみほのさんは國防婦人會員、赤十字社特別社員として盡瘁してゐる。

櫻 村

區 長 太田 重兵衛



氏の抱負を聞くに、將來隣町角田町の合併を希望し、町村發展の一途として現在不足を來

してゐる薪炭の製造を計る必要を痛感され、又當地産業の發展と福利とを増進するには、養蠶業の普及を思ひ、率先獎勵してゐる。

氏は現在區長の要職にありて、村治發展に専心盡瘁し、加ふるに農家組合長、地主奉仕團常任幹事、消防組幹部社總代等を歴任、よく職を盡し、種々の功績を遺してゐる。殊に消防に於ける功勞を表彰されるなど、氏の力は偉大なるもの

である。

當家は當主を以て四代目とし、代々農を以て本位となし、先代を惠松氏と稱した。當重兵衛氏は明治二十五年五月一日生れ、當年とつて四十七歳の潑刺として壯途躍々たる當村代表的人物である。

氏の二男は横須賀海軍に入營の有望なる青年、他に二男四女を有する子福者にて、一家團樂の平和な家庭を結んでゐる。村民學つて、將來當村の躍進に向つて邁進する氏の大成を期待し信望を寄せてゐる。

亘 理 郡

本郡は縣の東南隅に位し、磐城國に屬す。東は太平洋に面して濱浦相連なり、西はこざい峠、新山、四方山等の阿武隈山脈の連峯によりて伊具郡と境し、南は福島縣相馬郡につき、北は阿武隈川を隔て、名取郡の大部及び柴田郡の一部と相對する。

廣袤東西僅かに一里三十四町、南北五里十二町にして、面積八・九方里にあたり、縣内最小の郡である。

鐵道常磐線は福島縣より本郡に入り、坂元、吉田、亘理の三驛を置いて名取郡へ去る。奥州濱街道は鐵道と併走して郡を縦貫し、その他、亘理町より東するものに荒濱街道、西するものに伊具街道あり、いづれも平坦にして、またバスの便がある。

小學校は十一校あり、うち五校は高等科を併置する。中等學校には町立亘理實

科高等女學校、縣立亘理蠶學校の二つがあり、また各町村には青年學校が小學校内に併設さるゝなど、教育方面の施設大に見るべきものがあり、今後に期待をかけられてゐる。

郡の西部一帯は丘陵連亘するを以て林業盛んにして、中部は沃野相連なるを以て米穀の産出豊かなるものあり、海濱には漁獲が盛んに行はれる。

養蠶は氣候溫和にして四季の寒暖著しく異ならざるを以て、發達の跡顯著なるものがある。殊に亘理町には縣立亘理農蠶學校の設立あり、縣蠶糸方面に對する研究と改良とは年々斯業界に裨益するところ甚大なるものがある。

郡内の名所及び史蹟は頗る多く、臥牛城、大雄寺、椿山觀音、阿武隈明神社をはじめとし、稻葉渡、鳥の海、荒濱、牛頭天王社、磯濱など、普く人々に知られ

てゐる。

亘 理 町

常磐線に沿ふ一驛にして、吉川・岩沼へ五哩、仙臺へ十六哩、相馬中村へ十七哩の地點にあり、陸前濱街道は町内を南北に貫き、縣道は北部を東西に走り、交通の便甚だ良好である。

近世、伊達家の一門たる亘理伊達の封地にして、かの仙臺萩の騒動に、主家を累卵の危きから救つた伊達安藝は實にこゝ亘理の城主であつた。

明治維新後、仙臺藩の削封の際、邑主伊達邦成は北海道に移住して拓殖の功を奏し、特に華族に列せられたるは人の知る通りである。曾て郡制が施行されてゐた當時は、こゝに亘理郡役所の設けがあつた。

東西一里四町、南北二十町、面積〇・四九方里あり、人口五千四百人に近く、郡内の首邑として殷盛を呈し、官衙・學校・諸團體が多い。郷社亘理神社、常因

寺、稱名寺、大雄寺、法道院、惠念寺等の
の神寺佛閣がある。

坂元村

本村は郡の極南に位し、福島縣相馬郡に接し、東は海にのぞみ平坦なれども、西部は山地多く、小齋峠を隔て、伊與郡小齋村につゞいてゐる。坂元、眞庭の二大字より成り、東西一里半、南北一里、面積一八一一方里にして、戸數七百餘、人口四千七百有餘をかぞへる。

坂下驛に宿す、府城(仙臺)を去る十有一里、水田彌望、仙臺封内錢穀の府なりと「天保壬寅紀行」にあり、昔から産業のよくひらけたところである。常盤線坂本驛は村の東部にあり、陸前濱街道は村を南北に貫通し交通至便である。

砥濱や浦わの浪のかへるをも
ことに忘れてたちぞやすらふ
と古歌にも詠まれ景色もよい。

山下村

本村は坂元村の北に接し、東部は太平洋に面して平坦であるが、西部は山地多く、深山(海拔二八七米)明通峠を隔て、伊具郡藤尾村につゞく。
山下とは山寺の下なる聚落の意より起つたといはれる。山寺、淺生原、鷲足、小平大平、八手庭、高瀬などの部落から成り、東西一里、南北一里、面積二・三四方里を占め、最近人口は七千四百をかぞへる。
主産業は農業で、農産年額三十九萬圓にのぼり、その他の産物を加へると村内の年生産総額は四十五萬圓となる。
常盤線沿線にして坂元、濱田の兩驛より各一里半、同線互理驛からはバスの便がある。陸前濱街道は村内を南北に貫通する。村社は四、寺院は十一をかぞへ、山下院悠山寺は眞言宗にして、元和元年覺源法印の開山である。舊蹟には箕頸館の古壘がある。

吉田村

本村は山下村の北につゞき、互理町の南に接し、東部は太平洋にのぞみ、鳥の海の一灣があり地勢平坦なるも、西部は山地多く伊具郡東根村に接する。古の互理郷の内、むかしは日理といひ、瑞寶寺山の藩祖廟前の石燈籠にも「日理伯耆」と刻し、また邑主伊達氏の足輕の法被にも日の字が記された。
吉田、長瀬の二大字を有し、東西二里弱、南北一里餘、面積一・五九方里を占め、戸數九百九十、人口四千六百人をかぞへる。常盤線濱吉田驛は村の南部にあり、陸前濱街道は村の中心を南北に貫通し、交通比較的便利である。
村には鳥の海の名勝あり、神社は村社四座を有し、寺院では曹洞宗海藏寺、同正福寺、同長徳寺、天臺宗大行院等が擧げられる。

逢隈村

本村は互理町の北に接し、郡の北端にあり、郡境をなす阿武隈川を越えれば岩

沼町である。東は茫洋たる太平洋にのぞんで土地平坦なれど、西部には山地が連亘する。
つらくとも忘れず戀む鹿島なる
逢隈川にあふせありとも

源順の歌だ。鹿島には鹿島神社あり、また小堤には金銀山米穀寺なる面白い名の寺院がある。その他社寺名勝には郷社阿福河泊神社、觀音院、高香寺、修善院大泉院、胎藏院、光明寺、眞光寺、大性院、滿昌寺、拔矢澤、龜甲松等が擧げられ、拔矢松は鎌倉権五郎景政の古戰場として有名である。
常盤線互理驛及び東北本線岩沼驛より各一里半、バスの便あり、また阿武隈川には舟運が開けてゐる。

荒濱村

本村は元、高須賀村と稱し藩政時代互理の領主伊達家の所領に屬し、維新後明治二年盛岡藩の管する所、更に藩籍奉還に當り白石縣、角田縣となる。同四年廢

藩置縣に際し仙臺縣に、次に盤前縣に、更に宮城縣に移管され今日に至る。
而して明治五年區制實施に當り、伊具互理及宇多郡の一部を第十九大區と稱し更に十小區に區劃す。本村その一小區となる。次で九年第十大區、小十區に變改の際、鷲屋、葦、高屋の三ヶ村と共に一區域をなし、戸長の取扱ひ多く、後ち同十二年大小區制を廢さるゝに及び高須賀村に復し、戸長を置き、鷲屋、葦高屋三村と併合本村に役場を置く。後明治二十年町村制實施と共に他村と分離荒濱村と改稱した。

逢隈村 郷社 安福河泊神社

延喜式神名張四座並に其一座にして境内は舊東街道北終點なる磐城口互理郡田澤村水上山に在り、境内面積一反二十四歩、祭神は速秋津比賣神、經津主神、猿田彦神、大年神を祭る郷社である。景行



三品社司
天皇 四十一年 日本 武尊

の御勸請にして封内八土記に於ては阿武隈明神社といふ即ち古稱する所の阿武隈川社で、清和天皇時代陸奥國勳十等阿福麻川水ノ神を官社に列し正五位上を授け賜ふ。天正年中兵亂に依り社領廢絶するも慶長七年伊達成實互理に住するや社殿を修繕し、且つ祭祭料一貫二百六十六匁神主扶持八百八十匁を寄附し、例祭日は四月八日である。頗る殷盛なりしも明治維新後は凡ての行事廢す。社司は三品繁喜氏にして、氏は國學院大學出身の俊才にして日露戰後には陸軍歩兵軍曹として拔群の殊勳を立てし爲め勳七等に敘せられた。
氏は又村社互理神社々掌をも兼務されてゐる。

村社
互理神社

本神社は明治十二年官許を得、互理、宇多兩郡の地頭伊達安房守成實の靈を勧請したるもので、昔時庶民は成實の徳澤を忘れ得ずその勳勞を表して互理郡小堤村々社豊田稻荷神社の境内が成實の館跡にして、成實の靈をも合祀したる社なるに依り、その傍に更に社殿を建築し、互理神社と稱し神號を武早智雄命と號した。

境内四千五百坪、例祭は四月十六日にして老若男女八百餘人の武者行列を編成したる神輿渡御の儀式は、當地方に聞えたる行事である。

坂元村館下

坂元郵便局

當郵便局は舊く明治十三年十二月一日の開設にかゝり、内外爲替事務を開始したが、それは同三十一年一月十六日である。

創設當初一寒村の郵便局として、點々

たる部落の郵配區域廣く、その見えざる苦難は窺知し得ない程のものであつた。

村の發展は更に事務の繁忙を來したが従つて従業員を増し、現在八名を以つて活動目覺しいものがある。滿洲擧國の事あり、且又日支事變、さては外國との直行事務等の開設を見、昭和十年二月一日より内國及日滿和文、同十三年五月一日より外國和文の通信事務を開始した。ますます好評ある成績を擧げつゝ今日に及んでゐる。

數千四百三十八件。年金加入者數七件である。

歴代局長は創設當時は春田考吉氏、大石甚三郎氏を経て昭和十二年六月二十五日より現局長福士直孝氏任じ、今日至つてゐる。

現局長

福士直孝

福士氏は伊具郡筆甫村出身にして明治三十一年三月二十五日出生。青葉局内に二十二年間勤務といふ精勵振りは衆の範とされてゐる。赤十

字社員にして、現局長として郵政事務に



は専心誠意を以て當つてゐるが、今後こそ見物である

山下村

山下村産業組合

永瀬清一郎氏、伊藤定三郎氏、千石順平氏、現在理事たる岩佐要藏氏等の盡力に依り、大正十三年十二月一日當組合の創立を見た。從來部落組合を五つ有してゐたが、その解散と共に當組合が結成されたのであつた。

出資總額一萬九千二百圓、組合員は四九五五人、貸付總額一萬九千四百二十五圓貯金一萬九千八百六十七圓、購買價格二萬六千五百七十五圓、販賣價額四千八百四圓、組合精神の普及及方策として教育部を設置し、その普及を計り、一方産業

組合青年聯盟を助成の一動力となつて居り、未加入者解消を目指して實行運動に入つてゐる。なほ農業倉庫には、八千四百俵を有してゐる。

理事長

岩佐要藏

氏は二十年近く大平信用組合専務、理事、組合長として組合事業に盡瘁され、同組合解散後、初代山下信用組合専務理事として、組合振興に専念し、全村全戸



用組合専務理事として、組合振興に専念し、全村全戸

組合加入の計畫を樹立實行してゐる。現在五割程度だが、氏は如何なる難關にも敢然と恐れず實行運動に盡瘁して居る。氏の家系は舊名門で聞えた岩佐家より分家せるものにして、當主を以て五代目となす先代勇吉氏は村助役として村治の功勞者であり、郡會にも二期を勤め、昭和三年他界されたが、今も村民に惜まれ

てゐる。その長男である當主要藏氏は、

明治二十七年一月十七日の生れ、本年四十五歳の未だ壯氣滿々たる紳士にして、堅忍不拔、熱烈の努力は日増しに組合の發展を促し、村民は深く信望と崇敬を寄せてゐる。

さわ夫人との間に令息五人といふ圓滿至福たる家庭に恵まれてゐる。

吉田村向山

吉田村信用

販賣 購買 組合 利用

明治四十三年、當村三代目村長たる故佐伯祐三郎氏の創立になつたもので、部落組合四つを合せて一つの信用組合を作つたのが動機となつたのである。

濱吉田驛に四十坪の倉庫を設け、五千五百圓の豫算を有し、その内補助金四十圓六十錢をうけ、特別助成村になつたため、集積倉庫の建設計畫がある。

現在組合員は全村の五十パーセントであるが、漸次増大充實の傾向をたどつて

る。

組合長

鈴木吉太郎

明治三年一月一日生れの氏は、本年六十九歳の高齡であるが、尙嬰鑠として産業組合長、村會議員を兼任してゐる當村の重鎮である。



曾ては村長三期、

縣會議員、縣農會議員、互理養蠶組合聯合長等を歴任し、村長時代には地形上東西學校の統一問題、高等小學校の新設等に盡力なし、更に昭和五年には道路の完成等、同七年には産業組合長に推され、現在に至つたものであるが、村内の統一を計り圓滿なる發展を來したのは氏の懸命の努力に依るものであることは、何人も確認するところである。氏の如上の功勞は再三の表彰に及んで居り、組合は村の財産であるとし、せめて全村の七八%

の加入迄漕ぎつけたいと希望してゐる。尙家族は父君善吉氏、九十歳にて健在、長男文雄氏は、濱吉田郵便局長を勤め、今後へ期待をかけられてゐる有爲な人物である。

坂元村

坂元村長 伊達 宗康

氏は伊達侯の一門、先代宗亮氏の男と



して明治四年二月十三日の出生である。家は遠く藤原

鎌足に發した顯門の家柄、昭和十二年五月村會一致の推薦によつて村長の樞機に就いた温良にして篤實、すべてに几帳面な、言行一致の人格者である。既に死境に在れど、村民一統の意に副ふべく起つた人だけに、全身これ村治に張り切り、寤寐にもこれを忘れたことがないといふ

外に農會長を兼ねてゐるが、曾て在郷軍人後援會長、東京瓦斯會社人事課長を勤めたことがある。

氏は常に村民の智識の啓發と心の改良とを圖り、將來の村事業を積極的に進めて治水、港灣、植林事業を奨励すると共に、不毛の地の開振に努力するといふことが、根本的の主張でもある。令夫人との間に二男子がある。

長男宗雄氏は東北帝大の出身、現に宮城縣女子師範學校に教鞭を執りつゝあるが、生徒並にその父兄間の信望極めて厚く、將來に多大の望みを囑せられてゐる。また次男氏は拓殖大學を卒業し、今、日本民族株式會社員として東奔西走、しかもその眞面目さを買はれ、氏もまた今後に期待をかけるゝこと甚大である。

逢隈村

逢隈村長 伊藤 仁一郎

氏は明治二十七年四月三日の出生、本年四十五歳になる。資性衆に優れ、英敏

を以て謳はれてゐる人物にして、仙臺長



町農學校出身、夙に村治開拓に餘念なく努むると共に

又陸軍中尉の軍籍を有してゐる。曩に在郷軍人分會長及び村の分會長として、大いに前途を囑望されてゐたが、終に昭和六年十二月全村民より選拔され、四十歳未滿の若さを以つて青年村長に就任、爾後氏の献身努力と進取的實踐の成果は村政上漸進的發展を遂げつゝあり、村民より絶大の信望を受けてゐる。その他農會長、自治會長、青年團長等何れも衆の範たる要職にありて多方面に幾多の功績を擧げ、若年に似合はず沈着なる氏は、人に對するに温和誠實、職務に臨むに熱烈勤勉の模範的人物である。

氏夫人は千代さん。愛國婦人會、國防婦人會の役員として活動してゐる。四男

一女の子福者にして、長男君は横濱專門學校高等科、二男君は農學校三男君は東北中學に在學中、何れも壯健にして前途有爲なる青年であり、圓滿なる一家を構成してゐる。

當村の將來に於て、氏の如き人物を有するはまことに慶幸とするところであらう。

山下村

山下村長 今野吉左衛門

氏は日露戰爭に出征、奮戦度重なり、終に名譽の負傷を受け、その功勞に依り勳八等に叙された勇士である。歸郷後は村治に參じ、農會長に擧げられて大正八年鳩原水路の建設に參劃、總經費三十六萬圓、所要日數二ヶ年、延長四里、現在の灌溉面積五百町歩を潤はし、亘理普通水利組合と共に氏の關係せし水利事業は村民の生活上多大の利潤をもたらし、甚だ大なるも、尤もである。尙ほ二十數

年農會長をなし、産業組合、青年教育、其の他村の全般に互つて活動され、東北農村振興の根本策たる自作農創設に盡力し、事變發生以來、現職たる村長の任に重大の責任を以て役場も無休の活動をなし、銃後農村更生を以て、報國に任じ、近く本村に建設される傷病軍人療養所も村民の期待の中に近く實現されんとする。

氏は先般地方自治功勞者として縣知事の表彰をうけ、又村民一同、氏の功勞を長く記念せんと記念碑建立の企計が起つてゐるが、謙讓なる氏は時局に鑑み、辭退してこれを受けぬといふ美談も、氏の人格の床しさを讃へられ、全村ことごとく敬慕して止まざるところである。

而して氏は明治十五年十月生れ、本年五十七歳、噴々たる紳士にて、更に將來の躍進が期待せられてゐる。當家は享保年間以前より當地に居住せる豪族にして、代々村治相談役として重んぜられ、先代喜平治氏も村治功勞者で

あつた。

家族は長男吉次氏初め六人の子福者に、吉次氏は明治四十二年生れ、三十歳になる熱血明朗の青年である。亘理産業學校に學び、家業に精勵、模範的青年として前途を囑目されてゐる。

亘理町堀ノ内

町會議員 佐藤 新之助



立し、當主を以て三代目とする。代々農を以て家業と

なし、祖父重次郎氏と稱し、實父新藏氏ともに農事改良の實をあげ、先代は道路改修等に盡力、家運の隆盛をはかり、郡農會長を勤めた村治功勞者であつた。當主新之助氏は三代目、明治十九年生れ、資性穩健着實にして當年五十三歳、父祖

の志を繼ぎて、農村振興に生涯を捧げんと、最初に當部落に於ける農村副業の實地を試み、野菜栽培をなし、夜店を出したがその動機で大きな市場が出来、組合の販賣部でやつたのもこのことが動因となつてゐるといふ。

又氏の町内に於ける名公職は多く、その主なるものをあげると、養蠶組合長、産業組合の理事、町會議員、南部農家組合長、町農會總代、仙臺區裁判所小作調停委員等に携り、功績顯著である。郡農會から二回も表彰された篤農家にて、縣農事課より委任されて芋麻の栽培、縣農事試験場より晚稻栽培を委任されて精勵して居り、當村産業發展の恩人として敬慕信頼されてゐる。

逢隈村榎袋

村會議員 加藤 勇次郎

苗字帯刀の家柄にして、開祖は加藤清正の家系に關係あると言ひ傳へらるゝも審かたでなく、十代以上繼續した舊家であ

るといふ。



當主は
明治六年
六月十日
の誕生で
あり、當
年とつて

六十六歳になる。夙に村政に參じ、農會總代、産業組合長、出荷組合長、緬羊組合長等を歴任し、かすくゝの功績を擧げて來た。村民の氏に對する尊敬の念極めて厚く、氏はまた村政伸展の理想に燃えて農家組合の組織、耕地整理、道路の改修等に盡力、之を完成し、目下道路及び水路の擴張を成し、自作肥料を各區に弘めることに努力してゐる。現在は第四期目の村會議員、區衛生組合長、自畜農業組合長、養鶏組合長の要職に就任、献身盡瘁してゐる。その功勞は多方面に亘り先般自治制五十周年記念の際、納稅組合、赤十字特別社員、國勢調査員として、名譽ある表彰を受けてゐる。

家には三男あり、長男清孝氏は家業精勵の傍ら村治に盡し、氏の夫人ミエさんは愛國婦人會及國防婦人會の世話役を努め、溫容貞淑の令名高く、一家團樂、常に笑聲は門外に溢れてゐる。

山下村

村會議員 森 潔



氏は經濟國策についての識見高く、農村指導者としても卓越せる人格者である。生産力の擴

充と物資欠乏といふ戰時經濟の現勢は、必然的に産業組合の擴張、全村組合の實現の必要を痛感し、この機運と共に組合員獲得運動を起し、特に組合精神の強調は過去に於ける組合不振の打開策として最も重要である。更に教育部を設け、役場、學校、村民、組合の四位一體にて邁

進せんと努力してゐる。

また長男君は東北大學醫科卒業の俊才にて、將來を囑望されつゝ同大學加藤内科研究室で研究修業中である。青年醫師として敏腕を揮ふも近いことであらうと思推される。他に二男二女あり、何れも前途有望なる愛息愛嬢である。

當家家屋は、本縣隨一の稱あり、先代八島氏と云ふ神社建築の名人を招きて建てさせたもので、間口十五間、奥行七間面積一〇五坪、大黒柱一尺五寸、屋根下六間に及び、屋敷一千坪ありといふ、總樺材を用ひ、壯重なる建築美を誇つてゐる。

斯く名門の生れたる我が潔氏は、優れた識見と力量を有し、産業に村政に教育に、農村更生にと振興を目指して、全村の信望をうけてゐる。衆の懇望に押され、産業組合創立以來組合長となり、殊に組合に對する氏の熱意は烈々として、充實擴張に盡瘁し、その他村會議員既に三期目にあり、偉大なる村政の功勞者と

して絶讃的となつてゐる。

逢隈村

村會議員 小野田 忠吉



尉中久の死戦

氏の令息久氏は英俊伶俐な青年にして

士官學校卒業の秀才であつたが、這回の日支事變に應召重なる奮戦の果、終に名譽の戦死を遂げた陸軍歩兵中尉である。

行年二十五歳の若さ久氏は一人息子にしてその戦死は當家のみならず、全村の名譽として讃へられてゐる。一人息子を皇國の爲に捧げた當主忠吉氏の心情如何許り然し氏もまた軍國の父である。銃後の護りを固め、長期準備戦時下に於ける農村の更生を以て報國せんと、専心努力してゐる。夫人けさよさんも同じく、健氣なる

母として愛國婦人會、國防婦人會の評議員を勤め、ひたすら活動し、斯くの如く一家皆目愛國の念に厚く、まことに國民の範たるに足る家庭である。

當家祖先は伊達家の家臣にして、當主は五代目、代々農業を本業とし、養蠶を副業となしてゐる。先代今朝次氏は篤農家として知られてゐる。

當主忠吉氏は明治九年六月二十二日の



出生、當年六十三歳ではあるが、熱心なる村治開拓者

でもある。區長として十二年間、區長代理同じく十二年、郷倉組合長、自警團副長、青年會長、消防組員、氏子總代等多方面に盡瘁し、現に村會議員、鹿島新町養蠶實行組合長の要職にあり、氏の念頭にあるは常に當村の圓滿なる發展と、村民の福利増進である。

逢隈村

村會議員 齋藤 謙吉

豪氣にして果斷なる性格を備へ、農事に熱心努力すると共に、目下副業として養狸、養狐



の奨励にも盡力しつゝある氏は、東京高等農学校の出身、父祖の業たる農に精勵すると共に、村治に進出、現に衆望を負ふて村會議員に就任、村政に寄與し、兼ねるに産業組合役員、郡毛皮獸組合長、村土木委員長であり、これ等の職責を果すべく鋭意盡力し、ますく、信望を博してゐる。曾て農事に關し、また縣の試験地に關して表彰されてゐる。

夫人はきみ子さん、貞淑温良、内治の功勞者で愛國、國防婦人會の班長及び幹事を兼ねて、銃後に活躍してゐる。間に

一男一女あり、何れも小學校に通學中である。當三人の令弟中、一弟氏は日大出

岩手縣黒森金山所長、二弟氏は立教出、參謀本部から蒙古へ出張、三弟氏は高等拓殖校出身、第四次移民指導員として活動してゐる。

因に當家の祖は伊達家の家臣で、苗字帯刀を許された名ある家柄で、祖父多吉氏は初代村長たるの外、縣會議員として縣下の政界に雄飛した功勳者であり、また實父源吉氏は郡會議員、村會議員をも努め、今三代相續いて村政に貢献しつゝある自治功勞の家である。なほ祖父氏の兄弟たる加藤久吉氏吉田村長、伊藤直三郎氏は山下村長として、何れも多大の功績を遺してゐる。

山下村横山

縣蠶絲聯合會 組長 星 正平

宮城蠶種會 社長

農村經濟の根幹をなす本縣の蠶糸業の

振興發展を策するは刻下緊急の重要事であるが、



最近産繭の品質低下を辿りつゝあるのを遺憾

とし、繭質の改善向上と共に繭消化機關の強化擴充を圖り、氏を初め縣下同業者權威の協力融和に依りて宮城蠶種株式會社を設立し、本縣蠶糸業隆盛の礎を築いたのである。氏は未だ四十七歳の壯年たる若さを持つて斯界に於ける献身的盡瘁は多大の功績を擧げ、取締役社長の要職にありて、郷民より絶大の信賴と尊敬を受けてゐる。

而して當社の漸進的發展を促す一助となつた技師長平田金治氏を忘れてはならない。氏は片倉、其他二、三社の顧問技師を経て當社へ來れるものにて、並々ならぬ實績をあげ、聲望を馳せてゐるも、又社長たる星氏の人格の招くところであ

らう。氏は更に縣蠶糸聯合會長その他の要職に推され、地方財界の大立物として知られてゐる。

當家は代々地方自治のため功勞著しき家柄にして、當地切つての資産家である父君恒三氏は郡會、村會議員、村長等の重職につき、信望高き人物である。當主はその次男に當る。資性衆に優れたる英才にて、第二高等學校出身、夙に實業界に乘出し、稀に見る才腕を以て當縣蠶業發達上に赫々の功績を刻み込んだのである。その豪放寛大なる氣質は、多方面に活躍が開かれるであらうと期待せざるはなく、郷民の敬仰の的となつてゐる。電話互理一〇五番

逢隈村

村會議員 藤倉 繁三郎

氏は先代儀三郎氏の息にして明治十三年二月二日の誕生である。三代目の家督を繼ぎ新興の家の繁榮に鋭意努力する所が多い。農を家業とし、副業として養蠶

を營む。いづれも市價動搖常なく、一高一低よく



農家の家計に差し響く農事に携りながらその

隆昌を來しつゝあるは一に氏の力行と勤儉に因るものであらう。

村會議員の要職に就き、更に養蠶實行組合長の繁忙を兼ね、よく村治のために努む。先に四期を通じて區長代理、また水利組合議員を四期を通じて勤務、自警團長をも兼務しての活躍の経験は今日の氏の重任の適任者たらしめてゐる。

政黨に中立を持し、温良篤實にして農事に専念する功は報ひられて農業調査の記念品と感謝状を受けた事がある。眞言宗を行じ、二男五女あり、あきよ夫人は愛國婦人會、國防婦人會々長、長男繁義氏は赤十字社員である。一家團圓の氏の家庭こそ衆の範である。

逢隈村

村會議員 安田 周七

祖先是豪雄の武將として名高き伊達家の家臣にして武名を謳はれた家柄である。武士の血は



ある。武士の血は

世々傳はり、雄壯と共に和親の家として聞えたが、當家は先代周三郎氏の時分に新たに家を興す。

嚴父周三郎氏土に歸り、農業を家業とす。明治三十一年より十ヶ年間助役を勤め、更に學務委員を兼ねた。

氏は先代の長男にして明治二十七年三月十五日の出生である。互理養蠶學校を卒業後家業を襲ふと共に村政のために盡す。逢隈村下郷壯年團長、産業組合理事、方面委員、村土木委員等の要職を兼任、更に村會議員に推されて尙その職にある

温良篤實にして、人に依頼されて拒絶したる事なく、好人物として人に親まる政治を好み、村會の進行には常に注意を持ち、村發展に對しては抱負多大なるものがある。即ち村の將來としては村道の改修こそが必要である、當村三小學校の合併は必要なるも目下急速を要すべきものではない。日支事變の影響のみならず米國産業界の思はしからざる景氣趨勢、更に外國關係より輸出生糸の將來や養蠶の單純副業は危険である。宜しく他に變るべき副業をこそ研究着手するが必要である等々。

曩に納税に關し、國勢調査委員としての功により表彰をうけた。曹洞宗に歸依し信仰篤き人物である。

子息五人長男長男氏は逢隈青年學校長であり、父は赤十字社特別社員、母は愛國婦人會、國防婦人會の會員、共に銃後の守りのために盡してゐる。一家圓滿和合を極め、春風駘蕩たるものである。

坂元村

元村長丸山仙橋



當丸山家の開祖はもと伊達家の臣、苗字帯刀の家柄である。當主仙橋氏は正に四代目、明治五年四月三月、神社總代及びその他村の世話投をした先代好三郎氏の男に生れ、農業の傍ら養蠶をも副業として營んでゐる。

當家は代々村の信望あつく、氏は大正十二年四月選ばれて村助役に就任、よく村長を助けて名女役房振りを發揮し、昭和六年七月推薦されて更に村長に就き、大に村勢の向上發展に盡力するところがあつた。その在任中河川並に道路の改修をはじめ、磯濱記念館の建築、耕地整理等に關與、その功顯著なるものがある。

今、赤十字社終身社員、愛國婦人會及び國防婦人會の顧問役を勤めてゐる。氏は主張する。「本村は個人的に去り易い目下の民情であるから、精神統一を計ると同時に副業として奨励すべきものを見つづけることが急務である」と、氏はこの意味から本村に適當副業に頭を捻りつゝある。日露戦争及び自治五十周年記念に際しては表彰されてゐる。

夫人たか子さんは愛國と國婦との元會長で、有功章を賜つた人、長女のきよ子さんは坂元小學校の教員、女婿喬氏は白石小學校に奉職中の眞面目な人である。

逢隈村早川

産業組合長 山本義右衛門

祖先是伊達家の臣として武門の家であり、武双の家として聞えてゐる山本家の分れである。先代の時新らしく家を興し當主義右衛門氏はその二代である。先代名門の流を汲んで更に家名を擧ぐるに努め、業に精勵すると共に村治のためにも



に就き、明治革新期の村政のために奔走、席の温まる

暇もない程だのたといふ。

氏は先代の息にして明治十年三月十日の出生である。日露の戦に召集されたが氏は皮肉の嘆を噛みつゝ内地勤務を課せられたのであつた。後に朝鮮に渡り、朝鮮公立普通學校長を十ヶ年間勤続し、昭和六年歸郷した。

歸省後の氏に社會は更に寧日を許さず社會教育委員、村勢進行委員、土木委員、方面委員等の要線が氏の就任を要重し、更に産業組合は長として氏を迎へる事切にして匆忙の氏も黙し難く就任したのである。

氏は政治に多大の關心を持ってども中立を保ち是非々々を持してゐる。産業發展

と村内の安寧に常に心を用ひ、昭和九年七月に産業組合を組織し、組合長に推され今日及んでゐる。更に一萬五千圓を費し倉庫二ヶ所を建設した。而して自治會を組織し生活改善のために産業組合未加入者の加入勧誘に努む。會で國勢調査委員の件により表彰をうけ、加へて多年の功勞を以て從七位勳八等賜與の光榮を有する。

輝きを持つであらうと、村内悉くが喝望してゐる。また氏にとつても村政の増大と擴充に生涯を捧げんとする理想は、村治功勞者として敬仰せられてゐる。父君の意志にも副ひ、功績の成果は孝養深き氏の宿望とするところである。



斯くの如き旭日のかがやきを持ちつゝある家を有す

逢隈村田澤

元村長庄司久助

當主久助氏の長男彦治氏は明治二十一年十一月二十六日の生れ、當年五十一歳の壯年にして俠烈、夙に人望をあつめ、村治諸般に盡瘁してゐる。現在村會議員二期目に學務委員を兼任し、氏の熱意と努力を以てすれば、村政の發展は赫々の

久助氏は、明治元年十二月十八日の生れ、既に七十餘年の高齡を以て、當村の發展と一家の前途に、久しき薫育の微笑を以て餘生を送つてゐる。當村の今日あるのも、氏の一生をあげての貢獻の賜と云へるであらう。大正九年五月より昭和十三年五月まで村長として、曩には明治四十四年十月より大正九年五月まで村助役を勤め、その他農會長、産業組合役員等に就任、現在在職中であり、學校の移

轉、道路の改修、植林等に盡力、それらの功は赤十字社特別社員、國防婦人會顧問、愛國婦人會員、納税に關する成績優良に依り表彰の榮を享け、現在は社寺兩の總代を務めてゐる。

當家は開祖を作七氏と稱し、次代友吉氏、三代目は當久助氏にして、代々農を勵み、先代は藍を作り、又村會議員その他に選ばれた信望高かりし人物であつた

山下村

長老 森 久平

當家は實に當村の最舊家にして、當主



久平氏を以て五十五代目となす、連綿榮々として著聞される家柄である。代々農に勵み、先代を佐助氏と稱す、當主は明治二十一年生れ、本年五十一歳

夙に村政の發展、農村の更生を目指して懸命の盡力をなして來た。明晰にして、凜然たる氣骨を有する。氏は村會議員四期を勤続し、鳩原用水組合議員をも兼ね本村の長老として、推しも推されもせぬ存在を示してゐる。

會で、大正八年の早魃に刺戟され、鳩原用水路の起工となり、氏の協力は村議生活中の最大事業であつた。現在全村八村の八割を灌漑してゐるも氏等の功績がその起因となつてゐるのである。尙、山下村停車場の設置が、懸案され、氏の努力の中心點になつてゐる。

更に氏は現非常時局下の農村として、愛國貯金、公債等の消化力に於いては他町長に遜色ないが、一致團結の精神的緊張が尙一層必要なることを高唱してゐる。

長男久助氏は家業を繼ぎ、前途有望の青年として期待され、他に四人の子供ありて圓滿和氣霽々たる家庭をいとなんでゐる。

山下村

正 雲 南條 祐孝



當山は慶長年中の創草にかゝるもので開基開山を鶯音和尚となし享保二年六月焼失嘉永年間

亮得和尚によつて再建され、現在に及んでゐる。本尊は阿彌陀如來、淨土宗派に屬し、芝増上寺の末寺である。前任職南條賢充師は名智の僧として敬慕されたほどで、常に寺運の興隆に意をいたし、現在の本堂は師の手になるもの當山中興の人でもある。現師はその男、當年二十六歳、京都佛教專門學校在學中に父師の遷化に遭つて歸山、當山二十世として現職に就いた今後に多くの望みを寄せられてゐる人である。母堂なほ健在である。

亘理町

大雄寺

慶長九年伊達成實公と共に、喜庵祥悅大和尚、當地に來つて當大雄寺を開山された。明治六七年頃、二十七世東流千川大和尚は舊城主に從ひて北海道に渡り、それと同時に郷民五十數戸も北海道に移住し、伊達町をつくつた。五六年過ぎた後、歸郷に及び法城も共に歸り、明治十七年病を得て逝去された。同三十四年次の住職は廈門にて他界され、六七年間無住の状態であつたが、明治四十年八月特選住職の任命あり、當時事態混乱の爲め、その儘月を經、年を送り、大正十年八月二十五日に至り、現住職が就任されたのである。

當寺は伊達公の檀那寺にて、舊臣みな檀徒となり、昔日は末寺十三ヶ寺を有する、繁榮を極めた、古い歴史を持つ名刹である。十一面觀世音を本尊とする。現に檀家四百五十戸、總代伊達家である。

住職

富盛文穎



氏は曹洞宗の中學を終へ、駒澤大學に學び後石川縣金澤市天徳寺にて修業、當寺に入り、篤學、德行を以て敬仰せられてゐる。明治十五年生れ、本年五十七歳を數ふる。近郷の名僧として聲望が高い

山下村

日應山 東光寺

當山は、時宗遊行派に屬し、阿彌陀如來を本尊となしてゐる。遊行五代の祖他阿安國上人が、神勅念佛勸進の砌り、嘉歷元年九月當寺を創立せるものにして、舊寺院は東海道に沿ふ西原に在つたものといはれてゐる。

時宗は日蓮宗と同時代に出たもので、一遍上人の開基、同遍上人は伊豫國河野

住職

吉田積善



明治三十二年出生の當年四十歳の年若き名僧である。神奈川縣藤澤町に在る清淨寺で修業、藤澤中學、日蓮宗立正大學專門部宗教科等を卒業の學識、信仰深き

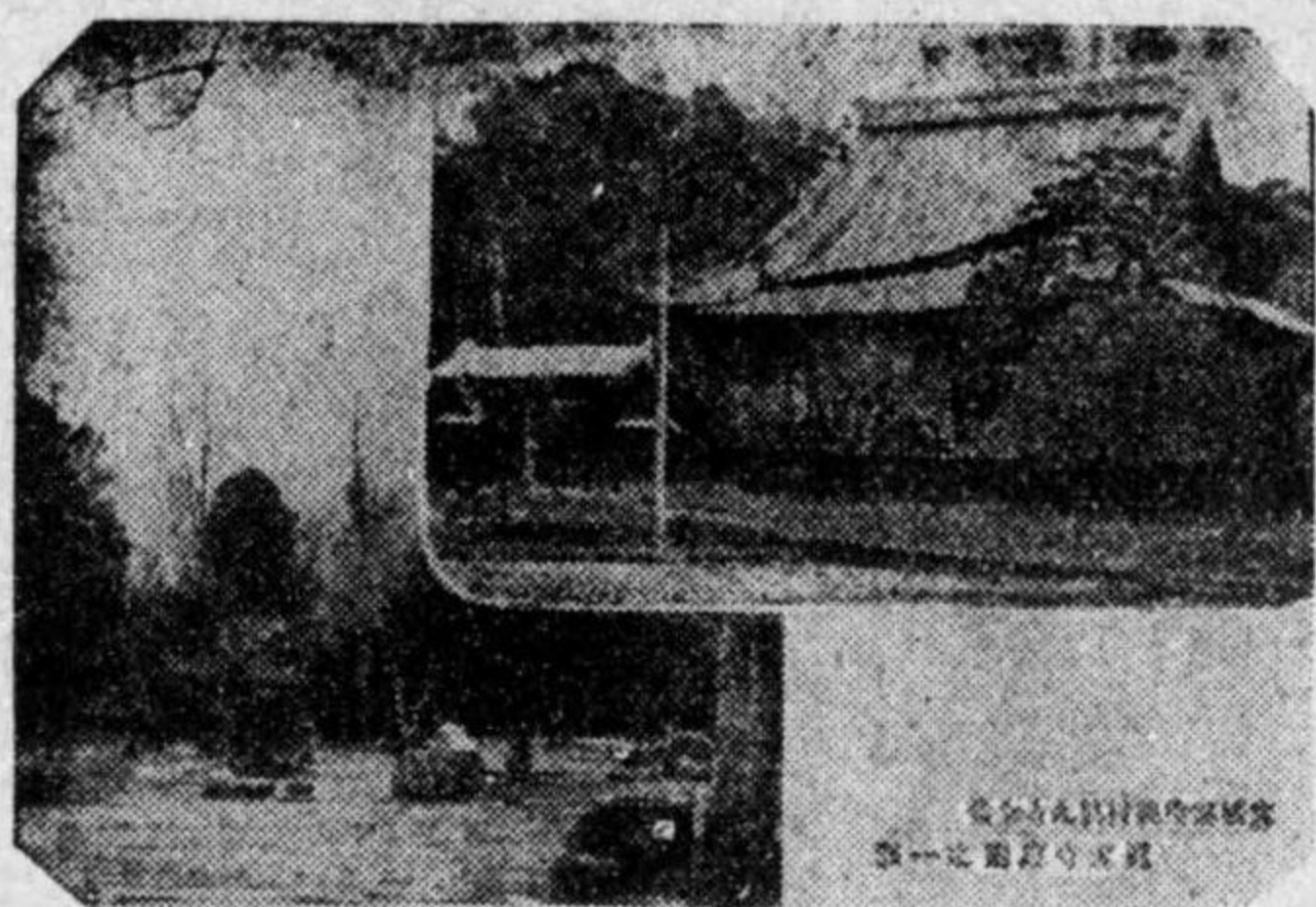
積善師は、遊行上人の事績は布教と共に社會の經濟組織に順應し、且つ社會事業的性質を持たねばならぬといふ意見から寺の經營に當り、また農村の實狀を直觀して、副業の必要を痛感、一例として狸を飼つて實踐するなど、常に實行するこ

とを以て理論の統一と進展を計り、宗門經濟史を研究するなど、時代を見る師の識見の高き、豊富なる思想、而して率先して實踐する力量等、名僧たるに相應しき人物にて、敬仰の的となつてゐる。

逢隈村

眞光寺

當寺は西本願寺を本山とし、従つて眞



本堂とその庭園

宗を奉じ、道題律師の開基、親鸞上人の開山である。創立は天

正六年道願律師大熊村と岩沼町との境今泉に設立した。慶長六年水害に遭ひ現在の鹿島に移した。明治三十三年より大碑せるを再建にかゝり殆ど十ヶ年を費し、四十四年に完成した。諦道師の苦心の結實である。

濱街道より望めば當寺伽藍の屋根、鬱蒼たる杉樹を背負うて建ち、壯嚴の氣自ら胸懷に起るを覺ゆる。

檀家は廣く知名の士あり、相馬伊具互理三郡に亘つてゐる。

住職

徳口義憲

現住職徳口義憲師は島根縣美濃郡北仙道村明顯寺住職僧念師の次男である。大正八年より本寺の住職となる。東北に乏しい信仰生活、合掌生活を擴張し度いのが師の念願であり、常に飢饉の脅威を受けつゝある同地方の救済は経済的のみならず信仰生活の普及にあるのと信念を持してゐる。されば檀家總代山田周吉氏、佐藤幸俊氏その他と協力し宗教の興隆に盡してゐる。氏はまた長町

亘理町上町

專念寺

の常源寺の衆徒守行正氏と謀り、同町の山寺に常設托兒所を設け宗教を通じて社會の教化に盡す事多い。氏の宗教活動は縣下に聞え、名信として信望殊の他に厚い。

信夫郡小倉郷、湯林寺二世舜爽和尚の開基にかかり、慶長九年伊達成實公の建立されたものである。伊達邦成男爵北海道移住の際、本寺檀家五十數戸は共に北海道に移り、延徳年間火災に遭ひ、檀徒頭伊達家これを再興した。阿彌陀如來を本尊とする。木造御丈一尺七寸、惠心僧都の作になる觀音勢至脇士が安置されてゐる。尙伊達眞元公成實公天正十一年の正月御連名の御眞筆あり、再度録を寄附されてゐる。

昔は本寺の檀徒たるべき習ひがあつた別堂の火防觀世音は靈驗あらたかにて萬一火災の場合も三軒以上延焼をださぬと

いふお告げがあり、六月七日に祭例あり近郷の尊宗をあつめてゐる。

住職

岡式音



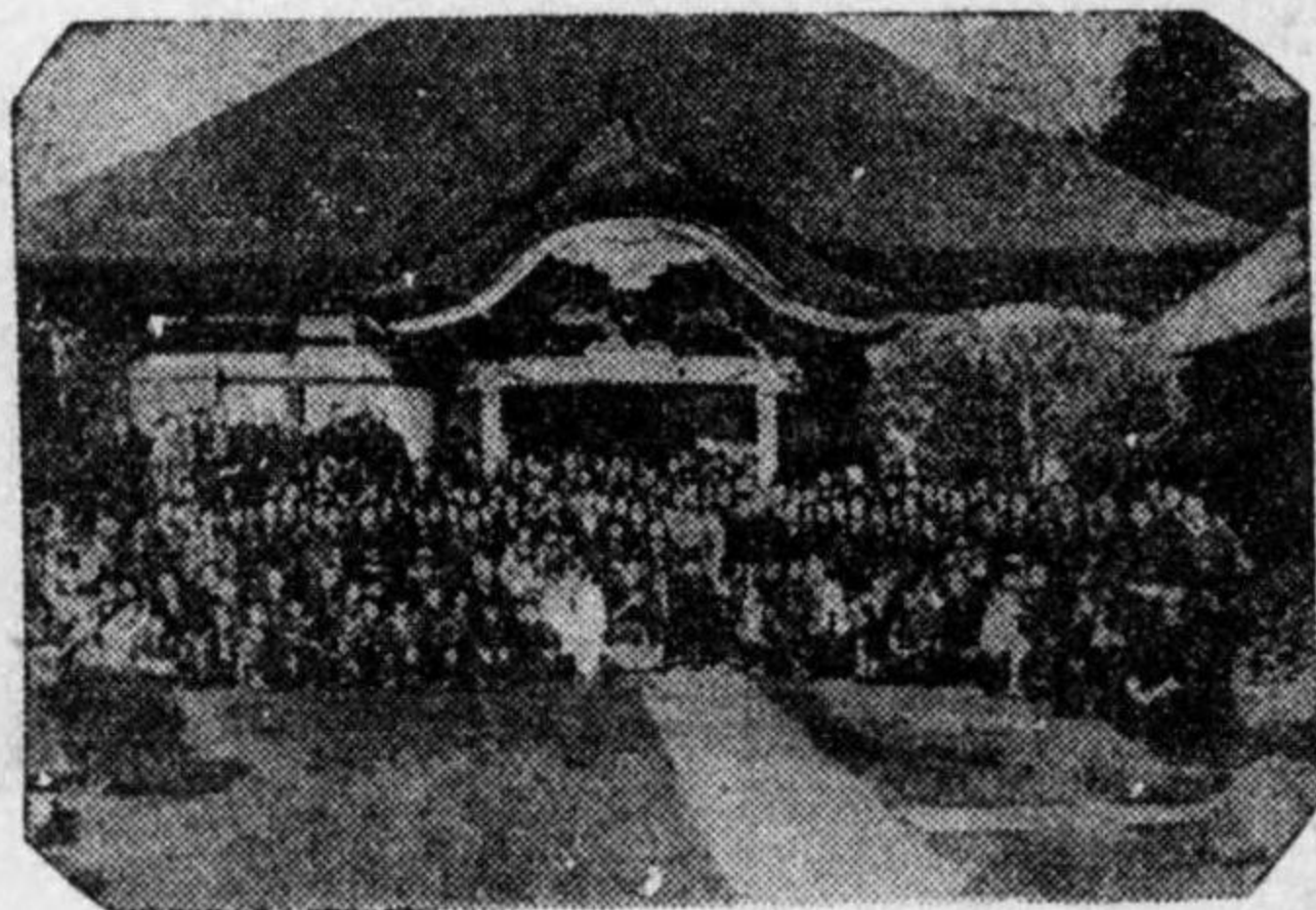
檀家百八十戸を有する當寺現住職たる、岡式音師は、愛知縣出身にて滋賀縣彦根高宮寺で修業、神奈川縣藤澤本山で更に十年間修業後、大正十四年當寺に入

りし德行著るしき名僧として徳望をあつめてゐる。きよ夫人は農村託兒所設置を計畫、運動してゐる許りでなく、國防婦人會理事をなし、銃後の護りを固め、町内に聲望高く、長男を智恩氏と稱し、大正大學卒業、現に修業中である。

檀徒總代は星久一、菊池宗造、永田萬吉、鈴木傳治、鈴木儀助、九谷由三郎、武田淑郎、齋藤宗吉、鈴木三郎氏等である。

逢隈村十文字

紅梅山 高音寺



本堂前のつどひ

釋迦如來を本尊とする曹洞宗の寺院にて、仲嚴文堂の開山にかゝる。仲嚴文堂は、和尙互理町の

である。當寺十三代世の時代、火災に遭ひ、觀音像を焼失、現本尊は、覺文素宗和尚が、京都より奉遷せるものである。境内三百坪、古樹蒼然と茂り、近在の名刹として善男善女の參詣者群をなしてゐる。

尙當寺は大雄寺の末寺になつてゐる。

住職

田崎眞全

氏は駒澤大學専門部出身の俊才にして、十八世當寺住職になるや信仰を以て村内の教化指導に熱烈なる努力を示し、方面委員に推されて極力盡瘁してゐる。

尙氏は郡内宗教界の中堅として、重きをなし、熱烈眞摯、又高德の名僧知識として、信望と尊敬を一身にあつめて居り然も將來の大成を囑望されてゐる。

山下村大平

明光院

大雄寺五世の住職たりし士にて、元和三

不動明王を御本尊とし、眞義眞言宗智山派である當山は、舊亘理城内勝光院第

四吉龍明法印應永二十三年（紀元二千七十六年）三月創立、其の後元明年間火災に遭ひ、寛政元年時の住持興道阿闍利再建し、現在に至つたものである。當寺は初め互理藩伊達公の祈願所勝光院の末寺であつたが、勝光院廢寺となるに及び、總本山京都本山區七條智積院の末寺となつたものである。

御本尊不動王怒りの表情は慈悲の表れにして、惡魔に對して劍を以て戰ふ惡鬼退散の佛、而して脊後から火が燃え出しても、前から大水が押寄せても不動の精神の表象である。境外佛堂受持寺院としては大平區明見堂、（本尊妙見大菩薩）八手庭の毘沙門堂がある。

住職

師は幼にして佛門に歸依し、仙臺大雲寺に入門後、京都東山學中

校に學び、明治四十五年一月二十三世當住職として入山、悟道徹底品性人格共に敬仰に價する高僧である。師の念願とするところは信仰の下に精神力の純化を計



り、部落の繁榮は、寺院を中心として銃後國民の精神總動員を實行せよ、と信仰精神の強調を

敢行してゐる。長期準戰時下體制行はるるや、國防献金のために托鉢し、師團より感謝狀を贈られ、當村のみならず師の人望近郷近在に普く、其の人格を慕ひ來るもの數を知らぬ有様である。故に衆の懇望に依り、宮城縣智山派宗務支所副幹事、布教師、方面委員、農繁期托見事業等に精勵、あまた功德を重ねてゐる。

長男龍祐君は相馬中學卒業後、智山專修學院に、次男は相馬中學に、長女美枝さんは相馬高女二年にと何れも在學中、前途有爲の子女である。

氏の家柄は福井縣耳村麻生に聞える舊名門である。藩主の安福を祈るため、先代四國廻歷中、宗教的影響に依り出家入



陽鏡山 觀音院

逢隈村陽鏡山

門、仙臺宗禪寺長光師に得度せられ、後ち勝光院の泰潮師に師事して修道、山寺山上院住職、高瀬金泉寺住職を経て、當明光院に轉住されたもので、大英師と稱し當院二十二代の住職である。

當寺は國道より西方丘陵の飛勝の地を占め、當地方名だゝる名利である。宗派は新義眞言宗

であり、不動明王を本尊とする。開基は徳一大師、興教大師の開山と言はれてゐる。

當寺には境外佛として關の觀音がある。白河關にあつた關の觀音を東街道關所坂に移し、更に當寺に移し祀る。風土記によれば、關の觀音は徳一大師の作であり

千百年前のもの奥羽地方切つての舊い由緒ある寺である。維新當時にあつては現在の關の觀音堂の坊寺になつてゐた。京都東山智恩院の末寺にして現在の本堂は先住覺如和尚の時代の創建であり、濱街道より望んで早くも佛威の感を覺えさせる。

境内一反二畝。

皇軍の武運長久を祈り、戰死者の慰靈祭を行ふは當寺の重要な年中行事の一つである。

住職

氏は當時の法燈を繼ぐ四十二世、智山大學を大正五年に卒業す。

會て青年團長等の職にも就き、濶達明朗の僧として人々の信愛を得てゐたが、當寺にあつても亦、村の教化のために盡し青年教化の中心的指導者である。

名 取 郡

陸前國の南部にあり、北は宮城郡及び仙臺市につゞき、東は太平洋に面し、南は亘理郡及び柴田郡に接し、西は山形縣北村山郡及び東村山郡に境する。

西部は奥羽山脈に接するを以て山嶽重疊し、名取川がその間の水をあつめて東に流れ、宮城郡より来る廣瀬川を併せて海に入る。仙臺より發し秋保温泉に至る秋保電氣軌道はその北岸を走つてゐる。

河川の豐沃なる平野の部分は名取平野の名を以て呼ばれ、宮城野の一部をなし地味肥え、農産物が多い。また名取川の沿岸よりは亞炭を産す。埋木細工はこの地方の名産である。

省線東北本線が郡を南北に横斷して仙臺に至り、常磐線はその岩沼驛に於て東北本線と合し、長町驛よりは秋保電軌がある。

本郡は陸奥の國府の多賀城に移る以前

に、國府を置かれた地で、その位置は岩沼附近であらうといはれる。今は閑上、岩沼、増田の三町のほか十二ヶ村を含み人口約六萬人である。

名所舊蹟の主なるものには武駒神社、衣笠の松、藤權現、閑上海岸、秋保温泉大梅寺、前田の庄などがある。

岩 沼 町

仙臺市の南方、東北本線と常磐線の會する所にして、交通の要點を占める。もと武隈と稱し、貞享以來伊達氏の臣、古内氏がこの地を治めて明治維新に至つたその居館を武隈館または鶴崎館と稱し、線路の西側にある丘陵が即ちその館址である。東西二十町、南北二十町、人口七千五百を越え、面積は〇・三六方里を占める。

警察署、農事試驗場、實科高女、銀行

支店等あり、社寺に縣社竹駒神社、安國寺、竹駒寺、多寶院、法常寺がある。竹駒神社は毎年舊二月初午に祭典を執行し頗る股賑を極める。また名勝に武隈の二本松がある。

増 田 町

郡の中央に位し、東方は閑上町に接続する。土地平坦にして田圃廣濶を極め、河川縱横に走つて灌漑排水に天惠的利便あり、加ふるに地味肥沃である。明治卅九年、全耕土に耕地整理を施行し、同四十二年完了した。

増田ほか四大字より成り、東西一里十六町、南北一里二町、面積一・〇二方里にして、人口約四千五百人である。町には仙臺區裁判所出張所、縣電氣局變電所縣穀物検査所派出所、巡查部長派出所等あり、社寺に村社第六天神社、同増田神

社、耕龍寺、東岩寺、吉祥寺、普門寺、圓滿寺がある。名勝衣笠の松は 明治天皇御駐輦の砌り御命名なされしもの、十三塚は、昔、廻國修業の僧十三人が京都より來り山徒の傷害に遭つてこゝに死んだといふ遺跡、藤權現は後鳥羽帝の時、敬神の老女が庵を結んだところ、その他老女墓、七島の舊址がある。

閑 上 町

閑(ゆり)上町の名は閑の文字が辭書になきことによつて地名的に知られ、漁撈の盛んな町である。年産六十萬圓に達し農産は二五萬圓内外となつてゐる。戸數から見ても千二百餘戸の内水産業四百五十戸農業三百戸商業二百五十戸といふ數字を示してゐる。位置は名取郡の東部名取川に在り、仙臺灣の最凹部に當り、東は大平洋に面して正方金華山を望む。東部海岸は一帶の砂丘連り、廣袤一方里餘名取運河名取河口等船運の便極めて良い殊に名取川は春に鱒夏秋に鮎、秋冬鮭、

緬の蝟集する處として有名である。名取川一帯の平野に包含され農業も亦盛んである。海岸は遠淺にして夏季水浴に來遊する者頗る多い。水産國策の線に沿つて當町の將來は愈々其の繁榮を約束されてゐる。町制施行は昭和三年四月である。

秋 保 村

本村は郡の中央を東西に流れる名取川の峽中八里の廣きに亘る部分を占め、その大部は重疊たる山地にして、川岸に沿ふて僅かの平地を見るのみである。西界に二口峠あり、山形縣東村山郡と接してゐる。名取川峽谷には埋木細工を産し、圓觀上人の歌に、

みちのくのうき名とり川流れ來て
沈みや果てん瀬々のうもれ木

とある。秋保大瀧には有名なる齋藤竹堂の遊記あり、名取湯は一に秋保温泉と稱し、鹽類泉にして奥州三名湯の一といはれ、伊達氏の浴館があつた。この他東北の金剛山と稱される磐神峽始め、鹽瀧不

中 田 村

本村は仙臺市の南、増田町の北に接し土地平坦なる沃野にして、名取川が村内を東流する。前田、柳生、袋原、四郎丸の四大字より成り、面積〇・七六方里、人口五千二百有餘人である。

中津川義氏の舊館たりし前田の莊、名取の里、四郎丸城址などあり、名取は一に名虎につくり、名取森あり、この森の中に、名取六十六郷に蔓りたる木の根あり、これを埋れ木といふとの傳説がある。花山朝の衛士中津川義氏が名虎の里の竄せらるゝを聞いたその妻某は、郷里豊前を發し赤間關より東航の途中、播州室津にて海賊蟻阪善太夫の宿に投じた。善太夫の妻明月は義氏の反人湯原藤吉の姉に

て、義を重んじ、某に代つて死んだといふ。海賊更に義氏の妻を若狭に送る途中その婢を奪ひて逃れ、これを駿州吹上の鹽屋次郎に賣つた。某幾多の辛酸を重ねてやうやく名虎に至りその夫に遭ふといふ物語があり、名虎の里は今名取の里と稱して古い出来事を傳へてゐる。

六 郷 村

本村は仙臺市の東南に接し、名取川の河口北岸に位し、東は太平洋にのぞみ、全村平坦なる地勢である。二木、日邊、沖野、今泉、藤塚濱、井田濱、飯田、種次等の部落を合せて成り、面積一・三二方里にして東西・南北各一里の廣袤を有し、人口は約五千四百七十人である。海濱を藤塚濱といひ、鰻及び白魚を産すといふ。貞山堀は村内を通ずる。堀は阿武隈川により鹽釜に至る九里の間、海岸砂濱の間を堀割つて水運の便を圖つたもので、伊達政宗のつくつたところからその隘號をとり貞山堀と稱した。

高 館 村

本村は増田町の西北に接し、名取川の南岸に位し、西部は山地、東部は平地をなす、吉田、川上、熊野堂の三大字を含み、東西二里、南北一里餘、面積一・八六方里に及び、戸數約五百二十、人口約三千五百をかぞへる。

高館とは古墨の名にして、藤原秀衡の遺跡なりといふ。また源頼朝が東征の時軍をこゝにとどめ、東南の一丘を指して秀衡の丘と呼んだともいはれ、更に高館は義經の舊壘なりとも稱される。

愛 島 村

本村は増田町の西南に位し、西部及び北部は山地なるも、他は平坦なる沃野をなす。東は館腰村に續き、西は柴田郡との郡界をなす。笠島、小豆島、北目、鹽手の四大字を有し、役場は大字笠島にある陸奥守に任命され任地に於て客死したる藤原朝臣實方の墓があるので、世人に

印象づけられた村である。古書に

寂莫山村の外甲ひ来る古塚の春、幽蹊荒藩亂れ、叙日落花頻りなり、元是れ西京の客、曾て東海の塵となる、悲鳴才林裏の雀、遺恨人を呼ぶに似たり

とうたはれてゐる。なほ村内道祖神社は生殖器崇拝の故習により、願事あれば陰形を造つて神前に捧ぐといふ迷信が傳はつてゐる。

千 貫 村

岩沼町の西に位し、西部は山地にして柴田郡と境し、南は阿武隈川を挟んで亘理郡と相對し、地勢、東部は平坦なる耕地である。三色吉、南長谷、北長谷、長岡、志賀、小川等の部落より成り、東西一里半、南北一里、面積一・四九方里、人口三千六百有餘をかぞへる。

名勝に千貫の松山といふところあり、青松萬株、航海はこれを望んで標識にまさるといふ。古來、世人その價千貫に勝るとの意味で千貫の松と呼び、山に東平

王の墓といふものあり、東平王は按察使の尊稱なりといひ、また漢人なりといふも判然しないが、兎に角、その遺跡は名勝の一つになつてゐる。玉崎牡丹園の名も普く聞え、現在二百七十種二千株を有し、花季の盛觀は譬ふるものがない。東北本線岩沼驛へ二十町、交通の便は甚だ良好である。

館 腰 村

全村平坦なる沃野なるも、西北部に僅かに山地あり、北は増田町につゞき、南は岩沼町につらなる。耕地は田七百四十町歩、畑百六十四町歩を有し、産業の隆盛大いに見るべきものあり、農産三十餘萬圓にのぼり、米は二十四萬圓餘、繭は二萬圓の年産がある。東北本線岩沼、増田の兩驛より各一里、交通の便は比較的良好である。

村内神社に縣社館腰神社、村社熊野神社が鎮座し、寺院には弘誓寺、眞福寺、禪龍寺、明觀寺、高照寺がある。また大

字植松には城址あり、奥州の刺吏多田満仲の居館址なりと傳へられる。

玉 浦 村

阿武隈川の河口北岸に位し、東は太平洋に面し、全村平坦なる沃野にして、西は岩沼町、南は川を隔て、亘理郡に相對する。海岸は十符の浦と稱し、昔は商船の輻輳せるところであつた。十符とは遠望(とほ)浦の義で、

見し人もとふの浦風昔せぬに

つれなくすめる秋の月

と、橘爲仲朝臣の詠んだ歌は、明月の夜都の妻に送つた歌だといふ。

岩沼驛より一里餘。社寺に村社愛宕神社、惠供寺、遍照寺、五福院、岩誓寺、法圓寺、了寶院、高林寺、正寶院などあり、貞山堀及び十符の浦は名勝地として著名である。

なほ村は東西一里餘、南北二里餘あり面積一・九三方里にして、人口六千五百餘をかぞへ、農業が盛んである。



社 前 の 景

岩 沼 町 縣 社 竹 駒 神 社 倉稻魂神、稚産靈神、保食神の三神を祭るといふ。古來、世人その價千貫に勝るとの意味で千貫の松と呼び、山に東平

議左大辨從三位小野朝臣算卿が、東北鎮護、産業開發の爲に創建せられ、當時武隈神社と稱されたが天文の頃より伊達家の尊崇篤く、社殿の建立、神地の寄進をなし、文化四年朝廷より正一位を授けら

れ、明治七年縣社に列せられた。

明治九年、四十四年當社務所は御巡幸の明治大帝の行在所となり、現在史蹟として保存されてゐる。又明治三十三年大正天皇東宮にましませし折、東北御巡啓の際侍從御差遣遊ばされ、行在所前に松を植えさせ給ふたのである。

境内は緑林鬱蒼たる神境にて、面積一萬二千餘坪、社殿御本殿、御石の間、御拜殿の規範宏壯にして、東北に唐門樓門聳え、樓門二重層欄間の極彩色雲龍の額は伊達吉村公の直筆又翔鳳の額は三條實美公の直筆である。

例祭は舊二月初めの午の日より七日間を初午祭と稱し、新舊元朝詣には臨時列車の運轉さるゝといふ。

社司は伊場野春風氏、子總代は現岩沼町長古内省三郎氏にして、氏は舊伊達家老であつた家柄である。

館腰村

社 館腰神社

嵯峨天皇の御宇弘仁二年僧空海弘誓寺

を開山するに際し、伏見稻荷の御霊を奉祀して邑里の鎮護となしたに初まる。

倉稻魂神、大宮姫神、猿田彦神の三柱の神を祀る。文化年中遷宮の言ひ傳へあれども弘誓由來記によれば俣聞なりといふ明治七年六月縣社に列せられ、全四十年三月六日鹿島、熊野の兩神社を、翌年又無格社、雷神社、八幡神社の三社を合祀した。四月十日を以て祭典の日とする。又安政年間近江日野の人當村沼地開墾の事あり、村民徳として合祀すといふ。

社司 氏は明治十三年四月一日千秋氏の長男として生る。嚴父は仙臺藩士にして譽ある劍道の家である。明治二十七年當時社司であつた父の跡を繼いで社司に就任した。

社 菅野健庵

氏は仙臺第一中學校卒業後一年志願兵として入營、少尉に任官して除隊す。日清戦役に名譽の旗手として出征、戦功を立て、中尉に昇任、更に正七位勳五等功

五級を賜はる。その武勳の赫々たる事以て知るべしである。

爾來軍人分會長として活動してその信望著しく、神官講習所の講師たり、社司としてまた敬仰さる。

資性豁達、活淡たる氏に配して夫人つよ氏二十六年間教育事業に盡した経験は九人の子女の教育に表はれ、いづれもその將來を囑望されてゐる。長男克亮氏國學院大學國文科を卒業、目下南京に在り大陸政策に協力してゐる。

千貫村三色吉

金蛇水神社

今を去る九百有餘年前、一條天皇の永祚元年、京都の名工小鍛冶宗近が勅命を奉じて刀劍を鍛えんと清流を求め來たるにこの沼の清水の美しきに感激し、水神に祈誓をこめて鍛え終り、其の喜びを雌雄二體の金蛇を作つて奉納したる事に依つて、時の人金蛇を御神體と崇め金蛇水神社と呼ぶに至つたと傳へられる。

祭神は水速め命を奉齋、一千年前に金蛇沼の溪流のほとりに鎮座せる水神宮としてこの地の守護神である。古來より靈驗あらたか、家内安全、商賣繁昌、養蠶安全、海運守護の神様として、村人の信仰をうけてゐる。祭典は五月十五日より三日間行はれ遠近よりの參詣者山をなして打續くと云ふ社掌高橋勝三郎氏、氏子總代鎌田喜善氏外一名、氏は郷内のみならず福島仙臺、石の巻等に互つてゐる

社 掌 高橋勝三郎

代々當社掌を務めてゐる家柄で、當地屈指の舊家である。



當主勝三郎氏は寡黙實行名利を思はず隠れたる徳行家として人望高く、教育教化に熱心なる人物である。家族は七人、長男比呂志氏は角田中學在學中である。

千貫村小川

千貫村 信用販賣 組合 購買利用

當組合は大正十一年北部志賀部落で、三、四年事業を開始したが後、當小川に移轉し、北部全部を組合員とし、丁度南部にも希望が起つた機運に乗じ、昭和十一年夏、當組合から呼びかけて百四五十名の加入をみたのである。出資總額九千八百二十圓、組合員數三百六十五名、貸付總額三萬二千五百八十一圓、貯金四萬百三十二圓である。主唱發起人は佐藤倉次郎氏及び佐藤菊七氏、歴代理事長は馬龍幸三郎氏、組合長を佐藤菊七氏とする昭和九年より農業倉庫を開設、又地理的關係により、南部中央に支部を設け、未加入者が残つてゐるのでその加入勧誘を大々的に初めてゐる。尙利用事業、動力作業に力を入れ、漸次發展向上を見てゐる

組合長 佐藤菊七

當村に永住の家柄にて先代を泉藏氏と稱す當主は明治十二年八月

五日生れ、本年六十歳であるが壯々たる



意氣に燃え尙旺んに盡瘁してゐる。産業組合の主唱者

にして、十七回總會で全村に擴張を要望し千貫村一圓にその許可を受け、氏の献身的努力に依つて業績は着々擧り、現在はもはや缺くべからざるものとなつた。氏は組合長のみならず村政の凡ゆる要職に就き數多の功勞を残し、當村發展上の恩人として敬慕されてゐる村會議員たること四期、養蠶實行組合長として二十餘年勤績その功により閑院宮家より第二種紅授功績章を昭和三年三月三十一日下賜された光榮を擔ひ、なほ現村長雷土水利組合管理者學務委員の要職を歴任してゐる。氏は嘗て日露戦争に出征の殊勳に依り勳八等旭日章に叙せられ、又氏の長男は中支へ出征活躍中である。

閑上町

閑上町長 萱場秀治

當家は四代續きたる家柄にて、先代は地主にて當地素封家と著聞される。氏は實業家たる手腕噴々、又地方政界の元老として名聲を馳せてゐる。元治元年生れ七十六歳の高齡、殆んど生涯を捧げて町政發展に盡し、その年月三十年の長きに及ぶ。大正十二年十一月町長當選以來、業績多大にして、また長年町會議員として、努力して來た。氏の長男軍藏氏は帝大出の秀才、縣廳を振出しに栃木縣知事岡山縣知事の榮職にある。(一一五參照)

助役

三浦國松



氏の家系は九代開連綿と續きたる舊家に於て先代は地主であつた

當主は

消防小頭

町會議員

等を勤績

その濃厚

なる資性と、誠實なる努力を謳はれ、昭和九年現助役に選ばれ、村長を補佐して活躍旺んでゐる。

収入役

佐藤兵作

氏は岩手縣廳を振出しに、北海道廳及び役場に六年勤務し大正十四年當町役場収入役に推されて、現在に至つたものである。氏は一意町政の發展の爲に貢献し、前途を囑望されてゐる。長男は岩沼小學校訓導として奉職してゐる。

以上の氏は共に當町に有力なる存在にして、本町の前途は優秀なる町政家に依つて期待されるのである。

愛島村笠島

郷社 佐倍乃神社

當神社は愛島村西北隅に位し八津嶺萬賀に鎮座し、本村の守護神と仰ぐ正一位の道祖神である。人皇第十二代景行天皇の御宇日本武尊東夷御征討の砌二種を勸

社司

松浦辰治

當家は清和源氏の流れを汲み數百年連綿として打續く舊家である系圖尙保存され、由緒の正しきを誇る家柄である。先代藤右衛門氏より當社の神

職に就いた。氏は明治十三年三月二十三日藤右衛門氏の息として生る。



日露戦 争の砌り 殷々たる 砲煙彈雨 の間を馳 驅して武

名を輝かせ、勳七等を賜はる。次で愛島村小學校に奉職する事十年、現在方面委員、少年保護委員に選ばれ、貧民の相談相手、不良兒童の指導に盡してゐる。尙二期を通じて村會議員たり。社司拜し毎朝太鼓を叩いて朝起を奨励し、また事變勃發以來毎月一日を出征兵士の戦勝祈願を施行してゐる。長男武光氏は當神社の社掌である。

秋保村

秋保村長 橘 源治郎

當家は代々温泉旅館を営み、十代續き

たる秋保温泉、佐藤旅館とは、實に當家のことである。氏は文久三年四月七日生れ、既に七十有六歳、若き時代より物理學數學を修めた篤學の士である。明治二十九年森林官となり、秋田、福島の大林局に勤務、大林局廢止となりたる後、營林局と改稱され、五十五歳まで精勵よく職を果した。その功績は數ふるに遑なく衆の敬慕信頼措く能はざるところである官職を辭してからは大正十五年に村會議員となり、昭和二年には村長に推され、共に今日まで勤績され、更に村教育會長農會長を兼任、老齡も省みず貢献されるところ、實に村の元老として恥ぢざる存在である。

昭和十年には村農會より、農事功勞者として表彰をうけた。氏の永年捧げて盡力された偉大なる功勞と、篤學の人格とは、氏の前に自ら頭を下げ、感謝に溢れるの念を、接する人をして與へしめるのである。まこと當村に氏の如き才德兼備の人物を有するは、全村の大いなる誇り

とするところである。家庭に於ては、悠々靜穩の朝夕を楽しみ、圓滿平安の一家の長として、此處にも氏の人格の反映する樂しき家庭をいとなんでゐる。

玉浦村

玉浦村長 田村 佐膳

當家は苗字帯刀の名ある家柄で、代々神職を奉じてゐた。先代は田村智普と稱し、當主はその男、明治五年九月十二日の出生である。曾ては小學校教員として初等教育界に盡瘁、相當の功を印し、愛宕神社の神官を拜してゐる。

現在は村長(昭和十二年九月より)に在任、挺身して村民の福祉増進に力を注いでゐるの外、村會議員、産業組合長、水利組合議員等を兼ねてゐる。そしてその業績の二三を指摘するなら産業組合の創立及び作業場の建築、更に納税に重きを置いて納税組合を設立し、全戸の加入を圖るべく勸奨に盡力すると共に自作農

奨励にも努力してゐる。

性格温和、政黨は中立、曾て村治績の功に依つて金杯を授けられ、また神職會からも表彰されてゐる。夫人かつのさんは愛國婦人會及び國防婦人會の分會長を奉じてゐる。

六郷村

六郷村長 山田 甚助
元縣會議員

祖先是仙臺藩に仕へ、三百年の家系を有する舊門家である。代々村肝煎を務め又篤農家と謳れてゐる。先代を幸八氏と稱し、當主は明治三年六月九日生れ、資性英俊、衆に優れ、同二十五年宮城縣師範學校を卒業するや直ちに、中田校、増田校に奉職し、増田校長、玉浦校長を歴任したが、當時之郷村内に小學校統一問題起り、久しく続いたので、氏は現職を抛つて、問題解決に當つた。明治三十四年よりは村民の信任を背負つて、村助役になり、同三十六年には推されて村長に就任、現在六郷村が模範村と謳はれるや

うになつたのも、その時の氏の決意と献身的努力の賜である。實に氏の村長勤続年月は三十有四年後の今日に及んでゐる。同年郡會議員に大正八年には縣會議員に大正十三年には縣農會評議員に、昭和二年、同六年には引續き縣會議員に當選、昭和七年縣町村長會副會長に推されて現在に至つてゐる。その他郡農會長、郡町村長會長を兼任、氏の功績、功勞は赫灼たるものにて、當村今日あるの恩人である。當年六十九歳の高齡を以て全村の信望を一身にあつめ、名村長として敬仰されてゐる。

氏は斯くの如く生涯を専ら盡瘁されたことに依り、その表彰された數も數度ならず、大正十一年には教育功勞者及び郡治功勞者として、昭和四年には自治、縣治功勞者として、更に自治制五十周年記念には内務省より表彰され、官民共に氏の業績を賞讃するところである。

正義を以て已れを棄て、常に社會公共の福祉と向上を目標となす、我が山田甚

助氏を有する當村の幸、云ふべくもない家族は四男三女あり、打揃ひて前途多望の青年子女にて、囑目期待されてゐる。

秋保村

村會議員 早坂 養三郎
元郡會議員

氏は當家二十九代の當主、明治八年一月十八日



先代養藏氏の三男として生る。明治三十七年

四月村民に推舉され、村會議員に當選して村會に初登場して以來、三十有五年の間引續き現職にあり、村會議員中の最古參者として、堂々たる貫祿を以て村會に君臨してをり、その間に擧げし業績も枚舉に遑なき程である。

大正七年郡會議員に推舉され、郡參事會員となり、其外區會議員、土木委員、衛生組合長等にも就任し、嘗て當村が大

洪水の災害に遭ひ、被害の甚大さに村民は茫然として、爲すところを知らざりし時に當りては、一身を犠牲として、救済事業に没頭、日夜奔走せしため痛く村民の感謝を買ひ、爲に縣知事より表彰されし人で、又賞勳局よりも表彰を受けしことがある。

郡會議員たりし當時は、道路の改修、橋梁の架設に、官林拂下に盡力せる外教育後援團組織、共和會組織を提唱して、教育後援團長、共和會長の要職に就任しよくその職責を果してをり、尙ほ村會議員、信用組合理事をも兼ねて、村民の福祉増進を願つてゐる。當村の有力者である。

愛島村

村會議員 今野 運十郎

當家は鹽牛に住し篤農の家として聞え高き今野家の分れである。先代儀七氏の時當村に來り住し、既に三十年を閲す。新たに家を興した儀七氏一家を督して營

む家業農に精進した。息運十郎氏父の志を繼いで一層家業に精勵農家經營に有する卓越せる識見を著々實行に移して今日の産を成すに至つた。



氏は明治十年十月五日の出生である。徴兵検査に際して體驅堂々たる氏はその入營を期して盡忠報國の念燃ゆる所あつたがをしくも籤のために不合格となり、志願書をも出したるも念願を達する事が出来なかつた。

爾來氏は産業組合理事、學務委員、其他の公職を負ひ、更に大正十二年以來村民の輿望を擔つて村會議員の職にある當村切つての長老である。

氏は養蠶其他農家經營の合理化に着目し、また長年村政の經驗より幾多改革を行つた事も尠くない。政府が農村階級闘

争の絶無と小作人の生活安定のために創設した自作農定法も、土地良好のため賣手なく、爲に農村更生の困難を除去しようとなつてゐる。

本村に於ける立志傳中の人にして曹洞宗に歸依し、温厚なる風格の人である。家庭はつる夫人の間に一女二孫あり、和氣充ち満ちた家庭である。

高館村

村會議員 駒坂 玉治
消防組頭

當家は土地の舊家にして、往昔藩に仕へて名の聞えし士分であるが、現在系譜を紛失して詳らかにするを得ない。後ち當村に居を定めて代々の人物能く村の福祉を圖り全村の尊敬する處となつてゐる。當主玉治氏は、明治二十年十月の出生性質直にして温順、奉公の心厚く、殊に村治に盡瘁して數々の功績を残してゐる。現在水利組合主幹として、その要責を果してゐるほか、村消防組の創設に當つて多大の力を致し、爾來引き續き組頭とし

て衝に當つてをり、亦選ばれて村會議員たること既に四期、大正十三年以來連續現在に至つてゐる。

氏は種々の功績を擧げてゐるが、殊に消防功勞者として、消防協會より高く表彰されてゐる。

千貫村南長谷

村會議員 都 築 盛

氏の農村振興の抱負を聞くに、全村一致協力、相互扶助を以て勉勵するを第一とするといふはまことに、現非常時下にある農村を背負ふ第一人者として至言である。人に接するに常に寛大溫和犠牲的精神を有し、村民擧つて氏と結合、その言を用ゐるところである。

明治五年六月三日生を享けた氏は本年六十七歳の高齡であるが、壯者を凌ぐ元氣満々、村會議員の職務にありてよく盡瘁してゐる。曾ては區長をつとめ、衛生組合員、養蠶組合長となり、種々功勞あつた。特に納稅勵行に關しては表彰の榮

を受けてゐる。

あき子婦人は愛國婦人會、國防婦人會員として活動、淑徳兼備の令名高い、令息惣次氏は常年四十三歳、軍人分會長として精勵してゐる。因に當家は農を本位としてゐる篤農家である。

玉 浦 村

村會議員 多田茂右衛門

先祖は維新前、村の組拔等を勤めて居り、先代幸治氏は家業たる農事に精勵の傍ら、副業的に煙草の栽培に盡力し、その増産につとめてゐた。當主茂左衛門氏は三代目にして明治十三年四月八日の生れ、當年五十九歳になる。日露の役に應召、出征せる陸軍歩兵一等卒、その殊勳に依り、勳八等に叙された。

現在は村會議員、水利組合議員、紙稅組合會計、玉浦村一町二ヶ村耕地整理組合議員等、村政諸般に互り、功績著るしく、殊に耕地整理の完成を促したるは氏の努力に負ふところ多い。温厚なる人格

者として敬慕されてゐる。

氏の長男健郎氏は、父君を援け、農村更生の理想に燃えて、全力を盡し、農業發展に盡してゐる。その將來こそは當村に缺くべからざる存在となるであらうと期待されてゐる。

六 郷 村

村會議員 相原幸左衛門

先代幸助氏と共に篤農家として知られし氏は、明治十四年五月二十六日の生れ日露戰爭に従軍し、よく困苦缺乏に堪へ勇猛果敢、赫々たる殊勳を輝かせし人にして、勳八等白色桐葉章を賜はる。

區長十ヶ年勤績して多大の功績を致せる氏は、水利組合に貢献せるところも多大にして、衛生組合長の要職に就任せしことあり、當時コレラ發生して、村民驚怖のどん底にありし時に至りては、死を賭して日夜奔走し、よく劇務を遂行して遺憾なくその重責を果し、村民の感謝、感激の的となる。

當村はこれまで産業組合の組織の必要を認めざりしところ、縣廳よりの命令により、その設置を急ぐこととなり、氏は産業組合の監事に就任することとなつた。現在は農事實行組合長の要職にあつて、農事改良耕作を奨勵し、村民の福祉増進を圖つてゐる外、三期目の村會議員に就任してをり、村會にあつても氏の果斷な實行力と透徹せる判断は高く評價されてゐる。

秋保村長袋

村會議員 佐藤 儀三郎

佐藤家は村内屈指の素封家と知られ、代々農を以て業として來た。

先考徳也氏は嘉永二年の生れ、町村制施行以來村役場に勤務、收入役、助役を経て、常に敬虔己を持ち、而かも勤勉なる資性を以て村民の信望を擔ひ、推輓せられて當村五代目村長の重職に就任せし外、村會議員として多年村治に貢献寄與せる處甚大であつたが、其間郡會議員に

も當選郷土政界の重鎮であつた。

當主儀三郎氏は明治十一年八月八日に出生、温和な一面負けし魂の強い勤勉家役場書記、農會總代を経て、先考徳也氏の後を繼ぎ村會議員に就任、現在まで期を重ねること三回、學務委員、消防組頭産業組合理事を兼任して、縣知事より消防功勞者として表彰せられしこともあるなど、村政の向上發展に頗る顯著な功績があつた。長期聖戰下、銃後農村總動員強化が強調せられるとき、當村の長老としての氏の存在益々重きを加へてゐる。氏はまた敬神の念に篤く、神社總代を勤めてゐる。

高館村吉田

村會議員 佐伯 忠治

明治四年六月二日此の世に生をうけた佐伯忠治氏は、當年六十八歳の高齡であるが、永年を村政發展の爲に捧げて來た功勞者である。夙に村治に參與し、あらゆる要職に推され、現在齡を省みず村會

議員の職にあること二十八年の長きに亙る七期目を務めて居りその他宮城縣養蠶組合評議員、



煙草耕作組合長、野菜出荷組合長、水利組合長、養蠶實行組合長、農會長、信用組合理事、赤十字社特別社員、社寺總代等の要職を兼任されてゐるは當村の元老として、何人も尊敬措く能はざるところなほ大正十四年、村長に推輓されて以來昭和十二年七月退職するまで、實に十二年間三期完了に至る、その間は名村長として衆望をあつめ、當村政史上に、功績燦然として残りまた曾て、青年會長、産業組合長として活躍したこともあつた。然して水利組合より表彰をうけるなど、當村有力者として第一に指折らるる人物である。

家族はしかの夫人との間に三男あり、

長男東市君は、仙臺市にて米商を営み、二男東二郎氏は同地にて鮮魚取扱業を営み、更に三男東三氏は鐵道に勤務して居り、それ／＼有爲の令息である。又夫人は愛國婦人會に活動してゐる。

玉浦村下ノ郷

村會議員 鈴木 孫七

氏には一男一女あり、長男勝之勝氏は農業の振興に盡瘁し、最近は煙草の栽培に熱心な努力を示してゐるも時下農村經濟更生の一助となつて居り、將來當村を背負ふ有力者として囑望されてゐる。夫人くらのさんは國防婦人會、愛國婦人會の世話役をなして居り、内外ともに令名高き賢夫人である。

當主孫七氏は、村治開拓者として夙に聲望あり、區長を五年間、區評議員を経て現に村會議員、衛生組合副組合長、農會員の要職にあり、殊に道路の改修、衛生組合の貯金問題に献身的盡力をなし、その完成をみたのである。濃厚誠實を以

て聞える氏の人格と共にその功勞は、深く村民の信望を擔つてゐる。氏は當年六十五歳、元氣いよく壯、活動旺盛にして、前記令息夫妻と圓滿なる家庭を作つてゐる。

秋保村馬場

村會議員 太田 一衛

當家先代彌三郎氏は、奉公の念厚き人物にして、長らく區長區會議員を勤め、社寺總代に立ち、亦推されて村會議員たること二回、全村民よりその人徳を讃へられてゐる。

當主一衛氏は彌三郎氏の長男にして、明治十三年九月二十七日の出生、嚴父の志を繼いで多々村治に盡し、さきに消防小頭として警火の任に就き、亦昭和二年より同十二年三月迄引き續き土木係として勤務、能くその職責を果し、現在選ばれて村會議員となつてゐる他、馬場森林組合長の衝に當つて大いに功績を擧げ、亦神社總代を勤めてゐる。氏は二十年勤

玉浦村

村會議員 沼田 勇治郎

當家は遠く孫右衛門氏が開祖であり、村の肝煎等をなし世話役として村民の崇仰措かざるものがあつた。當部落の孫右衛門堀は氏の功績を未だに物語り、村農事のために益してゐる。

嚴父勇吉氏は區長を十四年間勤め、篤實なる人として村長より表彰をうけた事がある。祖父元吉氏また村會議員であつた。代々農業を営む。

氏は勇吉氏の息にして明治十九年四月二十八日の出生である。陸軍補充兵として軍籍があつた。

曩に二期を通じて區長に就任、家屋税調査委員、玉浦出荷組合支部長を勤む。政黨は飽くまで中立、自警團長、戸主

會長、衛生副組長玉浦外一町二ヶ村耕地整理組合議員等を兼任、二期を通じて村會議員の要職を勤めながら尙保安村總代神社及菩提寺の總代等、殆ど關係せざるなく、十五年間衛生組合長、國勢調査委員として表彰及感謝状を受けてゐる。夫人ふゆ氏また愛國婦人會、國防婦人會の幹事にあり、子女七人の成育に心を盡しつゝ國防の事にも當つてゐる。二、三男既に大阪に在り、會社員として將來を囑望されてゐる。

高館村熊野堂

村會議員 吉田 彌四郎

明治二十年二月二日呱呱の聲をあげた



氏は、本年五十二歳を數ふる。氏の祖父林兵衛氏は戸

長をつとめ、永年村會議員として活躍し

續消防功勞者として消防協會より表彰されてゐる。

尙ほ氏の長男勝郎君は、宮城農學寮を卒へ現在秋保村役場書記を勤めてゐる。

て來た。更に初代助役として多くの功績を残し、明治四十二年村民に惜しまれながら逝去された。實父長左衛門氏も村治開拓に盡力され、當主彌四郎氏は父祖の意を繼ぎて村政に參與盡瘁すること永年に互つてゐる。今日に於ては村内有力者として、重要視され、村會議員三期目を繼續、更に産業組合監事として組合の發展に努力して來たが、そのみならず、消防幹事、郷倉組合役員、神社總代三期舟院總代四期等を兼任してゐる。氏は勤勉精勵を以て鳴り、加ふるに濃厚なる人物である。故に村政多數の要職に推されて、村民の信望の如何に厚いか推察されるのである。先には水利組合員を務めたこともある。

夫人ちどりさんは内助の功高く、溫雅を謳はれて居り、二男芳次郎氏は滿洲にて巡查を拜命、懸命努力されると聞く。

増田町

前町長 庄司 倉吉



當家の祖は代々當町に住し、現増田町が五軒屋敷と呼ばれた戸數僅かに五戸に過ぎなかつた

時代からある舊家にて、本家當主庄司益吉翁は明治大帝御巡幸の砌、御繕水を供したる由緒を有し、當倉吉氏は養子にして氏の實家の長之は前大河原町長として自治に功勞あり、町葬の禮を受けた人物である。

倉吉氏は明治九年七月生れ、當年六十三歳、嘗つて日露の戰役に出征奮戰せる勇士にて歸郷後は町政に携はり、町會議員一期、收入役二十年、その間、納稅組合、水利組合、赤十字婦人會、愛國婦人會等の基本財産の管理確立に多大の功績を残し、加ふるに明朗圓滿なる人格は、接する人をして親愛の情を起さしめ、町内の信望を一身にあつめてゐる。終に全

町一般の推薦を以て町長となり、専心町の發展と住民の福利増進とに貢献し來り名町長として讃えられた。町長引退後も町農會評議員、十二郷水利組合議員として盡瘁これ務めてゐる。氏の功績の數々は縣當局よりの表彰を受け、氏の關係する諸組合も皆目表彰を受けてゐる。狩獵、弓術を深く好み、豪放の氣風を愛で、古來日本魂の涵養に努めてゐる。長男光一氏は同町信用組合に勤務、將來を囑望せられて居り、他に四女の子福者である。

玉浦村二ノ倉

村會議員 菊地 捨太郎

氏は先代多七氏の息にして明治四年四月十日の出生である。八代目を繼いで農業を營む。當家はその農業に於て代々良好の收穫を齎し、自らなる農事の指導者として敬愛されてゐる。更に副業として養蠶をなし、この繭價の高低著しき際にも意外の利潤を収めてゐるといふ。

豫ねて出荷組合支部長、創立當時青年分團長となり、現在は、農事實行組合長養蠶實行組合長、自警團幹事、衛生幹事等に兼任、三十年以上神社若手、寺の世話人等を勤めてゐる。いよく加はる人望は氏をして更に村會議員の重責に推し村勢の興隆を偏に氏の敏腕に俟つものゝ如くである。政治に多大の關心を持ってども中立を持し、村治改革のために一言を有してゐる。從來の部落あらゆる方面に向つて統制をとり、納稅組合の組織及作業物建築の實現は長年の抱負にしてその實現に邁進してゐる。濃厚篤實にして清濁併せ呑む態度の度量大なる人、古稀に垂んとして益々圓熟敬ふべく親しむべき好人物である。夫人との間に三男三女の子福者にして長男勝郎氏は青年團役員たり、三男文夫氏は夫人は國防婦人會、愛國婦人會幹事として、一家を擧げて統後の盡忠報國の誠を致してゐる。



高館村熊野 村會議員 板垣 繁治 三百年来 代々水門 守を務めてゐた名 閥である 先代を儀

助氏と稱し、當主は明治元年四月十七日呱呱の聲をあげた。當年七十二歳の高齡である。氏の豪放眞摯なる資性は、高齡をも厭はず、現在種々の要職に就き活動してゐるは、稀にみるところにして、村民より敬仰長服され、當村の元老とされてゐる。顧みれば明治四十三年より實に三十年近き年月を村會議員として勤続され、更に自警團長、土木委員信用組合議員、神社總代を兼任してゐるなどその生涯を捧げの功績は、數回の表彰をうけ、全村の

感謝的となつてゐるところである。又圓滿なる人格は、内にありてもよき家庭人として團欒に満ちてゐるは氏の人格の反映する故であらう。

中田村四郎丸

前村長 故菅井 繁守



菅井敏守 氏は、眞 守氏長男 として文 久元年三 月二十八

日の出生、伴右衛門繁守と稱し、幼時漢學を治めて識見高く、早くより村政に就き、明治三十年郡役所に入つて勤続十七年の久しきに及び、大正三年全村の輿望を擔つて村長に就任せしもの、在任中の功績は枚擧に遑なく、一例として學校擴張、中田驛開設に盡力し、水利事業の完備、村財政の立直し等、當村を縣下の模

範村たらしめ、全國町村長會長より自治功勞者として表彰されしを初め、縣知事より自治功勞者、教育功勞者として夫々表彰を受け、亦日露戰役の折從軍して看護長たり、勳七等青色桐葉章を賜はるの光榮に浴してゐる。當主知守氏は、その男として明治二十一年九月二十七日の出生、一身を教育に捧げ、仙臺高等工業學校卒業の後、宇都宮農學校教諭となり、轉じて仙臺高等工業學校教諭、更に榮轉して甲府工業學校長に任ぜられ、教職に在ること前後十七年の久しきに及んで、昭和六年、後進に道を譲つて退職、郷里に戻つて悠々自適の餘生を送つてゐる。

尚ほ菅井家は由緒極めて深く、初代菅名備中守は源賴朝公に仕へて越後國柏浦（現在の柏崎）の領主たり、連綿として歴代系譜を残してゐる名門家である。

高館村吉田

村會議員 小林 太一

代々農を營み、また藍の製造を創め、先代は家業に精勵する傍ら、村政に參與し、村會議員、學務委員の要職に推され優れたる村政者として恰著されてゐる。當主太一氏は明治十二年生れ、本年丁度六十歳になるが、未だ壯盛として活躍してゐる。現在兼任されてゐる要職をあげると、産業組合理事、衛生委員、郷倉組合等にて、如何に氏が卓越の手腕と、人望を有してゐるかが推察されるのである。村政に、産業に、衛生にあらゆる方面にその發展と改良に盡し、自治功勞者として仰がれる當村の重鎮である。然して温良着實なる資性は、信望深まるところにて、家庭に於ても氏の人格の反映は、和氣霽々圓滿なる一家を形成してゐる。

玉浦村

前村長 高橋 忠太郎

大同年間當家祖先は當地に移住し來り

居を定め曹洞宗高林寺を建立した。四代



目以前迄は判明するもそれ以前は不詳にして代々農を

本位となしてゐる。實父彦左衛門氏は殊に篤農家として信望あつた人材である。

當主は明治四年六月十日出生當年六十八歳の高齡であるが、尙壯氣滿ち赫々たる精神にて老ひを省みず、小作調停委員として活躍してゐる。日露戦争後は兵事議會評議員として盡力して來たが前公職の主たるものを數ふると村會議員八期間に亙り、郡會議員、水利組合議員、土木委員、産業組合監事、學校建築委員、更に村長として多大の功績を残し、當村政上の重鎮として信望をうけてゐる。目下高林寺の改築に盡力し、本年末迄に完成の豫定である。嘗つて大正九年二十日國勢調査員に任せられ、その成績優秀であ

つた。たけよ夫人は國防婦人會、愛國婦人會員として銃後の活動し、夫人との間に二男一女あり、次男は北海道にて旺んに活躍しつつある。

愛島村

農地整理組合長

猪股直藏



本家猪股家は伊達藩の家中であり忠實なる藩士として聞えた家柄であつたかねて仙臺市に住

んでゐたが長策氏の時に當村に來り住んでゐる。先代乙松氏は本家より分れて五代目を繼ぐ。家業農を營んでいよく家運隆昌を期して精勵、村會議員、學務委員に推されて村政に參劃する所多かつた。

氏はその息にして明治十六年の出生である。會て日露の大戦に戰場に馳驅し、幾山河屍を越えての奮戦、よく武威の宣揚に盡す所あり、その功によつて勳八等を賜はつた。凱旋して歸るや三期を通じて助役、村長二期、養蠶組合長、蠶業組合長、消防組頭等の要職に推された。

温厚にして矻々匪勉の氏はよくその重責を果し、産業組合理事、村會議員二期、農會長三期に就任した。氏は常に産業の不振を嘆きその更生には細心の研究を怠らなかつた。種々考究協議の結果、耕地整理に當る事を決意し十八萬五千圓の起債を實行、進行に着手した。而してその組合長に推され、既に早害を除き、産額の漸増を來してゐる。村發展のために耕作に熱心なると共に自家の業にもまた改良あり、煙草を面積九丁歩の畑に栽培し、良成績を擧げてゐる。氏はまた選ばれて煙草耕作組合長でもある。政黨は嚴正中立、言語明晰、包容力豊かにして自ら指導者としての風容

を持してゐる。

高館村熊野堂

村會議員 川村善四

昭和十三年三月、氏は高館郵便局を創



設し、當村郵便業務の發展のために、極力勤めた功勞者であつた。

局長には長男一治氏が就任し、現非常時局下の通信機關の重要性に鑑み日夜その重責に盡瘁してゐる。一治氏は宮城農學校を卒業した有爲の青年である。若年なれど勤勉精勵してよく職を果し、村民の信望を得ると共に將來をいたく囑望さ

れてゐる。

當主善四氏は明治十八年五月六日出生本年五十四歳になる。現在村會議員二期目を務め、その他納稅組合長、自警團長社寺總代等を兼任し、尙ほ會て信用組合理事をなして來た。

資性篤實にして、俠氣に富める氏はよき村政者として名望高く、全村よりその人格を謳はれてゐる。家族は前記長男氏の外、長女一枝さん二女千枝子さんありて、恰歡溢れ、圓滿なる家庭を作つてゐる。高館郵便局は、村民の支持と信賴を得て、漸次發展を遂げるであらうと期待されてゐる。

閑上町高柳

増東軌道會社社長 閑上製氷會社専務

丹野甚助

當家は古き年代を遡り、千年以前より連綿として打ち續く舊家である。本町草莽の時より家あり、當町歴史の幾變遷は

また當家の歴史を物語る。兩者相俟つて



村の興隆史を彩り實に唇齒の如き觀があるといふも誇

大ではないであらう。されば國力發展の唯一の道として世に開墾の事を奨勵せられし大御心を拜し、その事に努め、農事の改良に盡し、自らの産を成すと共に、國家への寄與も亦大きいものがあつた。

先代外吉氏家業を勵みつゝ、區長を勤めた。氏は先代の息として、文久三年十月十六日の生れ、本年七十六歳である。會て二期を通じて區會議員、四期を通じて町會議員、更に町長の要職に就く。忽忙の身にあつて耕地整理委員、學務委員、縣農會議員、米検査委員、水利組合役員を歴任し、その功績は今に語られてゐる。即ち耕地整理の完成と十三萬八千

圓を以て川口堤の完成を見たのは實に氏の技能負ふ所が多いとされてゐる。學校の建設、築山の完成に盡力したるはまた有名である。

今閉上製氷株式會社に關係し、事務として社苦難の道を開拓す。四萬五千圓の借財を負ひて其打開を謀り、經營方針を改善した。その苦心空しからず漸次稟を擧げ、負債を整理したのみでなく、年々五千圓以上の利益を見るに至つた。更に、増乗軌道株式會社亦氏の敏腕に逢つて、會ての赤字の苦境を昔語りにしてゐる。

理財の道に長じたる氏はまた齊家の徳あり、温厚にして町民の徳望厚く、國勢調査委員、赤十字社終身社員、國防婦人會、愛國婦人會等の幹事をも勤めて居り自治五十周年記念の表彰を受けたるも亦定なるかなである。門續宗を信仰す。令孫爲男氏二十三歳、師範學校卒業後丸妻小學校の訓導を奉職し前途を囑望されてゐる有爲の青年である。

秋保村境野

信用組合長 須藤 圓藏

當家は代々農業を家業とせる家にして



氏は先代清七氏の長男として、明治十年十月十三日に

生る。

氏は三十一歳の頃、村役場書記に就任し、九年間、その業務に精勵し、當時の郡長より秋保職工學校會計係を命ぜられ奉職せること五年間にして、又村役場書記に再任された。

昭和三年、當村に信用組合創立されるや、如何なることにも驚かぬ膽力と恭謹博賢振りを買はれて専務理事に推擧され氏も亦非常なる抱負を以て乘し、時機を洞察して、よく策を定め、組合の強化に多大の貢献をなせるため、昭和八年一

月には組合長に就任し、以來現職に止まりて今日に至る。組合の今日の如き健全なる發展を來せしは一に氏の盡力の賜である。

現在は金錢債務調停委員、小作爭議調停委員、宮城縣中部養蠶業組合副組合長村會議員二期、養蠶實行組合長の要職にありて、村民の爲に盡力をなしてゐる。氏は佛敎に對しては深き信仰心を抱ける篤志家にして、檀家總代をなしてをる外、氏子總代をも兼務してゐる。

高館村川上

村會議員 佐伯 熊藏

當家は土地の舊家にして、當主熊藏氏は明治十四年十月十四日の出生、性格實にして社會奉仕の念強く、献身犠牲の精神厚く、夙より村政に參與して、大に努める處あり、その數々の業績は、廣く村民敬仰の的となつてゐる。

氏は現在村會議員として、村の福祉に多大の寄與をなしてゐる他、村内に組織

されてゐる。自警團の委員兼副團長として、能く村内警護の衝に當り、衛生組合理長として、村民の健康保全に力を致し、農會總代、郷倉組合評議員等として、産業に資する點點しとせず、亦長町青物市場總代として村民の利便を圖り、信用組合長の重職を勤め、その他、川上區戸主會長、社寺總代等、各方面の要職に就いてゐる。

秋保村

區長 菅原 今朝藏



先代甚平氏は、郡役所書記を永らく奉職せる人で、農務委員に就任して、村童の訓育に意を

注ぎ、その村教育界に残せる功績は甚大なるものであり、村會議員に推擧され稜々たる奇骨ある人物として議員中に尊敬

されし人である。氏は村長に就任するや道路の開發を圖りて、身を挺して、事業に當り、植林奨励事業を起して、村民の繁榮を願ひ、村政に多大の貢献をなし、名村長として、令名を誦はれ、縣知事より自治功勞者として表彰を受けしこともある。現在は村内の長老として、悠々たる生活を送り、後進の指導に當つてゐる

當主は、文久三年一月十七日の生れ、嚴父より明敏なる頭腦を受け繼ぎ、夙くより聰明さを發揮し、大正十二年より區長を務めること四期、養蠶實行組合長、第三區戸長會長、郷倉組合長、衛生組合幹事等に就任して、村民の爲に盡力してゐる。氏子總代、檀家總代をも兼ね、崇神の念深き人である。

家族は養子長三郎氏に武雄利雄の二氏あり武雄氏は役場の書記を勤め、利雄氏は三等機關兵曹である。

中田村

元村會議員 阿部 亮兒

氏の長男一亮氏は、山口縣商業學校に奉職して居り、二男軍治氏は農學校卒業後、ビール會社に勤務、三男正治氏は高等工業を卒へ、海軍に關係して居るなど令息氏みな揃つて優秀なる社會人として活躍してゐるは、まことに前途の多幸が思はれて、氏の喜びや如何許りと村内の羨望を背負つてゐる。氏は長年、村會議員を務め、又郡役所に勤務するなど、種々盡力して來たが、今は六十七歳の高齢にて、すべての公職を退きて後進の道を開き、令息達の將來を楽しみに悠々靜穩の朝夕を送つてゐる。

當家は屈指の名望家にて、苗字帯刀の家柄である。實父倉治氏は戸長を務め、明治二十五年村會議員に當選し、更に同三十五年には村長に就任、その間役場の新築をなし、日露戰爭當時の村長として勳七等青色桐葉章を賜り、その他郡會議員を二回務めたこともある。

當主はその二男として生れ、日露戰爭に従軍、勳七等に叙され、父子二代共叙

勳の名譽を有してゐる、尙夫人みちなさ
んは、愛國婦人會員として活動し、その
功を賞されてゐる。

高館村熊野堂

熊野堂區長 小林 太吉



日露の戦役に應召した氏は、軍曹の兵
籍にあり
各地の奮
戦の殊勳
によつて
勳七等青
色桐葉章

を賜りたる勇士である。氏は在營中射撃
の達人として名聲を博した。歸郷後は村
政に盡力し、村治發展と、村民の福祉増
進に、現在に至るまで多くの業績を残し
て來た。

村會議員二期間、軍人分會長をつとめ
又現在熊野堂區長として二十五年間の勤
績に及んでゐる。その他自警團長、郷倉
副組合長、衛生幹事等を兼任してゐる。

永年區長として、村民の福祉にひたすら
已れを捨てて努めて來た氏に、村民は慈
父に對する如き尊敬と親愛とを以て、何
事も相談を求めて解決を仰ぐの、圓滿な
る當村の風景である。

氏は明治九年十二月二十一日此の世に
生をうけ、當年六十三歳になる。資性溫
厚、篤實、慈愛深き人情區長として名望
を得てゐるも、氏に接すればうなづける
ことである。高齡を厭はず、旺盛の活動
を続け、生涯を村發展の爲に捧げんとし
てゐる。

當家は開祖の記なく不詳なれども、村
内の舊家として聞えて居り、代々篤農家
である。氏の實父は丑太郎氏と稱し、村
治に功勞あつた人である。家庭は常に和
氣満ち、恰歡溢るる一家をなしてゐる。

秋保村馬場

馬場區長 二瓶 喜助

氏の實父和吉氏は偉大なる自治功勞者
であつた。三十四年間に亘り、村會議員

を勤績し、又學務委員、區長の職をも歴



任、その
間道路改
修、架橋
完成等に
多大の盡
力をされ

た功に依つて、銀杯、金杯を贈られ、又
自治功勞者、教育功勞者として縣知事よ
り再度表彰されるなど、數多の名譽を有
し、全村民より氏亡き今日まで尙敬慕を
以て俾はれてゐる。

當主はその長男として明治七年此の世
に生をうけ、六十五歳の現在、壯々とし
て村勢發展に盡力區長、方面委員、衛生
組合幹事を兼任、多方面に氏の足跡歴然
と印されてゐる。

令弟久氏は東北大學工科卒業後、朝鮮
高工の教諭の職にあり、更に孝一氏は官
城師範、栗原農學校に教鞭をとつてゐる
など、一家ことごとく有爲の人物として
活動してゐるのは、當家の誇りたるのみ

ならず、全村より信望と敬仰をよせられ
るところである。

秋保村

元郡會議員 佐藤 勳三郎



元村長勳
三郎氏の
男として
明治十年
三月十三
日に生れ

氏は秋保温泉佐勘旅館の當主である。

日露戦役に際して名譽ある召集を受け、
勇戦征途に就いて武勳高く、凱旋の後に
從七位勳六等功七級金鷄勳章を賜はるの
榮に浴してゐる。

郷里に在つてはまた、地方の自治に獻
身し、さきに擧げられて郡會議員たりし
ことあり、村會議員に選出されて引き續
き在職すること實に三十二年の久しきに
及び、また學務委員として二十五年の永
きを勤め、いづれも現在その任にあり、

他に湯元郵便局長として通信事業に携は
ることこれ亦三十年、秋保電軌に關係し
て重役に推されてゐる。その間、功績尠
しとしないが、殊に兒童の教育に深甚の
考慮を拂ひ、當村小學校の無缺席兒童に
獎勵賞として連年四五十冊に及ぶ辭典を
寄附してをり、亦奉安殿建設に當つては
盡力する處頗る大きく、その他、當村の
治政教育に多々貢獻してゐる。

秋保温泉

氏の經營に係はる秋保
温泉は、その沿革舊く
極めて深き由緒あり、

遡つて人皇第三十代欽明帝ましませし頃
小創を患はせ給ふて醫藥悉く効なく、群
臣擧つて悲嘆に暮れし時、さる人の奏聞
を聽きて當温泉を汲み取らせ給ひ、御入
浴あらせられし處、靈効あらはれて忽ち
御全癒遊ばれ、長くも御製の和歌を賜は
つて名取の御湯と名づけ、日本三御湯の
一として全國津々浦々に聞え互つてゐる
その他にも數々の湯歴あり、繁盛よく今
日に續いてゐる名湯である。

近在に源義經の假館を置いた小館屋趾
を始め、名勝舊蹟多く、秋保電車の便が
ある。

岩沼町朝日山

大東山法要寺

約三百八十年の昔、天正元年三月伊達
正宗公に依つて創立、開山は福島縣後加
見川長祿六世にして、東奥行脚の際、伊
達家の歸依を受け、元天臺宗の荒廢せし
を再興、明治維新に至つたものである。
伊達家より黒印三十五石を受け、寛文十
三年(二百八十年)前當寺中興の開基た
る古内氏、宮城郡根の白石城主より當地
に轉じ、その菩提寺となつた。

總本寺は神奈川縣鶴見の總持寺である
享保年間の火災にて寶物失はれ、大改築
されたが再度暴風雨に遭ひて、崩倒現在
は假寺である。

寺の北方に觀音崎から移した石動聖觀
音あり、一寸八分の金にて、種々傳説あ
れど作者不明、參詣者甚だ多い。竹駒神

社と並び、當町の最古由緒深き寺である

住職

氏家大隆

氏は栃木縣鹿沼町の松原寺より當寺



より既に十七年間現任職として専心布教、德行を重ねてゐる。尙現在宮城縣第二曹洞宗務所長をも務めてゐる。家族十人、長男隆芳氏は駒澤大學卒業の英才であるが、目下近衛聯隊に入營中である

秋保村長袋

元助 役大元源七

當家は村内屈指の舊家名門である。先祖は大元美濃と稱し、伊達家の「御炭焼」として切米三十兩を拜領、苗字帯刀、馬



當町長の記事は一〇四頁にある。

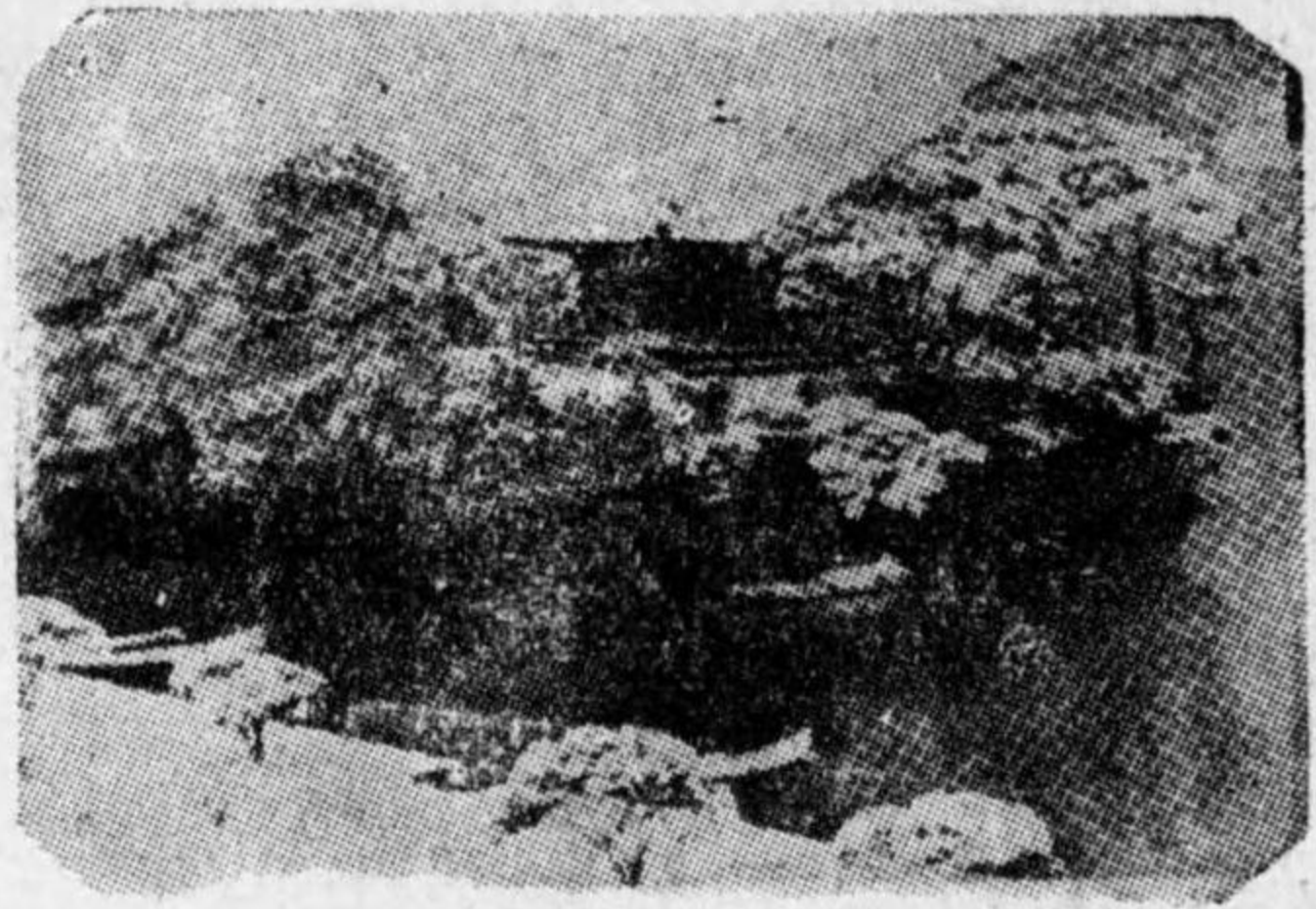
氏を賞め讃へぬはない。

又古く養嗣子として啓四郎氏を迎ふ。令孫通氏宮城縣農學校畜産科を卒業、在學時代より首席を争ふ程の秀才、大日本農學協會より表彰さる。目下東京高等獸醫學校に在學中。

萱場閑上町長

宮城郡

本郡は陸前國の中部にあり、北は加美郡、黒川郡及び志田郡に境し、東は松島灣を抱いて仙臺灣にのぞみ、一部は桃生郡に接し、南は名取郡に隣り、西は山形縣の北村山郡に境する。



松島五島大の堂雪の景

なつて東に流れ、前者は名取郡に入り、

の西郡部の山岳重疊し、その間の水は廣瀬川、七背川と後者は直ちに海に流入する。鐵道は東北本線が郡の東部を通り、岩切より鹽釜線を派出し、仙山本線は仙臺驛より岐れて西部の山地に進み、その北仙臺驛よりは私線の仙臺鐵道線が分れて陸羽本線と連絡する。その他仙臺、石巻間を連ぬる宮城電氣鐵道線の電車があり松島驛よりの松島電車もある。明治十三年、本郡及び名取郡の中から仙臺區が置かれ、これが明治二十二年四月には仙臺市となつた。現在、郡内の人口は約九萬二千五百である。多賀城址は、往昔陸奥の國府を置かれた遺跡として著聞し、その他、鹽釜神社野田の玉川、日本三景の一たる松島、作並温泉、同スキー場、船形山、定義温泉、定義如來、泉ヶ嶽、花卷温泉、肩掛山、燕澤の碑、蒲生海水浴場、正平親王の御墓、多賀城址、壺碑、多聞山、菖蒲田海

水浴場等の名勝舊蹟がある。

鹽釜町

本町は郡の東端に位し、西南北の三方は峰巒に圍繞され、西南方は多賀城村、北は利府村に接し、東方は鹽釜灣にのぞみ、灣口の外遙かに牡鹿半島及び金華山の靈峰を望見することが出来る。人口二萬四千百餘を算し、面積は〇・八方里に及ぶ。

人皇四十五代聖武天皇の頃、國府を置かれ、鹽釜神社を守護神となすに至りしため、附近一帯は大いに段賑を極め、鹽釜は國府の津に當りし故、國府津と呼ばれ、陸奥國一帯の鹽の供給地であつた關係上、鹽取引の市を鳥井原に開き、諸國商人の來往しげく、千家の浦または國府津千軒などと呼ばれた。明治維新後、一時荒廢漁村に凋落したが、産業の勃興、交通機關の變改、築港の業成ると共に再び昔時に勝る盛況を回復し、世界有数の漁場たる金華山沖を眼前に控へ、その根

據地として盛運更に倍加せんとするの趨勢を示してゐる。

松島町

仙臺を東に走つて多賀城に壺の碑を訪ひ、次に鹽釜神社に詣で、その埠頭に立てば松島の絶景は眼前に展開される。松島は古來詩にも歌にもうたはれ、繪に畫かれた名勝で、日本三景の一なるは萬人周知のところ、廣袤六方里、海岸線七里、松島灣の内外に基布せる百餘の島嶼及び灣岸の勝景は、容易に筆舌につくしがたく、仙臺地方の青葉山、八木山一帯と同じ高臺が河流の浸蝕により樹枝状の谷に貫かれ、多くの斷層と地盤の撓曲とによつて沈降し、こゝに海水を迎へ、内海となり、峯巒は長岬となり、百餘島を浮べるに至つたと説かれる。瑞嚴寺、パークホテルなどあり、東北本線もこゝを通つて松島驛を置き、宮城電鐵、松島電車その他自動車、汽船など交通機關は完備してゐる。

根白石村

本村は仙臺市の西北方に接し、東西四里、南北二里、村内は概して山地多く、東南部に僅かの平地を見るのみである。東は七北田村に接し、北は黒川郡と境する。刈田郡の白石町と判別せんがために根白石と呼び、その昔、源頼朝が東征の時、泉嶽の下を過ぎるに、河邊に白石多く、こゝに少憩せしよる。後人この地を泉嶽の根の白石と呼ぶに至つたといふ。根白石嶽は火山の一である。

面積六・八一方里、戸數七百四十、人口五千五百餘をかぞへる。仙臺鐵道七北田驛より二里半、陸羽街道は村内を南北に貫通する。曹洞宗興禪院、同大満寺、同東泉寺、同満興寺、同見松寺、同林泉寺、眞宗西照寺、天台宗松岩寺、同大性院、臨濟宗永安寺等の靈刹がある。

七北田村

仙臺市の北方に接し、七北田川は村内

を東流し、沿岸に平地多く、南と北とは

山地をなす。南は黒川郡に、東は岩切村に隣接する。七北田、上谷刈、古内、野村、市名坂、松森、北根、荒卷等の部落より成り、東西二里、南北二里にして面積二・八八方里に及び、人口は四千八百人を數へる。

村内名勝に肩掛山、三本松、寺坂吉右衛門の墓、花卷温泉などあり、社寺には加茂神社、慈眼寺、實相寺、淨満寺、洞雲寺、柳澤寺、善正寺がある。洞雲寺は曹洞宗の名刹として聞え、俗に山寺と稱され、明治初年 明治天皇東巡の際、こゝに駐まり給ふた。仙臺鐵道に沿ひ、村内に數驛を置き、交通は至便である。

岩切村

本村は仙臺市の東北に接し、東北本線岩切驛ありて鹽釜館の分岐點にあたる。このあたりが即ち奥の細道で、出典は續後選集の

跡絶えぬ誰に問はましみちのくの

おもひ信夫 奥の細道

なる歌であらうといふ。同國雜記に

宮城野を打通り、奥の細道、松本、もろなか、赤沼、西行歸りなどいふ所々を打過ぎて松島に至りぬ

とあり、岩切には歴史上にも地理上にも種々の資料がある。

村は東西・南北各一里にして、一〇〇五方里の面積あり、戸數七百八十、人口約五千をかぞへる。岩切城址、千人塚、燕澤の碑等の名勝あり、郷社青麻神社、同八坂神社、耕田寺、善應寺、東光寺、等の社寺を有す。

高砂村

本村は仙臺市の東郊にして、南は宮城野につらなり、東は太平洋にのぞみ、北は多賀城村に接してゐる。

あまたたび君が心をみちのくの

多湖の浦島うらみうそぶる

(夫木集)

宮城野をみやこの巖岬は花もなし

(守田)

これらはみな本村附近の景にかこつて詠んだものである。宮城電鐵の沿線にして陸前高砂驛あり、村は福室、田子、岡田、蒲生、中野等の諸字より成り、東西、南北各二里、面積一・九四方里にして、人口約八千四百人である。生産年額は六十萬圓を越え、農産が第一位にして五十五萬圓、これに次いで工業・水産で共に約三萬圓程度である。また村には正平親王の墓、蒲生海水浴場、草堀などの名勝がある。

多賀城村

本村は郡の東部、鹽釜町の南に位し、東北部は鹽釜灣にのぞみ、東は石巻灣に面して山地をなし、他は平坦である。東西二里、南北一里、面積一・三三方里にして人口六千五百人をかぞへる。

人皇四十五代聖武天皇の御宇、本村市川に鎮府社を建置し、これを東奥拓殖の

策源地たらしめ、當時東奥第一の段賊地であつた。天平寶字六年藤原惠美は多賀

城を修造し、多賀城碑を建立した。延暦十年坂上田村麻呂來る。同二十一年田村麻呂は膽澤城を築いて鎮守府を移し、多賀國府と稱した。寛治三年、後三年の役に源義家は多賀城に據り、文治三年源頼朝が藤原泰衡征伐の時もこゝに陣した。その後百六十餘年を経て、正平七年に大崎家兼が奥州探題として加美郡に居を定めたるを以て多賀國府は完全に廢止された。多賀城址は今も残り、この他に末の松山壺碑などの舊蹟がある。

七ヶ濱村

本村は松島灣の南を扼する半島上に位し、東西南の三方は海に面し、村内は丘陵と平地が相半ばし、海上は松島灣の一部をなし、馬放島その他十數島が散在する。面積〇・八一方里にして、戸數千二百有餘、人口約七千八百五十人を算し、村内には松島四大觀の一にして風景絶佳

なる多聞山、外人の別荘五十餘戸を有するサムマールゾート高山、東北に於ける海水浴場の濫觴をなしたる葛蒲田海水浴場等の名勝があり、寺院には葦航寺、金剛寺、同性寺、鳳壽庵、養松庵などがある。生産年額は約五十萬圓にのぼり、水農十四萬五千圓、水産三十三萬圓が主なるもので、工業は微々たるものである。また海上は船により交通至便だが、陸上は最も近い鹽釜線鹽釜驛でさへ一里もあり不便である。

根白石村

根白石消防組

明治二十五年三月本村根白石區に防衛組を設置して組員五十名を擁したのが同消防組の創りである。現在唧筒數十二臺を數へ、木造火の見梯子十四、鐵骨火の見櫓二つ、同附近の安穩を維持して萬全その職を果してゐるが、火災豫防の爲めには、組員各自が部落戸數を分擔受持つて區域を定め、毎月一回乃至一回の火災

豫防の注意巡視をして、各々門口に貼りつけてある巡視表に月日を記入して捺印をする。

且つ村内一齊に春秋一回、夏期には隔目に一回、各戸の籠を檢査して防火宣傳ビラを配付し、その受持戸數は消防手一名に五戸乃至は十戸、小頭はその消防手を約八名から十名監督するが、その各自の至、勉勵は役柄とは云ひ日夜兼行の努力を爲して、勤務中は絶対禁酒勵行、又組員選抜に際しては、本村の居住者にして戸主又は一家の相續者の内品行方正の強健なる二十一歳以上の者を選抜することに大正十三年以來決定してゐる。組員の分擔は唧筒係、防火係、破壊消防係とし、不幸出火に見舞はれた際には敏活果斷よくこれを僅少なる損害に食ひ止め、爲めに縣知事始め各方面より表彰されたことも枚擧に遑なく、又春秋二期の演習を行つて、普段の訓練を計り、他村に範たる防火機關として村民の長敬をあつめてゐる。

又敬神の念も篤く、村内各神社に組員一同参拜して村内安全鎮火祈禱祭を施行するなど、只單なる防火團體としてでなく精神修養にも青年の意氣をこめ、それをよく指導する組頭は鷲尾貞藏氏、鷲尾榮治郎氏を経て、現在は川島富五郎氏。氏は嘗て現在の宮城銀行根白石出張所主任及び冠川電氣株式會社支配人を歴任した事があり、事業家としても非凡なる才を持つ剛毅果斷の人である。

鹽釜町

縣會議員 栗野 豊助

栗野豊助氏は明治二十四年六月二十七日呱呱の聲をあげた。現在四十八歳の壯氣溢れてゐる青年紳士である。

夙に町政に參與、氏は實に卓越の手腕と識見、力量とを有するを以て治著されて居り、その業績は灼鑠として當町發展史上に残つてゐる。

氏の携はつてゐる名、公職をあげると縣會議員第二期目、國民構神總動員實行

委員會委員、宮城縣自動車協會副會長、同聯合獵友副會長、同觀光協會顧問、同海外協會幹事、同松島保勝會會員、同自動車協會支部顧問、帝國軍人後援會宮城支部商議員、東北ヨット協會副會長、日本船員救濟會鹽釜支部評議員、高砂村消防組合顧問、宮城郡公認牛馬商組合長、公認松島灣モーターボート組合長、郡理容組合顧問、鹽釜商親會顧問等にて實に當町の最重鎮たる貫祿を示してゐる。

會では町會議員、學務委員、財産委員町教育會評議員、商工會特別委員、鹽釜北部軍人分會顧問、鹽釜信用組合理事、株式會社港組取締役、同鹽釜仲仕組常務取締役、同北海商會監査役等を就任して來た。

氏の功勞は枚擧に遑なく、昭和四年には公共事業功勞者として、時事新報社より表彰され、淺野總一郎氏より「努力」の額を受けた名譽の人である。加ふるに氏は精悍なる上に勤勉よく勤め、また人を容れる度量とを有し、全町の信望と敬

慕の的となつてゐるも、未だ若き氏の前途には益々洋々たる世界が拓かれるのであらうと期待され、矚目已まざるところである。

岩切村

岩切村長 永野 榮一



先代勇吉氏

當村切つての素封家たる當家は、六代連綿と續いた家柄である。代々村治に盡力をなし、實父勇吉氏は縣會議員に當選すること二回、その他初代村長、郡會議員、村會議員等を歴任し、種々功勞を遺した人物であつた。

當主は明治十三年十一月十五日出生、本年五十九歳になる。日露戰役に出征しその殊勳赫々たるものあり、勳七等に叙され輜兵曹長の軍籍にある。歸郷後は村



信望を擔つて村長に推され、尙ほ産業組合創立當時より

政に盡力することを一方ならず、全村の發展に、組合の振興に、村民の福祉増進に、己れを省みず努力せる人である。當村今日をなせる蔭には氏の努力が多大に與るところがあり、農村の恩人として敬慕されるも、亦當然のことである。尙ほ夫人は愛國、國防兩婦人會の會長に推され、地方婦人を動員指導し、時局下の農村の護りを固めんとして活動し、又家庭婦人としても内助の功高い。夫妻の間には二男二女あり、長男龍男氏は、宮城縣農學校出身後、自宅にあつて、家業に精勵してゐる。愛孫あり、平和圓滿なる一家として附近羨望の的になつてゐる。

岩切村

岩切村助役 日野 清九郎
村會議員



日野家は土地の豪家にして、代々の人皆公共に盡し、能く徳望を治めてゐる。

清九郎

氏は明治三十二年の出生、資性質實にして謙恭の心深く、常に深遠の抱負を持ちてその實現に献身の力を致してゐる。即ち農會長を勤めて村内産業の振興興隆に其大の寄與をなし、選ばれて村會議員に立つてはよくその經倫を行ひ、別けても村助役の重職に推されては、好個の輔佐たり、村長を助けて充分なる力量を發揮し、村の福祉を圖る處頗る大きいものがある。然して氏の明察敏腕なる。また機を捉ふるに巧みなる、少壯有爲の政治家として漸く大をなさんとしてゐる。村民

の信望また極めて多きものあり、廣く徳を治めてゐる。

氏の家庭は終日和氣霽々として近隣より羨まれるまどろをなしてをり、夫人との琴瑟頗る相和し、三男一女を擧げてゐる。長男を清松君とし、既に十八歳に達してまた父君の志を繼がんとしてをり、その他次男(十四歳)及び三男あり、いづれも洋々たる前途を期待されてゐる。

多賀城村西神

多賀城村長 小野 清吉
勤七等



連綿當主清吉氏をもつて八代目を重ねる小野家は、信望厚き舊家として又村是村礎に代々貢

獻莫大なる家柄として村内に響き渡つてゐる。就中先代善右衛門氏は長く村會議員に籍を置き、後ち選ばれて村長の重責

に就任したが、その間一身を捧げて村治の爲めに寧日なき努力を盡し、更に郡會議員に就任しては、郡會議員廢止まで連續、その職責を果した功勞者である。

當主清吉氏は明治三年三月三日その先代の血を受け繼いで呱呱を擧げたが、資性活潑、長ずるに及んで軍籍に身を置き日清日露の兩役には看護長として出征しよく衛生班としての職務を完うし、爲めに勤七等の叙勳に輝く名譽の傑材である。嘗ては鹽釜町役場の収入役を勤めたこともあり、又當村の助としてもよく勉勵して村民の良き相談相手となつたが、後ち村民一致の推薦をうけて村會議員に就任し、五期の永きに亘つて數々の功績を残したが、更に現在は村長として村の治安向上をその双肩に擔つてゐる。

篤實温厚の仁として村衆の信頼を一身にあつめてゐることは當然であるが、この村の長老を慰めるものに、その家庭の團樂が、いつも氏の繁忙に疲れた躰を働はるべく待つてゐる。家族は長男久藏氏

岩切村

村會議員 阿部 長松
前助役



當家は土地の舊家にして、代々の人物皆公共の心厚く、村政に盡して廣く村民の讚仰する處

となつてゐる。家業として久しく醬油醸造に従ひ、品質優良にして販路ひらけ、能く現在の産を築いて今日に至る。他に米穀、肥料等を仲介し、村民の利便を圖る處が多い。

長松氏は明治二十一年九月二十日の生れ、資性穩健篤厚にして公共に献身するの心深く、早くより村政に盡瘁して人望あり、選ばれて村會議員たること既に四度、現在尙ほその第四期目にあり、村の福祉を圖ること極めて多くして、その間村助役に任ぜられ、村長を補佐して功を

鹽釜町

町會議長 小野彦左衛門
信用組合長



氏は明治三十二年廻漕業を初め、船具商を営んでゐるが

鹽釜驛開設されると同時に鐵道運送業を開業、以來當町發展の秩序となるところがあつた。昭和二年に至り鹽釜合同

運送株式會社を組織し、その社長として人望を得、卓越の手腕と力量は衆のよく認めるところである。

更に鹽釜倉庫株式會社社長を兼ね、又町政者としても種々の功績を残してゐる。永年町政に參與して町會議員を勤續して來たが、終に其の功勞は全町の支持を得て、現在町會議員三十名の議長の要職にあるが、そは功績のみならず、俠氣に富める寛大なる人格に衆の敬慕し來れるところにも依るであらう。尙ほ氏は信用組合長を兼任、前商工會頭を勤めてゐたことがある。

明治九年二月に生をうけた當年六十三歳の氏は、生涯を町發展の爲に捧げて來ただけに、今尙壯氣溢れ、壯者を凌ぐ元氣を有してゐるも宜なる哉である。

長男彦八氏は、商業學校卒業後、父君の家業を助け、現に合同運送の會計主任を勤めてゐる。非常に前途を有望視され期待されてゐる。温厚篤實、また明朗な青年である。

致す處からず、その手腕を讃へられてゐる。

家族は母堂を初め、夫人との間に子女があり、霽々として和氣溢るゝ家庭をなしてゐる。その他家に數人の雇人を置き情厚く遇してゐる。

因に長男新治氏は出でて東京に赴き、木下醸所にあつて致々として研鑽を積み新知識を得て歸郷、製品の改良に努めてゐる。又息女は仙臺市に居住する陸軍軍醫中尉の許に嫁いでゐる。

氏はまた信仰の心極めて篤く、曹洞宗に歸依してゐる。

高砂村蒲生

村會議員 遠藤 秀吾

氏は日清、日露戰役に出征、曠漠たる北支、滿洲の野に幾轉戰、燦たる武勳を樹て勳七等に叙せられ、砲兵曹長に累進した老勇士である。明治四年九月一日の出生、薄幸幼にして實父を喪ひ、永年區長の要職に在り、村治に多大の功勞あり

し祖父林之丞氏に保育せられた。



豪放磊落、明朗にて人情に厚い。氏は正義感を以て

一生を終始せんとする眞摯な人格者であつて、郷黨の信望を擔ひ、推されて多年在郷軍人分會長として郷軍の第一線に活躍して來たが、少壯三十四歳より村會議員として三十數年目、一期固辭して其職を退きし外、現在に至るまで連續就任し村治、産業の向上發展に貢献裨益せる處甚大にして、自治五十周年記念に、自治功勞者として表彰せられ、長老として全村民に畏敬せられてゐる。其間自警團顧問、學務委員にも就任、現在學務委員を兼任しつゝある。又氏は郡制廢止直前の郡會議員にして、二期當選の榮を得た。氏は二男三女を得たが、不幸長子を十七歳にして喪つて、家督は長孫林之丞氏

に譲られたのであるが、現在宮城農學校在學中の俊才であつて、明朗快活將來を囑望せられる好青年である。

岩切 村

村會議員 三浦 篤五郎



三浦家は土地の舊家にして、遠き先祖は某藩に士分として武の聞え高かつたが、現在家系譜

紛失のため、詳かにすることを得ない。歸農してより代々の人皆公共犠牲の精神厚く、村政に種々寄與して、村民の崇敬を受けてゐる。當主篤五郎氏は明治十五年二月十六日の生れ、性潤達にして快朗、明敏な頭腦と適切な手腕とを以て幼時より知られ、長するに及んで鬱勃たる雄圖抑へ難く、郷里を出て東京に赴き、帝都に於いて奮

闘努力、成功して政界及び財界に種々活躍中であつたが、中年に至つて驟然悟る處あり、意を決して歸村せる立志傳中の人物である。

郷里に歸つて後は、一身を村内の自治に捧げ、その潔白なる人格と明敏なる手腕とを以て村民の人望自ら集まり、村會議員に選ばれて村の福祉を圖ること極めて甚大であり、又消防組頭に赴任しては能く警火の任を盡して些かの遺憾なく、現在尙、その職に在つて努力中である。尙、氏は帝都に於て産をなし、今日村

内屈指の資産家となつてゐる。

氏は又曹洞宗に歸依して信仰篤く、夫妻間に子が恵まれざるも、琴瑟相和して平和な家庭である。

高砂村福室

村會議員 淺野 深治

氏は明治二十八年八月八日の出生、資性篤實にして早くより献身犠牲の精神強く、弱年十九歳より消防方面に關係、長

く警火の任に當つて功多く、引き続き現在に至り



目下消防組頭を勤める他、産業組合理事を委

ねられて當地方の産業方面に資する處甚大なるものあり、舉げられて村會議員たること二回、現在その二期目にあつて、益々村治に盡瘁し、廣く村民の信頼を受けてゐる。

氏の先代喜右衛門氏も亦、村治に一生を捧げ、同じく村會議員に選ばれて種々寄與する點多く、その長男として生を享けた當主深治氏と合はせて、父子代に亘る獻身は、以て範とされてゐる。

因に淺野家は土地の舊家にして、先代喜右衛門氏に至り、分家したものである家庭にあつて氏の夫人は國防婦人會役員として、今次の日支事變に際し、銃後授護に種々奔走、出征家族の世話等に當

つて甚大に感謝を受けてゐる。尙ほ長男忠藏君(二十三)歳は、仙臺一中出身、目下入營して仙臺聯隊に輜重少尉たり、また長女のぶ子さんは仙臺常盤木高等女學校専攻科出身の才媛である。深治氏はまた各方面に興味深く、殊に菊作りにかけては天稟の才能あり、獵銃にも多大の手腕がある。

根白石村

産業組合長 樋渡 幸三郎



當家は土地屈指の素封家にして、代々酒造を以て業とし數種の酒を醸造してゐるがその内代

表的のものを「千代日の出」とし、品質極めて良醇、各方面の博覽會及び品評會等に出品して、多數の名譽賞狀を受領してゐる。

幸三郎氏は明治元年に生れ、資性篤厚
温順、意志鞏固にして責任感鋭く、公
共献身の精神に富み、有爲の士として廣
く聲名を馳せてゐる。

氏はさまに日清戦役に名譽ある召集を
受け、勇躍征途に就いて赫々の武功を樹
て、凱旋の後勲八等に叙せられてゐる。
郷に歸つて以來も治政に多大の寄與をな
し、當町未だ村たるの折、村會議員に選
ばれること七回、明治四十五年推されて
村長となり大正九年まで在任、その間數
々の功績を爲し郡會議員に擧げられた。
また縣會議員に立つこと二度、縣山林評
議員、仙臺稅務署土地賃賃價格調査、家
屋調査各委員等を拜命してゐる。尙ほ大
正四年村産業組合を設立し、爾來引き續
き組合長として今日に至つてゐる。
右の如き氏の業績は、村民の深く崇敬
する處となり、昭和十二年四月二十四日
本村滿興寺境内に氏の銅像及び頌徳碑の
建立を見て、後世久しく氏の徳を讃へん
としてゐる。

高砂村蒲生

産業組合長 遠藤音右衛門
前村長



氏は遡つて元治元年十月十日の出生である。資性篤實にして識見高く、今日に至るまで村に盡せし功績頗る甚大、即ち花淵源吉氏の村長當時村助役を勤めてその職責を完うし、村會議員に選出され、大正七年二十二日推されて村長に就任、爾來引續き在任すること三期十二年の久しきに及び、大に村内の利福を圖る處があつた。その一端を記述すれば、村内の三小學校に夫々高等科を設置し、村道を改修して縣道とし、高砂橋架橋に際しては、殊に献身の勞を盡し、その建設費用四萬數千圓の内、縣より半

二日の出生である。資性篤實にして識見高く、今日に至るまで村に盡せし功績頗る甚大、即ち花淵源吉氏の村長當時村助役を勤めてその職責を完うし、村會議員に選出され、大正七年二十二日推されて村長に就任、爾來引續き在任すること三期十二年の久しきに及び、大に村内の利福を圖る處があつた。その一端を記述すれば、村内の三小學校に夫々高等科を設置し、村道を改修して縣道とし、高砂橋架橋に際しては、殊に献身の勞を盡し、その建設費用四萬數千圓の内、縣より半

額の補助を受けるに至つた。氏は尙ほ村長の職を退いて後も、村内の産業に資せんとし、産業組合創立委員として身を以て盡力、昭和十年設立を見るや初代組合長として就任、老軀を提げて職務に精勵今尙毎日出勤を止めず、以て人々の範とされてゐる。

家族はきせ夫人(慶應三年生)今日に至るも尙ほ矍鑠として健在し、長男富治氏は家業を繼いで専念業務に勵んでゐる。然して愛孫三十人を數へ、賑かな家庭をなしてゐる。

因に當家は土地の舊家にして、本村村會議員遠藤秀吾氏と祖先を同じくし、九代前分家して一家を創立せしもの、先代小三郎又永らく村會議員を勤めて、よく村政に寄與してゐる。

七ヶ濱村

漁業組合長 渡邊 丹平

海國日本の男子として渡邊丹平氏は、青年時代より遠洋漁業に志し、遠くカム



堪えながら、飽くまで初志を貫徹せんと努力して來た

終に相當の漁區を得、爾來同地の漁業界の先驅者として、その指導に當り、多大の功績を残したのである。現在は氏の長男が志を繼ぎ、北洋方面に遠征、旺んに活躍中である。氏は令息の前途を囑望しながら、七十五歳の高齡なれど、未だに、豪放果斷の昔日の面影を有し、悠々たる朝夕を過してゐるが、常にその胸裡にあるはふるに、我が漁業界の發展の前途であらう。

故に全村より漁業界の恩人として尊敬と信望を寄せられてゐるも當然のことである。氏は本家渡邊作右衛門氏方より分家し一家をなした人である。

鹽釜町海岸通り

消防組頭 阿部 龜三郎

慶應元年二月此の世に生を受けた先代龜治氏は、七十三歳の高齡を以て今尙噴々として在るは嬉しきことである。當家は代々海産物商を營み、優秀なる鯉節の販賣を以て知られてゐる。龜治氏は町會に出では町會議員として四期間勤続し、尙ほ現在高齡をも厭はず、株式會社鹽釜魚市場の社長として、衆望を擔つてゐる。當主はその長男にて明治二十五年二月十一日生れ、仙臺商業學校を卒へ、弓道スポーツを好み、爽快温厚な青年紳士である。現在消防組頭に推され、運轉株式會社の社長の要職にある。斯くの如き氏の如何に手腕優れ、また卓越の識見を



の舊名門にして、現在の母屋は寶曆年間建築された

高砂村

消防組頭 伊藤重左衛門

當家は八百年の家系を有する當村第一の舊名門にして、現在の母屋は寶曆年間建築されたものなりといふ。氏の人品骨格の卑しからざるは、まことに名閥に生をうけ、徳望自ら備はりし故であらう。

氏は永年消防に關して盡力すること多大であつたので、早くより組頭に推され

てゐたが、謙虚なる氏は辭して受けず、一部頭として内外共に樞要なる事務の一切を處理して、當村の公安維持に不安なく今日を築きし蔭の人として、その手腕經驗の優れて深いことは全村の認めるところであつた。今は村民の要望に應じ、組頭として盡瘁信望を一身にあつめてゐる。尙組頭のみならず、村會議員、方面委員を兼ね、曾ては學務委員として活躍してゐたこともある。

氏は昨年夫人を失ひ、淋しき中にも、今は嫁ぎし令嬢千代子さんによつて慰められてゐる。その郎君は七郷の村長阿部氏の令弟たる前途有爲の青年にて、平安なる一家をいとなんでゐる。

黒川郡

本郡は縣の中央稍々南部に位し、郡の中央たる吉岡町以西は高く、南に宮城郡と境して蛇ヶ嶽、三峯山、北泉岳等あり北部加美郡との境界には前峙、千本松山、花染山、檜木立山などがあり、荒川及び吉田川は皆この境界山脈の溪谷に源を發してゐる。吉岡町以東は一帶に小丘陵にして東南北の三面は品井沼を以て宮城郡及び志田郡を兩分する。吉田川は郡の中央を東に向つて流れ品井沼に注ぐ。荒川は蛇ヶ嶽より發し、東北に流れて加美郡に入り、鳴瀬川に合流する。

郡の面積二十七方里餘。

小學校は十二校あり、大森校が尋常小學校であるだけで、他は全部高等科が併置される。

中等學校には吉岡町の吉岡實科高等女學校、黒川農學校がある。

郡の中央から東部にかけては田畑よく

拓けて農業盛んに行はれ、西部は山地なるを以て木材薪炭等の林産が多い。主要物産は米、麥、豆、繭、薪炭で、一部に牧畜も盛大である。

名所及び舊蹟には吉岡城址、舞野觀音柴の社明神、日吉神社、信樂寺、巫女御前社、赤崎明神、七疑峯などがある。

宮床村

本村は郡の西南部を占め、西部に笹倉山(海拔五〇七米)あり、その餘波を受けて全村殆ど山地にして、東北部に僅かの平地を見るのみである。宮床、小野の二大字より成り、東西三里餘、南北二里半面積三・三八方里にして、人口は二千二百人である。住民の多くは農を以て業とし、林業がこれに次ぐ。

明治維新前は、仙臺藩の一門たる伊達肥前八千石の居邑たりしところで、住民

は質實純朴である。交通は仙臺鐵道富谷驛までバスの便はあるが、概して不便である。七魏峰慮川城址、草川の碑等の舊址をはじめ、鶴峯神社、新田八幡神社、覺照寺、松岩寺、清心庵、當壽院、龍岩寺などの古社古刹を有す。

富谷村

吉岡町の東南一里半の地に位し、村内は丘陵に富み、西川は村の南部に源を發する。吉岡より仙臺に通ずる大道の驛次にして、驛の近くに高長織部の墓がある。織部の一子、信義は酒造を業とし、嘉釀「初霜」春霞を君公に献じ、褒賞を受けたといふ話が今に残つてゐる。現在の本村の特産は銘酒七峯である。

富谷、一ノ關、二ノ關、三ノ關、石積ほか七大字より成り、東西二里、南北また二里面積三・二方里を有し、人口約四千である。

仙臺鐵道に沿ひ、富谷驛は村の中央にあつて交通の便がよい。社寺名勝には熊

谷寺、威徳寺、高泉寺、善盛寺、長樂寺、法圓寺、湯船寺、七ツ森があり、七ツ森の紅葉は殊に美事である。

吉田村

本村は吉岡町の西部に位し、全村殆ど山地にして、南には海拔八五五米の高倉山、西には同じく九三四米の大倉山がそびえ、吉田川は西部に源を發して東流し、東北部沿岸に僅かの平地を見る。

吉田、高田の二大字より成り、東西五里、南北二里、面積七・三七方里にして人口二千七百餘人である。

村には延喜式内の古社石神山精神社が鎮座し、社背に神石あり、高さ十丈餘、その形甚だ異なるを以て著聞する。寺院には禪興寺、天皇寺、保福寺あり、いづれも臨濟宗に屬する。

吉岡町より一里餘、バスの便がある。

鶴巢村

本村は郡の東南部に位し、南方一帯は

丘陵に富み、北部は平地である。吉田川は村の北部を東に向つて流れる。

鳥屋、北目大崎、下草、小鶴澤、大平、幕柳、太田、山田の諸部落より成り、廣袤東西一里半、南北二里、面積は二・〇六方里で、戸數約四百三十、人口約三千人をかぞへる。年生産額は二十數萬圓のほり、うち農産だけで約二十萬圓を占めてゐる。

古くは伊達河内守宗清の住んでゐたところで、宗清は政宗の三男として生れ、後、伊達家の支流飯坂家をつぎ、伊達氏を賜つた。宗清はこの地を給せられたがしばしば洪水におそはれ、第宅耕地の被害甚だしかつたので、元和二年、吉岡町へ移つてしまつた。今、鶴巢址が残つてゐる。

落合村

本村は吉岡町の東方に連り、北方に山を負ひ、南は吉田川に沿うて平坦なる沃野を展開し、南は川を隔て、鶴巢村と相

對する。本郡西南方の諸水はみな本村の南方に於て相會し、粕川となる。即ち落合の名の起つた所以である。

相川、槍和田、舞野、蒜袋、松坂、報恩寺、三ヶ内等の部落より成り、役場は大字相川に置く、東西二里、南北一里の廣袤あり、面積は一・五方里にして、戸數三百三十餘、人口二千六百を數へる。住民の多くは農業に従事し、従つて農産物の生産多く、一ヶ年の産額は十七萬圓を突破する。

村には指定村社椎宮神社、悟溪寺、金藏寺、報恩寺、明星院、龍澤寺等の社寺及び坂上田村麻呂が建立したといふ熊野觀音堂がある。吉岡町へ一里、バスの往復がある。

大谷村

本村は吉岡町の東方につらなり、品井沼の南岸にあり、東は一路松島に通じてゐる。名木休み松あり、東北本線松島驛を距ること三里、バスの便がある。村は

中村、羽生、山崎、鶉崎、土橋、味明、不來内、川内、東成田などの部落から成り、東西南北各二里、面積三方里にして人口約五千人に近く、村役場は大字中村に置く。

生産年額は凡そ二十七萬圓にのほり、農産が最も多く二十四萬圓を占め、就中米、麥、蕎麥が大部分である。村民は質朴であり、且つ教育に理解深く、國民精神の作興運動は上乘の成績を収めてゐる。寺院に桂藏寺、東光寺、珠光寺、泉永寺あり、前二者は臨濟宗にして、後二者は曹洞宗に屬す。

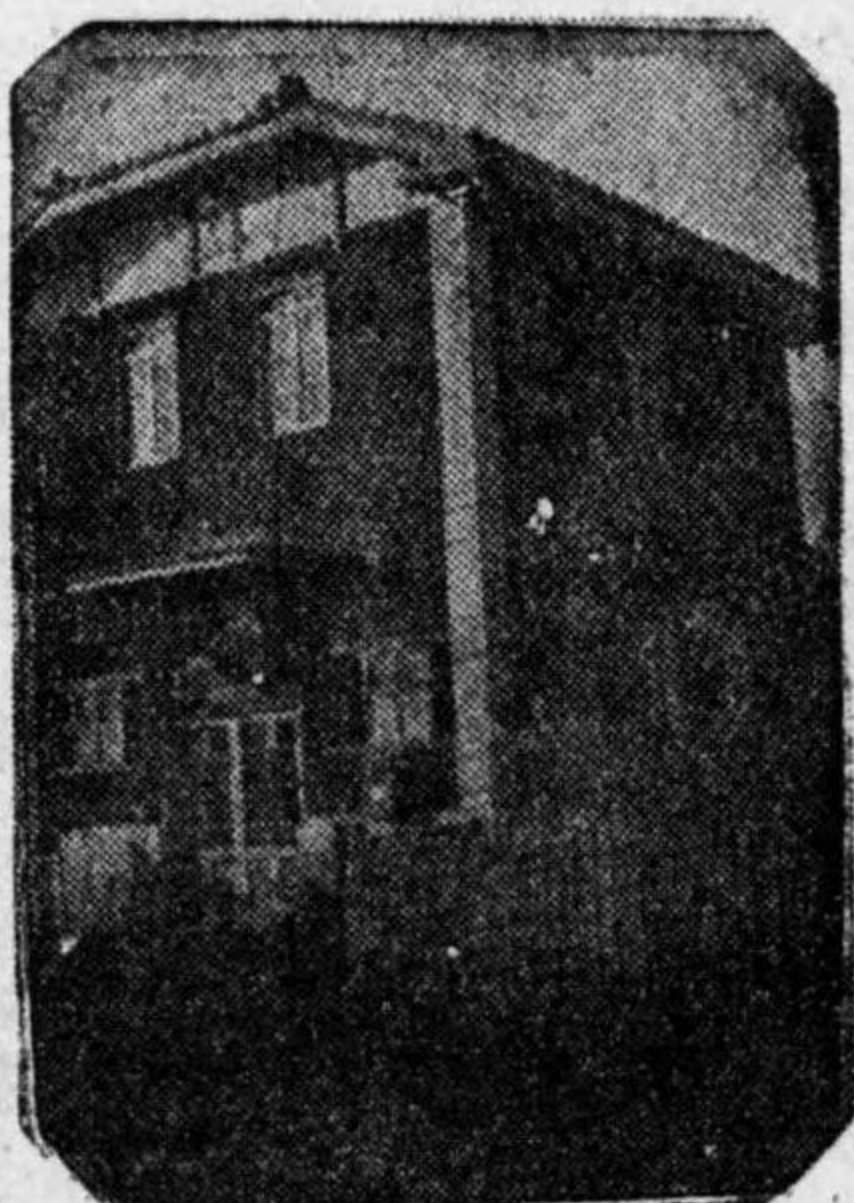
鶴巢村北目大崎岸

鶴巢郵便局

當郵便局は、昭和八年鶴巢郵便取扱所として開局、昭和十年二月十一日三等郵便局に改められ、同時に集配事務を開始此の昇格は當宮城縣下に於ける嚆矢とする。現在従業員十名の多きを數へ、利用區域も鶴巢、落合二村に互り、普通郵便

集配の外、昭和十年二月十一日内外爲替事務を開始、昭和十二年六月二十一日國

新裝成つた鶴巢郵便局



内電信並に電話事務を開始、現在は航空郵便も取扱ふの利便を有してゐる。その貯金現在高は二萬三千圓に達し、各種保険年金加入成績の如きも極めて優秀である。

如上の美を完成せる創局の人は高橋東氏にして、なほ局長として現任し、一層の努力を致してゐる。氏は明治三十八年二月八日、先代高橋藤作氏の長男として生れ、法政大學を卒業、各公職を果して

表彰の榮に耀く嚴父の遺志を繼いで村治に盡さむとし、當地方通信機關の不備を見て局開設に献身の努力を致して著大な功を樹てたもの、現在學務委員を兼ねて、教育方面にも種々寄與する處が大きい。

宮床村小野

小野信用 販賣購 組合

當村は殆ど森にして、村民多く製炭を業として居る爲め、金融機關の必要を痛感し、明治四十五年信用組合を組織して貯金を奨励し、組合預金の貸付をなして有無相通じ、村民の利便を受くること多かりしも、昭和元年貸付金の回收不能となり、種々打開に努めしも成らず、一時は解散かと危ぶまれた。併し昭和八年に至つて役員全部の改選を斷行、現在の一條久之進氏組合長となり全組合員一九となつて更生に邁進後、徐々に鞏固なる基礎を築きあげ、昭和九年より一般の販賣購賣を開始し得るに至つた。現在組合

員數八十七名、一口金額十圓として三千七百圓總額拂込濟の繁榮をなし、事務所及び倉庫の新築を計畫、既に土地買収成りて今年中に設立の豫定であり、炭の取扱も現在一萬俵なるも、將來五萬俵を目指して奮闘中である。

専務理事

熊谷吉治

先代庄吉氏は三十二歳にして當組合を創立初代組合長として力闘村民の畏敬を享けて村長候補に推されしも、不幸三十六歳にして早逝された。その子たる吉治氏は明治三十九年五月十日の出生、嚴父の衣鉢を繼いで組合振興に献身的な努力を傾注してゐる。

大谷村川内

大谷信用 販賣購 組合

本組合は無責任組織で、昭和十二年度末の事業状況を見るに、區域内全戸數四百二十戸のうち三百七戸を擁し、その口數五百二十五口に達してゐる。出資一口の金額十圓、出資總額は五千二百五十

圓である。

信用に於ては肥料その他の産業資金に重きを置いて貸付をなしたが、地方稻、麥などが豊作であつたこと、殊に米價高値であつたことなどが、同收は例年に比して良好なる結果を呈してゐる。次に購買事業に於ては全肥は全部統制購入し、その他産業用品、經濟用品、家庭藥等は年々増加し、また販賣に在つては小麥、大麥、藁工品、玄米、粃などを取扱つたが組合員の未だ充分理解なきの恨みがあり、今後は主力を統制販賣に重點を置き獎勵を加へんとしてゐる。更に利用事業に於ては運搬脱稅設備に過ぎざるも、區域が南北二里餘に涉り、人家轉々散在しその間三十戸以上の集團地には悉く動力精米場等民間の設備が多いため、この種の設備利用については見るべきものがないので、別に計畫を目論んでゐる。

組合長

赤間久藏

嘉作、高橋良治、千葉嘉吉氏の三氏を盛事となし、役員及び組合員一致團結、組合所期の目標達成に向つて邁進してゐる。地方産業發展を生涯の理想とし、特に産業組合の發展に全力を盡して來た氏は穩健篤實、高邁な人格者にして、多大の信用を博し、當村に缺くべからざる人物として重要視されてゐる。會て郡會議員、村長の要職にありて村政改革に乗出し、而して現下の農村は産業の發達を以てするより外なしと、組合長として率先實行の途上を辿り、現に組合長たるのみならず、村會議員四期目であり、納稅組合長、赤十字社特別社員等を歴任してゐる。

當家は葛西家時代より、居住し、約五百年間連綿と續きたる村内屈指の舊家である。先代久四郎氏は村治開拓者として信望あつた人物にて、その男たる當主は明治七年九月十一日生れ、當年六十五歳になる。相當の高齡であるが、なほ壯者

を凌ぐ元氣をもち、現に嘖々たる氏の名は全村より尊敬を以て仰がれてゐる。

その功勞は縣及び村よりの表彰數度に及び、家族は母堂いせ刀自九十二歳なれど未だ健やかにして、長男久彌氏は吉岡農學校出身後、農業に精勵してゐる。二男英夫氏は縣立中學出身後、駒井德三郎氏の康徳學院に入學、その後北支新民學院に入り、外三女及び令孫三人の平安に恵まれた家庭である。

富谷村

富谷村長 山田 儀三郎

當家は代々農業を主とし、氏の亡父榮三郎氏も亦村會議員(三期)、學務委員、農會副會長を勤めた人である。

氏は明治二十二年生れの五十歳の分別活動盛りで、現村長の外學務委員、農會總代、農會長、土地賃貸價格調査員、富谷村統後會長を兼任してゐる。その他前公職を列記すれば、國勢調査員、日本赤十字社特別社員、村會議員、農會議員、

評議員、家屋稅調査員、耕地整理組合評議員、在郷軍人分會顧問、耕地整理組合長、御眞影奉安殿建設副委員長等、實に幾多の職責を果して來てゐる。その他農民の福祉増進の目的を以て富谷共勵會を創設し之に盡瘁、會員はその恩恵に感激をこめて十周年記念に金時計を贈られたが、共勵會の實施することは、低利肥料資金の貸與、粃を貯藏して、年數回會員に出穀して、生活の安定に資する等、他村の學ぶべきもの多々あるが、この實績も、氏の如き至誠無二の人に於て挙げられるものである。

夫人みね子さんも又内助の功を挙げた村民敬慕の賢夫人で、夫人との間に一男五女に恵まれ、また長男浩三郎君は目下吉岡農學校在學中にて、氏の後繼者として渴望されてゐる。

吉田村吉田

吉田村長 堀 籠 强

氏は前公職村會議員一期、收入役一期

消防小頭、農會副會長を歴任した後、村會一致の推薦によつて村長の要職に就任、現にその任に在つて村治績の向上に拍車をかけてゐるが、その精勵献身的態度は村民の等しく賞めた、へるところである。明治十七年三月十九日生れ本年五十五歳の活動盛りである。

鶴巢村大平圓田

鶴巢村長 鶴田 癸己

農村振興を目指して、献身的努力をなして來た鶴田癸己氏は、明治二十六年十二月二十五日、呱呱の聲をあげ、本年四十六歳の活動期である。犠牲的精神に富み、己れの利を省みず、常に村民生活の

向上と農村の發展に専念久しきに亙る氏



の人望深く村民に根ざし、「我等の村長」として親愛

と敬慕とをあつめてゐる。氏はなほ村長としてのみならず、産業組合長、村會議員、赤十字特別社員等に就任熱心な努力は多大の功績を挙げ、村政發展上に重要な足跡を残してゐる。然も氏は未だ四十六歳の壯年にて、今後の活躍振りも俾ばれ、當村の將來を約束するものであらうと、期待と囑望をもたれてゐる。

當家は六代續きたる家系を有し、現に母堂と夫人きみよさん及び五人の子供がある。長男武七郎君は東北學院に在學中前途有爲な青年である。

落合村

落合村長 高平 傳藏
村會議員

祖父雄藏氏は永年村肝煎りをなし、實父雄五郎氏は村會議員に推され、村治功勞者として活躍した人物である。その長男たる傳藏氏は明治四年二月十一日生れ、六十八歳の高齡であるが、尙ほ老いて益々壯氣あり、村勢發展の途に殉ぜんと活躍してゐる。現に村會議員として三期目を勤績、又氏は私財を投じて種々村發展事業を援け、曩に學校に寄附したるを以て縣知事の表彰を受け、更に部落の爲め私財を以て灌漑用溜を作つた。實にその工費一萬圓に上り、大正四年起工同九年完成を見た大事業である。これは全村の上に多大の便宜を興へ、村民の感銘深く氏を讀へて止まざるところである。

斯くの如く種々の功績は村勢發展史上に燦然と輝き、將來に明朗なる希望を齎らすのである。氏が今後の活躍こそ期待される。

長男雄藏氏外一男あり、愛孫八人の大家族にて、一家壯健和氣霽々たる景を呈してゐる。

落合村檜和田

前村長 小畑 勳三郎

小畑家は同村に於ける素封家、代々村の爲めに盡力を惜まなかつた名家であるが、先代權三郎氏は村會議員、郡會議員を勤め、その血を受け繼ぐ當主勳三郎氏は、當年五十三歳、先代に劣らぬ村自治の中堅として活躍した人である。

曩に村長を勤めて挺身隆々たる村勢のためにと、寢食を忘れての努力は、果して功を奏して今日村政の基礎をなした。その他に消防組頭(十年)、村會議員、學務委員を歴任し、現在は吉岡農學校教員として、専ら地方子弟に農事を師導してゐるが、曩に消防功勞者として表彰され又長男寛氏は吉田小學校の首席訓導の要職にあり、父子共々村教育に盡瘁してゐる篤志家である。

宮床村小野

村會議員 菅原 帛吉

六代前、當家の祖先はこの地に移住し來つて農業に従事し、精農家として知られてゐる。先代を伊左衛門氏と稱す。その男たる當主は明治十一年十一月生れの當年六十一歳になる。氏は夙より村治開拓に參與し、献身奔命して數々の業績をあげてゐる。産業組合理事、區長たること二回、國勢調査員二回、農業調査員等に携はり當村發展の礎石となり、苦難に面しても敢然と己の信する處を斷行して來た勤勉の士である。現在は村會議員に推され、大正十四年以來今日に至る迄産業調査委員として勤績し、村政に産業に、赫々の功績を残してゐる。又氏は温厚なる人格者として深き信頼を得てゐる

長男學氏は當年三十二歳にて家業に従事し、二男君は宮城農學校在學中、三女さんは既に嫁し、令孫八人の明朗なる家庭である。

富谷村西成田

村會議員 安藤 惣太郎
學務委員



先代林右衛門氏

安藤家は土地の舊家にして、代々篤農家として知られ、殊に先考林右衛門氏は村政に盡すこと極めて甚大なりしを以て、今尙全村民に至徳を讃へられてゐる。林左衛門氏は安政元年當村に生れ、町村制施行と同時に村會議員に選ばれ、人望厚く明治三十一年村長に就任、大正三年に至るまで引き続きその職に在り、人となり嚴正にして時間を守ること固く、一度も人との約束を違へず、信用組合を創設して富谷村民の福利増進を圖り、道路改修に努力し大に治績を擧げて、表彰されること多數にのぼる。即ち明治三十六年日本赤十字社長松方侯爵より感謝狀木杯、同三十七年縣知事より教育功勞者として表彰狀、同三十九年日露戰役當時の村長として勳七等青色桐葉章、同四十五年功に依り赤

十字社特別社員に列せられ、大正二年郡長より自治功勞者として表彰狀、その他枚舉に遑なき程の表彰を受けて、その聲名一世に耀き、昭和七年七十二歳の高齡を以て大往生を遂げられたものである。當主惣太郎氏は林左衛門の長男として明治十五年三月十七日生を享け、嚴父の遺志を心として同じく村政に盡す處大く、選ばれて村會議員となり、推されて學務委員となり、能くその職責を果して功績勤しとしない。家族はよし子夫人の他、長男金太郎氏とその妻女みねさん及び愛孫三人ありて平和な家庭をなしてゐる。

鶴巢村下草

村會議員 高橋 多利治
學務委員

高橋家は當村屈指の素封家として普く近隣に知られ、代々地方の自治に寄與する處甚大であつた。先考久作氏は殊に功勞大にして、村會議員に選ばれること五期の久しきに亙り、村治に盡すこと厚く

社寺總代その他の要職を兼ね、亦推され



先代久作氏

て郡會議員たること二期、其間寢食を忘れての盡力ぶ

りは多數の感謝を集めて、郡會功勞者として高く表彰するに至つた。

當主多利治氏はその男として明治二十一年五月五日生を此の世に享け、資性醇厚謙恭、徳を治めること深く義に厚く、情に富み、且つ又公共犠牲の精神高遠にして、尊父の衣鉢を繼いで同じく村治に村會議員として選ばれること三回、現在尙その三期目にあり、又學務委員として教育方面に多大の力を致し、四期に互つて引き続き同職に在任、その他赤十字社特別社員に列して、今次日支事變に際し銃後援護に盡瘁してゐる。

の方面に活躍中、即ち長男久太郎氏は頭腦明晰の逸材にして、東北帝國大學醫學部を卒業の後、秋田病院に勤務してをり、五男久兵衛氏は農學校を卒業して産業に盡さんと志し、六男久彌君は中學在學中である。

大谷村

村會議員 櫻井美次
青年團長

大正十三年、當主二十一歳の折父君逝去に依り家督を相續し、東北實業銀行代理店營業に従事し、昭和七年合併廢止に至るまで繼續して來たが、其後家業の農業に精勵してゐる。その間氏は村治發展に意を用ひ、二十七歳にして村會議員に當選し、若き青年村議として新しい期待を持たれ、潑刺たる努力を示してきた。更に昭和五年に至り、郡内に於ける青年團の分裂を嘆き、各村に呼びかけ團結一致を計り、終に五ヶ村の聯合なりし今日の基礎をなしたるものにて、副團長として活動してきた。また、同六年村内風紀の

亂れたる憂ひを、自醒會と謂ふ禁酒會を主唱、奔命努力の結果、現在では隣接町村よりの加入者も多く、二百七十名に達してゐる。斯く村政の向上を計るに盡瘁されたのみならず、氏の書齋を開放して青年巡迴文庫となし、所有土地を開放してグラウンドを設置し、青年團、學校に使用せしめる等、村民健康の上にも全力を盡し、その功枚舉に遑なく、當村の恩人として高名を謳はれてゐる。

現在村會議員の他、青年團長を勤め、地方青年團の父として、青年敬慕をよせよく長服するところである。曩に氏は帝國教育會、縣知事より數度の表彰を受けてゐるも當然である。

うと囑目されてゐる。

富谷村明石

村會議員 高橋吉藏
勳七等

人に對するに誠心眞實を以て聞える高橋吉藏氏は、嘗て日露の戰役に出征、二〇三高地の殊勳により、勳七等青色桐葉章を賜はつた名譽を有してゐる。歸郷後は村勢發展に盡し、曩には國勢調査員、區長、分會長に就任、よく職を果し、健實なる人物として村内より信望を擔つてゐる。現に村會議員二期目にありて活躍旺んでゐる。其の他、自警團長、自作農創設審査委員、土地價格調査委員を歴任し、多方面に互つて種々功績を印してゐるも、氏は敬虔なる人格者にして、寡黙實行、常に黙々として、己れの信條に邁進してゐる。まことに尊敬に價するところである。

當家は初代與一郎氏より七代繼續してゐる家柄にて、農を以て家業となし、代々篤農家として聞えてゐる。

家族は、ハル夫人との間に一男二女、愛孫六人長男隆治氏は當年三十五歳、盛岡農學校出身後家業に精勵、また村治に參與活動中にて、將來當村を背負ふ人物として期待、囑目され、一家は常に笑聲堂に溢る、圓滿振りを示してゐる。

尙氏は明治十年十月一日生れ、六十二歳になるが壯氣に満ち、現在に至るまで村政功勞の數々は度々表彰を受け、當村有力者として重んぜられてゐる。

鶴巢村北目大崎

村會議員 石川要治



石川家は土地の舊家にして、代々農を以て家業としてゐる。先考保治氏は夙より村會議員

に推され、又村収入役を勤めて、村治に對する寄與大きく、尙、神社總代として

も盡力するところがあつた。

要治氏はその長男として、明治二十五年八月七日の出生、尊父の遺志を繼いで同じく村政に多大の力を盡してゐる。その資性は温厚にしてしかも廉潔、手腕また乏しとせぬ人物で、農家組合長、納稅組合長に現任して治績擧り、昭和七年村會議員に選ばれて引續き現在もその任にある他、社寺總代を勤め、殊に軍人分會理事として、今次の日支事變に際しては銃後の援護に寢食を忘れて奔走し、出征勇士に後顧の憂なからしめんと期してゐる。

大谷村東成田

村會議員 淺間兵四郎

當家祖先は黒川藩に屬してゐたが、黒川家没落の後歸農して現在に至つたものである。當主を以て十三代目となし、村内の舊家として聞えてゐる。先代を良太郎氏と稱し、篤農家と謳はれて居り、當主はその男にて、明治十九年七月二十日

出生當年五十三歳になる、氏は人となり
重厚篤實にして、進取の氣魄を有し、よ
く衆の上に立ちて指導の任に當るの才幹
を備へてゐる。

夙に村政に參與し、種々の重任に推さ
れて、一意専心、これを完うし、その明
敏なる手腕によつて村民に高く尊敬され
てゐる。

現在村會議員に推されて種々の功績を
残し、信望を集めてゐるが、なほ農家組
合、産業組合評議員として活躍旺んで
ゐる。嘗て赤十字特別社員であつた。

氏の長男小一郎氏は農學校出身の當年
二十歳の青年、堅實剛毅にして東成田青
年團副分團長を勤め、將來村中堅青年と
して刮目されてゐる。その外に一男三女
ありて圓滿なる家庭を構成してゐる。

富谷村

村會議員 遠藤 權三郎

當家は元祿十五年以來八ヶ村の御林掛
りを勤めし家柄にして、現在も農林業を

營んでゐる。當主は慶應二年十月八日の

生れにして、昭和四年より八年迄富谷村
助役を勤め、村収入役、産業組合長等の
要職を歴任し、現在高齡にも拘らず、な

ほ嬰鑠として、壯者を凌ぐの感あり、村
會議員、學務委員の重責を果しつゝ、ある
氏は村内の隆盛は一に郡内道路の改修に
ありと唱破して、一路その實現に邁進し
てゐる程で、曩に二回に及んで表彰され
しことがある。

爲人、溫雅謙和にして識量あり、當村
切つての重鎮として自他共に認めてゐる
深く曹洞宗に歸依してゐる。

三年前に夫人に死去されたが、長男善
三郎氏は現在五十一歳にして家業を繼ぎ
次男は北海道に在つて開墾事業に従事し
てゐる。三男は小學校に教員として兒童
の訓育に渾身の力を盡してゐる。四男は

航空兵として軍務に精勵してをり、五男
は宇都宮高等農林學校出身の俊才で、外
に子女あり、家庭はそれ／＼繁榮し、そ
の生活の富裕にして圓滿なる様は村内の

羨望の的となつてゐる。

鶴巢村鳥屋

村會議員 大友 善兵衛

當家は土地の舊家にして、亦村内屈指
の資産家である。先代愛之助氏は夙に村
治に力を傾注し、村會議員に擧げらるる
こと二回、區長に推されること三回に及
び、尙ほ氏子總代等を勤めて村民の厚望
極めて篤かつた。

當主善兵衛氏は明治二十二年六月一日
その長男として生を享け、資性溫良醇厚
その公共精神に富むことは先代に劣らず
村民の信頼を得て、現在村會議員二期目
にある他、耕地整理組合評議員に推され
亦消防小頭を勤めて功多く、殊に日本赤
十字社特別社員として銃後に盡す處甚だ
顯著である。

氏の識見手腕今後に俟つ處大で、その
將來を刮目されてゐる。

家族は夫人との間に一男一女があつて
平和團樂の家庭を營んでゐる。

大谷村山崎

村會議員 佐藤 長治

開祖以來十代連綿たる家系を有し、代
々農を以て本業となす。當主長治氏は明
治六年十二月二十八日出生、當年六十六
歳になるが元氣旺盛いよ／＼活動を加へ
てゐる。區長一期を経て村會議員四期目
にあり、その他山崎納稅組合長、農會評
議員、産業組合理事の要職を歴任してゐ
る。大正七年山崎部落十五六人にて納稅
組合を組織し、活動着々として成果を擧
げ、成績優秀を以て村長より佐藤氏に金
一封を贈られ、更に翌年も金一封の表彰
に與つたが、意義なくこれを使用するも
如何と、組合員の融通資本金となし、各
會員月々二十錢の會費を貯へて來たのが
今日では納稅完了の外になほ一千圓を有
する程になり、會員の便宜此の上なきも
偏に氏の盡瘁に依るものと、感謝と信頼
を受けてゐる。而して稅務監督局長より
二回、村役場より同じく二回表彰の榮を

擔つてゐる。

家族ははつ夫人との間に長男裕治氏外
三男及び愛孫六人の大家族であるが、一
家團樂、和氣霽々としてゐる。

富谷村

村會議員 佐藤 榮一郎

當代は四代に互りて吳服商を營める舊
家であつて、先代巳代吉氏の長男として
明治三十七年二月二十六日に生る。仙臺
商業學校出の俊才にして、進取の氣象に
富める努力家である。その事業に對する
手腕は並々ならぬものあり、當地方同業
間にその人ありと知られし人物である。
氏の事業が今日の如き躍進をなせしは、
一に氏が販路擴張、品質精選に不拔の誠
意を以てあたりし爲である。氏は業務多
忙なるにも拘らず、昭和八年東西に奔走
して遂に青年會を創立し、以來今日に至
るまでその會長として、當村の將來を擔
ふべき次時代の訓育にあたつてゐる。
村會議員に推薦されてより氏の村會に

於て吐く論説には、衆論を壓するものあ
り、その政策も屢々採擇され、その聰明
さを輝かせてゐる。

家庭はつねよ母堂、とよ夫人令弟三人
令妹三人の大家族である。

鶴巢村大平

村會議員 千坂 三郎

當家は村屈指の舊家として知られ、代
々の人物悉く公共犠牲の精神に富み、ひ
たり村内のみならず、普ねく近隣に名聲
が聞えてゐる。即ち祖父故雄五郎氏は、
戸長役場時代の戸長を拜し、町村制施行
されるや推されて鶴巢村初代村長となり
他に村會議員、郡會議員に當選すること
數回、なほ縣會議員に選ばれて地方自治
に盡す處頗る多かつた。その功績は道路
改修を始め枚舉に遑なく、縣知事より自
治功勞者として表彰を受け、當地方に著
名の人物である。亦先代雄次郎氏も村會
議員に推されること二回に及び他、區長
寺總代等を勤めて村政に力を傾倒した。

當主三郎氏はその長男として明治三十一年十月二十二日の出生、よく村民の信望を集めて、村會議員に選ばれ、村治に寄與する處極めて大なるものがある。その他にも、消防小頭、農事實行組合長、農會總代、産業組合理事、統計調査員、寺總代等々、多くの要職に就いて、その功績頗る著しい。

宮床村宮床

元村長 故 渡邊 學而
元郡會副議長



名村長として深く村民に讃へられた故渡邊學而氏は、嘉永二年の生れ、祖先是代々城主の御典醫を勤めた由緒ある家柄である。町村制施行に當つて直ちに村會議員に選ばれ、爾來引續き在任して村治に盡す處頗る多かつた。その他學務委員を勤め、明治三

十年村長に推されて徳望篤く、なほ郡會議員に當選すること數回、郡會副議長に選ばれて廣く郡内の人々より仰がれた。茲に治績の一端を擧げるなら道路改修、植林獎勵等裨益する處甚大なものがある。また日露戰役に際しては、銃後に功ある村長として、勳七等青色桐葉章下賜の恩典に浴し、尙ほ功勞に依り、日本赤十字社より、特別社員に列せらるゝの榮を得た。

當主たる一氏は、その長男として明治



當主 一 氏
出生 七月七日
尊父の志を繼いで同

じく意を村政に注ぎ、農會長、産業組合長、農會評議員等の公職を勤めて能くその職責を完了し、昭和六年推されて當村助役に就任、現在に至つてある他、なほ養蠶實行組合長として、産業の振興に努

めてゐる。因に氏の長男健氏は、日本大學法學部卒業後、遠く南米ブラジルに移住して移民の指導に當つてをり、他に次男俊彦氏以下息女がある。

富谷村二ノ關

村會議員 佐藤 甚作

父母に仕へて、誠實至孝なる當家は、明治三十二年四月五日に、先代秀三郎氏の長男として生れ、よく父母の教を守りて刻苦し、讀書を好みて、未だ廢懈せしことなしといふ。

父君秀三郎氏は村會議員兼信用組合理事を就任し、慈愛に満ちしその人格は深く村民に親しまれしものである。氏は勤儉貯蓄を旨とせしため、甚作氏も父君の志を勵行三十年に及び、多大の財産を所有するに至る。二ノ關青年會長を勤務後には村會議員、二ノ關青年會顧問を兼任してゐる。事態を見通す才に秀で、村治各方面に及んでその革新的政策の斷行を説

得する等、その烈しき意志は村民の心からの人望を集めてゐる。氏は曹洞宗を奉旨し、家庭にはとら母堂の外、すい夫人の間に一男三女あり、長男は和美氏といはれる。

富谷村明石

村會議員 内馬場 歲之助

宮城縣士族内馬場家の開祖は遠く源三位頼政の後裔にして、内馬場但馬守と稱した武勳赫々たる家柄である。後、今より、約三百年以前、當時の主人藏人氏が伊達家に隨身して名を立て、から、當主歲之助氏に至る迄十六代目と記録されてゐる。

氏の亡父文彌氏は又同村教育界の重鎮と謳はれ、同村西成田小學に在職すること三十年、同村教育界の恩人として、表彰碑が建てられてゐる。

その先祖と亡父の血を受け繼いだ歲之助氏は現村會議員(三期)及び小作調停委員(三期)として名を辱めず、村民の慈父

と慕はれてゐるが、本年六十二歳、長男歳雄君は二高卒業後、目下東京帝大醫學部二年に在學中である。

富 谷 村

産業組合長 内ヶ崎 昇
前村長

當村最古の名門内崎家より分家した當家は、代々農業を營んで師表を垂れてゐる。而も昇氏は現在四十五歳の壯年にて大正二年に村會議員に當選して、爾來その職責にあり、後助役に就任すること六年間、昭和四年には村長に推舉されて、昭和十二年の満期に至る迄専心村礎を鞏固ならしめ、同時に學務委員、農會長等凡ゆる村政の公職に在つた英敏の士である。現在は村會議員(六期目)の他産業組合長、在郷軍人分會顧問、日本赤十字社特別社員の要職に在り、その人望は旭の昇る如く氏の前途洋々たるものである。

なほ子息にも恵まれ、長男六郎氏は吉岡農學校卒業後陸軍幹部候補生となり、次男卓郎氏は目下農學校在學中で、將來

を囑望されてゐる。

富谷村信用販賣 購買利用組合

本組合は出資一口の金額は二十圓、現在組合員數四百九十五名で、出資總額一萬八千九百八十圓をかぞへる。大正十五年五月の創設、初めは有限責任組織で富士信用販賣購買組合といふ名稱であつたが、昭和五年内ヶ崎氏村長在職當時、組織を變更し、組合を擴大していよく、組合本來の目的に向つて邁進、大いに成績を挙げつゝある。同十一年七月、事務所の設立と共に移轉、現在に及んでゐる。歴代理事長は安藤林左衛門氏を初代に遠藤權三郎、庄司運太郎氏を経て現在に及んでゐる。現役員は

- 理事長 内ヶ崎 昇
- 専務理事 大童 雄幸
- 理事 菊地平左衛門
- 同 山田 儀三郎
- 同 大馬 米吉
- 同 早坂 乙次郎

理事 高橋 宗吉
 同 高橋 吉藏
 監事 吉川 喜助
 同 熊谷 運作
 同 和合 喜三郎
 同 庄見 民三郎
 同 小松 源次

落合村三箇内

學務委員 櫻井 忠吉
 方面委員

櫻井家は當村の名高き舊家にして、當主を以て第十一代目とする。先代甚右衛門氏は大に村自治に意を注ぎ、村會議員に選ばれること三回、他に學務委員、區長寺院總代等を勤めて、功績著しきものがある。

忠吉氏は明治十五年六月三日の出生、養嗣子として當家に入り、先代の志を繼いで村の治政に寄與する處頗る甚大、自治功勞者として表彰されるに至つた。即ちさきに村會議員、區長、家屋調査員等の要職に就き、尙ほ現在方面委員、學務

委員、衛生組合長、消防組顧問、寺總代等に推されて献身の勞を致してゐる。家族は、夫人との間に三男四女があつて、圓滿な團樂をなしてゐる。

大谷村中村

村會議員 小林 門之亟

氏は明治三十一年一月二十日生れ、四十一になる錚々たる村政者である。氏は嘗て臺灣にありて臺灣總督府警察部に勤務し、精勵と勤勉とを賞され、殊に臺灣總督府警察部長より認められ表彰されたほどである。

郷里に歸りては村治に出馬、村會議員に推され有力なる人物として信任されてゐる。尙ほ將來に於ては更に活躍、されるであらうとその前途を一般より期待されてゐる。氏は非常に活動的な半面、篤實穩健なる性格を有してゐるは、村民の信望日増しに深くなる所以である。

又家庭に於ては温厚の父として圓滿なる一家をいとなみ、長男好夫氏は二十三

歳、粕川農産物検査所勤務の有望なる青年である。外に三男一女がある。

富谷村西成田

小學校訓導 高平 昇

當家は開祖以來十三代續きたる家柄を有し、



先代久四郎氏
 村肝煎りを勤めて名望高い祖父は

特に教育の普及に努め、西成田小學校の創設者であり、又校長として生涯を教育界に盡した人である。父君久四郎氏は村治發展に専念、終始役場役員をなし村長二期務め、村内の信望をあつめたが、村會議場にて倒れ、その逝去は全村より惜まれてゐる。

當主は明治三十三年十一月十三日生れ當年三十九歳、若々しき希望に溢れた青年紳士にして、前途を矚目されてゐる。

氏は青森畜産學校を卒へ、學究心深く、農村の發展を希ふ氏の熱意は、清純なる氏人格を



氏人格を
 して小學
 校教育に
 奉仕、鋭
 意専心献
 身的努力

をなしてゐる。尙農村指導者として村内に於ける人望厚く、多角的經營を極力主張指導してゐる。

家族は母堂コマ氏とひさ夫人及び一男五女あり、長男一男君は吉岡農學校に在學中の快活有爲の青年である。又母堂に對する氏の孝養は村内より賞讃を受け、明朗な氏の人格を映じ、常に春風蕩々たる一家である。

尙、最後に父君久四郎氏は郡教育會及び消防組より表彰された士にして、代々功勞者として敬仰されてゐる一家であることを附記しておく。

加美郡

本郡は北に玉造郡を有し、東は志田郡につゞき、南は黒川郡に隣り、西は山形縣最上郡及び同縣北村山郡に接續する。地勢は郡の西境には奥羽山脈が重疊し、郡中の水はみな中央に集まり、鳴瀬川となり、東流して志田郡に入る。その沿岸には洪積層の豊沃な耕地が拓け、志田、遠田の兩郡にまで連り、いはゆる大崎廣土の名がある。三萬五千有餘の住民の大部分は農耕を以て生業となし、産額は相當なものである。

中新田城址、小山田筑前の墓をはじめとし、郡内には名勝舊蹟多く、小野田村には藥來山及び魚取沼鐵魚棲息地、色麻村には往生寺(一名王城寺)、簇塚、伊達神社を有し、宮崎村では鬘山、樺山、賀美石村では賀美石神社鎮座し、孰れも行業の絶好地である。官衙、學校、會社工場等の主なるものを挙げれば次の通りで

| | |
|--------------|------|
| 加美種畜場 | 色麻村 |
| 中新田警察署 | 中新田町 |
| 古川區裁判所中新田出張所 | 同 |
| 同 小野田出張所 | 小野田村 |
| 中新田營林署 | 中新田町 |
| 縣立加美農蠶學校 | 同 |
| 中新田裁縫學校 | 同 |
| 小野田裁縫學校 | 小野田村 |
| 東北酒造株式會社 | 中新田町 |
| 加美製絲株式會社 | 同 |
| 小富士醸造所 | 小野田村 |
| 小富士製絲株式會社 | 同 |

中新田町

郡の首邑にして、鳴瀬川に沿ひ、土地極めて平坦である。西は小野田村に、東は古川町に隣接する。附近はいはゆる本石米の産地として知られ、本町に於ても

色麻村

中新田町の西南隅にあたり、東北部は平地をなしてゐるが、他は殆ど山他にして、西端なる船形山は海拔一五〇〇米に及び、山形縣との境をなす。四竈、大、一ノ關、志津、清水、高根、王城寺、黒

澤、高城、吉田、平澤、小栗山などの部落より成り、廣袤東西六里、南北二里にして面積七・一二方里あり、人口は約七千二百人である。

上古、色麻郡なるものあり、後、加美郡に合したもので、色麻はもと四竈といひ、播州飾磨と同音である。しかも、飾磨に射楯神社あり、本村にも伊達神社が鎮座するところなどより推し、飾磨の人がこゝに移住したものであらうと説く人もある。源義家が安倍貞任を討ちし古戰場簇塚、坂上田村麻呂の勸請なりと傳へられる前記伊達神社のほか、往生寺、慶樹寺、清水寺、西昌寺、規福寺、念南寺、寶泉院、彌勒寺の寺院がある。

宮崎村

本村は郡の西北隅を占め、東南部に平地はあるが、他は悉く山地丘岳にして、西端には海拔一〇七五米の翁峠及び鬘山、樺山などありて山形縣との境を劃し、北部は玉造郡に接してゐる。

古くは大崎氏の所領に屬し、近世に至り、仙臺藩の一族石母田氏の采邑となつたが、寶曆年中、石母田氏が栗原郡清水へ移つてから佐沼の古内氏が來て采配を揮つた。現今、宮崎、柳澤、北川内の三大字より成り、東西五里、南北三里の廣袤を有し、面積一〇方里、戸數は七百五十、人口は五千三百有餘を擁し、耕地は田五百九十町歩、畑百七十五町歩あり、農産物の年産額二萬圓にのぼる。村には指定天然記念物たる魚取沼鐵魚棲息地がある。陸羽本線中新田驛より四里十町仙臺鐵道加美中新田より三里十町、交通の便はよくない。

賀美石村

本村は中新田町の西北に接し、北東に山岳を負ひ、他は平野にして、田川は宮崎村より南流し來り、小泉村に入つて東折する。

鳥屋崎、米泉、孫澤、君ヶ袋、鳥島、沼ヶ袋、谷地森、木船、小泉の九大字よ

廣原村

中新田町の北にあり、玉造、遠田の二郡と境するところに位置し、村内大部分は山地にして、東南部に多少の平地を見るのみである。上狼塚、菜切谷、城生、羽場、上多田川、下多田川などの大字から成り、廣袤東西一里、南北四里といふ細長い地形で、面積は三・〇七方里、戸

數三百四十にして人口二千五百人をかぞへる。耕地は水田五百十町歩、畑地百七十町歩あり、生産總額十八萬餘圓のうち十五萬五千圓は農産物で、就中米と繭の産が最も多い。

舊幕時代には大崎家の領地たりしところ、上狼塚には曹洞宗の淨刹たる大狗山慈恩院あり、他にも圓徳院、法徳院の古刹を有し、共に曹洞宗に屬す。

鳴瀬村

中新田町の東に接し、志田郡と境を交へる村で、地勢平坦にして耕地多く、鳴瀬川は村の東南境を流れ、灌漑に便してゐる。下新田、四日市場、平柳、雜式目下狼塚の大字より成り、廣袤東西一里弱南北一里にして面積〇・六九方里あり、耕地は田約六百七十町歩、畑百四十町歩で、農産物の年額は三十萬圓近くに達する。しかもそのうち二十萬圓餘は良質の米である。

村に鹿島神社あり、坂上田村麻呂の勳

請に係り、後、大崎家兼がこれを再興し五人の神職を置いたといふから、當時その大社なりしを窺ふに足る。寺院には積雲寺及び大祥寺がある。

中新田町に接するが故に交通の便に恵まれ、村内縣道にはバスが走つてゐる。

色麻村

色麻村信用販賣購買組合

永年に互り窮迫せる農村經濟を更生せんと組合員一同協力して充實に當つてゐる。本年度に於ける信用事業は、一般農作物の豊穰、且米價高は好轉を齎らし、又愛國貯金の募集に對して一萬三千圓の割當額に、二千餘圓を突破し得たるは時局下にある組合員の愛國心に依るものであらう。購買に於いては、全購聯肥料の施用を奨励したる結果、漸次利用者増加し、雜貨は組合取扱品絶對利用を督勵し更に販賣には、副業としての菓工品を一層奨励なし、又利用事業に於いては、本部、支所の作業場並に移動設備と相俟つ

て各種設備の利用程度も年次増加の歩を辿りつゝあるが、日支事變に依る組合員家族の應召者多く、これに對する努力不足と入費は農村經濟に影響し、事業上かたりの滞りがあつたが、組合員一致協力内外多事多難なる折柄、益々組合精神の發揚強化に努め、組合當初の目的完徹に邁進せんとしてゐる。

當組合は組合員七九八名、出資一口金額二十圓、保證金總額三八、四四〇圓、貯金總額一一九、二四九圓、本年度剩餘金一、〇二九圓にて、準備金、配當金出資の拂込み、専務理事賞與金に當てた。

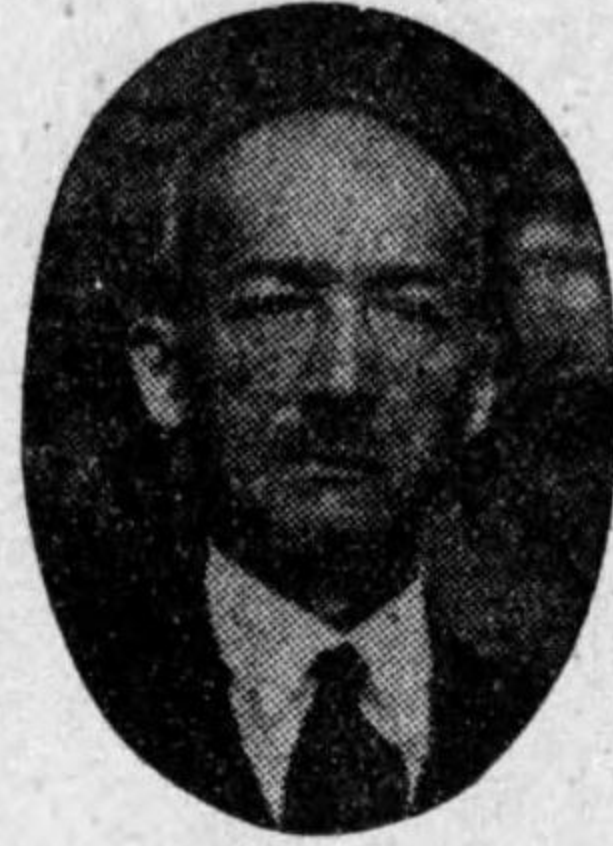
當組合長及び理事は高崎氏、理事伊藤清、堀籠健藏、大道寺稔、佐藤留吉、淺野末治、菅原源太郎、板垣、今野正一氏等にて當組合の發展は氏等の献身的盡力に依るものである。

中新田町南町

高階 晉司

當家は代々名主を命ぜられ、郡長の要

職を勤めし名門で、先代雄壽氏も亦郡役



所書記を振出しとして、戸長町長の公職に終身せる大

功績者であつて、その遺業は赫々たる光芒を輝かせてゐる。

當主は明治十一年十一月十三日の生れ教育界に身を投じ、中新田小學校に在職すること九年、明治三十二年訓導に任命されて以來、色麻村小學校に教鞭を執ること二十一年に及び、その後三十年に及ぶ奉職中には幾多の刮目すべき業績をあげし人で、爲に感謝状を賜はりしこともある。昭和二年十一月推舉されて町收入役に就任し、町政に盡力現在町長の要職にある。

氏は村政方面には全然素人の人なるも就任以來熱心に職務を遂行せる爲その誠意を認められて、現在の要職を獲得せる

努力家である。

盆栽に興味を持ち、造詣深き人である

中新田町十日市

星 清吉



星家たる舊家たるを享けた清吉氏は幼時より士氣旺盛

夙に心を社會事業に注ぎ、大に其の意力を表はした。

即ち昭和三年私費を投じて、中新田私立裁縫女學校を創設し、勤勉着實、思想堅實を主眼とし、女子教育のため、大に盡力した。當初微弱なりし學校も、氏の剛氣あるところ光彩ありて、現在既に教師十三名、生徒二百餘名の盛況を呈し、尙隆々として止まる所を知らぬのである。氏は嘗て町會議員、國防調査員、消防

小頭たりしのみならず、現在助役、町會議員、赤十字社員として衆に先んじてゐる。尙また、政友會に屬し、會の爲に爲す所が多い。斯かる多忙の氏にも嬉しき趣味あり、即ち圍碁、盆栽によりて閑日月を養ふ。

氏の愈々健全に、ますます榮進せられる事を祈つてやまない。

廣原村上狼塚

岡本 龜次郎



家名高き家柄にして、並びなき豪農でもある氏は少壯

にして父君の遺業を繼ぎ、村政自治の爲に努力し、その功績はよく衆人の認めるところとなり、昭和九年村長に推舉される以來敏腕を以て縦横に活躍し、旺盛なる

精神力と相俟つて、益々實績を挙げ、村民の信望頗る厚い。尙村會議員にも歴任せしことあり、現に村長、組頭、水利組合管理者となしつゝる。

曹洞宗に歸依して、仲々篤志家である長男傳次郎氏は今次事變に應召され、出征中である。外三人の子女ある圓滿幸福な家庭である。

尙又、祖父傳三郎氏も助役其他公、名譽職に就任されて命名を謳はれし人であつたし、先代已三郎氏は、勤勉實直の會では村會議員の錚々たるメンバーとして、その名聲は諸先輩と並び稱されし人にして、餘りにも早く死去されたことは村民の深き哀惜を受けしものである。

賀美石村沼袋

賀美石村助役 本多 與惣治

七代に互る舊き傳統を誇る當家は、當地有数の舊家である。先代儀三郎氏は篤農家として精勵、身を以て村民に範を垂れた。氏はその男として明治十六年七月

三日に生れ、大正元年加美石村役場に就任して以來、今日に至るまで謹嚴實直に諸務を果し、現在は助役として益々健闘を續けてゐる。

氏は他に農會副會長、信用組合理事、赤十字社員、赤十字社加美石分區副會長をも務めてゐる。氏の年來の抱負は小學校増築、信用組合設立、水害防止、耕地整理其他にあり、これらの實現のために自下極力盡力中である。

一方氏は重厚篤實なる人格の所有者で圓滿なる家庭には三男、四女の子女がある。次男淳氏は現に朝鮮小學校に訓導として奉職中である。

鳴瀬村下新田

鳴瀬村長 荻原 又壽郎

郡會議員、村會議員として高潔なる人格とその辣腕を以て鳴りし又作氏の長男として、明治十五年五月五日に生る。長じて中新田高等小學校に學び、卒業後は熱心に家業に従事し、傍ら父君の感化を



心深く、昭和十年村長就任以來、疲弊せる農村の更生

に鞠躬盡力、率先して範を垂れ、昭和十一年、その熱情を認められて縣内最初の特別助成村となり、現在は縣下隨一の模範村である。その納稅成績の如きは百パーセントの好調に進み、負債整理も完成せしは一に誠意を以て事に莅みし氏の指導よろしき賜である。大正十一年村會議員に就任以來、今日に至る外、村長、學務委員、消防組頭、産業組合監事等の要職にある。納稅關係の功勞顯著なる爲の表彰されしことあり。

とめ子夫人との間に三男四女あり、長男又衛氏は軍務に精勵してゐる。夫人は國防婦人會、愛國婦人會兩分會長をなしてゐる。

色麻村

色麻村長 高崎 蒿夫

田村麻呂の遺蹟あり又、近傍に開ゆる伊達神社の神職として、千百四十年來連綿として代を累ねて來た當家は、名門の家柄である。

當主は、明治十五年生れにして、神職としては縣内最初の村長となりし人にして村自治に對しては全く白紙を以つ臨んでゐるが、それが却つて嚴正の立場を採るに有利となり、村政更生を第一義とし、納稅の完納を期し、現在國縣稅は百パーセントの好成績を挙げ、村稅の如きも、九十五パーセントに及べる現狀なるにより、縣内第一の優良模範村の評がある。一に氏の指導よろしき爲めである。宜なるかな、氏は爲人、剛毅果斷、鐵の如き意志の持主にして、微動だにすることなく、着々として、自己の信する道に突進してゐる。尙ほ消防組頭、産業組合長をも兼任して、よく劇務に堪へ、村民

の福祉増進に努力してゐる。

三男三女の子福者にして、愛兒達にも相當に親しまれ、家庭にあつては仲々の好々爺である。

因に氏は勳七等に叙せられてゐる。神職には昭和十年十二月十二日に就任される。

宮崎村

宮崎村長 小野 齊二郎



氏の養父壽庵氏は明治維新前當所に來たりて醫業を營み、宮城縣最初の開業醫院として仁術に

盡力されし人である。現主齊二郎氏は養子となりて、宮城醫學校に學びて養父の遺業を繼ぎ、小野醫院として卓越せる技術を稱されしも、現在は養子に醫業を譲りて、専ら村政に腐心してゐる。

元來當地方は政争最も激しき地方にして、再三村長の椅子が變り、村内の統一頗る困難にして、從來村長は職務干渉を受ける等、當村隆盛の痛となりしも、嚴正潔白にして、果斷なる實行力あり、且つその圓滿なる人格を買はれて、昭和五年村長に就任するや村内の開発に日夜勉勵し、遂に今日の繁榮を來す。

村醫、學務委員、産業組合長、愛國婦人會顧問、衛生組合長を兼任し、當村の元老として、村民に崇められてゐる。尙ほ赤十字社特別社員である。書畫、骨董に興味を抱き、多數の貴重品を蒐集してゐる。

中新田町舊館

町會議員 澁谷 元吉

當家先代良助氏は郡會議員、町會議員其他の公職を歴任せる氣節ある人にして、小學校その他各方面に率先して寄附し、現在の警察署前より町役場前通りの道路の如きは、大場甚内氏と協力、莫大なる

私費を投じて開通せし道路にして、私設道路の稱あり、今尙村人に感謝されてゐる。

當主は明治八年良助氏の次男として生る。國勢調査員、町會議員となり、父君の強力な背景を持ち、生來の聰慧を示して顯著なる功績を残し、現在町會議員自警團長、衛生組合長、信用組合理事を兼任してゐる。

盆栽に對しては造詣が仲々深い。國防婦人會役員である。夫人との間に二男二女あり、長男氏は、町役場に勤続稅務吏員として勤務し、その將來を刮目されてゐる。

廣原村城生

村會議員 伊藤與右衛門

幼少時より強記博覽にして、驕名夙に顯はれし氏は、當時屈指の舊家伊藤氏より分家せる三代の當主にして、明治三十五年耕地整理實施以來、その指導者となつて組合を完成せしめ、其間時價反當り

三十八圓を五十圓にて十町歩買入れ、其後八百餘圓の高價となり、



現在分家四戸を設け益々隆盛を極めてゐる。村民は氏の先見を絶讚し、羨望の的となつてゐる。

村會議員、城生區長、信用組合理事、養蠶實行組合長、農會議員、一町三ヶ村水利組合代議員、自警團長、檀家總代等村内の各要職を兼任せるを見て、氏の才學器識の慨を想見すべく、他面村民が如何に絶大な信頼を寄せてゐるか、首肯し得る。

氏は畜産の飼育には、先天的才能の持主で、馬二頭、牛四頭を飼育してゐる。曹洞宗を信仰し、温厚なる紳士である。長男彌重郎氏は日支事變に應召されて無事凱旋され、農業に従事してゐる。次男信氏も、令兄同様無事歸郷され、中新

田小學校に職を奉じてゐる。外五女ありて、家庭は頗る圓滿である。

賀美石村米泉

村會議員 藤原省三

少壯氣鋭の人格者として、氏は區長、青年團班長等の地位を経て、現在は村政の圓滑なる運行のため村會議員、區長、信用組合監事の要職にあつて活動中である。家庭に於ては温厚なる夫であり、四人の子女に恵まれてゐる。夫人も亦國防婦人會員となつて銃後の護りを固めてゐる。

氏の家柄は二十代に亙る舊家であつて先祖代々名主、戸長の任を全うして來た名門、實父榮二郎氏も村會議員、區長、米泉耕地整理組合委員に薦擧されて村のために甚大な功勞ありし人であつた。氏は榮二郎氏の長男として明治三十八年に生れ、その明晰なる頭腦と高邁なる識見卓拔なる手腕は少壯有爲の議員として將來を囑望されてゐる。

鳴瀬村四日市場

村會議員 福島獎也



嚴父秀三郎氏は初代村長として、終身村政自治に活躍しよく當村今日の隆盛のもとを開きし

自治功勞者であつて、氏は深く嚴父の感化を受け、夙にその強記博覽振りを發揮し、第二高等學校を卒業し、東京帝大英法科に進みて、優秀なる成績を以て卒業せしが、家事の都合に依りて歸郷し、以來その達見老識を以て各方面に縱横の活躍をなし、郡會議員、郡會參事員、村長、村會議員の重職を果し、赤十字正社員、村會議員、産業理事、學務委員、二町六ヶ村原野組合議員、一町三ヶ村水利組合代議員等の現職にある。

氏は働く事、そのものに趣味を有し、

自己の要職を自覺して、自己をその仕事に没頭させ、その境地に限りなき愛着を感じてゐる人である。佛教に深く歸依してゐる。

千代子夫人は有功章を賜はり、愛國婦人會監事として活躍され、貞節の譽れ高き人である。因に當家は代々戸長を勤めた舊家名門の家柄である。

色麻村清水

村會議員 後藤勇三郎



謹嚴誠實にして徳望あつき氏は明治十八年一月十七日に生れ、先代養父留吉氏の薫陶を受け

て成長された。當家は代々農を生業となす土地の舊家である。氏も亦、篤農家である一方、區長として村に盡すこと多く現在では村會議員に選出されて益々年來

の抱負を傾けて治村のために力を致してゐる。この他、日本赤十字會員、學務委員として功勞多く、檀家總代でもある。宗派は曹洞宗に屬し、家庭には夫人との間に六女がある。長女みきをさんは目下國防婦人會、愛國婦人會の幹事として銃後の護りのために活躍してゐるが、次女は滿洲國獨立守備隊付陸軍特務少尉佐藤正義氏の許に嫁いでゐる。

宮崎村切邊

村會議員 須藤養右衛門



幼少の頃より鑛山業には深く趣味を抱き、青森、秋田、北海道其他各地を探査踏し其間或は

坑夫となり、或は技手と成り、言語に絶する辛酸を嘗め、大正六年當地に入りて試掘探査せしところ、優秀なる金銀銅鉛

亞鉛の含有石を發見、當時仙臺藩主貞山公の所有地なりしを買収し、大々的に採掘作業を開始した。

當初は交通の便なき爲め、湯ノ倉より玉造郡中山本迄蜿蜒たる鐵柵を通し數萬圓を投じた。偶々本縣出身の鑛學界の權威舟橋了道博士が含有量豊富の折紙をつけ、政界、實業界の名士に知己を得、益々事業の發展を得るに至つたのである。而して村會議員に推舉を受けるや、偶々東北振興會救濟事業として、宇旭鹽湯倉間の村道を昭和十二年に開通させ、以來交通頻繁を極めてゐる。氏は全國持山權利を三菱會社に譲りて現在村自治教育の爲めに盡力してゐる。其の功績を記念するため、旭鹽分教場脇には高橋是清翁題字にかゝる記念碑が建立されてある。村會議員、赤十字特別有功社員である。

中新田町南町

町會議員 伊藤 甚吉

劍道二段(宮本二刀流の免許皆傳)、柔

道三段、書畫と、まことに多藝にして多



能なる氏は、明治二十二年一月八日大崎公の家臣、郷

義の後裔として生をうけ後ち伊藤家の養子となる。養家は伊藤主膳を祖に代々大目付役、名主、戸長等を歴任する名家であり、養父勘五郎氏は町會議員を初め、自治に盡力し、永年町助役として町民の信頼を受く、甚吉氏は明治四十三年九月巡查を拜命、後ち部長刑事に昇進し、築地、千駄ヶ谷、各署に勤務、鬼刑事として知られ、殊に強犯思想犯には獨特の手腕を携つた。表彰されること數回、最も模範的な巡查であつたが、遂に昭和五年十一月退職し、十二月歸郷、爾來、町會議員、衛生組合長、互市組合副組合長として活躍し、互市に春秋二回、開市したのは氏の大なる功績の一つである。

マシエ夫人は愛國、國防婦人會幹事として活躍し、長男敏明君は東京に在職中、一家眞言宗を信奉し、元氣潑刺たるものである。

廣原村上狼塚

村會議員 佐藤 修治



二代目である。先代富治氏は區長其他の要職にあつて

功勞を残せし人であつた。氏も父の衣鉢をついで村會議員及び多田川水利組合代議員となるや、當初より力を傾注して灌漑、池溝に努力を致し、當地の農耕作業に資すること實に甚大であつた。現在も村會議員、信用組合理事、一町三ヶ村水利組合代議員、農會議員、赤十字社社員等々の名譽ある多くの重聯にあつて、

村政の發展のために専心盡瘁してゐる。氏は又、自ら鋤鋤をとつて農耕に親しむ眞摯なる篤農家であつて、濃厚にして剛直なるその人格は村民の敬慕してやまぬところである。家庭は大家族を擁し、圓滿を極めてゐる。

鳴瀬村四日市場

村會議員 淺野 宗三郎



氏は明治十九年一月十九日、舊家として名實共に高き淺野家に生る祖父の定之助氏は村助役と

して村政自治に盡力せしこと大なりといふも氏も、亦現在村會議員、自警團長、養蠶實行組合長、檀家總代、氏子總代、信用組合監事赤十字特別正社員等の名、公譽職に在り、濃厚篤實なる篤農家として村民の徳望を一身にあつめてゐる。

家宗は曹洞宗にして、家庭は三男一女に恵まれ、圓滿を極め、さかの夫人も同村愛國婦人會及び國防婦人會の幹事として現に活躍してゐる。

鳴瀬村平柳

村會議員 黒澤 清三郎



氏は幼にして舊仙臺藩主樂山公に近侍し

厚く用ひられて功あり、明治維新となつて西南戦役起るや、警部補として勇躍従軍、その殊功に依り勳七等に叙せられ、青色桐葉章並びに金一封下賜の榮に浴した。郷里に戻つては教育界に盡すこと永きに亙り、その間公共に甚大の貢献を致し、大正七年逝去の後、遺徳を慕ふ多數の人々に依り、平柳分教場校庭に黒澤

常信先生頌徳碑が建立せられてゐる。清三郎氏はその長男として明治十年一月二十五日出生、



明治三十五年宮城師範卒業の後、

嚴父の衣鉢を繼いで同じく教育界に盡瘁すること實に二十五年の久しきに及び、その間表彰せらるること數回、昭和六年退いてより、村政に力を致し、現在村會議員二期目にある他、信用組合監事、自警團長、養蠶實行組合長、農事組合長、負債整理組合長、水利組合代議員等々の要職を勤めてゐる。尙は長男忠吉氏も亦教育界に奉仕し、令孫五人ありて愉しき家庭をなしてゐる

宮崎村

村會議員 猪股 友吉

優秀なる成績を以て見事小學校教員檢

明會議員として盡力せる功績を甚大である。

加美郡々農會長、町農會長の現職あり専ら村政に腐心してゐる。多趣味な人で一切靈を味ひ、悟道の境地にある宗教觀の人である。夫人との間に五人の子息あり、家庭頗る圓滿である。

嚴父治右衛門氏は永年米穀改良に努力せる人で、戸長を勤めし外、宮城縣會議員の榮譽を擔ひ、達見老識、よく重職を果せし傑物である。情誼に厚く、優しい情愛の人で、村民も深く氏に親しんでゐる。

廣原村上多田川

村會議員 加藤 利藏

當家は同村名家加藤家より分家して、當主にて四代を數へ、本家は大崎義隆公の家臣加藤但馬守の開祖にして代々肝煎大目付役を仰付かりし家柄である。

先代滿造氏は城主總代、郡會議員、村會議員、檀家總代、其他幾多の公職に就

任し、現今尙もその遺徳を讃へられてゐる。

當主は、明治三十八年小學校教員檢定試験に合格して訓導となるや、廣原、宮崎、新漁等各小學校に奉職、一時退職して警察官となりしも、再び教育界に轉職し、二十有餘年に亘りて村童の教育、村民思想の改善等に盡力する。昭和七年十一月上多田川下多田川間道路改修等には献身的に奉仕し、なほ産業統計調査の爲には私費を投じて、カード式一覽表を作製し、その功によりて産業調査局より表彰され、桐火鉢一個を贈られた。

氏は哲學を深く極めるところあり、又音樂に對する造詣厚く奥床しき趣味の持主である。曹洞宗を奉じてゐる。

鳴瀬村四日市場

村會議員 佐々木 修亮

氏は明治十四年八月一日當地屈指の舊家に呱呱の聲を上げた。當家は代々村治に盡すこと多く、また先代幸吉氏は農蠶

業に篤き勤勉努力の人として知られた。



氏は幼少より向學の念強く教育檢定に合格して先づ鳴

瀬村尋常小學校に奉職し、後廣原小學校を経て中新田高等小學校に至り、該小學校に於ては勤続正に廿ヶ年に亘りて兒童教育に専心した。その教育界に於ける功績は寔に甚大である。明治八年教職を辭するや、氏の人格に推服せる村民は氏を村會議員に薦擧したのである。氏は又學務委員其他の名譽公職にあつて、村民教化のために盡力してゐる。農蠶園藝に興味深く、特に接木に妙を得てゐる。

賀美石村

元收入役 本多 良治

代々名主として三百年の歴史を有する當家の先代は、區長、氏子總代、其他の

公職にあつた。氏は明治四十年賀美石村



役場に收入役を拜命、四年後には助役をも兼任して實

直なる精勵振りを發揮したが、老齡に依り職を辭し、現在では赤十字特別正社員の名譽職にのみとまつてゐる。明治三年三月十九日生れの氏は、誕辰五十周年記念に際しては年來の功勞によつて表彰された。元來氏は責任感強き高潔の士で雄辯家として聞える。納稅獎勵や信用組合創立、架橋工事、小學校増築等に對する氏の素懐の一端を以つてしても、老いて益々矍鑠たる氏の風貌が窺ひ知られる。宗旨は曹洞宗に屬し、専ら修養書の閲讀を樂しみとしてゐる。

宮崎村下小路

村會議員 後藤 勝之助

氏は幼少にして嚴父に別れ、夙くより



祖父牧太郎氏の薫陶を受け成り長し

祖父氏の嚴格な指導はよく氏の才能を伸ばし、拔群の成績で小學校教員檢定試験に合格し、直に訓導となりて、村童の訓育に當りしも、辭して村役場吏員となる。其後東京市役所に二十餘年間勤続し大震災に遭ひし時には、復興に寢食を忘れて奔走せし結果、表彰されて時計を授けられたほどである。

昭和四年退職後は、歸郷して村内の隆盛に意を注ぎ、村會議員、衛生委員、小學校改築委員、道路委員、自警團長等の要職に現任してゐる。氏は又宮崎村信用組合創立の生みの親にして、専務理事となつて、よく今日の基礎を造りし人である。生來の讀書家にして、壯年時代は豪

酒、愛煙家成りしも、現在は禁酒禁煙を固持してゐる。令息兵衛氏は臺灣銀行を

退職後は遞信省に勤務してゐる。

尙祖父牧太郎氏は米澤藩の人にして、藤原姓を名乗りしも、明治維新後後藤と改姓、文武兼備の偉人として崇められ、縣會議員、村會議員を歴任し、村政に盡力され、其徳を讃へられし人である。

鳴瀬村四日市場

信用組合長 安藤 市藏



氏は幼少の頃に兩親の早逝に遭ひ、本家に預けられ、本家現主北村周吉氏と共に從兄弟の間

柄にして、兄弟同様の撫育された人である。昭和十二年十月、仙北禁酒會を創設し日本國民禁酒同盟に加入し、現在百五十

名の會員を擁して、中堅青年の思想指導に盡力してゐる。大正十二年十二月に組合創立するや、現在の理事達と協力して農村振興の爲め、當時役場に事務所を設けて鋭意組合の強化擴大を圖りしも、昭和二年三月火災に遭遇し、事業にも一頓座を來し、收拾に困難を感じしも屈せず同八年定款を變更して以來涙ぐまじき努力を重ね、遂に今日の隆盛を見るに至つた。村助役三期、村會議員等にも赫々たる功績を残し、信用販賣購買利用組合長、仙北禁酒會長、赤十字正社員等の諸職に就任してゐる。尙ほ氏は神佛に對する敬神崇祖の念篤く、迫力ある強い意志の人格者にして、村内第一の有力者である。又陸軍大臣より感謝状を受けたことがある。

長男有順氏は實家に在りて、父君と協力して家業に勵み、次男正隆氏は現在警視廳に在勤中である。長女さんは志田郡の鎌田家に嫁して、圓滿なる生活を送つてゐる。

宮崎村

學務委員 庄司 近之助
愛馬家

氏は學務委員として同村の教育指導家であるよりも、愛馬家として餘りにも有名である。氏は不幸にして夫人千代野さんとの間に



育家としての名聲を高くした起因であつて、その仔馬には、その名も夫人の千代を取り宮千代號と名づけ、第一回の縣共

に子實に恵まれずその寂しさを紛らす爲に實家より仔馬を一頭貰ひ受けて來たこれが抑々の同氏の愛馬飼

進會に一等を授賞され、續いて各地の博覽會、共進會に再三の入賞を見たのである。それに力を得た同氏は、爾後育馬家として立つことを誓ひ、宮千代號の仔馬七頭、悉く各地の共進會に入賞すると云ふ好成绩を挙げ、第一千笠號(宮千代號の初仔馬)は農林省御買上げ、第四、第六千笠號(サラブレッド雜種)兄弟馬は昭和七年に大阪博覽會に揃へて出馬し何れも入賞、その他第二宮千代號は、畏くも 皇后陛下台覽の光榮に浴し、氏の育馬家としての名は近郷に響いてゐる。現在なほ愛馬十五頭を擁して益々その名を輝かしつつ、傍ら他方の畜産獎勵の善導者となつてゐるが、その功績の蔭には夫人千代野さんの力與つて大なることを忘れてはいけない。

鳴瀬村四日市場

元村會議員 工藤清左衛門

工藤家は代々名主、戸長等を勤めし、村内隨一の素封家にして、數百年來の舊



家名門の家柄である。氏は慶應元年の生れにし

て、自治制發布以來の村會議員として村政に盡力し、村内最古參者である。其他學務委員、衛生委員、水利組合長、信用組合理事の要職を歴任し、赫々たる業績を残して退き現在は果實の栽培、養鶏に興味を以て、悠々自適の生活を送る傍ら後輩の指導に誠意を以て當つてゐる。長男氏は東京鐵道省吏員として、熱心に職務に勵んでゐる外、多勢の子息ありて、靜謐なる生活を營んでゐる。

廣原村上多田川

華溪山圓潼院

當寺は釋迦尊を本尊となし曹洞宗の寺院である。玉道郡岩田山城主伊達宗泰公の菩提寺なる諸方山實相寺三世の良外和

尙の開山にかり、御小松天皇の應永十七年、以來五百十七年の歴史を有する。當院は鶴見總持寺の直末なる實相寺が本寺にて、境内七百四十四坪あり、寶物として、釋迦、文珠普賢、承陽大師、達磨大師、不動明王、子安觀音、又今上天皇の碑がある。

正月元日より三日、早朝祈禱、觀音講(年一回)、孟蘭盆會、涅槃會、誕生會、百萬邊等の行事をなし、參詣者は非常に多い。檀家百戸に餘り、道家良吉、下山喜作、加藤利藏、門脇勘右衛門、千葉利吉、古内直衛、今野龜次郎氏等が檀徒總代である。

住職

永濱素由

二十四世の住職にて明治四十年十二月二十日生れ、仙臺梅檀中學出身後、鶴見總持寺及び福島安達郡興國寺にて修業し、昭和九年當寺に來るものである。父君助五郎氏は村政功勞者として信望をうけた人である。當職は未だ三十二歳の青年住職として



理想に燃え、信仰に依る青年の教育指導に盡力し、廣

原中堅青年修養道場を開設するなど、懸命の努力をなし、高潔濃厚を謳はれてゐる名僧にて、村内の青年はもとより多大の信頼をうけてゐる。

志田郡

本郡は所謂大崎耕土の中心を占め、南部黒川に沿うて多少の丘陵ある以外は、すべて平坦にして、東に遠田郡、西に加美郡、北に玉造郡及び栗原郡がある。鳴瀬川は加美郡より来り、三本木町を経て、緒絶、澁井の二流を合せ東流して遠田郡界をなして南に轉じ、桃生郡に入り野蒜に至つて海に注ぐ。江合川は玉造郡より本郡北端栗原、遠田の境を掠めて東に流れる。

廣袤東西四里二十五町、南北二里二十八町、面積十二方里餘にして、人口は本縣中市を除けば最も稠密な地である。

奥州街道は、黒川郡吉岡より本郡音無に入り、三本木、古木を経て江合に至り遠田郡に入る。野蒜街道は、古川より起り本郡東半を縦貫して中目、松山を経て鹿島臺に至り桃生郡に入る。その他小牛田に至るもの、中新田町を経て山形縣に

至るもの、岩出山町を経て鳴子町に至るもの等、悉く古川町から起つてゐる。省線東北本線は、松島驛より本郡鹿島臺驛に入り、松山町驛を経て小牛田に至る。陸羽線は遠田郡北浦より本郡北部に入り古川驛を経て、中新田を経て北走し岩出山に至る。小學校は十校あり、九校までは高等科併置校である。中等學校には縣立古川中學校、同古川高等女學校、古川裁縫女學校などがある。

廣袤たる大耕地よりなるを以て農業最も盛んにして工業之に次ぐ。而して荒雄志田、高倉などは産額の多い方である。

松山町

郡の東北部、鳴瀬川の南岸に位し、西部の村界には海拔一二〇米の高寺山があり、鹿島臺村と劃し山地をなす。東北部は平地にして、西部は下伊場野村に、

高倉村

本村は古川町の西南一里半の地を占め三本木町の西にして鳴瀬川と多田川の間なる平郊を占め、西は加美郡下新田村に至る。全村平坦なる沃野である。大字中

南部は品井沼に接す。

千石、金谷、次橋、長尾、須磨尾の五大字に區劃され、役場は千石に置く。東北本線松山驛あり、交通は至便。東西二里、南北一里の廣袤を有し、面積一・四四方里、人口は五千六百八人弱である。往昔は伊達氏極北の藩屏にして大崎、葛西の二強隣と相接し、しかもその地は山海兩道の交會を扼するを以て中奥の要害に推された。天文五年の古川役、天正十六年の大崎役ともに當地を以て伊達氏出入の門戸としたのである。今も松山城址は名勝として残つてゐる。

産物多く年生産總額四十數萬圓にのぼり、町には官衙、銀行、會社、商店等あり、神社一、寺院六をかぞへる。

澤、新沼、引田、堤根、矢ノ目等に區劃され、面積〇・七四方里、人口二千九百餘人、役場は中澤に置く。古川町へ二里バスの便がある。古くは伊達政宗の一敵國たりし大崎家の領地にして、今日残れる古壘はその城池の跡である。郷社數玉早御玉神社、村社菅原八幡神社ほか神社四座、曹洞宗圓通院等の社寺あり、若宮八幡宮は、源頼朝東征の時、鶴岡八幡宮より勸請せるものなりといふ。

耕地は田八百六十五町歩、畑六十餘町歩にして、農産總額二十六萬圓に及ぶ。

志田村

本村は古川町の西南に位し、玉造郡大崎村及び加美郡廣原村と連接し、豊沃な田野が擴がつてゐる。

古くは大崎氏一族の蟠居したところ。村内に玉昭君の墓ありといふも、眞偽のほどは明らかでない。飯川、澁井、荒田目、柏崎、齊下、塚目、保柳、上中目、新堀、耳取、米倉、西荒井、米袋等の大

字より成り、東西二里、南北一里、面積一・二四方里に及び、戸數九百餘、人口六千二百餘をかぞへる。産物は米を以て第一位とし、總生産額五十餘萬圓のうち米が四十餘萬圓を占める。神社は村社十三あり、寺院に安國寺、西光寺、養生寺龍興院、倉川寺あり、交通は村の西部に陸羽本線中新田驛を有するを以て便利。

敷玉村

本村は古川町の東南にあたり、鳴瀬川の北岸に位し、地勢平坦、耕地よく拓け水田九百六十餘町歩、畑二百八十餘町歩にのぼる。北東部は栗原郡に接する。石森、下中目、楡村、青生、宮内、師山、境野宮、大幡等の部落より成り、東西二里半、南北半里、面積一・一一方里にして、戸數七百餘、人口四千八百を有す。陸羽本線陸前古川驛より約一里、バスが通じ交通の便良好である。生産年總額は三十萬圓弱にのぼる。

天正十六年、伊達政宗がこの地で合戦

をしたといひ、記録によれば「政宗の臣小山田筑前柴田郡の人にして武毅衆に超ゆ、天正十六年二月師山(敷玉村)に戦ふ時に殘雪地を蔽ひ誤つて泥中に落ち敵兵のために刺死さる、翌朝乘馬言を發す、人傳へて怪となす」とある。

下伊場野村

本村は鳴瀬川の南岸に位し、北部は平地にして南部は山地をなす。東西一里弱南北一里餘の廣袤を有し、面積〇・九三方里である。戸數は約二百六十、人口は千八百人をかぞへる。耕地は水田三百二十餘町歩、畑地百二十町歩あり、農業に従事する者最も多く、林業これに亞ぐ。生産總額は十四萬圓を越える。

東北本線松山驛及び陸羽本線陸前古川驛より各二里弱、バスの便がある。

古く、和名抄に志太郎信太郷とあるところ、村に月山權現社あり、源義家が東征の時、鎌倉權五郎景政が羽州三山權現に祈り、月山權現を二つに勸請したも

のだといふ。村は大崎氏の家臣伊場野筑後の居住したところである。曹洞宗の淨刹龍谷寺がある。

下伊場野村

下伊場野村役場

本村の南方には丘陵起伏し、東北西の



長村田野入

三方は概ね平坦にして肥沃の耕地に富み

鳴瀬川は北方を貫流す。

現今當村は、田三二〇丁、畑一一二丁山林五三一丁、宅地七五、四八三坪、戸數二六六戸、人口一、八五八人を數へる官公署に、下伊場野村役場、駐在所、産業組合、各種團體に、赤十字、愛國、國防兩婦人會、經濟更生委員會、在郷軍人分會、男女兩青年團、少年團、農事實行組合、養蠶實行組合、牛乳組合等、學

校は、下伊場野尋常高等小學校、同青年學校あり、村民の大半は農業に従事し、米、麥、大豆、小豆、薩摩芋その他食用農産物が主要産物にて、養蠶亦盛んにして次いで、畜産、林産等に及んでゐる。當村初代村長今野文平氏より、現今まで十二代を經、

十三代目村長、入野田孟氏
助役 武藤正治氏
収入役 黒田毅氏
農會長、産業組合長は村長之を兼任し消防組頭鈴木雄也氏、青年團長は助役之を兼ねてゐる。他に區長六名、區長代理六名、學務委員二名、書記五名、書記補一名、統計調査員二名である。

尙社寺に、村社八幡神社、同月山神社その他五社及び曹洞宗の龍谷寺あり、當村は村長初め役員一同の協力に依り、各方面諸般に漸進的發展を示してゐる。

敷玉村

敷玉村信用販賣購買組合

當組合は名實共に本村金融、財政、産業の動脈としての機能を保ち、村勢の消長は一つに當組合の事業遂行の良否によつて決する程である。組合員數五二一、出資口數七二四、販賣約三萬九千圓、購買入約七萬五千圓、本年總益金七千二百五十圓をとげてゐる。内容の純正と事業の活潑なる動向は同種組合中に於ても其の優良を以て知らる。現組合長理事は素封家であり、當村の人格者として知らる、村上兵之助氏である。其の温容高潔の風格と矜愷の情は地方人の間に信望普ねく高い。

- 理事
- | | | |
|--------|-------|-------|
| 伊藤勘右衛門 | 青沼獎 | 勅使瓦守雄 |
| 齋藤榮記 | 末弘雄五郎 | 遠藤善兵衛 |
| 細川金五郎 | 伊藤幸治 | |
- 監事
- | | | |
|-------|-------|-------|
| 大友 翹 | 和野 雄吾 | 澁谷 恒藏 |
| 澁谷 順吉 | 和賀平以次 | 茂泉 虎一 |
| 高谷 順亮 | 我妻 留治 | 門間 晋治 |
| 今野 正 | 門間 大助 | |

の諸役員は組合員と共に協心戮力、組合事業揚達の爲めに、歸一的精進を續け著

と顯發なる成果を擧げ、農村和樂境の建設にいそしんでゐる。

下伊場野村

下伊場野村信用購買組合

組合員二二三名、出資一口金額一〇圓保證金總額二〇、三二〇圓、出資拂込額一九、五四六圓、準備金及び特別積立金役職員退職給與積立金合計一七、三八一圓を有する當組合本年度の事業狀態は、昨年日支事變勃發以來、經濟界は頓に緊張し、凡ゆる物資は戰時體制下におかれ近年になき物價指數を呈し、之が爲、購買販賣の統制に極力留意し、米價の高價賣行を計ると共に肥料の格安買入を圖るなどに努めた。

信用部、貸付金に於いて九千餘圓の増加を見たのは、經濟資金の缺乏と、年度變更の過剩月分の貸出に起因するものである。貯金は一萬八千餘圓の増加あり、購買部は、全購聯を利用し、本年度益金一、八〇〇餘圓を得、販賣部は九五〇圓

の利益あり、利用部は九四八圓の増収をあげた。初年度事業として實に活潑なる狀態を示してゐる。又牛乳處理場は昨年六月起工式をなし、同九月中旬より開始したるに五七〇圓餘の益金ありしは、乳質頗る良好なるを以て需要者多かりしにより、更に農業倉庫は四百餘石の増収をみた。以上全般的に事業狀況良好なるも差引貳千七百圓拾八錢の損失を見たのは遺憾である。組合内一般協力して今後の成果を修めんとしてゐる。

組合長 入野田孟

氏は當組合長たる外下伊場野村長の要職にあり、更に農會長をも兼任してゐる當村最有力者である。資性温厚にして寛大、然も卓識の力量と識見を有し、氏の足跡の及ぶところ、多大の業績あがらざるはなく、村内より絶大の信賴と敬仰をうけてゐる。

敷玉村師山

縣會議員 大友 平藏



當家は古くより由緒ある名望を誇る家柄にして農を家業とす。農に携はりつゝ讀書怠りなき

氏は明治四年十一月十七日、平記氏の二男として生る。資性剛腹にして温情に富み、克苦の氣慨あり、成功を期して渡米す。在米する事二十餘年、専心學業を勵み、世界の動向を研究、米國各地の政治狀況を視察して歸郷、直ちに敷玉村々長に五期就任、新知識の蓄積と英明なる洞察力によく村勢の動きをも知悉し、村民の行望を擔ひつゝ、郡會議員の要職についた。後、縣產馬畜産會議員、大崎四郎養蠶組合長、志田町農會長、縣會議員を兼ねた。

日本輸出の太宗生糸の主需要地米國に

滞在中その需要の動向を詳に研究、歸りて蠶種の改良、製糸の改善、その仕向地の事に至るまで、種々意見を披瀝し、生糸輸出の益々旺盛ならん事を期してゐるこの適切なる意見はまた氏の町望を高めます。政友會の政策に共感を覚え、會より數度國會に立候補を懇願されたが、氏謙虚なる心を以て辭し立たず、後進に道を開いてその應援に盡す。村民その志を尊んで崇敬措く所を知らない。

異國にあつて異教に親しみます、家宗の曹洞宗を行じて敬虔、鷹禪寺はその菩提寺である。

敷玉村麥生

敷玉村長 村上 兵之助

祖先是松山藩茂庭周防守の家臣にして代々勘定方を勤め、實直謹嚴の家として知られた名家である。明治の變革期に農に歸り、武道の意氣を以て農事に精勵、年々の實績近隣に範たるものをあげてゐる。

る。

氏は先代運治氏の二男明治十五年十一月十一日の出生である。宮城縣師範學校を卒業後、六週間現役兵として歩兵第五聯隊に入營、除隊後教育事業に従事す。少青年教育に對する氏の卓見は、教育界に於ても名だたるものにして、産業の開發、文化の向上等の根源を常に教育にありとする。聽て郡視學に任じ、郡教育の大綱に預かり、推されて村長となり今日に至る。更に敷玉村産業組合長を兼任、資性豁達、溫情に富む氏は誇々たる政論を好まず、常に溫健に著實に、平和の裡に事を處理するを信條としてゐる。青年教育、道路改修、産業組合の組織は氏の村政の目標、一事は一事を重ねて着々と目標は實現されつゝあるといふ。

夫人さとさんは、國防婦人會々長であり、長男園郎氏は仙臺高業學校教諭、次男光郎氏は早稲田文學部卒業後千葉野砲兵に入隊除隊後上京、中外商業新報編輯部に勤務中である。

敷玉村

郵便局長 大崎 佐九郎



會て祖先是麥生に住し代々農を營みしが六代前當地に來住、農事に精進、研鑽怠りなき篤農家である。古くは萬年寺を菩提寺となすの評あれど詳でない。代々村の有力者と共に村勢の事に斡旋盡力し、公私に拘らず煩はしきをかへり見ず、自ら世話役を任する有徳家であつた。

氏は先代久作氏の長男、明治十三年四月十日の出生である。代々受け継ぎし父祖の血は更に濃く、國勢調査委員二期、産業検査委員等をなし、方面委員、中ノ目納稅組合長等に現在精勵、困窮者、滯納に苦しむ人達の相談に大小となく携はり着々その解決に盡してゐる。溫厚篤實

佛教に歸依し、曹洞宗を信する氏は、佛陀の心を以て村政に携はるを旨としてゐる。郵便局開設以來、その資性と致々たる事務勉勵振りは一般の好評をうけてゐる。

松山町

町會議員 相澤 孫三郎

當家は松山範茂庭家に酒造業として御用を賜り、代々士分格に取上げられ、苗字帯刀を許されたる家柄にて、既に八代以上を経てゐると謂はれる舊家である。當主孫三郎氏は遠田郡北浦村起谷に生れ、實父を三治氏と稱し、當家先代勇藏氏の養嗣子となりたる士にて、明治八年三月二十八日生れ、本年六十四歳になる歩兵第四聯隊に入隊、明治二十八年より二十九年九月迄臺灣守備隊に派遣され、同十月、勳八等瑞寶章を授けられ、更に明治三十九年、日露戰役の功に依り、功七級を賜りたる歩兵曹長の兵籍を有する勇士である。

氏は功勞中特筆すべきは歩日會の創設である。歩日會は字を主として農事の發展に寄與し、近隣の生活の安定向上を目的とするものである。現在會員二十五名あり、理事會計一人、評議員六名をおき年々購入肥料は當會に於て配給さるゝものであり、通常市價より二割乃至三割低廉であるといふ。要するに産業組合の極小規模なるものなれど、年毎に成績良好漸次賛成者を得つゝある。

氏は趣味を讀書と園藝に持ち、麥生に家業の農を爲しつゝある長男を訪れてはよくその努力の結果を語り合ふ。トキエ夫人と共に銃後の守りに活躍、八人の家庭を守りつゝ行ふその誠意、眞に感すべきものがある。氏一家は模範的家庭として近隣に定評がある。

高倉町

村會議員 瀬戸 善三郎

明治十三年二月六日生れの善三郎氏は同三十三年第四聯隊に入營、日露戰争に應召され、宇品捲出州、鎮南浦上陸韓國國青田里附近前哨、更に九連附近々々城占領、新開峯、摩天峯、三道峯に轉戦、いく度、遂に作子溝北方高地に於ける激戦に負傷し、仙臺豫備病院に入院、全治後は再度戦線に参加、二道溝附近に前哨し、歩兵上等兵となり、その功は勳八等白色銅葉章及び從軍章を賜つた名譽の士である。

當家は代々農を以て家業となし、三代を経てゐるが、それ以前は不明にて、尙當家は昭和七年、一家より五人の兵役者を出せる名譽ある家庭として賞勳局より彰状並に木盃を下賜された。

氏は昭和十二年村會議員及び區長代理となり、熱心勤勉なる活動家である。家庭には、母堂タクヨ刀自健在にし、夫人イクさん、長男善男氏夫妻、三男馨氏、四男正男氏、長女ふじるさん、令孫善明君、とみるさん、明善君の十一人の大家族にして、一家團欒、明朗なる家庭の定評を得てゐる。

志田村新堀

村會議員 福原 清治

氏は區長、耕地整理組合、村會議員、その他の公職を歴任、相當の功をたゞへられた先代喜十郎氏の男、八代目の當主として生れた人である。曾ては産業組合理事、國勢調査員、土地賃賃價格調査員、農業調査委員などを歴任、既に大なる功績を擧げてゐる。

現在五期目の村會議員であり、村民の信頼の度のかに重大なるかを知るに足るべく、また村自治の上に積みあげた功勞の、決して尠少なものでないことをも察知出来る。外に檀徒總代、氏子總代赤十字特別正社員をも兼ね、それら寄與盡瘁して、ますますその功を誦はれつゝある。

性は温厚、家業に熱心にして、篤農家を以て知られてゐる。趣味は園藝、しかも技や女人の域に味到、閑あればこれに親しんでゐる。

敷玉村麥生

村會議員 齋藤 廣見

當家は伊達松山藩の家臣にして當村麥生梅木に永住し、武道の家として近隣の尊敬をうけ、明治維新に歸農し、當村草分の家柄として、今に知らるゝ舊家なのである。

氏は明治六年九月二十六日の出生。武

道の流れを汲む家に血を享けし氏は、幼より武道の教へをうけ、常に心身を鍛錬



することに努めた。適齡に達して美事に合格、第四聯隊に入營中、日清大戦勃發逸早く出動を命ぜられた。戦史に名高き山東省、威海衛の大戦に参加、更に日露の後には右翼に迫り、朝鮮鴨綠江の上流より鐵嶺、奉天の激戦等に加はり、この千載一遇の機に報國の赤心を傾注し、目出度く凱旋した。その功により勳七等を賜つた。

武勳赫々たる裡に家郷に歸り、間もなく明治四年二月より村政に參劃し、村會

議員を五期就任今日に至る。氏の政治的手腕は同じく産業方面にも秀いで現在村會議員として活躍、更に學務委員、信用組合理事等としても敏腕を以て鳴り事毎に優秀の成績をあげ、衆望を擔ひつゝある。

温厚にして英邁の氣質あり、既に耳順を越えて尙壯者と共に政治を論ず、その意氣壯とすべく、その經驗尊敬すべきであらう。

氏の教育訓練の實踐寔に宜しく、母國非常時に四人の出征者相次ぎ、戰場に馳驅激戦に参加す。家庭に於ては銃後の國民として活躍、豪も家業の衰頽を見せず近隣の信望いよく厚く、光榮の家として自他共に喜び溢れてゐる。

下伊場野村

村會議員 入野田 武志

當家は村創設の頃より既に舊家として知られ、由緒ある家柄を代々誇つてゐる名門である。

累代村民の相談相手となり、種々の事件解決に助力してゐる。村民齊しく徳と



先代武三郎氏

し何か事ある時報びん事を期してゐる。先代武三郎氏また仁俠に富み、義に厚く推されて村長に就任、村の元老として名望高かつた。

當主武志氏は明治二十一年四月十一日



先代の長男として生る。古川中學校を卒へて小牛田農

林學校を卒業し、明治四十二年十二月第二司團一年志願をなし少尉である。明治四十三年より昭和十年まで軍人分會長となり、次で郡聯合會副會長及び縣

産馬組合議員に八ヶ年在任し、在學時代既に牧畜の研究に熱心、頭腦明敏にして校中の秀才たりし氏は、玉造郡に畜産事業を經營し、優秀なる成績を擧げ、産業功勞者として縣より表彰された。今昭和八年より村會議員三期、養蠶組合長に村政に産業に盡力、また經濟更生委員として村勢挽回に東奔西走す。嚴父武三郎氏村長に次いで郡會議員となり、郡政一般に通じ、好評噴々たる名を更に擧ぐる氏の人格才腕は、よく人々の崇敬をあつめてゐる。

夫人もとよ氏との間に四男一女あり、兄妹仲美はしく、夫人の訓育下に勉學中である。長男直衛氏、嚴父の母校に學んで牧畜に就いて研鑽を積む。騎兵中尉に任官して目下日支の事變に應召され勇躍出征、轉戦また轉戦、時折の便りは家人の喜びとなり歡喜の花を咲かせてゐる。

瑞穂夫人舅姑に仕へ、二人の子を育成しつゝ、國防婦人副會長のもとよ氏に隨つて銃後の奉公に盡してゐる。

松山町

町會議員 松野 初吉

氏は明治十五年十月十日源六氏長男と



して呱呱の聲を擧げ、明治三十五年第二十七聯隊(旭

川)公使館護衛兵として三十六年より三十九年五月迄軍務に服し、陸軍歩兵伍長として勲八等を賜つた武勳の人である。

資性極めて剛毅廉直且溫和の人として人望が高い。夙に町政に思念する處あり既に三期町會議員として町勢の發展擴充に盡瘁する他、桑折水利組合議員四期、農會代議員四期、産馬組令現行委員、世話係、經濟更生委員等の重職に歴任して夫々克く其本分を全うし町民の感謝を呼んでゐる。家庭は國防婦人會幹事たるヨ

シ夫人との間に一男五女あり、長男源作氏にカネ夫人を迎へ令孫正隆君がある。みさを、めくに、きよ、きみ、すみの五息女がある。

下伊場野村

村會議員 桑添 良助

當家は、本村桑添正次郎氏家の分家に



して、四代前、源藏氏の代に分家して、先代

英記氏は村政功勞者として信望厚く、村會議員及び助役等に就任、村政上多大の貢獻をなした。

當主はその長男として慶應三年十一月二十二日呱呱の聲をあげ、日清、日露、兩役に從軍し、臺灣、朝鮮に守備として派遣された。歸郷後は、大正十年より村會議員とし

て引續き五期間勤續してゐる。又耕地整理組合議員、大正九年より水利組合議員等をなし、その他産業組合監事、經濟更生委員等を歴任、その功勞は三本木町長より表彰され、優良納稅者としても表彰される等、有力なる村政家として全村より敬慕と信望の的となつてゐる。

尙氏は學務委員をなし、教育方面に特に力を注ぎ、私財を投ずるも厭はず貢獻し、今既に七十三歳の高齡を以て勤勵せる、當村の元老である。

氏は十二名の家族を有し、圓滿なる良家庭として知られてゐる。

敷玉村下中目

村會議員 和野 雄吾

當家の祖先は享保年間當地に居住したる本村草分けの舊家である。代々肝煎として公共のことに貢獻多き家柄である。

明治五年頃迄農事のみならず酒造をもなしてゐた。曾祖父雄右衛門氏は登米縣廳の置かるゝや事務引續に永きに互つて登

應せりといふ。祖父雄之助氏も村政に



貢獻する處多大であつた。當主雄吾氏は明治十九年、

豊太郎氏の長男として岳降、古川中學に學び騎兵第二聯隊に入り、歸郷後は齋家に勉めると同時に村政にも關與して、村産業の發達に盡瘁、曩に村會議員、耕地整理組合員として精勵、殊に耕整創立當時は、副組合長の要職に在つて眞摯努力、多大の成果を擧げたことは愈々村民の信望を加へ現に村會議員に推薦され、益々村政の擴充に専念してゐる。

趣味は讀書、園藝、家庭は一男三女あり、長男卓海氏は長崎醫大を卒へて目下樺太にあり、長女裕子さん、次女榮子さん共に北海道に嫁し、三女皃子さんは家に在り、和合團樂の家庭として知られてゐる。

下伊場野村

村會議員 後藤 榮造

當家は松山藩茂庭周防守に仕へ、御勘



定頭を代々勤めた村隨一の舊家である。代々農を營み

村の有力者として貢獻する所甚大であつた。氏は先代四郎吉氏長男、少時より實業界に推飛を志し、好んで産業に關する書を繕いた。

日本産業は輕工業に端を發し、資本その他の關係上工業この發達遲々として進歩を見なかつた。爲政者、國力發展充實の立場より、重工業への獎勵を強化し、漸次その大を加ふるに至つた。折柄日清の暗雲急を告ぐる濃厚、氏はその重要性和將來性を熟考して、後藤鑛業所を創立した。

氏はまた經營の才に恵まれ、創設以來成績寔に順潮であつた。後、縣建築請負業者となり多端の身を以て猶村政に盡し今や村會中の最古參者として重きをなしてゐる。即ち村會議員は六期を通じて今日に至り、産業組合理事、創立以來の土木委員となり、また大崎産業組合議員、桑折水利組合議員、次橋聯合耕地整理委員、鈴根水害豫防組合委員等に枚舉に追がない。

行くとして可ならざるなき經營、事務遂行の才は、時には辣腕家と言はれ、時には敏腕家の評あれども、とまれ斯界の俊才である事は人共に認むる所である。故に自治制五十周年に當り、村内よりの二名の名譽者の一人にして表彰をうけ、銀盃を受く。

一家曹洞宗を行じ、菩提寺龍谷寺の檀家總代及氏子總代である。

夫人タケエ氏は賢婦人、活動家として近隣に親愛をうけてゐる。國防夫人會に参加、銃後婦人の實を擧げ、内にありて

は長男久一氏他十一人の家族をよく統制夫をして後顧の憂なからしめてゐる。

松山町

町會議員 遠藤 龜藏

先代勇四郎氏は夙に町政開拓に參與し町會議員、水利組合議員等に就任、貢獻多き功勞者として著名である。

その長男たる當主は、明治二十年十一月二日出生、同四十二年小牛田農村學校を卒業し、農事改革に熱心なる研究家である。大正十五年より官城縣穀物検査委員に推され、昭和七年まで勤続した。現在氏は、町會議員二期目にあり、農會代議員、水防團役員、農會組合顧問、赤字社普通會員、消防新田團體長等を兼任してゐる。

その業績噴々として、當町の重要な存在をなし、未だ五十二歳の氏は、壯々として前途の活躍が期待されてゐる。

夫人はナホさん、その間に二女あり、長女すす子さんは浦谷高女在學中の才媛

にて、次女はみや子さんと云ふ。笑聲邸に満つる平和なる良家庭として好評を得てゐる。尙當家は、代々農を營み、五代を経た家柄にて、當地の舊家と數へられてゐる。

下伊場野村

村會議員 飯田 善四郎



當家は代々農業を以て家業となし、飯田龍之造氏の代に分家し、當主は三代目である。

先代武治氏の長男たる當主は、明治十年十月二十一日出生、本年六十二歳になる。氏は實直温順の性格にして、村政に専心を用ゐる、又熱心なる農事研究者として、多大の信望を博してゐる。

氏は先に實行組合長を勤続してゐた。現在、村會議員二期目にあり、又經濟更

生委員、産業組合監事等を兼任してゐる有力なる村政者である。

氏の長男敬吉氏は、當村役場書記として勤務してゐる。温厚にして勤勉なる氏は、將來の當村を擔ふ重要な人物として、村民より注目期待されてゐる。家族は八人ありて、圓滿なる一家をいとなんでゐる。

尙氏は曹洞宗に歸依し、篤信家として知らる。當家は龍谷寺の檀家である。

敷玉村

村會議員 澁谷 恒藏

遠田郡北浦村、三塚嘉藏氏の次男として生れ、當澁谷家に入りたる人物にて、先代を惣吉氏と稱す。

明治十四年九月十七日呱呱の聲をあげた氏は、本年五十八歳にして人生の最も活動期にある。

日露戰爭以前、樺太に紛争ありし時、その地に派遣され、陸軍歩兵曹長として精勵を認められ、長澤岩次郎少佐より善

行賞書及び格別勉勵賞書を賜はりたる士である。

氏は郷土發展の爲に日夜盡瘁、熱烈なる實行家として、その誠實なる人格は、全村信望の的にて、先に農會總代、配水組合議員を勤め、現には村會議員二期目産業組合監事を勤続してゐる。

尙氏は漢學の造詣深く、謹言實直を謳はれ、全村の圓滑なる發展と村民の向上教育の徹底等に、生涯を捧げんとしてゐる。

家族はよしる夫人との間に三男二女を有し、夫人は國防婦人會幹事として、銃後婦人團體の爲に活動し、又内にありては良妻賢母として、子息女の教育に腐心してゐる。長男榮君、次男常雄君、三男正男君、長女貞子さん、次女は嫁し、明朗なる一家を營んでゐる。

實に氏の存在は當村に明朗化を加へるものであり、その業績赫々として村史の上に輝き、更に益々今後の活動を期待されてゐる。

下伊場野村

村會議員 武東 敬助



當家は當村の最舊家としてその由緒ある家系を傳ふる武東家より四代前に分家したものに

て、當主敬助氏は明治十六年十月七日故

慶三郎氏長男として生れた。氏は歩兵第四聯隊に屬し、衛生伍長として日露の大戦に武勳を樹て勳八等を受けた人で、現在には土木建築請負業をなし、官城縣土木建築業請負業組合古川支部長として當地方業界の重鎮である。資性剛毅大度にして人望高く、村政にも鋭意貢獻する處あり現に村會議員たり、又産業組合理事、鈴根五郷水害豫防組會議員として、自治産業其他、公共の爲めに多く力を致し、信望益々重尊を加へてゐる。

趣味として園藝に造詣が深い。宗旨は曹洞宗にして、龍谷寺の檀徒總代を勤めてゐる。

家庭はとく江夫人との間に二女あり、長女揚子さんに金也氏を迎へ、次女喜恵さは仙臺に嫁してゐる。きよの母堂七十五歳の高齡を以て未だ健在である。

松山町長尾

町會議員 畑山 瑞吉

當家は草分けの家にして遠く歴史を聞



したものの、先代氏は熱心なる努力家にして、町政に對して身命を惜まず、鋭意その發展のために盡してゐる。

町民の信望と氏の英邁なる技能は十指に餘る公職を一身に兼ねしめ、名實相備はる公共人として名高い。

長尾納税組合長、消防自警團長、産業組合委員、農會代議員、農家組合長尾會長、同聯合會々計、養蠶同業組合長及代議員、松山町動力組合長、郷倉組合理事及び會計等。

温厚篤實、圓滿なる人格を以てすべてを圓滑に、すべてを適確に遂行してゐる曹洞宗を行じ、一家誠に靜謐、十一人の老幼相共に睦まじく生活を營む福徳の家である。

下伊場野村

村會議員 今野 榮七

舊家にして篤農家と聞ゆる當家は開祖の年歴詳ならざれども、藏する家寶によつて、それと肯かるゝ由緒ある家柄である。村の中堅者として代々村會に奔走、近隣の親しみをうけてそのよき助力者である。



先代安藏氏は村會議員に就任以來、村

民の信賴する事殊に深く氏の辭任を肯んじなかつた。

古參者として重きをなしてゐた。

氏は安藏氏の男、明治十九年十月五日の出生である。同三十九年第四聯隊に入營、恭順の性と胆勉たる努力は常に上官の賞讃をうけ上等兵として滿期除隊す。

明治四十三年より昭和九年まで消防に關係し小頭をなし、二十ヶ年勤続表彰さる。更に養蠶實行副組合長、國勢調査委員、經濟更生委員等を歴任、今、村會議員十七ヶ年、五期目を勤続、區長二十ヶ年間、信用組合監事及創立當初より評定委員として現在に及んでゐる。

斯の如く一度乞はれて職につくや、氏後進に道を譲らんがための辭任以外、村民舉つて氏の盡力を求め、能ふ限りその

任にある事を希む。温厚にして熱心なる村治功勞者の當然の績といふべく、また氏子總代、檀家總代として敬神、敬佛の人である。

氏は日支事變に際し、更に國際關係の念なる時、國家の政策を奉じ、銃後の團結の堅きを特に要望してゐる。長男胤男氏父母弟妹に妻子を托して出征、慘虐の敵と戦ひつゝ、窮乏饑餓に直面、只凝つて國家奉公の念の下に激戰馳驅してゐる。次男安夫氏また航空兵を志願して報國の希望を有し、夫人も亦父子と意を連ね國防婦人會役員として活躍しつゝある。

松山町新田

町政振興委員 尾形 精一

祖先是石川築前守の家臣にして兩刀を手ばさむ家柄であつた。明治維新の頃歸農し、農を家業とす。氏は先代觀四郎氏の男にして明治十三年十二月一日出生である。少年の頃より學に志し、讀書は氏の唯一の喜びであつた。温厚篤實にして

性明朗、温容なる風姿は人を懐かしむるものがあつた。



嚴父の志を繼ぎ、政界に活躍する。

躍す。明治四十二年より町會議員に推され、三期を通じてよくその重責を竭した町會に於ける氏の力量は町勢の進展を顯著ならしめ、繁忙の身を以て區長兼任を懇望さる。

更に區長として現在まで就任、産業組合理事、農會評議員、養蠶同業組合長、小作調停委員、郷倉組合長、衛生組合長、道路組合長、町政振興委員等の各要職を歴任、その至らざるなき才腕を心行くまで行使してゐる。

自治功勞者として二回の表彰あり、赤十字社終身社員として銃後の誠を致し、眞源寺の總代となつて信仰の誠心を表はしてゐる。

イへ夫人また愛國婦人會顧問、國防婦人會幹事として活躍、三男三女の母として賢母の聞えあり、長男請氏また三男一女あり、賑はしき家庭、常に春風そよぐが如くである。

高倉村

村會議員 三浦 新藏

氏は明治十一年九月四日、先代九兵衛



氏の長男として生る。當家は當村に居を移してより三

代目、代々農を營んで來た。

氏は大正六年より引續き村會議員に就任、村政に参加して思慮温情に富み、村民の敬慕厚く、同十二年助役にあげられ次で村長に推さる。間もなく後輩俊秀に道を譲り、名譽の職を辭し、専ら村會議員として竭し、且農會長、産業組合監事

を兼ね當村の元老として名實共に備はる有徳の人である。更に農事に對する關心の非常に深い篤農家でもある。曹洞宗に厚く歸依し且氏子、檀家總代として信仰心厚き一家である。

下伊場野村

村會議員 桑添 正次郎

當家は代々農を家業とし、當村の舊家である。素封家たる佐藤家とは深き關係あり、歴代有力者として知らる。

氏は明治十一年四月九日の出生である。明治三十一年第四聯隊に入營、日露戰役の警鐘亂打さるゝや逸早く應召に接し、豫備上等兵として出征した。鎮南浦に上陸、各地に奮戦また奮戦、酷暑嚴寒と戦ひ、獅子奮迅の勇猛振りは、常に戰友を鼓舞する所があつた。不幸敵彈のために胸部を負傷した。その功により勳七等功七級を賜り、金鷄勳章燦として氏の胸間に輝くの榮譽を有するに至つた。重傷の快癒を待つて昭和三年より收入

役に職を奉じ、聽て村會議員を二期、産業組合理事、學務委員の公職を歴任す。温厚篤實にして資性豁達、曹洞宗を信する信仰深き人である。特に奉安殿の建築に際し、兒童教育のため盡力する、所甚大であつた。

松山町野田

野田區長 佐藤 彌榮吉

野田部落の草分と稱せられる當家は、



代々農を營み、當地舊閑として著聞され、先代卯吉氏は區長、水利組合員等を爲し、功績種々ありて、表彰されたる人物にて、當主はその長男として、明治二十四年九月十七日生れ、本年四十八歳の壯齡にある。資性穩健、熱烈なる村政者にて、父君の志を繼いで、當村經濟更生に全力を注

ぎ、全村より敬愛を寄せられ、野田區長の職にある外、野田自警團長、野田供志會(消防)組頭、養蠶教師、野田更生組員、國民精神總動員松山町實行委員囑託、銃後委員會班長等、現時局下の農村の使命を確認、率先して農村更生の實踐に努めてゐる。

尙氏は有隣生命社員を勤めるなど、當村重要なる存在にして、今後益々活躍貢獻されるであらうと全村民から期待されてゐる。

家庭には母堂健在し、夫人コヤギさんは國防婦人會班長を勤め、夫妻共に銃後の護りを固めんと活躍してゐる。その間に四男五女あり、健全にして明朗なる令息令嬢にかこまれる氏の家庭は、近隣の好評を得る圓滿振りを示してゐる。

玉造郡

縣の北部にあり、北は秋田縣雄勝郡に及び、東は栗原郡に境し、南は志田郡及び加美郡と交はり、西は山形縣最上郡に隣接する。

本郡は奥羽地方の脊梁をなす奥羽山脈の東側にあるので、大部分は山地に掩はれ、北部にある荒雄



鳴子峽

嶽から發する荒雄川(江合川)が、その間の水を集めて東南に流れ、志田郡に入る荒雄川の谷には温泉の涌出が多く、著子を中心とする八湯及び鬼首を中心とする五湯がある。鳴子はスキー場を以て鳴はれ、鬼首は間歇噴泉を以て名高い。

郡内を岩出山、鳴子の二町と六ヶ村に分ち、人口約三萬一千人である。

岩出山町

仙臺市を去る十三里、山中の主邑にし

て、西は加美郡と、東は栗原郡といづれも境界を接し、町は大部分山地をなし、僅かに東南部に平地がある。陸羽東線岩出山驛ありて交通に便し、こゝは凍豆腐の産地として有名である。面積一・三方里、人口六千三百人。

天正十九年より慶長五年まで、伊達政宗の居城したところで、政宗が仙臺に移つてからは第四子宗泰の食邑となり明治に至つた。郡制時代には郡役所が置かれた。驛前に斷崖屹立して白石突出し、岩出の名はこゝより出たといふ。町には政宗の居城たりし岩出山城址、指定史蹟たる舊有備館、指定名勝有備館庭園などあり、社寺には郷社八幡神社、實相寺、祥光寺、淨泉寺、松窓寺、來迎寺がある。

鳴子町

本町は東北の温泉郷として著名にして鳴子は一に啼兒に書く。その昔、源義經北行の途、偶々夫人分婉し、辨慶これを

獲中に養ひ、こゝに來て始めて呱呱の聲を放つたといふ、啼兒の由來はこゝより來た。大谷川の溪谷は名勝地に指定され東北の上高地といはれる。

郡の西南隅に位し、全町山地にして、町内を荒雄川が東流し、北境には荒雄山がそびえ、北西より南西にかけては大柴山（一〇八三米）、奥羽山などの奥羽山脈がたつたつて山形との縣界をなし、南部は鳥屋山・國見山六五四米等ありて加美郡と隣接する。人口約四千、面積四・七五方里あり、陸羽東線に沿うて鳴子驛を有し交通状態良好である。

温泉神社、指定名勝鳴子峽、鳴子温泉、元車湯温泉、河原湯温泉、中山温泉、義經駒止、辨慶足跡、尿前關址、鳴子スキ場等の名勝がある。

東大崎村

本村は郡の東南端にあり、古川町の西に接し、荒雄川に沿ひ平坦なる沃野である。面積〇・八六方里、人口三千二百萬

餘人。陸羽本線陸前古川驛までは一里半バスの便がある。

封建時代より大崎村と稱し、明治二十九年東西兩大崎に分れた。大崎氏の祖は家兼と稱し、足利尊氏の一族にて奥羽探題となり、古の美川、賀美、色麻、栗原、玉造、長岡、葛岡、新田、志谷、小田、遠田の十一郡を領し、伊達家のためには最も強大な敵國となり、しばしば戦を交へたが、後、相和し、家兼以來十四代の義隆に至つて秀吉の部下に屬し、上洛して長尾景勝に屬し、會津に死して家絶え領地は遂に伊達家の有となつた。

村には前九年の役に源義家の陣地となりし柳の關をはじめ、名城址、小野小町の塚等の舊蹟がある。

西大崎村

本村は郡の東南部に位し、岩出山町に隣接する。北東部及び西部は山をもつてかこまれ、兩斜面の中央に平地あり、荒雄川はそこを東南に流れてゐる。戸數三

百八十餘、人口二千六百人を超え、下野目、南澤の二大字より成り、東西三里、南北二里にして、面積は一・九二方里である。

耕地は田五百四十町歩、畑百四十町歩に及び、農産年額十六萬圓、その他林産などを加へても總額は十八萬圓に満たない。村には農林省の國城種馬所が設置されてゐる。寺院に西光院、村上寺、東陽寺あり、交通は陸羽本線岩出山驛によるを便とし、同驛から一里である。

一栗村

本村は岩出山町の西北につらなり、北東及び西南は山地をなし、中央部を荒雄川が東南に流れて平地をつくつてゐる。下一栗、池月、上野目の三大字より成り東西三里、南北一里、面積三・二三方面を有し、人口四千七百人である。陸羽本線に沿つて池月驛を置き、交通の便は悪くない。住民の多くは農業に従事し、生産總額は二十八萬圓餘にのぼる。

往昔は大崎氏の家臣一栗兵部隆春の采地であつた。今もその居館址が残つてゐる。村に上宮邑あり、安寧帝の皇子流遇の地なりと傳へる。また源俊賴が

小美崎沼のれぬなけ踏したき

日も夕まえにかはす鳴くなり

と詠んだ小美崎沼がある。源頼朝が愛馬の遺跡なりといふ池月沼も著名である。社寺には郷社荒雄川神社、花岳院、樹林寺、如來寺、天王寺がある。

眞山村

本村は郡の東北端に位し、全村殆ど山地にして平坦地なく、北東部には右山が聳立する。上山里、下山里の二部落を合せて成り、東西二里餘、南北一里半、面積二・三三方里に及び、人口二千六百有餘人である。日本外史頼朝東征の項に

朝政等をして物見國圍を攻めしめ、而して自から誰母城を圍む

とある誰母城は、本村高波々城のことである。城は泰衡が據つて頼朝の軍を待つ

たところである。寺院には護勢寺、眞昌寺、梅林寺、本還寺がある。

陸羽本線岩出山驛より二里、バスの便がある。生産は年總額十八萬圓餘にのぼり、田三百六十餘町歩、畑百六十餘歩にして農産額十三萬圓に達す。

川渡村

鳴子町の東部に接し、全村殆ど山岳丘陵にして、北西部及び南西部は斜面をなし、その中間を荒雄川が南東に流れ、北東岸に僅少の平地を見る。面積三・三方里、人口四千三百人。

會では鳴子町と合して温泉村と稱してゐたが、大正十年分離して川渡村となり今日に至つた。舊村名の如く温泉郷にして村内數ヶ所に噴出を見、川渡温泉は硫黄、鹽類の二あり、玉造八湯の門戸をなし、荒雄川一帯の景を一眸に收め得る。

田中温泉は炭酸、アルカリ、弱鹽類及び單純線の四あり、仁治元年の發見と傳へる。湯坂温泉は炭酸、アルカリ、鐵分鹽

鬼首村

郡の北西隅を占め、全村山地にして中央に荒雄嶽（九八四米）がある。北西より南西山形縣境にかけては、山猫、大鍋山等一千米以上の連山あり、荒雄川及び玉造川は北西の山間を發して兩斜面の中間を南東に流下する。面積一二・九五方里の大村なるも、人口は僅か二千三百有餘に過ぎない。

和名抄にある玉造郡餘戸郷の地で、こゝもまた玉造温泉郷の一にして、會て詩人齋藤竹堂に荒湯温泉仲秋月を賞するの詩あり

夜色玲瓏とし露欄に撲つ
温泉地陰にして寒を知らず

尋常得難し仲秋の月
満面の清風浴後に看る

と、情景想ふに足る。蟹澤、轟、宮澤、
神瀧、吹上間歇、荒湯のほか雄釜及び雌
釜間歇温泉がある。陸羽本線鳴子驛より
三里、バスの便がある。

一 栗 村

荒雄川神社

本神社は栗村池月神宮山にあり、郷社
にして、延喜式門社である。その氏子範
圍は一栗村池月一圓に及び、氏子数は二
百八十戸を擁し、例祭は毎年八月六日よ
り八日まで盛大に行はれ、氏子總代は佐
々木源之丞氏外九名である。

神 職
河部 武雄

當家は祖先累代社家
にして、榮譽ある歴史
を有し、當主にて二十
四代を重ねる。氏は先神職阿部源之丞氏
の長男として生れ、現在三十六歳の壯年
で、神職としての講習を受けて後當社を
繼承するに至りし人にして、氷川神社、

三島神社を兼務してゐる。



尙初代は
阿部宿彌安
壽と稱し、
祖父は神宮
山明王院慶
永と稱さる

鬼 首 村

鬼首村役場

當村は玉造郡の西北隅に位し、地勢概
ね山林地なるを以て、農業の發達遅れし
も、製炭業は盛大に營まれてゐる。村社
荒雄川神社は、村の土産神として尊崇さ
れてゐる。荒雄川は役場所所在地の東方を
流れ、附近には荒雄岳ありて、雄大なる
光景を呈し、風光明媚である。しかも荒
雄川流域には奇岩怪石連立して、素晴ら
しい景勝地をなしてゐる。

當地方は有名なる温泉郷にして、室澤
蟹澤、轟、神瀧、赤澤の諸温泉あり、胃
腸病、神経痛、婦人病等には特效あり、



長は高橋一彦氏、校醫は佐藤長治氏であ

助 役
大山春三郎

氏は明治二十四年の
生れ、役場事務の殆ど
凡てを村長に代つて處
理してゐる

村 長
高橋達之進

氏は明治二十三年の
生れ、初代村長、大場
藤三郎氏以來十五代目

避暑地として最適の地でもある。戸數三
七〇餘戸、人口約二四〇〇人にして、全
村曹洞宗を奉旨してゐる。村會議員一二
名に及ぶ。

る。郵便局長は大場行治氏、消防組頭は
大場光輝氏で、何れも誠實に職を奉じて
盡瘁してゐる。

川 渡 村 築 澤

川渡尋常高等小學校



長校副田

當校は明治六年六月の創立である。最
初大口小
學校と稱
し、明治
二十年大
口高等尋
常小學校
と改稱、其の後、大正十年川渡尋常高等
小學校と稱するに至つたものである。

教育勅語の御趣旨を奉戴し、郷土愛、
祖國愛に目覺ましめ、奉仕の精神を鍛鍊
し、以て國民文化の向上發展に資する人
格を養成せんとするの當校の教育方針で
ある。初代校長大内順介以後十七代に至
り、卒業期は六〇回を重ね、卒業生三八
八五名に上る。現在學兒童九四六名、職

員十九名である。

歴代校醫は熊坂癸巳七郎、木幡義五郎
氏にて、劍道、柔道、競技等、兒童體位
向上を目指して活動してゐる。昭和十一
年郷土室を設け、郷土の自然と文化に關
する資料を蒐集、郷土愛の精神を涵養し
つゝある。

現校長、田副軍治氏は本校十七代目の
校長である。就任以來、本校の教育方針
を重んじ、その充實と進展の爲に献身的
努力をなして、校内は勿論、全村より徳
行と人格を仰慕されてゐる。

岩 出 山 町

元縣會議員
元町長
勳七等

花 淵 信 太 郎



氏は目出
度や當年九
十歳の長壽
童顏麗はし
く矍鑠たる
ものあり、

九十年の生涯よ、いかに多岐多端なりし
か。

生家は伊達政宗公の臣、氏の代に歸農
父君源治郎氏について戸長を拜命。明治
二十二年町村制實施と共に初代町長に就
任、大正三年までの二十有六年間、全精
神を打ち込んで努力、今日の榮えある町
の土臺を築き上げた名村長であり、また
縣會議員に當選すること四回、最後には
副議長として議長の輔佐役を遺憾なく發
揮し、縣、郡、町と各種の自治方面に捧
げた功績は文字通り數ふるに遑なして、
日露戰爭當時の内治の功に依つて功七等
を賜はつてゐる。

三男眞潔氏は仙臺一中、第二高等學校
を経て東大法科に學び、卒業後大阪淀川
電機に勤めたが、現在は大坂に在つて辯
護士を開業。四男育三氏は仙臺二中、鹿
兒島高等學校、東大法科を出て、目下高
松地方裁判所監督判事を奉職しつゝある
從七位の功勳者。五男東一氏は古川中學
出身の教育家として知られてゐるなど、

揃つて成功を擔つてゐる。以て當主の薫陶のほどが想起される。

岩出山町中町

岩出山町長
郡町村長會長

阿部庄左衛門

電話 酒店 一七番
吳服部 八番



昭和十二年八月町民の推輓を受けて町長の重任に就き、同時に郡町村長會長の要職に就きたる

氏は、明治十一年八月二十七日先考金治氏の二男に生を享けた。資性清廉にして高潔なる人格者にて、頭腦明晰である。事業方面に卓越せる手腕あり、家業として造醸業及び吳服商を営んでゐるが、代々は農を營みしものにて、吳服商は明治三十一年、醸造業は大正七年創業せるものである。現在醸造方面の従業員は二十名にして石高、千百石、その銘酒は「金の穂」と

稱す。吳服商方面に於ては三名の従業員が精勵してゐる。自治公共の事には夙に關與して昭和四年消防組頭となり現任中であり、また現任する町會議員はすでに七期の永い期間に亘るものである。町民の信望頗る厚く、その名聲縣下に聞え、稀に見る才幹と謳はれてその一舉一動縣民注目の的となつてゐる。

西大崎村

西大崎村長

佐々木米吉

西大崎村に於ける佐々木家は名門である。即ち開



祖佐々木五郎作氏は、仙臺侯の家臣であつたが、當主米

吉氏はその十代目、農業の傍ら現村長として、村の牛耳を執つてゐる。實父伊三郎氏も亦縣會議員を勤めた人である。米吉氏は明治九年三月十日生れの六十

三歳、南澤耕地整理組合長、玉造郡農會代議員、村會議員、區長、村農會議員、郡農會議員、土地貸賃價格調査員等を歴任、その功績頗る顯著なもので、現在氏は村民の絶大なる信賴を博し本村長の重職にあるが、赤十字社終身社員、國防婦人會幹事、愛國婦人大崎分會長をも兼任し、只管村民の福祉増進に多忙を極めてゐるにも拘らず、鋭意邁進只管土地の發展の爲めにも心骨を砕いてゐる徳望家で、子實にも恵まれて、男子四人、女子七人を擁して、家庭頗る圓滿である。

東大崎村清水

東大崎村助役

大場昌四郎



先代勝治氏

當大場家は五代目の舊家、代々農を主業として來た家柄で、先代勝治氏は村長に推薦さるゝ

一栗村池月

一栗村助役
勲八等

石上常吉

多年村會議員を勤めて、家名隆々たるものある當家は、村内屈指の舊家にして

氏は明治十六年二月二十日に、先代常太郎氏の長男として生る。幼少より農業に従事し、長じて歩兵第四聯隊に入營し、日露戦役には逸早く出征し、各地に轉戦その奮戦目ざましく、遂に認められて、勳八等旭日章を賜はる。歸郷後専ら農業に従事せしむ。大正五年五月村役場入る天資英邁、情誼厚く、村民の畏敬する所となり、遂に村助役に昇進して、今日に及ぶ。

その間、村政發展には深く留意する所あり、よく村長を助けて、積極的熱意と誠實さを以て、献身勉勵しつゝある人である。

舉措懇懇にして、才媛の評高きみすよ夫人との間に二男三女あり、圓滿なる家庭を營んでゐる。

鬼首村

郵便局長
前村會議員
正七位勲六等

大場行治

往年仙臺産業組合の名を以て、宮内省に献納した駿馬「青葉號」は、實に氏が魂を摺り減らして育成したもので産馬、考古學等多趣味な人、元陸軍一等計手である。曾て村會議員四期、産馬組合議員農會議員、債務調停委員、在郷軍人分會長等を歴任、その功甚だ多きものがある。氏はこれより先き、即ち明治三十九年來郵便局長として今日に及んでゐるが、多年通信界に盡力した功勞も決して尠くなく、郡下に於ける古參局長として手腕と共にその名を謳はれてゐる。大正十二年貯金局長より、また翌十三年には自治功勞者の名目の下に、表彰されてゐる。

家庭は極めて圓滿、春風駘蕩たる和かさを見せ、一家は曹洞宗の信仰家。因に氏は民政黨々員、鬼首村營製材會社の代表者でもある。



こと二期、また耕地整理組合長、村會議員(四期)等選ばれて鋭意盡力した功勞は、まことに高大、今も村民の等しくたゞへ仰ぎつゝある。

當主はその四男、明治二十九年九月二十七日の出生、古川中學校の出身、大正十五年より村助役、産業組合専務理事、村會議員を兼ねて現在に及ぶ、更に本年青年團長に擧げられ、村政に、産業に、青年指導にと活躍、父君に劣らぬ功績を樹てゝゐる。

「公正にして人間味を加へ、隣保相助、協心戮力、自治の發展を圖り、公民たる青少年の善導をなし、遂行途上にある經濟更生事業の完成を期す」の業績抱負を持つてゐる。

家に一男四女があり、家庭圓滿至極、和かである。

岩出山町

町會議員 岩崎榮五郎

氏は明治二十三年四月二十日實父彌三郎氏の男として生る。志田村の出身にして、南洋より歸國して昭和二年に分家せらる。昭和二年より現住地に於て雜貨商を經營し着々其の業績を擧げた。

氏は明治四十一年帝國海軍を志願し、世界大戦又尼港事變に再度出征参加して武功赫々たるものがあつた。現在は町會議員、部落世話役等の重職に歴任して、その抱負主張するところを實踐に移し、多年努力活躍其の功は眞に刮目すべく即ち町有三百町歩の山林を利用し現に縣の助力を得て、之に櫻桃及梨の果樹を植付け、一方又椎茸の栽培を奨励實行してゐるのである。成功の曉は出荷組合等を組織し大々的に販賣の方進を決定すること次に當地名物の寒及び天竹細工、凍豆腐の製造を一層盛大にし町の副業を計りその繁榮を期さんと寧日なき奮勵を續けて

ゐる。

川渡村新田中

村會議員 高橋友衛

當家は土地の由緒深き舊家にして、代々の人物皆村内の福利を圖り、廣く徳望を集めてゐる。古くより温泉旅館を經營して、世の病苦に憫む人々に裨益する處多大なるものあり、その功績は縷々川渡村誌に記されて、全國に廣く知れ亙つてゐる。

當主友衛氏は明治十八年の出生、資性温順篤實にして深く公共犠牲の精神に富み、村民の信頼を受け人望を集めて、村會議員に選ばれること既に五期の多きに及ぶ。現在尙その任にあつて村政に爲す處尠からず、又消防組頭を勤めて能くその責務を果してゐる。

氏は尙本縣の土木方面に關係して種々の力を致し、請負業として業界に重きをなしてをり、前記當家代々の業である温泉旅館も、手廣く經營して繁榮を極めて

ゐる。

家族は氏夫妻の間に長男ありて四時春の如く和やかに、近隣より羨望される園樂をなしてゐる。又、館内の従業員皆來客を遇するに懇切丁寧、同業者の範とされてゐる。

因に當温泉は、アルカリ性並に炭酸泉にして、神經痛、リョウマチス、婦人病胃腸病等に特效がある。

東大崎村

村會議員 都築幸壽

現在村會議員として村政に重きをなして、献身的努力を付けてゐる。



氏は明治二十八年三月二十日先代

幸左衛門氏の男に呱呱の聲を擧げし温厚潤達なる人格者である。多年村治に關與して盡瘁せる業績多大なるものあり、大

河原、伏見南河原、中河原の架橋には特に盡力するところ多く、今でも農家の重要副業たる養蠶、養鶏に専ら意を用ひ、また現在の村内畦道の耕地整理をなして良道となすに一意邁進活躍してゐる。

因に當家は當主を以て五代目となす家柄にて、先代幸左衛門氏は村會議員を三期間つとめて效を奏せる自治の功勞者にて、また産業組合理事、水利組合理事をも歴任せし事あり、その足跡は村政諸般の上に大きく印されてゐる。

西大崎村下野田

村會議員 千葉市十郎



苗字帯刀御免の名門の家柄たる當家はすでに家系を傳承する事八代に及ぶ舊家でもある。代々村内要職を

村會議員を歴任して村史の上に偉大なる足跡を印し、その功勞に依りて衆望自ら高まり、遂に郡會議員に推輓を受けて郡民の幸福増進を期して活躍邁進し、多大の事績を残した。中にも明治四十二年の大水害の際には献身的に努力して當地方民の感謝の的となつた。

明治六年八月二十六日その男として生を受けたる氏は、夙に嚴父の衣鉢を繼いで青年時より自治公共の事に參與し、會て養鶏組合理事、耕地整理組合理事をつとめて盡力貢献した。現在尙も村會議員、二石堀水利組合理事、耕地整理組合評議員等の任にあり、常に山林に通ずる道路の擴張及び江合川の架橋、養鶏組合の復活等を主張して、公平無私の念を以て活躍精勵しその功勞は尊父にも劣らぬ程多大なものである。氏こそ由緒深き家門の長として將又公共の一員として、まことに相應しき人物と言ふべく、村民よりは村政の元老として重きを置かれてゐる。

長男正氏(三十九歳)は俊敏の氣性に

富む材幹にして、現在宮城縣廳に奉職してゐる。

一栗村上野目

村會議員 石田庄助



今更言ふ迄もないが、併し養蠶、林業等も亦重要なものにして、

蠶業の發展及び農業重要副業の一たる薪炭産出に意を用ひて、その伸張を期する爲には組合組織にすべきであるとの論を主張して現在養蠶實行組合理事、四期目の村會議員、上野目耕地整理組合理事、學務委員の村内各方面の要職にある。氏は明治元年十月二十二日、先代石藏氏の男に生を受けた。曾ては助役をなして村長代理をつとめ、また區長、消防組顧問、水利組合代議員等も歴任せし事あり、功勞

枚舉に違あらず、表彰は數次に及んでゐる。

氏はまた日清、日露の兩役に出征したる勇士にて、功に依り勳八等に叙された今や村政の元老として村民敬慕の的となり重きをなしてゐる。長男千吉氏は濃厚なる篤農家にして、家業たる農に精勵し家運の隆盛につとめてゐる。

眞山村上山里

村會議員 勳八等 **長谷川文藏**

當家は代々篤農家を以つて稱されし名家にして當

主はその三代目に當る



氏は明治十六年八月十六日の生

れ、剛毅明敏の資性備はり現在村會議員(第二期)及び産業組合理事等の要職に歴任し献身的に勞を惜まず、益々精勵努力を續け村政に寄與する事多大にして、人

望頗に高い。氏は嘗つて日露戰役に際しては勇躍出征して各地に轉戦、赫々たる武功を樹てた。又以前は産業組合收入役消防組頭、養蠶組合長の要職を歴任多年に亘る功勞は村民一同敬慕感謝してゐるところである。氏は特に木炭の製造及び植林の奨勵に熱心なる努力を拂ひ、氏の今後に於ける活動は村民の齊しく翹望してやまない處である。

政黨に偏せず所論は絶對嚴正中立主義である。消防組の功勞によつて勳八等に叙せらる。宗教は日蓮宗、長男廣人氏(三十二歳)は現在戰地へ出征せられて居り陸軍砲兵一等兵である。

鬼首村中川原 村會議員 勳七等 **遠藤東輔**

當家は土地の舊家にして代々農を以て家業とし、當主東輔氏は明治十五年出生日露戰役には名譽の出征をなし、赫々たる武功を樹て、凱旋、歩兵軍曹に任ぜら

れ、戦功に依り勳八等、功七級に叙せられた。

驕虜を征して勇武並びなき氏は、内にあつては濃厚篤實、一點の私心を有せず廣く村内の信望を集め、現在村會議員二期目にある他、中川原區長代理、中川原自警團長、衛生組長、消防第二部頭、養蠶組合長、製炭組合長、鬼首村信用組合理事等、多くの要職に推され、村の治政、産業の作興に盡す所甚大である。家庭は夫人との間に三男五女があつて極めて圓滿である。

岩出山町川原町

町會議員 **中島信三郎**



氏の實父信之助氏も在世中は町會議員その他の名譽公職にあつて、幾多の功勞を遺した人材であるが、そ

の三男に生れた信三郎氏は本年五十一歳の働き盛り、仙臺一中を卒業後、進んで宮城縣師範學校二部を卒業して、教職に在ること六七年、その後家庭の事情にて退くと共に、目下家庭に在りながら、幾多の町役に就任して、多大の貢獻を爲してゐる。

町會議員に當選すること四回、又學務委員として、郡の農會議員として、町の農會總代としても、多年に亘つて献身的な努力を惜まない人である。

關係する政黨は民政、又信仰家としても、曹洞宗の研究厚く、圓滿なる人格者熱心なる指導者として、町の人望は一身に集つてゐる。

家庭は夫人はなよさんとの間に四男三女をあげ、その家柄も古く藩政の頃は伊達家直屬の士族であつたが、後歸農して現在に至つてゐる。岩出山町の將來は種々の點に於て氏の手腕に俟つものが多

東大崎村清水

村會議員 **高橋長治**

高橋家は代々農を以て業とし連綿として當主に至る氏を以て十七代目とする。明治十年十一月二十八日實父雄三郎氏の男として生れた。實父は鹿野善太郎氏村長當時に收入役を勤め、又耕地整理組合員の職に在り、村財政の爲めに多大の貢獻をなした人である。當主は現在村會議員、區長(清水)消防組世話掛等の要職を兼ねて村政の爲めに活躍、全力を傾注して精勵なしつゝあるが、氏の主張される處は大崎方面の道路の擴張、中新田行南澤の縣道の架橋の更新であり、その實行せられた曉は同村の交通開發の便は注目すべきものとならう。氏は多年全村の福祉に貢獻一身を公共營爲に没頭し餘す處がない。消防組の功勞者として表彰せられたことがある。資性濃厚篤實、村民の信望重く歴代篤農家を以つて稱せらる家柄である。宗旨は曹洞宗、家庭圓滿子福

一栗村池月

村會議員 **佐々木幸之助**



一栗村に於ける佐々木家は、代々農家として多大の貢獻を爲して來た。氏の實父幸右衛門氏は布哇に在る

こと十三年間、それによつても現在の當主幸之助氏の人となりは窺ひ知られる譯であるが、氏は村會議員の他に、農家組合長、納稅組合長の公職に在り、滯納税金の整理、造林の改良等、村政の先達者として、數多の功績を残して來てゐる。また養蠶組合員としても實績をあげ、溫和篤實、村民の人望を集めてゐる。明治十九年十月十四日の生れで、當年

五十三歳、長男幸作氏(二九歳)次男誠氏(二七歳)の子實にも恵まる。氏の手腕は今後益々期待されるが、政黨關係は中立、宗教は臨濟宗である。

眞山村上眞山

村會議員 佐々木 金治

當家はその昔、眞山城主の家臣として



榮えたが、後ち農業に歸し、七代目の當主に及んでゐる氏は先代

長次氏の男として明治二十九年四月八日の出生、小野田農林學校を出、陸軍輜重兵を現役し、除隊後は家業に精進し、また村内のことに従つてゐる。曾て産業組合常任監事玉造郡畜産組理事等に推されて盡瘁、功績を擧げてゐる。現在は村會議員であり、また軍人分會長でもあるが、温厚にして眞面目なる氏の一舉一動

は村民に多大の感激を與へてゐる。氏は目下薪炭、肥料、養蠶、竹細工の獎勵及び整理に目標を置いて極力これが達成に邁進してゐる。なほ軍人分會長として表彰されてゐる。

鬼首村中田野

村會議員 高橋喜惣右衛門

現在六期目の村會議員の任にありて村



政の元老と謳はれてゐる。氏は明治七年七月二十九日今は亡き蘇平

氏の男に生を享けし温厚篤實なる人物にて、後ち當家先代武治郎氏の懇望に依りて高橋 に入りし人である。

當家の家業は農であるがその傍ら雜貨商を営みて専心家運の隆盛をはかり、また早くより自治公共の事に意を用ひて活躍精勵し、その卓拔なる手腕は村内諸般

の上に功を奏し、殊に大正十三年私立消防組を率先して組織し、自ら組頭となりて今日の公設消防組の先鞭をなした。その功勞は圓滿なる人格と相俟つて衆望を高め、その論は村政を左右するものなれば村民期待を以て注目してゐる。家庭は頗る圓滿を極め、七男四女の子福者として羨望されてゐる。

岩 出 山 町

町會議員 菅 谷 昌之助

當主は十三代目に當り、祖先は伊達三河守宗泰の舊臣であつて、明治初年より農業に従事して今日に至りしものである當主は明治五年一月十三日の生れ、當家先代圓助氏の養子となる。父君は城下詰となり、戸長等を勤めた人である。

縣立農學校を卒業してよりは、村自治に對しての活動目覺ましく、現に町會議員、學務委員、養蠶實行組合長の要職に就任し、圓滿主義を旨として、町の隆盛に努力を續けてゐる。氏は町債七八萬圓

あるを留意し、町有林の杉を當て、速かにその返済方法を講ぜねばならぬと腐心してゐる。又組合を組織して、地方特産物の統制に力を注ぎ、當村の興隆みるべきものありと、聲を大にして村民に呼びかけてゐる。中立的立場を嚴守して、縣政界に濶歩してゐる。曹洞宗を奉じて信仰心篤く、村民の龜鑑として稱へられてゐる。家庭には長女はみなせ嬢、次女民子嬢がある。

鬼 首 村 峠

村會議員 高橋 三胤

明治三十五年小學校教員檢定試験に合



格し、同時に當村小學校に奉職して、爾來三十有餘年間に當りて、次代國民育

成の爲に献身的奮闘したる氏は、明治十四年八月八日呱呱の聲を擧げた。育英

界への寄與多大にして縣知事及び郡教育會より表彰再三に及んでゐる。圓滿潤達にして清廉高潔なる資性を有して衆望高く、退職後は専ら自治公共の事に意を用ひて昭和八年五月當村助役の重任に就いた。併し在任六ヶ月にして病の爲め惜まれて職を退き、現在は村會議員として村政に重きを爲してゐる。

鬼 首 村

村會議員 高橋 清俊

當家は祖父より當主に至るまで、代々村政に盡力する所尠ならず、稀に見る篤志家である。氏は村會議員中の最少年齢にして、非常に覇氣に富み、冷靜



なる態度を以て、侃々として正言し、將來の當村を牛耳るべき大人

物である。氏は其他區長、信用組合委員消防組二部小頭、赤十字正社員等の榮職にある。禁酒禁煙を固持し、スポーツには特に堪能である。實實剛健を尊び、努力の人である。當家は軍籍關係が深く、陸氏が海軍々人として嘗つて軍務に精勵した外末弟氏は海軍を志願し、分家保氏は佐世保鎮守府に屬し、特務機關少尉である秋雄氏は滿洲にあり、歩兵曹長として活躍してゐる。實弟三男氏は今次事變に應召出征中で、拔群の殊勳を立て、ゐる騎兵上等兵で、清志氏は横須賀海軍砲術學校に在學中で、他日を期して勉學に勵んでゐる。

當家は曹洞宗を奉じてなか／＼信心家が深い。

一 栗 村

産業組合長 佐々木源三郎

當家は代々味噌、醬油の醸造を盛大に營み、當地方屈指の素封家にして、嚴父孝之助氏も同家業に従事し、永く村長の要職にありて、村自治に盡力せる人である。

當主は孝之助の長男として、明治七年八月十九日に生れ、早くより父君を輔けて家業に勵み、共に品質の改良、販路の擴張に努力した、不撓不屈の旺盛な精神力の持主であつて村自治に對しても、めき／＼と手腕を現はし、村會議員に推舉され、産業組合長、一栗耕地整理組合長を兼任してゐる。

家庭は、なを夫人との間に五男三女あり、長男太郎氏は農業に従事してゐる。次男二郎氏は二高、京大法科出身の秀才にして、現在山形縣廳社會兵事課長の榮職にある。三男三郎氏は、仙臺にありて農事に精勵し、四郎氏は二高を卒業し現

在東北帝大工科に、五郎君は古川中學に在學中である。長女淑嬢は、加美郡の鈴木良治氏に嫁し、次女櫻嬢、三女梅嬢が居られる。

一栗村信用販賣購買利用組合

當郡内に優秀なる成績を以て鳴る本組合は安部春雄氏の主唱の下に同志相集りて創立せるものにして、組合長には佐々木源三郎氏が就任してゐる。販賣部は、肥料、雜貨、酒、藥、魚類等を取扱ひ、購買部も亦販賣部同様の品を取扱つてゐる。農倉二棟を創設し、農業倉庫事業も頗る好成績を收めてゐる。逐年の伸展はよく本縣産業經濟の中軸としての役割を果し、現下農村諸問題打開に拍車をかけてゐる。

岩 出 山 町

學務委員 森 清三郎

電話一〇番

今、東北醸造界に噴々る盛名を謳はれつゝある銘酒「森の譽」の醸造元たる當

家は、明治二十年頃先代民三郎氏が仙臺市から分家して當地に獨立、同時に酒類醸造を創めて現在に及び、年産六百萬石を示して販路年と共に擴張、従つて醸石數も増してゐる。

當主清三郎氏は明治二十五年十一月十三日、その男に生れた溫和篤實の人、古川中學校を卒業するや大藏省醸造試驗場に入つて研修するところがあり、現に父業に従つて精勵、ます／＼店名を宣揚しつゝある。銘酒「森の譽」は東京博覽會並に東北六縣聯合品評會に於て表彰されてゐる。

また公共方面にも進出、岩出山町小原町製糸場前の道路擴張を實現すべく心を砕いてゐる。目下學務委員として、特に教育方面に懸命奔走してゐる。

夫人は貞淑、内助の譽れ高き人、間に二男二女があり、長男一郎君(二十二歳)は慶大に、次男修君は古川中學にと何れも在學、秀才の名を謳はれてゐる。なほ長女民子さんは他に嫁し、次女の清子さ

んは今十四歳、古川高等女學校の才媛として賞めたゝへられてゐる。

東 大 崎 村

前村長 中鉢 作太郎

當主作太郎氏は十四代目、實父は加藤善六氏であるが、中鉢家に養子となつて、現在村の元老として重きをなしてゐる。村長として二期、産業組合長二回、又農會長として村治に努力したが、現在は大崎醫療組合病院幹事として六十七歳の老軀に拘らず青年を凌ぐ奮闘振りである。



その功績を列擧すると、大正七年に農事功勞の表彰、昭和四年に耕地整理組合及び農業調査の表彰、同五年には國勢調査の表彰、八年に東大崎信用組合設立の表彰を授けられた外、大正十年には第一

回國勢調査記念章、昭和三年に大禮記念章及び大饗饌を賜つてゐる。

政治方面は民政黨に屬し、その人望と共に、その主張するところは道路の整理架橋の必要を早くより説き、村の發展の爲めに日夜努力を惜しまず、氏の東大崎村に於ける存在は實に重要である。

なほ氏の後繼者は長男慶一君で目下古川中學に在學中であるが、他に長女一人は古川家へ嫁いでゐる。

一 栗 村

元村長 大沼 與四吉

當家は代々農を以て業となし、當村屈指の舊家にして、氏は慶應元年八月二日嚴父卯吉氏の三男として生る。父君の嚴格な薫育のもとに成長し、明治十九年歩兵第十七聯隊に入營、日清戰爭に出征して從軍徽章と共に一時金を下賜され、日露戰爭當時は村役場にて村助役を勤め、よく繁務に堪へて功績を現はし、勳八等を賜はる。明治二十二年町制施行と同

時に村書記を拜命し、以來、助役、村長を歴任し、明治二十九年には村會議員に推舉さる。郡制改正前には郡會議員、參事會員、村農會長にも就任せしことありその生涯は村政の歴史そのものでもあるその多年の功によりて數回に及び表彰され、明治三十九年四月一日には白色桐葉章を賜はりしこともある。

曹洞宗を奉旨して信仰心が深く、その仁慈に富める氣質はよく信望を集めてゐる。夫人は淑やかな稀にみる賢夫人にして長男芳平氏は、元警察署長の榮職にありて敏腕を謳はれし人、現在は仙臺市に居住してゐる。養子は萬治郎氏といはれる。

眞山村上山里

前村長 故大場 豊治

氏は大場常六氏の男、後ち同姓儀右衛門氏の家に入つて、同家六代目として後を繼いだ人で、家は累代農に従事し來つた。



長男 一郎 氏

氏は宮城縣農學校を卒業して家業に就き、學問を實地に應用して大に得るところがあり、他

面又公共にも關與、村長に推舉され、村會議員として村會に臨むこと三期、また産業組合役員をも帯びて精進しつゝあつたが、昭和十二年病を得て溘然として世を去つた、享年六十九歳。生前納稅組合に關する功によつて表彰された。
家に四男子あり、長男一郎氏は今、眞山郵便局長を以て鳴り、次男次郎氏は仙臺商會社に勤務、父君の名をましく宣揚してゐる。

鬼首村 水上

元村長 中島 萬作

當家は遠く天保時代よりの舊家にして先祖は在藩時代、鬼首村と出羽國新庄の

御境目密物等の脱散留物師の役を仰付られ、廢藩當時は御百姓留物師役を勤めたる由緒深き家柄である。

氏は明治六年の出生にして、資性温厚篤實、學問を治めること深く、村長、助役、村會議員等を歴任して長く村治に盡瘁、大正十四年自治功勞賞を受けた偉材である。

現在隱退して後進に道を譲つてゐるが氏の令息萬五郎氏亦尊父の後を繼いで村政に盡し、村會議員に選ばれた外、現在鬼首村青年團長、田野區長、消防二部副部頭等の要職に推されて、その功勤しとしない。

家族は夫妻の間に前記萬五郎氏他三男四女あり、愛孫すべて二十四人の多きにのぼつて、春風駘蕩、頗る和氣霽々たる一族をなしてゐる。

岩出山町 河原町

元助役 千葉 豊之進

明治三十三年當町収入役に就任して町



腕を謳はれたる氏は、明治元年三月十四日今は亡き先代廣治氏の長

男として生を享けた。収入役たること大正八年迄にして、その後町助役に推されて益々精勵努力をつゞけ、町勢繁榮上に多大の寄與をなし、大正十五年惜まれて職を退き、また水利組合會議員を三期間歴任せし事あり、現在は寺院總代として尙も盡瘁をつゞけてゐる。青年時には教育界に身を投じて小國民育成の爲めに執筆をなして貢獻なか／＼尠くない。今や町政の元老として町民尊敬の的となつてゐる。

その家は徳川時代には士族たりし家柄にて、先代廣治氏の際に歸農して現在に至つた。なほ特筆すべきは自治制施行五十周年記念に際して自治功勞者として表

彰を受けし事であるが、以てその功勞の異數なるものが察知される。

現在家に長男啓一氏(三十七歳)、二男嶽郎氏(三十二歳)、三男成三氏(三十歳)の諸氏があるが、曾て啓一氏は東京市役所につとめし事あり、今は町信用組合の事務員を勤めてゐる。

西 大崎 村

前村會議員 勳八等 千葉 清藏



當主千葉清藏氏は五代目、明治十七年三月十九日の生れで、當年五十五歳の篤實の士である。村會議員に

推されること三回、その他學務委員、大堰水利組合員、鳥屋山原野組合議員を勤めて凶作防止に關する實績を表彰された事もあるが、又國勢調査員としても二回に亘つて活躍された。



男長 潔 氏

授與されたが、氏の長男潔氏も近衛騎兵であつたが、

早逝されたのは實に残念である。夫人ひしゑさんも亦愛國婦人會員、赤十字社員として、夫君に劣らぬ活躍をしてゐる。一家は夫婦の他に男子四人、女子二人といふ子福者であるが、三男三郎氏も亦現在出征中であると聞く、愈々羨しい一家である。

一栗村 池月

郡農會副會長 元村長 安倍 春雄

安倍家のその家系は詳かならざれども村有數の素封家と聞える家柄にして、先代溪之助氏は育英方面に意を注ぎ、小學校長として二十五年精勵して次代國民の養成に執掌し、效を奏せる偉大なる教育



手、福島三縣下の産馬取締をなして聲望高く尙ほ村會議員、耕地整

理組合長、區長等を永らくつとめて村勢繁榮に寄與多く、村民感謝の的となりし偉材であつた。

その家に明治二十四年四月十五日生を享けし氏は圓満潤達なる人望高き温厚の紳士である。出身校は宮城縣農學校にして在學中の成績は頗る優秀であつた。

はやくより將來に期待を寄せられて村内數々の要職に推され、永年に亘つて盡力した。そのつとめるは村長、助役等の外村會議員、在郷軍人分會長等にて、現在尙も郡農會副會長、村農會長、消防組頭、村會議員耕地整理組合長、銃後會副會長等の産業自治下の要職にあり、常に献身的勞を執つて邁進し、その業績は異

数のものである。先づその一を擧ぐるに村内の滞納整理をなして現今の優良成績に至らしめ、また村債の支拂を減少させ道路を開通して村民の福祉を増進し、貯水池を作り、或は約二百坪の地の耕地整理をなす等、一々枚舉に遑あらず、各方面より表彰再三に及んでゐる。その多大なる功勞と人格は相俟つて衆望翕然と高まり、驚嘆と尊敬を以て迎へられてゐる氏の如き人材を得て當村は愈々發展の途上にあるが、實に氏の如き材幹は地方稀に見るものである。

夫人との間に三男二女あり、家庭は春風和かにして圓滿を極めてゐる。

岩出山町

前町會議員 增井 政吉

電話五五番

當増井家は、この地に於ける相當古い家柄ではあるが、當主は目下日支事變に出征中のため、その詳細を明かにしてゐないが、明治三十年頃、先代長右衛門氏

が米穀商を開業、今日に至つてゐる。



七代目當主 氏はその男として生れた古川中學校出身の、當年三十六

歳の陸軍歩兵少尉 巽に町會議員、在郷軍人分會長、青年義勇隊長等を歴任、町治に寄せた功勳も尠くはない。日支事變の起るや應召出陣、田代部隊に屬して第一線に活動してゐる。昭和十一年陸軍大臣より表彰された。

家庭は圓滿、三女あり、長女貞子さんは八歳、小學校に通學中。

眞山村上山里

眞山 峻

當眞山家は分家してより既に十代の家系を傳へる家柄にして、その本家の祖は伊達家の家臣たりし眞山城の城主にして當主は東京に居住してゐる。

峻氏は明治三十六年十一月十三日先代



耕一郎氏の男として生を享け、俊敏の氣性に富みて頭腦明敏なる當

村有数の材幹である。耕一郎氏は永らく村勢に關與して村勢伸展上に多大の寄與をなしたる自治の功勞者にて、そのつとめるは村會議員、消防組頭その外村内各要職に亘りその名は村史の上に燦と輝いてゐる。當主もその志を繼いで、宮城原農學校卒業後公共自治の事に意を注ぎ現在在緬羊組合長、農會總代及び評議員、學務委員等の任にありて村民の生活改善向上を期して一意邁進し、産業の發達には殊に意を用ひ、緬羊及び林業の伸張には率先して盡瘁してゐる。いまだ四十歳前の壯年なれば、その將來に多大の期待を寄せられ、すでに各方面に現はせる手腕は愈々驚嘆の眼を以つて矚目されてゐる。

る。

家庭は頗る圓滿を極めて村民羨望の的にて、淑徳の譽れ高きキク子天人との間に男子あり、夫人は愛國、國防兩婦人會に關與して夫君と共に公共の爲めに精勵してゐる。

一栗村池月

元村長 佐々木源之丞

元消防組頭



代目萬治氏の時に醬油味噌の醸造を起し、源治氏、幸之助氏、源之丞氏と、現在の當主源之丞氏は七代目の人格者で、明治十二年二月十三日の生れだが、明治四十年頃分家して別に一家を起して、營々村治の爲めに努力して來られた。氏は又軍人としても、騎兵二聯隊に入

力して來られた。氏は又軍人としても、騎兵二聯隊に入

營、除隊後明治三十四年に村書記を拜命してから、村助役、大正三年に村長に選舉されたが、其間官有林の拂下げ、隣郡栗原郡に通ずる縣道新設に努力して完成すると共に、消防組頭としても二十五ヶ年、神社總代として三十餘年、又郡農會議員も二十四年間勤めてゐる。現在は宮城縣產婆組合取締役、家畜保險組合長に就任して、表彰銀杯を授けらるゝ等、職務熱心な手腕家である。

岩出山町

前町會議員 名取 春吉



名取家は苗字帯刀御免の家柄で、明治三十一年に醬油製造業を開業した當主春日氏は、明治三十年に伊藤家から養子に來た人で、現公職は神社總代、寺總代を勤めてゐるが、以前は郡會

代、寺總代を勤めてゐるが、以前は郡會

議員、町會議員(二期)消防組頭(八年間)の經歷を持つてゐる。

氏が名取家に入つて現在の家業を始め、隆々たる發展を遂げてゐるのも、一に氏の努力家としての面目を現はすものであるが、又町會になくならない仁として尊敬されてゐるのも、溫和誠實の士である故である。子實にも恵まれて、男子六人を擧げて、家運は益々榮えつゝある。

眞山村上山里若宮

若宮區長 高橋 善四郎



四代の家系を傳承する高橋家は、代々農業を家業として營む家柄であるまた村勢伸展に寄與多き家柄にして、先代彦次氏は區長を永らくつとめて區民の福祉増進の爲に努力貢献した。當

て、先代彦次氏は區長を永らくつとめて區民の福祉増進の爲に努力貢献した。當

主はその長男である。明治十一年六月二十九日出生の濃厚篤實なる、清廉高潔な人格者にして、はやくより家業にいそしみ、家運を益々隆盛に導いた。また尊父の志を繼いで夙に公共の事に盡し、曾て十八ヶ年の永きに亘りて産業組合理事長の要責をつとめ、農家の副業としての植林、養蠶、綿羊に意を用ひて努力活躍した。

現在は區長、道路組合長の任にありて献身的に努力活躍をつゞけ、功勞尠からぬものあり、その功は圓滿なる人格と相俟つて村民ひとしく敬慕するところである。家には長男彦一郎氏ありて父君を輔佐して家業に精勵してゐる。

鳴子町
温泉旅館組合長 高橋 八郎

當家は、天明年間の飢饉に際し、當時の主萬右衛門氏は蓄穀百俵を災民に施したといふ奇特の功を城主に賞でられて表彰、羽織及び袴を賜はつたといふ由緒ある。

る家柄で、始祖以來三百餘年間、連綿として續いて十三代目の當主に及んでゐる代々旅館を經營、以前は「高萬旅館」と稱したが、先代萬兵衛氏の時に「鳴子ホテル」と改稱したもので、萬兵衛氏は本町初代町長、村會議員等に推されて盡瘁町長現職中に病に倒れ、五十二歳を一期として惜くも不歸の客となり、町民涙の中に送られた町治の功勞者であつた。

當主はその長男、明治三十一年三月一日の出生、仙臺東北學院の出身、大正十四年より昭和八年まで在郷軍人分會長として活動し、その他消防小頭、組頭代理歴任、次で點子振興會を起し、現在その副會長であり、また温泉旅館組合長として貢献してゐる。なほ赤十字社特別會員であり、曾て東北四戦を代表して參會、總裁閑院宮殿下より會員賞を賜はり、帝國軍人會その他よりも表彰されてゐる濃厚な好紳士である。二男四人の子福者。

鳴子ホテル

茶代拜辭斷行の當館は、瀟洒な新館落成と



景全のルテホ

共に、何處までも客本位のサービスを主眼に 宿泊の 料の 低廉、と、諸般の設備に 専心 一流 旅館 とし て遺 憾なきを期してゐる。客室は三十餘室、百餘人は樂々と收容が出来る大衆本位の ホテルである。

ホテルは東北本線小牛田驛より一時間半、奥羽本線新庄驛より同一時間半、鐵道省、陸海軍省、農林省、日本旅行協會の指定旅館として隆々繁榮を見せ、昭和八年九月二十日東久邇宮殿下の御宿泊の

榮を賜つた光榮を擔つてゐる。

一 栗 村

自治功勞者 青木 新之助



當家は代々農業に従事し、嚴父は農事に精勵し、母堂は明治三十六年頃より煙草、日用品等を販賣せる家

で、氏は明治七年七月十四日の生れ、明治中頃より村役場に勤務し、綿密なる頭腦を以て、よく職務に精勵し、逐次書記收入役に累進し、大正十三年には村助役に就任す。昭和七年後輩に路を拓きて退職する迄、村長と協力して、今日の如き健實なる伸展の基礎を定めし人にして、名助役として、令名の高かつた人である

又曩に村會議員として活躍せしこともあり、村農會の創立時代よりの總代で、現在を副會長として就任してゐる外、一票

村消防世話係をも兼任してゐる。氏は、前後三十五年間村役場に奉職し、その大なる功績に依り自治五十周年記念に際し表彰を受けし外、養蠶實行組合長として一票村より表彰されしこともある。

氏は崇神の念深く、氏子總代にして、厚く臨濟宗に歸依して、檀家總代ともなつてゐる。

家庭は誠に圓滿なるもので、ちよの夫人の内助の功顯著なるためである。長男武雄氏は明治三十八年生れ、師範學校卒業後本村の訓導をなしてゐる。節子夫人は夫君同様師範出の才媛にして、學校に奉職し、長女清惠嬢は仙臺職業高師科の卒業にして訓導をなしてゐる。次女しげの嬢は古川高女出身の才媛である。

岩出山町 來迎寺

當寺は阿彌陀如來を本尊とし、宗派は淨土宗に屬する。末寺に當町清光院があり、本堂五十坪、庫裡六十坪に上る堂宇

を有し、境内また六百坪の廣きに及ぶ。別に田畑二反、宅地八百坪を持ち、行事は春秋二回に盛大な彼岸會を執行する。現住職を安藤賢應師とし、檀徒總代は阿部庄左衛門氏外四名で、當町内に二百五十戸の檀家を擁してゐる。

住 職

安藤 賢應 師は山形縣鶴岡市大寶地の出生、淨土宗高等學院を卒業、研鑽を積みし善智識で、人格極めて濃厚篤實、矜愍の情に厚く、地方人士の尊敬を集めてゐる。現在玉造郡佛教保護會長として、重きをなし、又縣社會教育員たるの他、方面委員、軍人會顧問、縣少年救護員等を勤めて陰徳廣きに及んでゐる。

川 渡 村

瀧澤山祥雲寺

當山は、人皇百四代永正年間の建立にかゝり、本堂の正面欄間は藤島吉良右衛門慶明の嘉永四年に納めしものにして、剛伊字作とあり兩側の欄間二十四孝(龍)

は天保十年、可全和尚に依つて成つたもので伊藤留治とありて、釋迦如來を本尊とし、曹洞宗に屬してゐる。開山は吉山自祥和尚であつて、四尺九寸の金泥銅像を安置してある。

本堂は文政三年十六世泰運大和尚の建立にかゝりて、間口七間半、奥行六間、裡庫十七世可全和尚の建立せしものである。山林八町五反餘、水田二町餘、境内二反五畝餘歩に及ぶ。

昔寶物として、一休和尚の書物、鐵州文見の書畫ありし、今はあらかた失ひ、現在伊達彈正の眞筆額等がある。境内は各生定の山上にあつて鳴瀬川を一望におさめ風光明媚にして、櫻の古木があり、周圍一丈餘、枝の廣さ十間に餘る珍木でその四面に杉林がある。玉造郡に於ける代表的寺院である。檀家數は四百餘戸に及び、檀家總代には、吉田房吉氏、遊佐善助氏外五氏があり、斡旋の勞をとつてゐる。

住職

點田卓示

鮎田家は福島縣伊達に住人にして伊達政宗大崎義隆征伐の際、當地に來つて永住す。當時相田と稱し、代々家老を勤め、伊達公は、その功績をめで、眞筆物を賜ふ。先代泰全氏より住職となる。泰全氏は高祖大師六百五十年回大遠忌に當り、當縣の淨財を献納して表彰され、貴品も贈與されしことがある。卓示師はその長男にして、十七歳の時父を失ひ、二十三歳の時に住職の重職につく、古川中學校より仙臺曹洞中學に學び、聰慧なる人格者である。氏は植林事業に志を有し、現在師の植付數萬本の杉林を有してゐる。柔道初段の腕前で、四人の子福者である。

遠田郡

本郡は縣の北部にあり、大崎耕土の東部に位し、東北は北上、迫の二大川を隔て、登米郡に相對し、東南は北上、江合の末流及び朝日山麓に依りて桃生郡に境し、南の一端は國城郡に、南及び西は志田郡に、西北は栗原郡に隣る。

東西六里二十町、南三里二十町、面積十九方里餘あり、北隅の一部に僅かに笹岳山脈の丘陵があるのみか、他は概ね平坦にして田園相連り耕耘に適するを以て住民は農を主とし、人煙稠密である。

鐵道東北本線は、志田郡松山町驛より來り、鳴瀧川を渡つて直に本郡小牛田驛に入り、陸羽線を西に岐ち、仙北線を東に分岐し、本郡中央を北走して江合川を渡り田尻驛を経て栗原郡に去る。陸羽線は江合川の南端を西走して北浦驛を過ぎ志田郡に入る。仙北鐵道は小牛田より石巻街道に沿ふて涌谷驛を經、桃生郡前谷

地に入る。

石巻街道は古川町より起り、陸羽・仙北兩鐵道線と並び、郡を東西に貫く道路である。その他街道には、涌谷より岐れて小野及び高城に至るもの、北に走つて登米郡權田に達するもの、小片田より南に松山、北に田尻、沼部に至るもの等がある。

小學校は十五校をかぞへ、内二校は尋常科のみである。中等學校には縣立涌谷高等女學校、同小牛田農林學校、涌谷裁縫學校などがある。

涌谷町

本町は小牛田町の東方、江合川の南岸に當り、概して平坦の地にして、東南部に花勝山があるのみである。面積一・〇三方里にして人口七千九百を算し、石巻線涌谷驛ありて交通の便よく、東北隨一

の吉野櫻の名所たる城山公園を有し、蠶業取締所支所、區裁判所出張所、郵便局涌谷高等女學校、縣社黃金神社などあり商業及び工業の盛んな町である。

天平年間、陸奥國司百濟王敬福の貢金が遠田郡涌谷村産の砂金なりしは舊記に明らかである。恰も奈良の大佛に塗るべき金の不足を告げし時故、當時朝野をあげてのセンセーショナルな出來事であつた。水鏡にもそのことは出てゐる。近世は伊達家の支族伊達重宗——亙理家石高二萬二千石の支配を受けたところで、維新後、郡制時代には郡役所が置かれた。

田尻町

本町は小牛田町の西北、清水水町の南方に位し、北長は丘陵なれども他の大部分は平地である。田尻、大嶺、村幡、通村、北牧田、小松、諏訪峠、沼木、中目等の大字より成り、町役場は大字田尻に置く。東西一里、南北一里にして面積は〇・九三方里、戸數八百二十、人口五千

二百餘人を算し、町には古川區裁判所出張所、巡査部長派出所、田尻郵便局、七十七銀行支店などあり、また社寺には郷社大崎八幡神社、西林寺、八幡寺、本溪寺を有す。大崎八幡社は天喜五年、鎮守府將軍陸奥守源頼義の勸請にして、明治五年三月郷社に列した。大字小松に小松峯あり、大崎家の祈願所であつた。大崎廣兼は新田義貞と共に越前に戦ひ、功を以て奥羽探題となつたのである。

小牛田町

涌谷町の西につらなり、志田郡松山町に北にあつて、東北本線と石巻線の交差点にあたり、名物子持まんぢうがある。また養蠶業の中心地でもあり、生産總額は十三萬圓で町としての産額は少いが、附近農村に産する物資の集散地として殷盛を呈してゐる。

郷社山神社、小牛田神社、眞澄寺などあり、山神社の春の祭禮は、當地方に於ける特殊行事として有名であり、當日は

遠近の男女雲集し頗る盛觀である。齋藤報恩農業館は、農業の學理及び實際に關する各種の陳列を觀覽に供し、農業の改善進歩に寄與するところが多い。明治四十一年町制を施した。牛飼、南小牛田の二大字を有し、廣袤東西一里、南北十五町にして面積〇・三一方里あり人口約二千九百人である。町には郵便局小牛田農林學校、七十七銀行出張所などがある。

南郷村

郡の南端に位し、丘陵なき平坦な地勢で、鳴瀬川に沿ひ、地味肥沃の耕土がづらなつてゐる。古くは涌谷藩治下であり和多、福ヶ森、練丑、木間塚、大柳、二郷の六ヶ村であつたが、明治二十二年町村制實施にあたり合併して一村となし今日に至つた。東西一里、南北三里、面積二・五八方里に及ぶ。農業は郡内に冠たるものあり、水田二千八百三十町歩、畑百六十五町歩にして

不動堂村

本村は、伊達植宗の季子大崎小僧丸義宣の居城たりし土地で、爾來伊達家の領地として明治維新に及んだ。

小牛田町の東南に位し、涌谷町の西南にあたり、志田郡松山町の東北に接し、地勢概ね平坦なれど、西南部には些少の丘陵を見る。小牛田、涌谷、松山等の町に近く、交通の便ひらけ、文化の程度また高く、商況にも見るべきものがある。

沼部村

郡の北部に位し、北は丘陵、東は又兵衛壇(二二四米)の山腰をなし他は平地である。沼邊、小鹽、大澤、櫻田、高野北高城、北小牛田等の大字より成り、面積一・六三方里にして、廣袤東西一里、南北二里あり、村役場は大字沼邊に置かれる。大澤の里に古壘あり、面々館といふ傍に面々沼あり、村名の由來はこゝに發すといふ。名跡誌に

沼畔數里、水上森渺、仍似疊波層瀾之島乃得其名

とあり、蓋し名所たるを失はない。村にはまた鶴城址、沼部館址などがある。東北本線に沿ふて田尻驛を有し、交通の便は悪くない。

米の年産四十萬圓を越え、藪は約四萬圓にのぼり、その他麥、畜産等を併せ、村内總産額は五十餘萬圓に達する。

大貫村

中埠村

本村は田尻町の南に接し、江合川の北岸に沿ふ平坦なる沃野を占め、東西三十町、南北三十町、面積〇・六三方里にして、人口は三千二百人を越える。付を分ち南高城、牛高城、平埠、平針、成田、荻埠、南牧目等の太字とも、村役場は大宇平埠に置く。東北本線小牛田驛より二里弱、バスの便を有す。

舊遠田郡清水郷の地にあたり、この邊に遠田郡人竹城公金弓といふ田夷あり、竹城が轉訛して今の宮城部落になつたといはれる。縣立中埠村診療院あり、寺院には曹洞宗玄松院、眞言宗松景院、臨濟宗谷陽院がある。

北浦村

戸數五百九十、人口三千百をかぞへ、面積は〇・三四方里にして、内田二百六十町歩、畑六十町歩の耕地を有し、生産年總額十萬餘圓のうち九萬五千圓は農産によつて占められる。また村には小牛田驛前郵便局、七十七銀行小牛田支店、長福寺、善寺がある。

北浦邑は戸口凡百六十、二股と號する地あり、遠田山眞禪寺は曹洞宗にして小牛田眞澄寺の末なり、享祿元年眞澄寺第五世騰江隆印和尚開山す

とあり、今の七百十の戸數にくらべて、開發驚くべきものがある。

東北本線小牛田驛より一里、バスの便あり、村は北浦、桑針、關根、深沼、鶴ヶ埠の五大字に分れ、面積〇・九一方里

本村は郡の北部に位し、東北部に平地があるけれども、北西部は丘陵となり、東部には又兵衛壇(二二四米)ありて山地をなす。浦谷町を去る二里半の地を占め、西南部は沼部村、北東は登米郡、北西は栗原郡に接する。

本村より隣郡登米郡南里、米山、豊里の諸村にかけ湖沼相連りて水郷をなし、大貫村には菱栗沼、鹿飼沼などがある。戸数約四百四十戸、人口三千六十人を算し、大貫、菱栗の二大字より成りて、東西二里、南北一里半、面積一・七方里に及ぶ。住民は農を以て主業とし、米の年産八百圓、麥二萬三千圓、藪二萬二千圓のほり、總額二十萬圓餘である。東北本線田尻驛まで約二里、バスの便がある。

笹嶽村

本町は浦谷町の北方、迫川の南岸にあり、北は川を隔て、登米郡谷田村に相對する。

田尻町八幡

郷社 八幡神社

本神社は、天喜五年源義家の創立に係るものにして、應仁天皇を祭神とする郷社である。源義家六代の孫斯波尾張守家

社 掌 豊原誠一

氏は國學院大學出身の逸傑にして、温厚謙嚴、手儀頗る威望なる人格者にして、亡父誠亮氏は卓抜なる技術を持つ國手にして、村政にも盡力され

笹嶽は、四面低野の中に隆起せる峰巒にして、寛文中、浦谷の邑主伊達安藝と、登米郡池の邑主伊達式部と、小里村及び登米郡赤生津の間なる田野の争ひより江戸に上聞し、遂に彼の有名なる仙臺騒動を激發した。村は東西二里、南北一里半、面積二・四八方里にして、人口約四千人をかぞへる。浦谷町より二里、バスが通じて交通の便よく、村内神樂ヶ岡は坂上田村鷹が東夷の巨魁をこゝに誅戮したといひ、笹嶽寺は鎮守府將軍大伴駿河磨の創建にして奥羽鎮護の靈場である。また笹嶽觀音堂は、坂上田村鷹の建立に係るといふ。

なほ村内生産年總額は二十數萬圓に上り、内二十餘萬圓が農産である。

たる人である。氏の令弟亮氏は父君の遺業を繼ぎ、校醫をなし、目下日支事變に應召され、中支の天地に活躍してゐる。

北浦村

北浦村役場

本村は縣下唯一の發展性を有つた元氣潑潑たる村で、昭和十年經濟更生指定村となり、次で同十三年經濟更生特別助成村となり、且つ從來の村政改革に先鞭をつけ、村民一致協力、目覚ましい躍進振りを見せつゝある。

北浦信用販賣利用組合

當組合は縣内唯一の法人加入組合で、縣の試金石として認可されたもので、農事實行組合を組合員となし、現在二十一組合の加入を擁し、創設以來第二年度を完了、第三年度に入るや組合精神を宣揚指導徹底に努力し、將來はこれを三十組合に殖やし、各實行組合に電話架設を目論み着々實行實績を挙げ、以て他山の石となしてゐる。

村農會、耕地整理組合、水利組合

これ等はすべて一體となつてその分野を全うし、縣下第一の耕地整理は既に完了し、農會の耕作指導、肥料配合、害虫驅除の方法などに關し、頗る活氣に溢れた實際教育を施し、毎月發行されつゝある會報を以て、参考に供してゐる。現村長は千葉多利司氏、助役は浦井文之進氏である。

なほ歴代村長並に助役を擧げて置く。

| | |
|---------|----------|
| 歴代村長 | (現)千葉多利司 |
| 鎌田常之助 | 歴代助役 |
| 岩住玄作 | 三浦安兵衛門 |
| 佐々木傳三郎 | 門多勇次郎 |
| 佐々木養右衛門 | 佐々木龍三郎 |
| 大越秀三郎 | 佐々木宗次郎 |
| 門多勇次郎 | (現)浦井文之進 |

北浦村北浦

北浦驛前郵便局

昭和九年五月一日郵便取扱所として創

局されたる當局は同年十二月二日現住地に移轉し、昭和十年十二月十一日無集配三等局に改定せられた。當局區域内たる北浦村外二ヶ村一三〇〇戸の躍進たるや産業界、經濟界、教育界等全般に亘りて著しきものあり、經濟更生特別指導機關となり、益々活潑なる躍進を續けてゐる。尚ほ本年度に於て本村は農林省特別助成村と指定さるゝに及びて、文化の先驅者として自任するところである。而し事業方面に於ては停滞の形にて、村民一同遺憾とするところなれば、農村電話の強化をはかり今や「デンマーク式農村」の誕生は目睫に迫りつゝあり、即ち小牛田驛前、小牛田局を合併して自動交換器を設置する案である。その目的に向つて一意邁進するは局長千葉衛氏にて、その後援となりて努力盡瘁するは村長千葉多利司氏外村内有志數氏である。

當局創始當時は郵便、爲替、貯金等を扱ひ、電信は昨十二年八月一日、電話も同日であつた。創局以來未だ淺きと雖も

成績見るべきもの多く、表彰も再三に及んでゐる。昭和十二年度の業績は左の通りである。

| | |
|---------|--------|
| 郵便取扱数 | 一・六五〇 |
| 内外電信取扱数 | 一・五三六 |
| 郵便貯金現在高 | 三五・〇〇〇 |
| 保険契約高 | 四七件 |
| 同 受持高 | 一八四〃 |
| 年金契約高 | 五〃 |
| 同 受持高 | 五〃 |

今、千葉局長の下にあつて精勵するは局長代理田村良造、通信事務員田村はま子の兩氏外二氏である。

局長正八位 千葉 衛



宇都宮高等農林學校農政經濟科出身たる氏は俊敏の氣性に富む將來ある逸材にして、昭和八年歩兵第二十九聯隊に入營せる幹部候補

生である。昭和十一年四月歩兵少尉に任官されて正八位に叙された。出生は明治四十三年二月十八日にして、青年學校指導員、北浦町經濟更生特別助成委員その外村内各方面の要職に就かれて努力し、將來は村を背負つて立つ人材として囑望されてゐる。

小牛田驛前 加藤豹五郎

不動堂村長元縣會議員功七位勳六等功七位勳六等電話小牛田一五番驛前に小牛田ホテルを經營して、盛業を極めてゐる傍ら、地方政界に乗り出してゐる加藤豹五郎氏の名は、同地方の政治界に最も重きを爲してゐる。元縣會議員、村會議員三期、學務委員を経て、現在は不動堂村の村長の他に消防組頭、産業組合長、縣用排水改良事業期成會幹事、志田、遠田兩郡販賣購買利用組合聯合會長を務め、極めて繁多な躰にも關らず、努力また努力、氏の築き上げた功績は非凡ならざるもので、即ち産業組合創

立、耕地整理組合創立の先達者となり、傑出せる政治家として土地の信望を集めてゐる。即ちその所屬する政黨は政友會で、宮城縣支部の總務委員の重任にあり又その軍人としても海軍兵曹長として日清、日露及び日獨戰爭に従軍して赫々たる武勳はその胸間に金鷄勳章を輝かせた。明治八年七月四日生れと云ふから、當年六十五歳の高齡にもめげず、なほ壯者をしのぐ元氣は、愈々實業家、政治家としての手腕に磨きをかけるばかりであつて、今後益々期待をかけられる。

南 郷 村 高橋 信美

元海軍大佐正五位勳三等當家は代々仙臺藩の武家にして、赫々たる家名を以て、當地方に聞えし家柄である。氏は元治元年一月十六日の生れ、性峻峭にして剛毅果斷、幼にして至性あり、粉骨碎身、益々その明晰さを振揮し、宮城英語學校を終へるや、遊學の念抑へ難

くして上京し、東京獨乙語學校を優秀な成績を以て卒業す。

其後、軍艦龍田、磐手、出雲等に乘組み、日清、日露の兩戰役にも從軍し、燦然としてその武名を輝かせし人である。氏は又英國其他海外諸國に出張を命ぜられ、海外在住武官として、その敏腕を謳はれしものである。現在は郷里に悠々自適の生活を送り、政黨關係もなく、村の公名譽職にも一切關係せず、只管その餘生を楽しんでゐる。

家族は夫妻及び子女にして、靜謐な生活を送つてゐる。

南 郷 村 松田 安志

南郷村長從六位勳五等氏は明治十三年十一月十日に呱呱の聲を擧げた當年五十九歳の分別盛り、宮城縣農學校獸醫科を卒業するや獸醫として開業、嘗ては日露戰役に獸醫として從軍した武勳に輝く功勞の士である。

昭和十三年五月に村民一致の推薦をうけて村長に就任するや、鋭意村の發展に盡瘁し、その功績は並々ならぬものがあるが、その他信用組合の監事を勤めて公私共に多忙を極めてゐる。

前公職は村會議員三期、區長等、今後益々同氏の手腕に信賴するもの多く、村民の信望を負つて立つ氏の高邁なる識見豊富卓抜なる手腕こそ、本村最適の支配者で好評噴々たるものがあるが、その温顔に接して、篤實勤勉なる人格を知れば決して故なきものにあらざると知られるのである。

因に父君清之助氏は、由緒ある舊家名及び家業とす豊のために懸命と努力精勵して、ます／＼家産を増し、その名を高揚して、夙に精農家の名を博したほどの人物である。親しくその薫育をうけた當主の今日在るもの、蓋し故なきではない。今後の活躍振りこそ、一村擧つて刮目囑望してゐる。氏また、その村意に背くものではない。氏が前途に横はるもの

すべてこれ幸福である。

北浦村中組 千葉 多利司



當家は土地の名家にして、亦近在有數の資産家であり、代々村政に重きをなし、村發展の爲め寄與する處甚大で、村民の信望頗る厚い。氏は明治二十七年四月七日出生、現在村長を勤める他、村農會長、産業組合長、耕地整理組合長、村會議員等々各方面の要職を通じて、村治に多くの力を致してゐる。なほ、遠田郡農會長縣森林組長合理事等に任せられ、又千葉縣株式會社の社長としていづれも夫々の方面に無比の敏腕を謳はれてゐる。氏の頭腦明晰たる又精氣旺盛なる、加へて初志貫徹を必ずすの實行力は、ひとり當村の治績のみ

ならず、縣の發展に資する處極めて多く
今後を益々期待せられてゐる。
尙、同令弟衛氏は、驛前郵便局長とし
て村誌編纂に多くの力を致すなど、兄弟
相競ふての公共精神は、深く村内の感謝
をあつめてゐる。

北 浦 村

北浦村助役 涌井文之進

當家は村の舊家にして、農を以て家業
とし、代々村政に貢献する所多く、全村
民の敬仰を受けてゐる。

當主文之進氏は明治二十七年十月十七
日の出生、大正元年入營して歩兵軍曹に
任ぜられた。氏の人格たるや清廉潔白、
深き理智に富み、加へて豪放剛毅なる精
神、明敏な手腕は、村長を輔けて些かの
遺憾がない。その他にも村會議員、耕地
整理組合議員、賃賃價格調停委員、消防
小頭、産業組合理事等に現任して、村の
治政産業に種々寄與すること大きく、尙
ほ亦軍人分會長として、國難に際して銃

後援護の誠を致し、眞に寢食を忘れて公
共に献身してゐるが如きは、自治に携は
る者の以て範としなければならぬ所であ
る。

沼 部 村

沼部村長 伊藤 太藏

氏は現在村長の他に農會長、郡農會議
員、耕地整理組合長を兼任してゐる。而
も過去大正三年に村會議員に當選して以
來二十三年間、連續當選の榮譽を擔つて
尙ほ郡制當時は郡會議員に當選し、その
他長岡水利組合會議員等を務め、昭和十
年三月村民一致の衆望に推されて現村長
に就任したのである。

篤學勤勉の士で、疲れを知らぬ奮闘家
明治十四年六月二十二日の生れで、當年
五十八歳、益々氏の圓熟せる手腕は同村
のパイロットとして村民の信頼を集めて
ゐる。

尙ほ同氏の實父吉藏氏も村の初代收入
役を務めて村會議員と、登米郡會議員の

重職に在つた仁である。而も太藏氏は又
子福者としても恵まれ、長男幸藏氏は東
京帝大醫學部出身の醫學博士にして神戸
海岸病院副院長を勤めた後、現在は仙臺
市多門通りに耳鼻科の病院を開業してゐ
る。次男知幸氏は豫備少尉、更に三男幸
男氏は東京帝大醫學部卒業後、近衛歩兵
四聯隊の軍醫として活躍してゐるし、四
男八郎氏は仙臺學院出身といふ。何れも
父の名を辱めぬ逸材揃ひである。

沼部村助役

伊藤 隼人

氏は、伊藤村長を補
佐して村治に貢献して
ゐる名助役である。當
年五十五歳の練達之士で、昭和六年に村
會議員に推されてから爾來村會に活躍し
たが、同八年に助役に就任してから現在
二期を勤めてゐる。

尙ほ消防組頭として金馬簾一條を授與
され、三丁目普通水利組合議員も八年務
めてゐる。又長男軍之助氏も、村の青年
團長として重きを爲し、一家の人望は厚
い。

大 貫 村

大貫村長
從七位勳六等
功五級

岩 井 正

氏は永らく教育界にありて盡力された
先代要吉氏の長男として、明治十一年十
月十五日生る。宮城農林學校出身の逸村
にして、日露戰役には第一軍に従軍して
滿洲の曠野を縦横無盡に活躍し、よくそ
の勇猛果敢さを發揮、勳六等功五級を賜
はりし退役歩兵中尉である。

氏は福島農事試驗場及び東京府農事試
驗場に奉職し、明治四十三年歸郷後是在
郷軍人分會長、學務委員等に歴任、大正
六年村會議員に當選してより現在に至る
まで勤続する外、郡制當時は郡會議員に
も當選せることあり、大正十一年當村助
役に村民一致の推輓を受け、昭和一年、
村長に就任して現在に至る。村農會長、
消防組頭、郡農會議員、耕地整理組合長
等を兼任してゐる。尙ほ耕地整理組合は
昭和七年に氏の創立せしものである。

其間に氏の残せし業績は枚舉に遑なき
程で、當村の今日の繁榮はまた、廣汎な
知識を有し、剛毅果斷にして仁慈に富め
る氏の努力に負ふところ、多大なるもの
がある。

笠嶽村猪ノ岡

野田 圭吾

氏は小牛田農林學校出身の偉材にして



優秀なる成
績を以て卒
業し、一年
志願兵とし
て仙臺砲兵
隊に入隊し

除隊歸郷後は公共方面に進出した。

耕地整理技術員として卓抜なる手腕を
高く評價され、四ヶ年勤めし後、昭和十
二年村會議員に當選、助役に推舉され今

日に至る外、農會組合長をも兼任してゐ
る。

性峻峭、質實剛健を尊び、禮儀を重ん
じ、融通無碍なる機才は、よく村長を助
け、名助役と謳はれ、意氣軒昂たるもの
があり、益々その繁劇なる公事に勉勵し
てゐる。

長男義久君は小牛田農林學校に在學中
にして、父君の名を辱めず、衆に秀でし
成績をあげてゐる。次男は仁治君、三男
邦司君は石巻中學校に在學してゐる。

涌谷町表櫻

町會議員
正七位勳八等

清水 誠之助



衆人の崇敬
を集めし先
代清兵衛氏
の男として
明治十一年
十二月二十

九日に生れし氏は、若くして涌谷稅務署

に勤務し、後ち仙臺稅務監督局に轉職す天資英邁なる氏は、よく事態に練達し事務を知りて重責を果し、青森、秋田、山形各縣に歴任し、署長として水際立つた手腕を振つた。その名聲は衆の頭角を抜き燦として輝き、その前途洋々たるものありしも、大正十三年父君清兵衛氏病氣にかゝりし爲、四十五歳にして部下に惜まれつゝ、退職して歸郷した。

現在は町會議員として、遺憾なく嘗ての辣腕振りを發揮して町政に盡力してゐる。正七位勳八等に叙せられてゐる。

長男誠一氏は明治大學法科の出身者、現在仙臺逓信局に勤務してゐる。

小牛田町下小牛田

町會議員 後藤喜一郎

當家は深き由緒ある舊家にして、先祖は涌谷城某家の小姓を勤めたりと傳へられ、苗字帯刀を許された家柄である。代々農を以て家業とし、當町に於ける聲望高き素封家にして、現在多額納稅者とな



先代研佐氏
致し、耕地整理組合評議員として盡す甚大。

つてゐる父泰氏は殊に郷土の産業に力を致し、耕地整理組合評議員として盡す甚大。は明治廿六年九月十五日、生を此の世に享け、資性温良實直の士にして、陰徳を施すこと多く、深く町民畏敬の的となつてをり、自ら薦めざるに周囲の懇望もだし難く町會議員に立つたものである。氏は又子息の教育に心を用ひ長男修司(二十一歳)は小牛田農林學校を卒へ次男研氏(二十一歳)は現在同校四年に在學中、三男佐氏(十七歳)は古川中學校在學中、その他に二女(小學校在學中)があつて、平和な家庭を作つてゐる。

南郷村

村會議員 松田純一郎

松田家は土地の舊家にして、代々村政



先代清之丞氏は村政に甚大の力を

に寄與する處頗る多く、資産家として近隣に普ねく知れ亘つてゐる。殊に先代清之丞氏は村政に甚大の力を致して、今尙ほ當村全村民の深く崇敬する處となつてゐる。當代の主たる純一郎氏は、その息として明治二十一年に出生、資性篤實にして亦剛毅、態度謙恭懇懇、身を捧げて公共の事に當るの精神を有し、各方面の重務に携はつて能くその職責を完うしてゐる現在村會議員に選ばれて村治に盡瘁、その手腕をひとり村會の内のみならず、全村民に讃へられてゐる。また消防組副組頭として警火の任に當り、未然に事故を防止すべく、銳意心を傾注してゐる他、農會副會長として郷土の産業振興に資する處極めて多大、尙ほ南郷郵便局長を拜命して、當地方の通信に大に力を致し、

己れを慮うして人々の利便を圖つて、深く感謝の的となつてゐる。

家庭は母堂を始めとし、夫人との間に九人の子に恵まれて、賑やかなまどゐをなしてゐる。氏は宗教の心極めて篤く、曹洞宗に歸依してをり、趣味も亦多々あれど、特に狩獵を得意としてゐる。

不動堂村

村會議員 道家吉郎

當家は土地有數の舊家にして、養父龜



先代龜壽郎氏
年郡會議長及び當不動堂村長々の樞職を勤めて、郷土に

盡す所頗る大であつた。その東北本線小牛田驛の設置に致せし甚大なる勞は、廣く近隣居住民の感謝措く能はざる所、尙學校設置に力を致して教育方面に貢獻するなど、郷土の治政、氏に依ること極め



その養嗣子たる吉郎氏は、明治二十一年十一月二十七日出生、前村

て多かつた。

長として令名高き小松陽之進氏の令弟であるが、望まれて當家に籍を移し、村政に對する熱心な指導者となつてゐる。氏は小牛田農林學校出身にして、明治四十二年二十九聯隊一年志願兵として入隊し大正二年少尉に任官、正八位に叙せられ還るや軍人分會長として銃後を護ること實に十有數年の久しきに亘り、又赤十字特別會員たり。その他村治に對しても熱意を注ぎ、農會總代、農會評議員、賃貸價格調査員等を歴任し、村會議員に推されて現在三期目にあり、その他耕地整理評議員兼會計として、不動堂精華消防組頭として、氏の往く處治績大いに擧つて全村民崇敬の的である。

北浦村

村會議員 石ヶ森良之助

家庭に在つても、とみよ夫人は、國防婦人會、愛國婦人會兩會員として盡すこと多く、間に二男六女を得て、圓らかな家庭を作つてゐる。

議論より實行を重んずる氏は、爲人雋異にして、忠節あり、早くより村民にその將來を囑目されし人にして、迫力ある意志を以て、その抱負の實現に邁進せる様は人をして瞠若せしめるものがある。その村會議員、自警團副團長、耕地整理委員として、殘せし功績は村民の感謝を一身に集めてゐる。以前には區長、水利組合員、納稅組合員、債務調停委員等を勤めしこともある。赤十字社正社員である。

家庭には、愛國婦人會役員である、ふよ夫人との間に一男四女があり、長男武志君、長女よしを嬢、次女みつを嬢、三女さつき嬢は他家に嫁して幸福な生活を

營んでをり、四女たか子嬢は古川高等女
學校在學中にして、當村稀なる才媛であ
る。氏は江淵寺の檀家總代にして、深く
佛道に歸依してゐる。

尙ほ當家は代々同村に居住し、村政に
寄與するところ甚大にして、父君萬藏氏
も亦村内有力者の筆頭であり、村會議員
他各方面の名譽職に就任して生涯を村政
に捧げし人である。

大貫村大貫

村會議員 佐々木千里

村内並びなき篤行家として令名今も燦



大の金品を寄贈し、郡會議員として永ら

然も
るも
のあ
り、
神社
小學
校等
に多
く郡政にあづかり、氣骨ある人格はよく
衆望を集めし源三郎氏を父君に持つ氏
は、明治二十三年四月十九日の生れにし
て、爲人深沈、識量あり、村中有數の名
望家の當主として、その堂々たる貫録は、
村民のよく畏敬するところである。現在
村會議員二期を勤めつゝ、村勢發展のた
め凡ゆる方面に亘つて奮闘してゐる。
氏は率先して、村民を指導し、深く父君
の感化を受けて各方面に莫大なる寄贈を
なし、よく村内の開發に意を注ぎしその
功績は寔に滅すべからざるものがある。
賢婦人として、徳名高きふみ子夫人は
よく夫君を助けて、その重職を果させて
遺憾なからしめ、氏との間に長女つぎ子
嬢他六人の子女あり、細心の注意を拂つ
てその教育に努力されてゐる。
因に氏は今、胃病を患ひて、とかくに
健康すぐれざるは、今後ある氏のために
將た本村將來の上に、まことに憂ふべき
ことであり、切に一日も早く快復されん
ことを祈つて止まない。

篤藏村太里

村會議員 大森清一郎

現時、衆望を擔つて本村々會議員の重



職を引續き
五期執筆し
終始一貫し
て村勢の發
展に、福祉
増進にと献

身的に盡瘁してゐる氏は、明治二十二年
十二月の誕生である。

剛毅潤達の氣性はよく衆に率先し、本
村消防組は氏が發起人となり、昭和八年
に設立されたものでその人望識見手腕は
推されて初代より組頭の要職にあり、組
の改善向上に功績頗る顯著なものがあ
る。また氏の統制宜しきこと内外共に好評噴
々たるもので、氏の重厚圓滿なる人格に
加へて名譽赫々たるものがある。現在消
防組は第三部迄あり、部下の敬慕を一身
に集めてゐる。

因に當家は本村屈指の素封家にして、
代々村政に參與した自治の功勞者が多い
家族は一男四女に恵まれ、長男千秋君は
目下仙臺中學に在學中である。尙ほ當家
は天台宗に深く歸依してゐる。

浦谷町

町會議員
教育功勞者
從七位勳八等

澁谷福四郎

氏は現在町會議員二期を勤めてゐる傍
ら、學務委員としても三期を繼任して、
教育者としては、縣最初の叙勳者である
即ち宮城縣師範を卒業後、廣瀨、浦谷
の各小學校教員を経て後、北浦小學校々
長に就任し、更に田尻小學校々長に轉任
した後、遠く朝鮮羅南に渡海して十五年
間の校長生活を奉職し、朝鮮教育界に貢
献した功勞によつて文部省より從七位勳
八等を叙勳されたのである。

明治二年二月十七日生れの當年七十歳
の長老で、同地方教育界の先驅者として
尊敬を一身にあつめてゐる。長男徳三氏

は現在朝鮮專賣局に勤務してゐるが次男
信三氏は士官學校出身の陸軍中尉であつ
たが、惜くも滿洲事變に出征して名譽の
戦死を遂げられたのは、残念である。而
し當時の新聞には大々的にその壯烈なる
戦死の様を報道されて、村の名譽を高
揚した思出は、今なほ新たな感激をもつ
て福四郎氏の胸中に蘇つてゐる。

小牛田町

町會議員 瀨川雄藏

當家は嘗て苗字帯刀を許されたる由緒



深き家柄に
して、初代
棟方雄之助
は浦谷村小
姓頭を勤め
て功あり、

二代の時分家して瀬川家を建て、雄五郎
氏を名乗つて呉服商を開業せしは凡そ百
年前、二代雄五郎氏は村金保管の重き役
に就いて能くその任を全うした。

當主雄藏氏は明治六年六月二十日の出
生、資性篤實温厚にして且つ手腕に富み
深く町民の信頼を得てゐる。嘗て小牛田
倉庫役員の要職に就き、現在推されて町
會議員を勤める他、學務委員、産業組合
理事、小牛田町警火組合長等の重職を双
肩に負うてゐる。

氏は小牛田町發展の爲め高遠なる抱負
を有し、十有五年前より實科女學校建設
を主張し、鳴瀬川鐵橋附近に架橋を提案
するなど、政友會に屬して、町民福祉の
爲め力を致す所極めて大きい。又信仰篤
き氏は、曹洞宗を宗旨とし、寺總代に選
ばれてゐる。

家庭は一男六女ありて平和の内に過し
本年天長節の際、氏に對して木杯を下賜
されたのは、寔に榮譽の極みである。

南郷村二郷

村會議員 伊藤衛

茫洋たる寛裕さあり、純心朴訥な風格
の持主である氏は、當村の舊家にして、

同地方の屈指の資産家の生れにして、父



君は源右衛門氏と云はれる。

村會議員 二期、消防組小頭を勤

め確固たる信念のもとに、透徹せる判断力旺盛なる精神力を以て邁進し、その手腕力量は村會議員中最も高く評價されてゐる。村自治に残せるその幾多の功績は諸先輩を凌駕するの觀がある。

氏は他面情に脆く、村民もよく氏に親しみ、氏の指導には萬全の信頼を置いてゐる。仲々多趣味な人で、殊に園藝に關しての廣汎な知識を持つてゐる。

家庭には母堂の外、夫人との間に子女あり、夫人は賢婦型の人にして、豊かな才情を有してをり、その慎しみ深い氣質はよく内助の功を現はしてゐる。母堂は嚴格なる人にして、氏は深く孝養をつくしてゐる。

北浦村桑針

村會議員 加藤善次衛門

昔時伊達公の家臣山崎氏に仕へ、代々農家の組頭をなし、父君も亦村會議員、農會、耕地整理委員等に參與して自治に産業に、偉大なる足跡を残せし名門の家柄である。

當主は十代目にして、先代兵太郎氏の長男として、明治十七年一月二十四日に生る。日露戦争には補充兵として召集され、歩兵第十六聯隊に入營し、鐵嶺方面の激戦には拔群の勳功を樹てし人である

消防第二部小頭、農區總代、産業組合監事等を歴任後は産業組合倉庫組合長、水利組合役員、耕地整理組合議員、村會議員の要職にありて、よく繁務に堪え、鞠躬盡力職務の萬全を期して、邁進してゐる。

氏は信仰心篤く、眞禪寺の世話人をなして、住職と共に寺運の興隆に並々ならぬ努力を揮つてゐる。園藝に興味あり、

家庭は長男哲夫氏、養子兵亮氏外五女あり、長女二女三女四女は南米へ、五女りき子嬢は家庭にゐる。

大貫村蕪栗

村會議員 小笠原吉三郎



當家は元南部家家臣にして、武を以て聞えた家柄である。當地に移住して既に四代を閱し、代々の主いづ

れも先祖の血を辱めざる清廉の士にして犠牲的精神高きを稱へられてゐる。

當主は先代吉五郎氏の長男として、明治三年八月二十八日の出生、政友會に所屬して村政に盡瘁すること歳久しきに亘る。まづ村會議員として連續九期の勤めは氏をして覇氣に富む巨頭たらしめ、村内の治政盡く氏に俟たざるはない。その高潔無私なる奉公ぶりに依つて、自治制

發布五十周年記念に際して、三ツ組木杯

並に表彰を受けしは、類ひ稀なる光榮に輝くものとして、又先祖の譽れを愈々あげるものとして、近隣の評判の的である

氏はその他にも學務委員たること十有數年、區會議員制廢止せらるゝに至るまで毎回當選、その間仙臺產馬議員として四期を誠意勤務、十年以上勤続者として金時計一個を授與され、尙、同取締役たること二回にして銀杯一個授與されたのは、身に一層の光を添へたのみならず、軍事に缺くべからざる馬政に致した功を稱ふべきであらう。

家庭は、よく内助を竭した令閨既に物故されたりと雖も、いち母堂八十八歳の高齡にあるも尙矍鑠として、長男吉彌氏の他二男あり、多數の孫に圍まれながら現在も倦まず村政に盡しつゝあるは、稀に見る篤行の極みである。

笠嶽村猪ノ岡短臺

村會議員 勳七等

力衛

先代與三郎氏の男として、明治十年三月十五日に



呱呱の聲を擧げた氏は會て日露戰役には軍曹として従軍

し、九連城の攻略には赫々たる武勳を樹て、壯烈にも胸部に貫通銃創を受けしも奇蹟的に生命を全うし今日に至つた古勇士で、勳七等は當時の勳功により賜りしものである。

その後氏は巡查を拜命、各地に奉職して精勤、後歸村して種々の公職に參與する傍ら耕地整理等に盡力して功績頗る顯著なものがある。その剛毅潤達の資性は又公共に竭して常に侃諤の陣を張り、衆望を擔つて現時、村會議員四期の重任にある。氏はその外學務委員をも兼ね、育英事業に力を致し、また猪岡短臺耕地整理組合評議員、笠嶽村耕地整理組合評議員、消防部第三部世話係等を兼ねて氏の

人望また噴々たるものである。

内助の功多き令閨との間に一男一女、五令孫あり、頗る圓滿で、長男順一郎氏は目下仙臺逓信局企畫課に勤務中で、長女しのぶさんは國防婦人會員にして有功章を有し、女婿誠氏は歩兵少尉として目下中支方面で活躍中である。

因に氏は禁酒家で、曹洞宗に深く歸依してゐる。

涌谷町

町會議員 軍人會分會長 勳七等功七級

佐々木幸吉

明治十二年二月二十七日生れ、當年六



十歳、氏は元教育者として涌谷、田尻、北浦小牛田、南郷各小學校

に教鞭をとつた人、初等教育界に盡した功績は實に多大なるものがあり、職を辭

して以来も、その人格と徳望とは父兄間に厚く仰慕されてゐた。そればかりでなく日露戦争の起るや、衛生隊に應召、曹長として戦線に立つて各地に轉戦、一死報國の殉忠精神は到るところに顯然としてあらはれ、平和克復の後、その赫々たる武勳は勳七等に叙され、且つ功七級を下賜され、日本男子本来の面目を躍然たらしめ、郷黨皆な賞めた、へてやまなかつた。

除隊歸郷後は町自治方面に進出、その眞摯にして几帳面なる、しかも滅私奉公を文字通りに實行するなどが、いたく町民の心を動かした、衆望いよ／＼加はり、現町會議員としては二期、その他軍人會分會長、衛生組會長、自警團長、軍人後援會副會長等の重責にあり、只管同地方の向上發展に寢食を忘れて奔走してゐる活動家であるが、一方家庭にあつても、よく吾が子を薰陶して、長男常氏は東北帝大醫學部出身、後ち軍醫として中尉の肩章を帯びて醫學界に活躍してゐる。又

次男倫君は東北帝大醫學部に在學中で、三男京君は中學在學中、何れも將來を囑望される秀才揃ひで、幸吉氏自慢の種である。

北 浦 村

村會議員 伊藤 厚



氏は村内屈指の舊家として知られたる伊藤家の次男として、明治二十三年五月一日生を享け、後ち分れて

一家を創立した。本家は北浦村五人組(五軒百姓)の一家で、先祖は遠く藤原の系統と稱せられて、當地の城主狩獵の際など、屢々休息に立寄られたと云ひ傳へられる。

現在令兄は私立消防組頭たり、厚氏又衛生組合第五組會長、農會總代等を歴任し、現在村會議員を勤める他、農會評議

北 浦 村

村會議員 佐々木 義一



當家は元南部より移住して來た舊家で北浦村五人組と稱せられる中の一人であり、

有力者として力を致して來たが、わけても尊父波吉氏は、村長として永年村治に貢献する所多く、名村長としての聲が高



早くより父君を輔けて村政に盡し現在村會議員二期目にある他、農

會議員二期目實行組會長、納稅組會長、消防組係長等の要職を勤めて粉骨砕心、村勢の進展を計り、その眞摯なる言動は清廉質朴なる風格と相俟つて嘖々たる好評を博してゐる。

家庭は長女あい子さんに養婚力氏を迎へて、三人のお孫さんがあり、ちよ子夫人は愛國婦人會、國防婦人會双方の會員として銃後に盡す所が多い。

因に當家は軍人を多數出した名譽ある家柄で、尊父の令兄佐々木庄藏氏は正五位勳四等工兵大佐、令弟則夫氏は從五位勳四等工兵中佐、庄藏氏の令弟武藏氏は歩兵中佐と、何れも榮えある出世振りである。

中 坪 村

村會議員 荒井 國雄



本家荒井已郎氏より六代前分家したる當家は村内舊家として知られ先代を虎一郎氏と稱した。當主國

雄氏はその次男にして、明治三十年十月二日生れ、本年四十二歳の未だ壯氣滿々たる人物である。

氏は大正六年兵にして、在郷軍人分會長、産業組合理事後事務を就任、模範組合として郡下に名聲を博したるも、氏の功勞に依るところ多大である。

現に氏は村會議員二期目にあり、第四部消防小頭、組合理事、納稅組合顧問等を兼任してゐる當村の有力者にして、少壯議員として他村までその名望高く、將來を囑望されてゐる。

笠嶽村 小里

村會議員 米倉 耕司



年、村政に盡力し、村民に深く親しまれてゐた。先代留之進氏の男

にして、明治三十五年五日に生る。當家は代々村政に赫々たる功績を遺せし舊家

であつて、氏もまた、村自治に關しては確乎たる信念を以て當り、恭勤博覽振りを發揮して、縦横に活躍し、初の村會議員當時は、議員中の最年少者として、卓抜なる識見を高く買はれ、將來を囑目されし器量人である。

現在村會議員二期に就任する外、村農業實行組合長、村合同倉庫組合長、消防組第一部小頭、耕地整理組合評議員、産業組合評定委員等、村内の要職を兼任してゐる所を見ても、村民が如何に氏の誠意に感じてゐるか、又氏の才學博識の如何に優れしものがあるかを想見することが出来るであらう。氏は又赤十字正社員でもある。

現在三十七歳の壯年、しかもその名聲は諸先輩を凌駕する程の觀あり、將來は當村を双肩に擔ふべき、村内稀にみる偉材である。尙、氏は多趣味な人で、特に鐵砲に堪能であり、現在浦谷警察署管内狩獵役員をなしてゐる。宗教には深く身を入れ、眞言宗に歸依してゐる。

家庭は夫人の外三男一女あり、靜謐なる生活を送つてゐる。

浦谷町

町會議員 伊藤昌五郎



氏は疾くより速大なる雄志を抱き、海外進出を夢みて生成せしが、二十六歳の時意を決して南米に渡る。

初めメキシコに在りしも後北米に轉じ、約十年の間、粉骨碎身、事業に全身心を没頭して努力し、大正九年に歸朝した。

氏は歸村後、村民にその果斷なる實行力を買はれて區長となり、現在町會議員四期を勤めてゐる。其他學務委員、自警團長、郷倉組合長、消防組頭、負債整理組合長、水利組合員を兼任し、村民の信望に應へて赤心を以て重職を果しつゝ、あり、多大の功績を顯はしてゐる。氏は消

防功勞者として表彰を受けしこともある

長男昌一君は、次男昌業君と共に小牛田農林學校在學中で、外に四女あり、實弟慶吾氏は小牛田農林卒業の秀才にして新潟縣廳に勤務してゐる。

尙、先祖は互理家の家臣にして、後ち土着せるもので、土着後は帶刀を許されし名門である。先代慶三郎氏は剛直慷慨の人で、優れた見識の持主にして、區長社寺總代を勤めしこともある。

北浦村

村會議士 内藤良三郎



移住した舊家で、父忠七氏は村政に對する多大な功勞者として重きを

をなし、區長、衛生組合長、水利組合議員、村會議員五期等を歴任せる外、なほ

現在耕地整理議員、衛生組合長、區長等の要職にある。その奉公の至誠は自治功勞者として表彰せられるに及んだ。父君の美性をそのまゝ受け繼いだ長男の氏は明治三十年八月一日出生、温厚篤實にして早くも村の重鎮たり。農會副會長、消防第一部長、村會議員等に推され、父子相並んで村政に盡瘁するさまは、村民の齊しく讃へて已まない所である。

笹嶽村小里

村會議員

伊藤新夫



當家は由緒深き舊家にして、當地領主義隆侯の家臣であつたが、

後ち浦谷侯に仕へて功あり、祖父篤次郎氏は藩政當時戸長を勤めて、能くその任を完うし、實父浪路氏は郡書記を勤め、後ち高清水町所在の實業銀行支店長となつた。

その血を享けた新夫氏は、明治三十八年六月一日出生、性敦厚にして村民の信望篤く、現在村會議員三期目にある他、農事實行組合役員、消防第一世話係、當村産業組合理事等を兼任して、村政に盡す所甚大である。昭和八年伊鈴橋架橋に際しては功多く、その命名の如きも氏の意に依るものであつた。

家庭は夫人との間に三子あつて頗る圓滿である。氏はなほ蜜蜂、盆栽等に趣味が深い。

浦谷町

町會議員 齋藤太郎

嚴父は自由黨以來の政友會の闘士にして、縣政界に君臨せる人であり、氏も亦父君の薫育を受け、十五、六歳に至りて

早くも、政界に活躍するところがあつた果斷なる實行力を有し、その水際立つた手腕は微塵の危な氣もなく、錚々たる政治家にして、縣政界の重鎮である。

區長二期、納稅組合長、養蠶實行組合に參與し、その功績も顯著なるものあり、現に町會議員、土木委員の要職にあり、通せざる所なき強識を以て、てきばきと事務を遂行してゐる。

稟性、明敏寛厚にして、春日和煦の風格を備へ、町内の信望を双肩に集めてゐる。

氏は信仰心篤く、令息は三十六歳にして、農學校中途退學し、歩兵伍長である。外三男五女あり、更に令孫を數へる大家族にして、和氣に満ちた圓滿なる生活を送つてゐる。

北浦村

村會議員 高橋國司

高橋家は現村長千葉多利司氏の親戚關係に當り、遠く先祖を尋ねると、信州諏

訪より來村した落武者で、土着して當家を起したと傳へられる、なほ當字名の「御免」は、當時當地に逃げ込みたる者は、如何なる罪人なりとも捕へることが出来ぬ規則から、この名稱が附いたと云はれてゐる。

現公職は村會議員の他に衛生組合理事、道路組合長、區長を兼務し、又稻荷神社、氏子總代(三期)眞禪寺壇徒總代(二期)として努力してゐる徳望家、妻女みよしさんとの間に六男をもうけて、家庭に恵まれ、今後益々村治の重鎮として活躍を期待されてゐる。

笹嶽村 小里

村會議員 大川 直衛



當家は開祖以來幾久しきに亘る土地の舊家にして、當主直衛氏は

その第十六代目の末孫である。氏は明治二十八年生を享け、資性質實濃厚にして徳義心に強く、公共精神に富み、その一點の私心なきは、夙に村民崇敬の的である。孜々として家業の農にいそむ一方、村治に力を致す所頗る甚大、過去に於て小里第一區長、衛生組合幹事、自警團長、消防一部頭等の要職を勤めて功あり、殊に登米、遠田、栗原三郡の耕地整理代議員に擧げらるゝや、率先身を挺して難に當り、よくその任を果せしは、ひとり笹嶽村のみならず、近村に居住する人々の深く感銘して忘れぬ所である。

氏はその後も益々郷土の治に盡瘁し、現在村會議員に推されてゐる他、小里第一區部長を勤め、笹嶽、大貫兩村聯合組合評議員として爲す所極めて多い。

家庭に在つても、かつゝ夫人は國防婦人會會員として銃後の村を護るなど、一家を擧げて公共に捧げるの精神は實に見あげたものである。而も家業を忽せにせず、夫人との間に四男一女を擧げて、家

庭はいつも春の如き和やかさに満ち満ちてゐる。

北浦村 彫堂

産業組合 専務

岩住 二郎



氏は、明治四十五年三月十二日の出生である。當家は、村の舊家として知られる岩住家より分家し、當主二郎氏を以て三代目とする。農學博士岩住良治氏を叔父に持つ氏は才能卓越せる人物で、宮城縣立小牛田農業學校を拔群の成績にて卒業後、若年にして宮城縣産業組合支會役員となり、産業組合に對する研究及び指導を爲し、北浦村産業組合設立せられるや、招かれてその専務理事となり、縣下に異彩を放つてゐる。

その他にも北浦村消防組第四部部頭を

勤め、なほ驛前郵便局長千葉衛氏等と共に郷土の青年指導に當りつゝあるなど、眞に多大の賞讃に價する。

家はそでよ母堂、千代夫人の他、二弟二妹あり。その内令弟三治氏は青年學校指導員として盡瘁する所大きい。

笹嶽村 澤田

村會議員 木村 研亮



當家は代々大規模に養蠶事業を営みし家で、當主研亮氏は先代春見氏の男にして、明治二十二年十月の生

れ、養蠶實行組合長、自警團長、耕地整理組合評議員、村會議員二期に現任してゐる。養蠶に對しては、豊富なる體驗と該博なる知識を以て、その改良につとめ、優良なる品質を誇つてゐる。

氏は又大いなる度量の持主にして、村民より深く親しまれ、群を抜きし力量は最も高く評價されてゐる。

實父春見氏は物故されしも、郡會議員助役、収入役、村會議員の要職にあつて議員中に覇を唱へし人である。

家族はいくよ夫人との間に四男四女あり、夫人は國防婦人會幹事をしてゐる。長男敬吾氏は霞ヶ浦航空隊に入隊し、次男敬止君は福島山の砲隊にありて軍務に精勵してゐる。

南郷村

村會議員 木村 義民

昔時より養蠶を業とせる當家は、土地の舊家に於て、當主は六代目に當る。

稟性峻峭にして氣節あり、研究心強く孜々として志を勵まし、識見人に優ぐれたる人にして、祖先の遺業を守りて、養蠶には特に熱心に當り、祖先よりの豊富なる體驗を基礎に、品質の改良を心掛け、事業の擴張を圖りし爲め、よく今日の如

き隆盛を來した。現在養蠶組合長をなして、同業者の繁榮を念願に盡力せる外、同村水利組合議員、學務委員二期を勤めて、兒童の訓育に意を注いでゐる。

氏は八雲神社の總代にして、崇神家として令名あり、檀徒總代として深く佛教にも歸依してゐる。禁酒を勵行して團基に趣味を持つ。家族は夫人との間に三男一女がある。

笹嶽村 吉住

村會議員 佐竹 清治



望極めて厚い氏は、明治十三年八月の誕生である。夙に公共

自治に竭し、功績頗る顯著で、現在本村會議員として三期目の重任にある氏は、誠心誠意村勢の發展に、村民の福祉増進

に盡瘁中で、その豊富なる手腕力量、高邁なる識見とは氏の高潔圓滿なる人格と相俟つて好評噴々たるものである。

尙氏は目下産業組合吉住賣店に勤め、家庭は令息達に任せ切つてゐる隠居振りである。令聞との間に六男一女に恵まれ、長男省吾氏は青島方面に居住してゐる。

因に氏は禁酒家で、消防組第三部世話係をも兼ねてゐる。

北浦村北浦

學務委員
龜甲常磐
醸造元

鎌田 徳助

當家は實に由緒深き家系を有し、先祖は伊達安藝公家老の重職にあり、後世酒造業を開業、後ち醬油醸造に轉じ、爾來十代を経て當主に至つたも



の、先代茂助氏は村政に貢献する處甚大で、本縣農業倉庫設置の先驅者たり、自費を投じて北浦村に建立せし功は、現在に至るまで恩恵を蒙り、村民は深くその徳を謝して村役場前に茂助氏記念の碑を建立し、後世までその事績を傳へんとしてゐる。

當主徳助氏は明治二十七年四月八日出生、性温厚にして讀書旅行を趣味とし、現在學務委員に任ぜられて好評噴々たるもの、氏の圓熟せる手腕を今後に俟つべきものと云はばならぬ。又一方家業にも孜々として勤め、その讓造する「龜用常磐」は明治三十七年米國ボートランド博覽會に一等を勝ち得たのを初め、各方面の博覽會共進會に多數授賞、宮内省大膳職御買上の光榮に沿して、聲價を馳せてゐる。

家族はミホ母堂の他、フク夫人は愛國婦人會、國防婦人會双方の會員として銃後に盡す處多く、二男ありて平和な家庭を作つてゐる。

筧嶽村大谷地

村會議員 大友 連



大規模の養蠶業を営みて、以て村民に範を示してゐる氏は、明治十七年八月の生れにして、幼少の頃より孜々として志を勵し、養蠶に對する造詣深く、壯年の頃には早くも業成りよく事業の今日の繁榮をもたらした人である。

村會議員、消防三部世話係、産業組合理事、耕地整理副組合長、學務委員として、村民にその卓拔な手腕を買はれ、多大の功績を成してゐる。

臨濟宗の熱心な信仰者にして、家庭は氏夫婦に子女三名の和氣に満ちた生活を送つてゐる。

尙氏の實兄官治氏は郡會議員として、地方政界に重きをなせし人、早くして物

故され、その仁徳をいたく惜まれた人であつた。

北浦村桑針

學務委員 高橋惣右衛門



日支事變には銃登部隊に屬して、拔群の活躍をなし、遂に山西攻略戰の華と散りたる高橋少佐は當主の令弟にして、當家は昔時高橋三郎右衛門次郎右衛門、兄弟大阪浪人なりしも、當地に移住し來つて土着開墾に當り、代々庄家を勤めし家柄である。

當主は性明敏にして、博愛篤行の人であり、村會議員として村自治に盡力せしことあり、學務委員、金錢調停債務委員を勤めてゐる。

當家は多數の軍人を出せる名譽ある家にして、三男久右衛門氏、四男傳合衛門

氏は共に砲兵少尉、五男稔氏は目下戦線にありて活躍中である。

昭和十三年五月、北石川宮大妃殿下、川渡村に傷病兵御慰問の砌り、右の話を聞き召され、御言葉を賜はり、末代までの光榮となしてゐる。

愛宕神社氏子總代にして、眞禪寺の檀家總代でもあり、敬神の念に篤き人である。

家族はりゑ子夫人、長男鐵右衛門氏、鐵右衛門氏夫人あき子さんの外、令孫きよ子嬢がある。

筧嶽村小里

村會議員 小谷 貞藏



組合評議員
消防一部世話係の諸要職にあつて村民の生活上に没頭

してゐる氏は、明治十九年八月十三日の生れにして、父君も又村政に參與してその功績を認められし名門の人である。

稟性、温雅謙和にして、限りなき純情家であり、その知友に對する情誼は、非常に厚く、よく慈愛をかけて村民にも深く親しまれてゐる。

村會議員として、その深遠なる明識を充分に發揮して、村政に残せし功績は枚擧に遑ない。眞言宗を奉じて、信仰心深く、奇特の人と崇められてゐる。

夫人との間に四子あり、共に秀れし頭腦の持主にして孝行者との定評がある。

南郷村二郷

元郡會議員 櫻井 庄之進



郡會議員
二期、南郷村會議員八期、消防副頭、同組頭、南郷村

産業組合理事長として、数々の改革を實行して、同村不出世の材幹と謳はれし氏は、その村自治に對する功勞を認められ、昭和十三年四月村長より表彰されし外、昭和十三年三月には消防組頭として、大日本消防會及び知事より表彰されし人である。

氏は稀にみる徳性高き人にして、私利に恬淡、清廉潔白、日夜志を勵まして、村民の福祉増進に腐心してゐる。現在は六十六歳の高齡にも拘らず、牡鹿、桃生、遠田三郡水利組合委員の要職にある。

氏は兵籍無けれど、令息は騎兵中尉にして、目下ハルビン獨立守備隊付となりて北滿の曠野にあり、軍務に精勵してゐる。令息夫人は子女二人と共に仙臺に住してゐる。

夫人と夫君と一身同體となりて、圓滿なる家庭を營んでゐる。

尙當家は土地の素封家にして六代を經し家柄であり、先代も亦郡會議員、村會議員、消防組頭等を勤めし篤農家である

大貫村大貫

元村會議員 高橋喜代之助

大貫村の長老として全村民が畏敬愛慕の的である氏は、文久元年十一月十二日生を此の世に享け、早くより人望篤く、町村制實施に至るや、第二回より連續村會議員に推されて村政自治の中心をなしたるも、功成り名遂げて前二期より隱退してゐる。資性豪毅、事を圖るに際して思慮深く、その爲すや固き果斷に富む氏は、村會議員在任中、下谷地開墾事業に多くの力を致し、あらゆる困難を排して遂に輝かしい成果を得せしめた他、村内各方面の開拓に身を以て當り、事績大に擧つたのである。蓋し氏の今日高き人望あるを偶然としない。

尙、氏は令息の教育に深く心を用ひ、長男良三郎氏(五十四歳)は、仙臺醫學專門學校を優秀な成績で卒業の後、瀨峯に醫院を開業してゐるが、その献身的な醫療ぶりは、近隣居住の人々の尊敬を集め

て、席の温まる暇なく、尊き天職に盡してゐる。

また次男の千代治氏(五十一歳)は、遙々笈を負うて東京に遊學し、大學卒業の後には官職に就き、果進して京城專賣局長の榮職を勝ち得た。一昨年退官の後もなほ京城に居を置き、公共事業に盡してゐる。斯の如く兄弟打揃つて夫々の逸材たり得たのも、父君の温き配慮に依る所尠しとしないであらう。

北浦村桑針

菅原醫院

當院の院長菅原英記氏は、明治七年十二月二十八日の出生、由緒極めて深き家系にて、仙臺藩主伊達正宗公の折、町奉行として知行百七十石を賜はつてゐた名門である。

英記氏は、當村愛宕神社掌菅原策馬氏の令弟に當り、苦學力行今日を成せる人材で、大正五年文部省試験に合格、直ちに静岡縣志田郡に開業、同七年一月當

北浦村に移轉の後は一以て村内の健康保全に捧げ、村醫並に學校醫として盡す所極めて多く、その奉仕的な施術は全村民崇敬の的となつてゐる。他に村衛生組合に役員として、殊に傳染病豫防に努めること甚大である。

南郷村

名門家 松田 英治

縣會議員として、縣政界に君臨し、早



先代丹治氏

くもその名を縣下一帯に鳴らせし松田丹司氏は、實に

氏の養父にして、南郷村々長にも歴任せしことあり、昭和十二年三月十九日長逝

されるまで、その村内に遺せし功績は千載不朽のものであるといはれ、村民はその遺徳を偲びて、今尙感謝の意を表してゐる。

當主は丹司氏の嚴格なる訓育を受けし強固な意志の持主にして、他面情愛の人でもある。氏は東京農業大學に學び、優秀なる成績を以て卒業、よく知友にも親まれ、福岡縣に技手として奉職せしこともある。

歸郷後は禁酒禁煙を固持して、質實剛健、熱心に修身齊家に勉め温雅の知識人として敬仰されてゐる。

曹洞宗を奉旨して、佛道に深く造詣を持つてゐる。家庭は母堂及び夫人との間に二女あり夫人は淑徳圓滿なる性格の人で、賢婦人と謳はれてゐる。

北浦村關根

横山家畜診療所

當所長横山四男氏は明治三十二年九月



城農學校獸醫科出身、志願兵として入營し、少尉に任ぜられ、正八

位を賜つてゐる。昭和十二年農村に於ける家畜の發展を圖る目的を以て、家畜診療所を開設、村内衛生組合に關係し、殊に傳染病の豫防策に熱心な研究を盡してその万全を期してゐる。

家族はふみを母堂を始め、すゝみ夫人との間に三男四女を擧げ、醇風平和な家庭をなしてゐる。尙、氏は銃獵に多大の趣味を有し、獵友會役員である。

(電話小牛田四二番)

中 塚 村

中塚信用販賣購買利用組合

當組合は組合員四一八名、出資一口二〇圓、出資拂込總額二一、六九一圓、準備金及び各種積立金は一九、四八七圓を有してゐる。

信用事業に於いては、貯金逐年増加し金二八、一〇三圓餘の増加を見、組合員並に家族貯金に於いて二五、〇六二圓、團體貯金に三、〇四一圓餘の増加をなしてゐる。貸付金は九一、四二一圓餘、回収金八五、六六七圓餘にして年度末現在金一〇五、四〇〇圓餘、差引五、七五四圓餘の貸越となりたるも土地購入、舊債整理、米穀各資金その他の増加に依るものにして、回収概ね良好である。

販賣事業は、米入庫數量一千俵の増加を示し、販賣事業も強化せられ、小麦、工業品又よく、北海道秋作物農作の結果需要増加を示し、殆んど釧路方面に販賣し二、五〇〇〇圓の利益をみた。

購買事業は、前年度に比し二、三九一圓の減少を示したのは政府拂下米の少きと金肥節約によるものにて、それは三、二六〇圓の利益をみた。

利用事業は、精麥機一臺を購入し、精米、製粉共に能率をあげ、四三三圓の利益を見た。又式服の利用は特に多く二十九件に及び、組合員に多くの便を與へ、尙農業倉庫も成績良好であつた。

本年度剩餘金は三千七百五十圓四十七錢にてその處分は、準備金、配當金、特別配當金、出征遺家族慰問金、役員退職給與積立及び賞與金、農業倉庫積立金繰越金に當てた。

當組合は十三年五月、模範組合として賞状及び進歩賞を受け、成績優秀を認められてゐるも、組合長初め、組合員一同の一致協力に依るものである。組合役員は左の諸氏である。

- 組合長理事 赤 間 授
- 理事 木 村 萬 治
- 同 飯 野 文 五 郎

- 同 尾 形 文 一 郎
- 同 石 川 忠 見
- 同 荒 井 國 雄
- 同 相 澤 淳
- 同 瀨 戸 一 郎
- 同 高 城 竹 藏
- 同 小 野 寺 太 郎
- 同 監 事

栗 原 郡

本郡は縣の北端に位し、面積五十四方里を有する縣下第一の大郡である。東は卑濕地及び丘陵を以て登米・遠田の二郡に隣り、西は稍々高峻なる山脈を以て玉造郡と劃し、南方一帯は丘陵にして玉造志田・遠田各郡の各一部に隣る。北部は栗駒山脈にして、栗駒岳、物見山、沼下山、猫ヶ森が聳え立ち、岩手郡西磐井郡についでゐる。

栗駒山より三條の餘脈を郡内に入れ、一迫・二迫・三迫の三河はこゝにその源を發す。一迫川は最南部を流れ、花山、築館を経、富野に至つて二迫川を入れ、大岡に至つて三迫川と合流する。その他三迫川の北に未野川ありて岩手縣に流れ北西隅には荒雄川の支流がありて玉造郡に入る。

東北本線は、郡の西南端を掠めて瀨峯驛を置き、登米郡に入る。奥州街道は志

田郡古川町より本郡南端に入り、高清水町に至つて東北に佐沼街道を岐ち、北行して築館、有賀を経て岩手縣に入る。羽後街道は登米郡石森町より本郡に入り、三迫川北岸に沿ひ羽後に去る。

西北部の山岳地帯を除けば、平地遠く拓けて田園連り、耕作に適し、米麥をはじめ、各種農作物、養蠶が盛んに行はれる。また西北山林地には木材、薪炭が夥しく産し、鶯澤村の細倉鑛山、長崎、花山の金鑛等頗る有望のものが多し。また若柳蚊帳、迫の墨表も著名である。

小學校は三十五校を有し、うち僅かに六校が尋常科だけで、他は全部高等科の設けがある。

また中等學校としては築館中學校、若柳高等小學校、築館・一迫各實科高等女學校、栗原農學校、築館・若柳各裁縫學校などがある。

築 館 町

南に高清水町、西に一迫町、東北に若柳町、西北に岩ヶ崎町あり、面積〇・八方里にして、人口四千九百を算し、明治九年東北録に、

凡そ仙臺を出て、より吉岡といひ古川といひ築館といひ毎驛漸く僻境に入る如し、然も古川は猶街衢整然たるものあり築館に至りては屋舎粗惡、云々。

明治の初期とは云へ、聊か酷評皮層に過ぎぬ觀がある。曾ては郡役所を置かれたこともある町だ。今も築館稅務署、築館警察署、古川區裁判所出張所、築館郵便局、築館中學校、築館實科高等女學校、七十七銀行支店、郡木炭同業組合、郡農會、郡出荷組合聯合會などありて一中心として繁榮し、町勢大いに見えるべきものがある。社寺名所に通大寺、雙林寺あり雙林寺の木造藥師如來座像一體及び木造二天王立像一體は國寶である。仙北鐵道築館驛を有し、交通良好である。